01 **科目名**	**経済学ａ・ｂ**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**片　岡　晴　雄**

講義の目標

近代経済学の基礎知識について講義する。経済学は一般に初学者にとって理解しずらい社会科学の一分野というイメージが強いようである。それは、経済学が必ずしも単に日常の経済現象を理論的に説明することを目的とするのではなく、現代社会の経済的仕組みを体系的に理解しようとする学問であることに由来する。従って本講義では、この様に経済を体系的に理解するとはどういうことかについて分かり易く説明したい。

講義概要

経済学の発生史的な順序を考慮してミクロ経済学から講義を始める。ミクロ経済学は、市場経済下における個々人の経済行動を体系化した学問である。この様な個々人の合理的経済行動を通じて形成される経済秩序は極めて優れた経済効率を達成している。その経済効率とは如何なるものかについて述べる。後期では、ミクロ経済の限界を超えるものとして誕生したマクロ経済学の基礎について講義する。このマクロ経済学は、その誕生の経緯からにして、非常に現実適用性の高い理論である。

テキスト

小野俊夫編「現代経済学の基礎」(学文社)

参考文献

新開陽一・新飯田宏・根岸隆著「近代経済学」(有斐閣)

バウモテル／ブラインダー著　佐藤隆三監訳「エコノミックス入門」(HBJ 出版局)

福岡正夫著「ゼミナール経済学入門」(日本経済新聞社)

評価方法

［前期］出席と期末テストを見て総合的に判断する。

［後期］前期と同じ。

受講者への要望

経済学は積み重ねの学問であるので、毎回出席することが望ましい。

前期授業計画

1. はじめに
   講義の進め方／経済学の目的と役割／評価の方法／参考文献
2. 近代経済学誕生までの経済学の流れ
   古典派経済学／限界革命と近代経済学／ケインズ革命とマクロ経済学
3. 市場と価格
   ミクロ的経済循環／市場機構（価格メカニズム）
4. 需要と供給の基礎理論
   部分均衡分析と一般均衡分析／需給均衡と均衡の安定性／市場の諸形態／需給曲線の形状と価格弾力性／消費者余剰と生産者余剰
5. 家計の行動
   効用関数／消費者均衡／消費財の需給曲線／労働の供給曲線／貯蓄の決定
6. 企業行動の理論
   生産関数／技術選択／短期の費用曲線／短期の供給曲線／長期の供給曲線と産業の均衡／生産要素の需要
7. 完全競争市場と経済効率
   実証分析と規範分析／パレート最適と完全競争／社会的厚生関数／投票のパラドックス
8. 所得分配
   階層的所得分配／所得分布の不平等度の測定／機能的所得分配
9. 市場機構の限界
   私的財と公共財／外部効果／コースの定理／公共財における市場の失敗／情報の不完全性と市場の失敗
10. 不完全競争市場の企業行動
    独占市場／寡占市場／独占的競争市場
11. ミクロ経済学の応用
    米価問題／自由貿易の利益／公共地の悲劇
12. ミクロ経済学のレビュー
    市場における価格の役割／期末テストの説明

後期授業計画

1. マクロ経済循環（国民経済計算の体系）
   マクロ経済循環と国民所得／国民所得の諸概念／国民所得の三面等価／マクロ経済循環と産業連関表／GNP デフレーター
2. 経済学の危機とケインズ革命
   新古典派の雇用理論／ケインズの批判／一般理論の体系
3. 国民所得の決定
   有効需要の原理／均衡国民所得の決定の 45 度線モデル／均衡国民所得決定の貯蓄・投資モデル／

節約（貯蓄）のパラドックス

4. 投資乗数の理論
   投資の乗数効果／乗数過程の中断／インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ
5. 投資の決定
   投資の諸概念／投資と資本の限界効率／利子率と投資の決定／トービンのｑ投資理論
6. 政府活動と国民所得
   直接税と間接税／政府支出乗数／自動安定化装置／公債負担の問題／リカード定理
7. 貨幣市場
   貨幣の本質と機能／貨幣制度と貨幣の種類／貨幣供給／貨幣需要（流動性選好理論）
8. 生産物市場と貨幣市場の同時均衡
   生産物市場の均衡とＩＳ曲線／貨幣市場の均衡とＬM曲線／財政政策と金融政策
9. 経済のマクロ的一般均衡体系
   労働市場の均衡／物価と産出量の同時決定／賃金伸縮性と完全雇用／ピグー効果
10. インフレーション
    超過需要インフレ／コスト・プッシュ・インフレ／フィリップス曲線と雇用
11. 経済の変動と成長
    カレツキー＝カルドア モデル／サミュエルソン＝ヒックス＝グッドウィン モデル／ハロッド＝ドマー モデル／ソロー モデル／新しい経済変動と成長のモデル
12. 開放体系のマクロ経済学
    国際収支／外国為替相場と国際収支の調整／開放体系のマクロ経済モデル／国内均衡と対外均衡

01 **科目名**	**経済学ｂ・ａ**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**小　林　　進**

講義の目標

最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば若い人の多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、1 年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。

講義概要

マクロ経済学を前半にそして後半にはミクロ経済学の初歩的概念を講義する。

テキスト

テキストなし

参考文献

講義の中で指示する

評価方法

前期、後期いずれも期末試験と平常の出欠を加味して評価する

前期授業計画

Ⅰマクロ経済学

国民所得概念

付加価値の定義（単なる所有権の移転だけでは変化しないことに注意）

GNP＝雇用者所得（賃金）＋営業余剰（利潤）＋（間接税一補助金）＋資本減耗分

GNP－資本減耗分＝NNP　（資本減耗分＝減価償却費）

GNP と GDP（国内総生産）の相違　（海外からの要素所得の純受取分）

GNP＝C＋Ｉ＋G＋Ｘ－Q（総需要）

（C：消費、Ｉ：投資、G：政府支出、Ｘ：輸出、Q：輸入）

主婦の労働と農家の自家消費は国民所得に含まれるか？

消費関数 C＝cY＋A の性質

限界消費性向 $c=\frac{\triangle C}{\triangle Y}$（0＜c＜1 の経済的意味に注意）

貯蓄の定義及び貯蓄関数

国民所得の決定Ｉ．単純モデル（Y＝C＋Ｉ）

①代数解

$Y=\frac{1}{1-c}$（A＋Ｉ）

②45 度線図による理解

③貯蓄と投資の均等による図からの理解

（投資）余剰理論

$\triangle Y=\frac{1}{1-c}\triangle I$

生産関数 Y = F (K , N)（K は資本、N は労働）

短期生産関数 Y ＝ f (N)（K は短期では一定とみなす、したがって N のみの関数）

インフレギャップとデフレギャップ（完全雇用時の国民所得 Yf と現実の国民所得の乖離（かいり））

国民所得の決定Ⅱ．政府を含むモデル

（Y＝C＋Ｉ＋G）

可処分所得 Yd＝Y－T

貯蓄と投資の関係式Ｉ＝S＋（T－G）

均衡予算乗数は 1（△Y＝△G）

貯蓄のパラドックス（貯蓄は美徳か？）→合成の誤謬

マネタリストの主張（大恐慌の原因は貨幣量の異常な縮小）

資本の限界効率と投資関数

IS 曲線とその右下がりの性質

貨幣需要関数と LM 曲線

IS・LM 曲線と経済政策の有効性

後期授業計画

貨幣数量説（フィッシャーの交換方程式とケンブリッジ残高方程式）

マーシャルの k といわゆる「カネ余り」の問題

$\frac{\triangle M}{M}=\frac{\triangle k}{k}+\frac{\triangle p}{p}+\frac{\triangle y}{y}$（ｙ：実質国民所得）

短期及び長期のフィリップス曲線

マネーサプライと信用乗数

Ⅱミクロ経済学

経済主体（消費者及び企業）の合理的行動→最大化行動

・消費者行動

効用関数

無差別曲線

限界代替率（MRS）逓減の経済的意味

予算線

最適消費点→MRS＝価格比

所得効果、上級財（正常財）、下級財（劣等財）

価格変化と代替効果

下級財の特殊例としてのギッフェン財

個別需要曲線の導出

需要の価格弾力性

応用として豊作貧乏、J カーブ効果の理論的分析

・企業の理論

総費用（TC）＝可変費用（VC）＋固定費用（FC）
平均費用（AC）と限界費用（MC）の関係（平均概念と限界概念の把握）
　MC＞AC ならば AC は増加する（逆も真）
　MC＜AC ならば AC は減少する（逆も真）
利潤最大条件→価格 P＝MC
個別供給曲線の導出、損益分岐点、操業停止点
完全競争の成立条件
ワルラス的安定条件

01 **科目名**	**経済学ａ・ｂ**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**益　山　光　央**

講義の目標

経済学の基礎的な分析概念の習得を目標とする。ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を講義する。より高度な経済分析を学ぶための基礎としても、また経済政策、公共経済学や国際経済学のような、より高度な応用分野を学ぶためにも必須となります。

講義概要

講義の予定は以下の予定ですが、1 年 24 回の講義でカバーする内容としては標準的と思います。教壇からの一方通行の講義ではなく、質問、コメント等で議論できればと思います。受講生の努力を期待します。

テキスト

未定

参考文献

中込正樹・平澤典男・大住圭介・松下正弘、「チャートで学ぶ経済学」、有斐閣、1990

福岡正夫、「ゼミナール経済学入門」、日本経済新聞社、1986

評価方法

毎回出席調査します。前期 6 回以上、後期 6 回以上の欠席者は定期試験の受験停止とします。

レポート 20%、質問・コメント 10%、出席 10%、定期試験 60%

受講者への要望

経済学は高校で学ばない分野だと思います。初めて学ぶのでスタートは全員同じです。また、経済学は一日１時間や 2 時間の学習で理解できる分野ではありません。地に足のついた予習、復習を心がけて下さい。あと、新聞の経済面、国際面を読んで下さい。

前期授業計画

第 1 回　はじめに

第 1 章　消費の理論

第 2、3 回　需要関数

第 4 回　労働供給関数

第 2 章　生産の理論

第 5、6 回　供給関数

第 7 回　生産要素の需要関数

第 3 章　完全競争市場

第 8、9 回　市場需要曲線

第 8、9 回　市場供給曲線

第 10 回　完全競争市場均衡

第 4 章　不完全競争

第 11 回　独占

第 11 回　独占的競争

第 12 回　複占

後期授業計画

第 1 章　国民所得

第 1、2 回　国民所得勘定

第 2、3 回　消費関数

第 3、4 回　投資関数

第 3、4 回　国民所得の決定

第 2 章　貨幣、利子率

第 5 回　貨幣需要

第 6 回　貨幣供給

第 6 回　利子率の決定

第 3 章　ＩＳ－ＬＭ分析

第 7、8 回　ＩＳ曲線

第 7、8 回　ＬＭ曲線

第 9 回　財政・金融政策

第 4 章　国民所得と物価の決定

第 10 回　総供給曲線

第 11 回　総需要曲線

第 11、12 回　所得と物価の決定

01 **科目名**	**経　済　学ａ・ｂ（再）**
98 **科目名**	**経済学（再）**
97 **科目名**	**経済学（再）**
担当者	**阿　部　正　浩**

講義の目標

「経済学の考え方とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。

講義概要

テキストの内容に沿って講義を行なう。なお、ほとんど毎回課題を出すので、それを自習すること。二回に一回の割合で課題の提出をしてもらう。

詳細については一回目の講義で説明する。

テキスト

「入門経済学」ジョセフ・Ｅ・スティグリッツ東洋経済新報社

参考文献

講義中に指示します。

評価方法

前期　前期テスト（夏休みにはレポートを課します。）

後期　後期テスト

受講者への要望

授業はわかりやすく行ないますが、より経済学の理解を深めるため課題は必ず自分で考えてください。また日頃は新聞をよく読むようにしてください。

前期授業計画

1. この授業のすすめ方
2. 経済学の考え方
3. 取引と貿易
4. 需要と供給と価格
5. 予備日
6. 需要・供給分析の応用（その 1）
7. 需要・供給分析の応用（その 2）
8. ＧＮＰとは（その 1）
9. ＧＮＰとは（その 2）
10. マクロ経済学と完全雇用（その 1）
11. マクロ経済学と完全雇用（その 2）
12. 予備日

後期授業計画

1. 経済成長（その 1）
2. 経済成長（その 2）
3. 失業と総需要（その 1）
4. 失業と総需要（その 2）
5. 予備日
6. インフレーション（その 1）
7. インフレーション（その 2）
8. 時間とリスク（その 1）
9. 時間とリスク（その 2）
10. 公共部門（その 1）
11. 公共部門（その 2）
12. 予備日

01 科目名	経　済　学ａ・ｂ（再）
98 科目名	経　済　学（再）
97 科目名	経　済　学（再）
担当者	片　岡　晴　雄

講義の目標

近代経済学の基礎知識について講義する。経済学は一般に初学者にとって理解しずらい社会科学の一分野というイメージが強いようである。それは、経済学が必ずしも単に日常の経済現象を理論的に説明することを目的とするのではなく、現代社会の経済的仕組みを体系的に理解しようとする学問であることに由来する。従って本講義では、この様に経済を体系的に理解するとはどういうことかについて分かり易く説明したい。

講義概要

経済学の発生史的な順序を考慮してミクロ経済学から講義を始める。ミクロ経済学は、市場経済下における個々人の経済行動を体系化した学問である。この様な個々人の合理的経済行動を通じて形成される経済秩序は極めて優れた経済効率を達成している。その経済効率とは如何なるものかについて述べる。後期では、ミクロ経済の限界を超えるものとして誕生したマクロ経済学の基礎について講義する。このマクロ経済学は、その誕生の経緯からにして、非常に現実適用性の高い理論である。

テキスト

小野俊夫編「現代経済学の基礎」（学文社）

参考文献

新開陽一・新飯田宏・根岸隆著「近代経済学」（有斐閣）

バウモテル／ブラインダー著　佐藤隆三監訳「エコノミックス入門」（HBJ 出版局）

福岡正夫著「ゼミナール経済学入門」（日本経済新聞社）

評価方法

［前期］出席と期末テストを見て総合的に判断する。

［後期］前期と同じ。

受講者への要望

経済学は積み重ねの学問であるので、毎回出席することが望ましい。

前期授業計画

1. はじめに
   講義の進め方／経済学の目的と役割／評価の方法／参考文献
2. 近代経済学誕生までの経済学の流れ
   古典派経済学／限界革命と近代経済学／ケインズ革命とマクロ経済学
3. 市場と価格
   ミクロ的経済循環／市場機構（価格メカニズム）
4. 需要と供給の基礎理論
   部分均衡分析と一般均衡分析／需給均衡と均衡の安定性／市場の諸形態／需給曲線の形状と価格弾力性／消費者余剰と生産者余剰
5. 家計の行動
   効用関数／消費者均衡／消費財の需給曲線／労働の供給曲線／貯蓄の決定
6. 企業行動の理論
   生産関数／技術選択／短期の費用曲線／短期の供給曲線／長期の供給曲線と産業の均衡／生産要素の需要
7. 完全競争市場と経済効率
   実証分析と規範分析／パレート最適と完全競争／社会的厚生関数／投票のパラドックス
8. 所得分配
   階層的所得分配／所得分布の不平等度の測定／機能的所得分配
9. 市場機構の限界
   私的財と公共財／外部効果／コースの定理／公共財における市場の失敗／情報の不完全性と市場の失敗
10. 不完全競争市場の企業行動
    独占市場／寡占市場／独占的競争市場
11. ミクロ経済学の応用
    米価問題／自由貿易の利益／公共地の悲劇
12. ミクロ経済学のレビュー
    市場における価格の役割／期末テストの説明

後期授業計画

1. マクロ経済循環（国民経済計算の体系）
   マクロ経済循環と国民所得／国民所得の諸概念／国民所得の三面等価／マクロ経済循環と産業連関表／GNP デフレーター
2. 経済学の危機とケインズ革命
   新古典派の雇用理論／ケインズの批判／一般理論の体系
3. 国民所得の決定
   有効需要の原理／均衡国民所得の決定の 45 度線モデル／均衡国民所得決定の貯蓄・投資モデル／

節約（貯蓄）のパラドックス

4. 投資乗数の理論
   投資の乗数効果／乗数過程の中断／インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ
5. 投資の決定
   投資の諸概念／投資と資本の限界効率／利子率と投資の決定／トービンのｑ投資理論
6. 政府活動と国民所得
   直接税と間接税／政府支出乗数／自動安定化装置／公債負担の問題／リカード定理
7. 貨幣市場
   貨幣の本質と機能／貨幣制度と貨幣の種類／貨幣供給／貨幣需要（流動性選好理論）
8. 生産物市場と貨幣市場の同時均衡
   生産物市場の均衡とＩＳ曲線／貨幣市場の均衡とＬM曲線／財政政策と金融政策
9. 経済のマクロ的一般均衡体系
   労働市場の均衡／物価と産出量の同時決定／賃金伸縮性と完全雇用／ピグー効果
10. インフレーション
    超過需要インフレ／コスト・プッシュ・インフレ／フィリップス曲線と雇用
11. 経済の変動と成長
    カレツキー＝カルドア モデル／サミュエルソン＝ヒックス＝グッドウィン モデル／ハロッド＝ドマー モデル／ソロー モデル／新しい経済変動と成長のモデル
12. 開放体系のマクロ経済学
    国際収支／外国為替相場と国際収支の調整／開放体系のマクロ経済モデル／国内均衡と対外均衡

01 **科目名**	**経済学ａ・ｂ（再）**
98 **科目名**	**経済学（再）**
97 **科目名**	**経済学（再）**
担当者	**浜　本　光　紹**

講義の目標

本講義では、経済学の諸領域を学ぶうえで必要な分析道具である、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎を修得することを目的とする。

講義概要

前期にマクロ経済理論、後期にミクロ経済理論の講義を行う予定である。また、こうした理論によって実際の経済諸問題がどのように説明されるのか、といったことにも触れていきたい。

テキスト

とくに指定しない。

参考文献

西村和雄「ミクロ経済学入門」岩波書店

福田慎一・照山博司「マクロ経済学・入門」有斐閣

評価方法

前期・後期ともに定期試験に基づいて評価する。

受講者への要望

できるだけ継続して出席すること。

年間授業計画

1. 経済学という学問について
2. マクロ経済学の課題について
3. 国民所得の決定メカニズム
4. 労働市場と完全雇用
5. 不完全雇用経済
6. 家計の消費・貯蓄行動
7. 企業の投資行動
8. 貨幣と経済活動
9. マクロ経済モデル（全２回）
10. マクロ経済政策（全２回）
11. 国際マクロ経済
12. ミクロ経済学の課題について
13. 消費者行動理論（全２回）
14. 企業行動理論（全２回）
15. 完全競争市場（全２回）
16. 不完全競争（全２回）
17. 市場機構の限界（全２回）

01 科目名	**経済学ａ・ｂ（経営）**
98 科目名	**経済学（経営）**
97 科目名	
担当者	**米　山　昌　幸**

講義の目標

経済学は、経済社会のメカニズムを分析的手法によって解明し、不況、貧困、不平等、環境破壊といったさまざまな現実の経済社会の問題を解決して、よりよい社会を実現することを目指す学問です。私たちが経済学を勉強するのは、たんに難しい理論を修得すること自体が目的なのではなく、その経済理論を用いて現実の経済社会に対する理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためなのです。

講義の目的は、第一に、現実的な問題を取り上げて、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして第二に、分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この 2 つです。

この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としていますが、2 年生以上でまだ経済学を履修していない学生にも是非履修してもらいたいと思っています。経営学科の学生にとっても、経済学は必要不可欠だと考えます。

講義概要

経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。前期にはミクロ経済学の分野を中心に扱い、市場経済のなかの個々の家計や企業が価格や技術についての情報をもとに、どのような経済行動をとるのか、またこれらの経済主体が合理的な行動をとるときに市場メカニズムはどのような役割を果たすのか、といったことについて講義します。後期にはマクロ経済学の分野を扱い、個々の経済主体の行動の結果を集計した一国全体としてのマクロの変数の動きや、マクロの経済政策の効果について講義します。ミクロ経済学とマクロ経済学は別々に存在するのではなく互いに密接に連関しており、マクロの経済現象はミクロの経済主体の行動に基づくものでなければなりません（これを「マクロ経済学のミクロ経済学的基礎」といいます)。

授業では、たんに経済学の理論について講義するだけでなく、みなさんの好奇心を刺激して現実の経済に興味を持ってもらえるように心掛けるつもりです。

テキスト

ジョセフ E. スティグリッツ(藪下史郎他訳)『スティグリッツ入門経済学(第 2 版)』東洋経済新報社, 1999 年。

参考文献

第 1 回目の授業で参考文献リストを配布するので、ここでは次の 3 冊を紹介しておきます。最も定評のあるミクロ・マクロのテキストとして、

西村和雄『ミクロ経済学入門(第 2 版)』岩波書店, 1995 年。

中谷巌『入門マクロ経済学(第 4 版)』日本評論社, 2000 年。

サブリーダーとして、

林敏彦『ハート＆マインド経済学入門』有斐閣アルマ，1996 年。

評価方法

[前期]定期試験で成績評価を行うが、練習問題提出も考慮する。

[後期]定期試験で成績評価を行うが、練習問題提出も考慮する。

受講者への要望

日頃から新聞などに目を通して現実の経済社会の問題に関心を持ち、それらについて経済学を用いて考えることができるようになることを目指して下さい。

講義の本当の意義は成績や単位ではなく、別のところにあるはずです。大切なことは、一年間受講してみて、それによって得た知識や、喚起された知的興味をもとに、自ら勉強することによって、どれだけのものがあなたに付加価値として加わったか、ということではないでしょうか。一回、一回の講義を大切にし、休まないで下さい。

前期授業計画

週	内容
1	**イントロダクション－「経済学」ガイダンス－** 経済学とは、授業の形式と学習方法、評価基準、参考文献の紹介 **第 1 章　経済学とは** 1. 経済学とは何か
2	2. 混合経済における市場と政府 3. ミクロ経済学とマクロ経済学 4. 科学としての経済学 5. なぜ経済学者の意見は異なるのか
3	**第 2 章　経済学的な考え方** 1. 基本的競争モデル 2. 価格・所有権・利潤－インセンティブと情報－

	3. 割当て 4. 機会集合－予算制約線と生産可能性曲線－ 5. 費用－機会費用･サンクコスト･限界費用－ 6. グラフの読み方
4 5	**第 3 章　取引と貿易** 1. 経済的相互依存のもたらす便益 2. 国家間の取引 3. 国際相互依存関係の費用
6 7	**補論　比較優位と貿易利益** 1. 絶対優位と比較優位 2. 生産可能性曲線 3. 貿易開始後の生産調整 4. 貿易開始後の生産点と消費点の決定 5. 貿易利益の説明
8	**第 4 章　需要･供給と価格** 1. 価格の役割 2. 需要曲線とそのシフトの要因 3. 供給曲線とそのシフトの要因 4. 市場メカニズムの原理と市場均衡
9 10	**補論　市場メカニズムと経済厚生分析－需要・供給曲線分析－** 1. 部分均衡分析と完全競争市場の仮定 2. 需要曲線と供給曲線 3. 市場メカニズムの原理と市場均衡 4. 需要・供給曲線の読み方 5. 限界分析 6. 限界分析と余剰概念 7. 消費者余剰と需要曲線 8. 生産者余剰と供給曲線 9. 競争的市場における資源配分の効率性
11 12	**第 5 章　需要・供給分析の応用** 1. 需要の価格弾力性とその決定要因 2. 需要の交差弾力性 3. 需要の所得弾力性と財の分類 4. 供給の価格弾力性とその決定要因 5. 需要・供給の価格弾力性の応用 6. 需要・供給の法則への介入－上限価格規制と下限価格規制－ **補論　コメ市場における政府介入の経済厚生分析**

後期授業計画

週	内容
1 4	**第 1 章　マクロ経済学と** GDP **の測定** 1. マクロ経済活動の目的 2. GDP の測定 3. 失業 4. インフレーション－物価指数の算定方法－
2 3	**補講　**GDP **と三面等価の原則** 1. GDP とは 2. 三面等価の原則 3. IS バランスと財政収支・経常収支
6 7	**第 2 章　基本的完全雇用マクロ・モデル－長期マクロ・モデル－** 1. 労働市場 2. 生産物市場 3. 資本市場 4. 一般均衡 5. 基本的完全雇用モデルの拡張
8	**第 3 章　失業と総需要－短期マクロ・モデル－** 1. マクロ経済モデル：再論
9 12	2. 経済不況：概説 3. 総需要の決定要因－所得・支出分析－ 4. 消費 5. 投資 6. 政府と貿易 7. 総需要曲線：再論 8. 総需要の再生 9. 東アジアの経済危機
10 11	**補論　所得・支出分析－生産物市場における国民所得決定の理論：45 度線分析－** 1. 需給の不均衡と調整メカニズム 2. 閉鎖経済における国民所得決定の理論－45 度線分析法－ 3. 総需要管理政策と乗数効果 4. 開放経済における国民所得決定の理論

01 **科目名**	**統計学ａ・ｂ**
98 **科目名**	**統　計　学**
97 **科目名**	**統　計　学**
担当者	**冨　田　幸　弘**

講義の目標

近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達は、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしてきている。

こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要さを十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。

講義概要

出来るだけ具体的な問題を意識しながら進める。その内容は、以下のようなものである。また、講義内容を良く理解してもらうために、演習問題にも取り組んでもらう。

1）記述的な統計（データの整理）
2）確率分布
3）統計的推定
4）統計的仮説検定

テキスト

未定（検討中）

参考文献

必要に応じて紹介する。

評価方法

前期

前期試験の結果により評価する。出席状況なども考慮する。また、4 年生には、レポートを課する場合もある。

後期

後期試験の結果により評価する。出席状況なども考慮する。また、4 年生には、レポートを課する場合もある。

受講者への要望

講義内容を理解するための大学ノートと電卓が必要です。コンピュータ入門などの科目を既修、または、併行履修することが望ましい。

前期授業計画

1. 前期の講義概要・評価・受講上の注意などについて、統計学の利用例
   キーワード：国税調査・品質管理
2. 統計学の発展史、統計学的な考え方
   キーワード：平均値・標準偏差
3. データの整理（位置の尺度・散布の尺度）
   キーワード：平均値・標準偏差
4. データの整理（その他のパラメター・度数分布表）
   キーワード：中央値・四分位数・グラフ
5. データの整理（簡便法・計算）
   キーワード：平均値・標準偏差
6. データの整理（相関係数・回帰直線）
   キーワード：散布図・相関
7. データの整理（「記述的な統計」のまとめ）、昨年の前期試験の問題などを参考に計算演習
8. 確立・順列・組合せ
   キーワード：条件付確立・二項定理
9. 離散型隔離分布
   キーワード：二項分布・漸化式
10. 連続型確率分布(1)
    キーワード：正規分布・標準化
11. 連続型確率分布（2）
    キーワード：確率計算・その他の確率分布　昨年の前期試験の問題などを参考に計算演習
12. 確率分布のまとめ、前期試験について

後期授業計画

1. 前期の復習、　後期の講義概要
   キーワード：前期試験の解答例・各自の成績
2. 母集団と標本
   キーワード：無作為標本・標本調査
3. 統計的推定（1）
   キーワード：比率の区間推定・サンプルサイズ
4. 統計的推定(2)
   キーワード：母平均の区間推定　昨年の後期試験の問題などを参考に計算演習
5. 統計的仮説検定の概説
   キーワード：帰無仮説・有意水準
6. 比率の仮説検定、比率の差における仮説検定
7. 分割表による仮説検定
   キーワード：独立性・２×２分割表
8. 正規母集団の母平均の差における仮説検定、正規母集団の母平均の差における仮説検定
9. 相関件数の仮説検定、等分散の仮説検定
10. ノンパラ検定
    キーワード：スピアマン符号検定・順位和検定
11. 昨年の後期試験の問題などを参考に計算演習、この講義に関する要望や改善意見について

12.「統計学」のまとめ、後期試験について

01 科目名	統計学ａ・ｂ
98 科目名	統　計　学
97 科目名	統　計　学
担当者	本　田　　勝

講義の目標

我々の身の回りには大量のデータが存在する。それらは観測や測定あるいは実験のデータであったり、各種の調査から得られたデータであったり、その種類は様々である。これらのデータを解析し、推論していく、推測統計学を軸とする近代統計学の手法は、経済学や経営学の分野でもいろいろな形で応用されている。

この講義では、統計学の基本的考え方と、それらを具体的に応用していく方法について述べていく。

講義概要

講義は年間を通して系統的かつ段階的に進めていく。

（1）データの整理の方法
（2）確率の概念
（3）確率分布の考え方
（4）特殊な確率分布
（5）標本分布の考え方
（6）点推定や区間推定の考え方
（7）統計的仮説検定の考え方
（8）2 変量の相関と回帰

テキスト

本田　勝：「基本統計学」（産業図書）

参考文献

講義時にそのつど指示

評価方法

前期：前期の定期試験によって評価する。
後期：後期の定期試験によって評価する。

受講者への要望

講義は指定の教科書にそって進めるが、教科書はあくまで補助であり、教室での講義が中心であるから、必ず講義に出席し、ノートに講義内容をまとめて欲しい。

前期授業計画

1. 統計学とは何かについて、統計学の導入を行なう。（母集団、標本、記述統計、推測統計）
2. 標本として得られるデータの整理のしかた（度数分布）について述べる。位置の尺度（平均、中央値、最頻値）のとらえかたについて述べる。
3. ばらつきの尺度によるデータ特性の把握のしかたについて述べる。（分散、標準偏差、チェビシェフの不等式）
4. データ整理の方法を理解するための演習をおこなう。
5. 確率導入のための準備として、集合および事象について述べる。（和事象、積事象、順列、組み合わせ）
6. 確率を導入し、加法定理、条件付確率および乗法定理について述べる。確率に関する問題演習を行なう。
7. 確率変数と確率分布の考え方を述べ、離散型および連続型の例を考えてみる。
8. 確率分布の数学的定義を、密度関数と分布関数を用いて説明し、分布の平均や分散などの特性値について述べる。
9. 2 項分布を例に、確率分布（離散型）の性質を調べる。
10. ポアソン分布の性質を調べる。問題演習。
11. 連続分布とその特性について、一様分布、指数分布、正規分布を例に述べる。
12. 正規分布の確率の求め方と確率度数の標準化について述べる。問題演習。（標準正規分布）

後期授業計画

1. 標本分布とは何か、標本平均はどのような確率分布をするかについて述べ、中心極限定理についても言及する。
2. 標本比率の分布はどのような確率分布をするかについて述べ、2 項分布の正規近似についても言及する。
3. カイ 2 乗分布およびスチューデントの t 分布を説明したあと、標本分散の確率分布について述べる。
4. 母集団パラメータの推定について、点推定、区間推定の考え方を述べる。（不偏推定量、信頼係数）
5. 母平均の区間推定のし方を述べる。問題演習
6. 母集団比率及び母分散の区間推定のし方を述べる。
7. 統計的仮説検定の考え方と母平均の検定法について述べる。問題演習。（帰無仮説、対立仮説、検定の過誤）
8. 2 変数間の相関とは何かについて述べる。（共分散、正の相関、負の相関、完全相関）
9. 回帰直線について述べる。（線形回帰、最小 2 乗法）
10. カイ 2 乗検定の考え方について述べる。問題演習。（適合度検定、分割表、独立性の検定）

11. ノンパラメトリック検定の考え方について述べる。
（符号検定、順位和の検定）
12. 一年間の総復習を行う。

01 科目名	統計学ａ・ｂ
98 科目名	統　計　学
97 科目名	統　計　学
担当者	松　井　　敬

講義の目標

近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献してきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの目ざましい発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。

本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目的とする。統計学は現実への応用に大きく関わった学問なので、出来るだけ具体的な問題を意識し進めてゆきたい。また、適宜、計算演習やシミュレーションの結果などをまじえ、理解をはかりたい。

講義概要

前期では記述的な統計から始め、探索的なデータ解析の考え方、単純回帰、現代統計学の枠組み（母集団と標本）、データの得られるメカニズムや確率分布などを扱う。後期は、様々な分野で応用されている統計的方法の考え方と具体的な利用法の説明で、推定、検定、ノンパラメトリック法などの理論と方法である。

データは実験、観察、調査などに関連して得られる。講義ではデータの背後にある諸条件を勘案しつつ、適切な統計的方法を選択し、実際にコンピュータなどでデータ処理を行い、それを結果の解釈につなげるまでの一連のプロセスを理解してもらうつもりである。

テキスト

資料を準備し、適宜配布する。

参考文献

池田貞雄、松井敬、冨田幸弘、馬場善久共著「統計学―データから現実をさぐる」内田老鶴圃

上記参考文献は入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明している。この講義の内容に対し、良い参考になると思う。

統計学をしっかりと勉強する上で参考となる本は、応用のための各論的なものも含め、和書洋書を問わず数多い。興味のある学生は関心領域をはっきりさせて、個別に相談してほしい。

評価方法

前期、後期ともに期末の試験によって評価する。

試験の問題は講義の中で行う演習問題などが中心になるので、普段からキチンと出席し、テーマ毎に理解しておくことが大切である。

受講者への要望

講義内容をより良く理解してもらうために、適宜演習を取り入れている。そのために、電卓を常に持参してほしい。また、コンピュータを使ってデータの処理やシミュレーションを実際に行なってみることが内容の理解に大変役に立つ。

年間授業計画

（講義の節目毎にアルゴリズムの説明と演習が含まれる）

1. 統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのかなど。ほかに年間の授業の進め方、方針、など。
2. 統計的な見方、考え方とはどんなことか。データを測定する尺度についてなど。
3. データを記述する方法－データを記述するための様々な尺度の意味と特徴。実際に尺度を求める（計算する）上での注意。
4. 探索的なデータ解析：探索的なデータ解析の方法と考え方について解説する。
5. 身長と体重、需要と供給、打率と打点といった 2 つの変数の間の関連性を説明する尺度について考える。相関係数。順位相関関数。
6. 2 つないし 3 つ以上の変数間の"線型"な関係を調べる。回帰直線。
7. 確率－統計と確率の接点。確率の基本的な考え方など。
8. データの得られるしくみを考える－確率の考えを借りて、実験や観察の結果を分布という概念でとらえる。
9. 現代統計学の枠組み：母集団と標本。データの持つ意味－データは何を体現しているか、データの得られる機序。
10. 離散型の分布－二項分布、ポアソン分布など。分布の特徴づけ。データとの関係。
11. 連続型の分布－連続型確率分布。正規分布の形状や特徴など。
12. 正規分布－データ解析の様々な場で見られる正規分布とその周辺のことについて考察する。前期のまとめ
13. データ解析の考え方：母集団と標本の枠組み、母集団の特徴づけ（分布）とデータ、統計的推測につ

いて。

14. 統計的推定－母集団のパラメータ（母数）を推定する方法とその意味について考える。点推定、最尤推定、標本分布など。
15. 母集団比率と正規分布の母平均の推定。なぜ標本比率や標本平均を用いるかを通し、推定量の意味、性質、比較などを考える。
16. 区間推定。サンプルの大きさを決める方法。標本調査の方法。
17. 統計的仮説検定の考え方。
18. 比率の検定―考え方と定式化。1 標本と 2 標本。
19. 2×2 表の考え方と方法。r×s 表。
20. 適合度検定
21. 正規分布の母平均の検定など。
22. ノンパラメトリックな方法とは何か。符号検定など。
23. 順位にもとづく検定など。ノンパラメトリックな検定法の考え方、効率など。
24. 統計的推測：統計的方法の枠組みの理解と様々な手法の関連を再考し、後期のまとめを行う。

01 科目名	コンピュータ入門ａ・ｂ
98 科目名	情報処理概論
97 科目名	情報処理概論
担当者	各 担 当 教 員

講義の目標

経済学部の学生が 4 年間の学習、研究生活を通して必要とされる情報処理の基礎を講義およびコンピュータ実習を通して勉学、学習する。授業の予習、復習やレポートの作成、卒業論文製作などの際に、次のような手段を使うことができるようにする。
①文章は、ワープロを使用して作成する。②必要な資料やデータを、インターネットや外部データベースなどを使って見つけ出す。③E－Mail を使って、情報交換、資料のやり取りをする。④統計計算や会計計算を行ない、必要があればグラフを作成する。⑤報告用、発表用の資料を、以上のような手段を組み合わせて作成する。⑥プレゼンテーションをパソコンを使って行なう。⑦住所録など個人用のデータベースを作成し管理する。

講義概要

講義および実習を通して上記の目標を達成するために、ワープロソフト・表計算ソフトの使用方法を始め、現在のコンピュータの持つマルチメディア機能の理解も含め、情報処理全般の基礎的なテーマを扱う。

講義の目標に掲げたテーマを順次こなしてゆくが、各テーマの取り扱われる順序、時間配分についてはこの講義を担当している教員によって若干異なることがある。

テキスト

獨協大学情報センター編「コンピュータ入門」

参考文献

必要があれば各担当教員に相談してほしい。

評価方法

前期、後期ともに原則として試験およびレポートを中心に評価する。出席は重要なポイントである。

担当教員によって、評価の仕方が異なるので詳細は各教員に尋ねること。

受講者への要望

最初のうちは“習うより慣れろ”で、繰り返しの練習（復習）が必要である。講義に連続性があり、積み重ねが大事なので、欠席や授業中の集中度の不足が無いように願いたい。

年間授業計画

以下の項目は情報処理の必須として取り上げる項目である。取り上げる順序や時間数は、担当者によって多少異なることがある。

前期授業計画

1. イントロダクション――ガイダンス、センター案内、キーボード操作、マウス操作、フロッピーディスク、情報倫理
2. 文字の入力、タイピング練習（ソフト）
3. メモ帳（ソフト）による入力、ファイルを開く、ファイルを保存する
4. インターネット――インターネットとは、WWW とは、URL を与えて開かせる、テーマを与えて探させる
5. メール――説明と設定、メールの送信
6. メール――メールの返信
7. ペイント（ソフト）――拡張子
8. ワープロ――文書の入力、保存：メール――文書の添付
9. ワープロ――文字の編集（切り取り、イタリック、センタリングなど）
10. ワープロ――文書の装飾（網掛け、色など）
11. ワープロ――表の作成
12. ワープロとクリップアート、ワードアートの組み合わせ、印刷

後期授業計画

1. 表計算の概要――ワークシート、ブック、セル、相対番地
2. データの入力――入力（表）、合計、平均
3. データの取り扱い――関数、平均、標準偏差、最大、最小
4. データの取り込み
5. クロス集計、検索
6. グラフ――棒グラフ、円グラフ、レーダーチャート、散布図など
7. エクセルとワードの結合――ワードへの貼り付け（表、グラフ）
8. インターネットとエクセルの結合――ネットワーク上からのデータの取り込み
9. データベース――データベースの作成、並べ替え
10. データベース――データベースの管理、抽出、フィルタリング、集計
11. プレゼンテーション――文字情報の提示
12. プレゼンテーション――画像、グラフの提示

01 科目名	プレゼンテーション技法（半期）
98 科目名	
97 科目名	
担当者	富　澤　儀　一

講義の目標

パートナーを集めて研究の進路を吟味する。また、学会で研究発表する。ビジネスにおいて、上司に新しい企画を提案する。自社の戦略を説明する。このように研究・ビジネスの現場ではプレゼンテーションの機会に事欠かない。

プレゼンテーションには「発表」と「贈呈」の意味がある。すなわち、プレゼンテーションは、相手にプレゼントするような気持ちで発表することに他ならない。相手の立場に立って、表現を工夫する心掛けが大切である。この結果、聴衆に研究成果を理解してもらうことができるし、また顧客の心を動かし、何らかの意志決定や行動を促すものとなる。このような発表を目指す。

講義概要

本講義では、発表内容の調査・吟味、発表資料の作成、発表マナー、リハーサル、プレゼンテーションの順序で進める。発表内容（コンテンツ）は、自分が所属している学科のカリキュラム体系、又は経営問題に関するシミュレーションとする。発表資料の作成は、調査したコンテンツに基づき Powerpoint 又は Web ファイルにより作成する。発表マナーについては、発表態度、表現、時間についてビデオで先輩の発表を例にして吟味する。リハーサルでは、練習を十分に行い、時間内にまとめ、できれば他の人に聞いてもらい、分からない点を指摘してもらう。次にプレゼンテーションでは、各自が作成した資料により発表を行う。

テキスト

次の HP に講義の資料を載せる。

http://www.rs.noda.sut.ac.jp/~tomiken

参考文献

（1）「コンピュータとネットワークによる情報活用」、立田ルミ等、朝倉書店.

（2）「ホームページ作成入門」、エクスメディア編、X-media.

（3）「はじめて作るホームページ、ホームページビルダー6 編」、エクスメディア編、X-media.

（4）「図解 Powerpoint2000 for Windows」、エクスメディア編、X-media.

評価方法

発表資料および発表で評価する。

受講者への要望

（1）Windows2000 の基礎的な使い方をマスターしておく。

（2）Word、Excel は利用できる。

前期授業計画

1：ガイダンス

2：コンテンツの収集、相手に理解してもらえる発表の原則

コンテンツの用意と発表資料作成の基本的な原則を説明する。

3：Powerpoint の基本（1）

プレゼンテーションファイルの作成方法を学習する。

4：Powerpoint の基本（2）

スライドショーにより効果的な発表を試行する。

5：ホームページビルダーの基本（1）

Web ファイルの作成方法を学習する。

6：ホームページビルダーの基本（2）

Web ファイルの作成をオブジェクトを中心に学習する。

7：Powerpoint およびホームページビルダーの使用法で、学生の進行がまちまちであるので、進行の調節をする。質問の受付。

8：取材したコンテンツに基づいて、Powerpoint またはホームページビルダーを用いて発表用の資料を作る。

9：発表用の資料を仕上げる。

10：発表マナー、リハーサル

発表マナーを先輩のビデオを視て学習する。このマナーを念頭に、十分に練度の向上を目指す。友人に聴いてもらい、わかりにくい点を指摘してもらう。

11：各自がクラスメイトを前に、10 分間のプレゼンテーションを行う。

12：引き続き、プレゼンテーションを行う。

01 **科目名**	**経　営　学ａｂ（経済）**
98 **科目名**	**経　営　学（経済）**
97 **科目名**	**経　営　学（経済）**
担当者	**中　山　　健**

講義の目標

経営学は企業を研究対象として生まれてきた学問です。現在は激動の時代と言われ、長期不況、産業空洞化、リストラ、日本的経営システムの変容等、多くの課題が企業経営の前途に横たわっています。激しい環境変化の中、どうすれば創造的で生き生きとした組織、イノベーティブな戦略を作り上げることができるかが企業に求められると同時に、そうした企業行動を説明し得る理論が求められています。本科目では企業の経営メカニズムを理解するために経営学の理論と実際を体系的に学びます。

講義概要

前期は、主に経営学の基本的理論と組織論を中心に講義を行う。

後期は、主に経営戦略論に関しての理論と事例研究を中心にした講義を行う。

テキスト

中山健他著『現代経営管理の研究』信山社

中山健他著『現代企業の成長戦略』同友館

参考文献

河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版

森本三男著『経営学入門』同文舘

評価方法

[前期]

期末試験結果と受講状況により総合的に評価する。

中間に課題レポートに取組んでもらうことも考えている。

[後期]

前期同様、期末試験と受講状況を勘案して評価する。

中間に小テストを行うこともある。

受講者への要望

企業や組織、経営戦略に興味を持ち、休まず受講しようという意欲のある学生を歓迎する。

前期授業計画

1. オリエンテーション
2. 経営学とは何か（経営学の意義と必要性）
3. 経営学の特徴と方法論
4. 経営学の発生過程
5. 伝統的経営理論
6. 人間関係論
7. 行動科学理論
8. 近代管理論
9. コンティンジェンシー理論と新しい経営理論
10. 組織理論
11. 基本的組織形態
12. 新しい組織形態

後期授業計画

1. オリエンテーション
2. 経営戦略とは何か
3. 経営戦略の特徴と定義
4. ドメイン、ＳＷＯＴ
5. チャンドラーの戦略論
6. アンゾフの戦略論
7. ＰＰＭ
8. 競争戦略論
9. 地域企業の戦略
10. ネットワーク戦略
11. 社会戦略
12. グローバル戦略

01 **科目名**	**経　営　学ａ・ｂ**
98 **科目名**	**経　営　学**
97 **科目名**	
担当者	**黒　川　文　子　（半期）**

講義の目標

経営学が注目を浴びるようになったのは、古いことではない。２０世紀に入ってから確立した領域が経営学であろう。そのため、研究対象となる領域も、細分化の方向に向かうと同時に、近年では総合化の方向に進んでいる。経営学の各分野を広く浅く講義する。

講義概要

経営学の発展から、今日生じている問題までの概説を行う。

テキスト

未定

参考文献

河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版

河野重榮他編著『現代マネジメント』同文舘

評価方法

期末試験を中心とする。出席も加味する。

受講者への要望

経営学の入門レベルなので、本講義に関心を持つならば、いかに経営学が生きた学問であるかを把握できるようになる。

半期授業計画

1. 新技術の工業化と企業経営の変革
2. 現代の経営学説
3. 企業経営の歴史的展開
4. 企業活動と企業目的
5. 現代企業の経営情報システム
6. 現代企業の管理と組織
7. 現代企業の経営戦略
8. 現代企業のマーケティング活動
9. 現代企業のコミュニケーション活動
10. 現代企業の経営分析
11. 企業経営の国際化
12. 国際化と日本的経営

01 **科目名**	**経　営　学ａ・ｂ**
98 **科目名**	**経　営　学**
97 **科目名**	
担当者	**小　林　哲　也**

講義の目標

本講義では、現代企業をめぐる国際化と情報化の動きを中心に、新しい企業理論の展開を議論する。また１年生の経済学・経営学入門の意味を込めて、経営学関連の話題を幅広く扱う。

講義概要

現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。例えば、1980 年代に称揚された、長期的雇用慣行などを柱とするいわゆる日本的経営は、今や「グローバル・スタンダード」の視点から大きく見直されようとしている。

本講義では、主として日本企業の経験に学びながら、現代企業をめぐる国際化・情報化の波と、新しい企業理論の流れを紹介していくことにする。

また、日本的経営を考える上で、日本における組織と個人との関係の特質、すなわち日本社会論・日本人論についての考察も不可欠である。こうした社会システム的考察を含めて、幅広く企業経営を考察する術を身につけていきたい。

テキスト

特に指定しない。

参考文献

学習院大学経済学部編『経済・経営を楽しむ 35 のストーリー』東洋経済新報社

日本経済新聞社編『現代経営学ガイド』日本経済新聞社

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』有斐閣

明治大学経営学研究会『経営学への扉』白桃書房

青木昌彦他『企業の経済学』TBS ブリタニカ

評価方法

出席および定期試験

受講者への要望

新聞（日本経済新聞など）に毎日目を通す習慣をつけること

年間授業計画

1. はじめに　ノートの取り方・勉強の進め方
2. 情報技術革命と日米企業　／　「失われた 10 年」とは何か
3. 大企業体制の成立とその変遷／　経営者革命
4. 技術革新と寡占的競争　／　ハイテク産業の盛衰
5. マイクロ・エレクトロニクス革命と FMS／　日本的生産システムの革新
6. 情報化とネットワーク　／インターネットの衝撃
7. ---経済・経営情報探索術---
8. 技術革新と新しい国際分業　／　国際的な産業再編成
9. 日本企業の海外進出　その１　／　対欧米諸国
10. 日本企業の海外進出　その２　／　対アジア諸国
11. 情報化とグローバリゼーション
12. 日本的経営論の革新

01 **科目名**	**経　営　学ａ・ｂ**
98 **科目名**	**経　営　学**
97 **科目名**	
担当者	**仙　田　幸　子　（半期）**

講義の目標

この講義は経営学をこれから学ぶ学生に、経営学の一領域である人的資源管理論の鳥瞰図を提供することを目的とする。

人的資源管理論の基本的考え方や用語をマスターすることが第一の目標である。同時に、採用、配置、育成、評価、雇用調整というトピックの一つ一つを雇用される側の立場からみることによって、どのような働き方をしたいのかを自分なりに考える手掛かりを提供することを目的とする。

講義概要

企業は従業員を資源の一つとして活用する。その方法をあつかうのが人的資源管理論である。本講義では、日本的雇用慣行の変遷という視点から雇用管理のあり方を考える。

豊富に資料を提示して、日本企業の人的資源管理の現状を具体的につかめるようにする。

テキスト

佐藤ら『マテリアル人事労務管理』有斐閣、2000(変更の可能性あり)。

評価方法

定期試験で 60 点以上の受講者に単位を与える。ただし、授業中のレポートを提出していない場合、定期試験を受験しても単位は与えない。

受講者への要望

遅刻、私語、携帯電話・ＰＨＳの使用、その他授業の妨げになることは慎むこと。

半期授業計画

1. ガイダンス
2. 経営組織と人事労務管理
3. 雇用管理１
4. 雇用管理２
5. 人事制度１
6. 人事制度２
7. 調整
8. 非正規従業員と派遣労務者１
9. 非正規従業員と派遣労務者２
10. 能力開発１
11. 労働時間管理
12. まとめ。

01 科目名	経　営　学ａ・ｂ
98 科目名	経　営　学
97 科目名	
担当者	高　松　和　幸　（半期）

講義の目標

この講義は、経営学の入門講座としての性格をもつ。すなわち、経営学科で学ぶ専門科目の基礎として、経営学の基本的な考え方、経営学でとりあげられる諸問題についてのトピックを講義する。この講義をつうじて、経営学への興味を高めるように努めたい。

講義概要

前・後期交代による授業のため、開講初日に講義レジメを配布してガイダンスとする。概ね以下の年間授業内容に従う。

テキスト

最初の授業で指示する。

参考文献

その都度指示する。

評価方法

期末定期試験・平常授業の課題・出席など。

年間授業計画

1. ベンチャー起業について･･･ここでは企業創業のプロセスについて学ぶ。企業創業のプロセスは、企業を起こそうとするヒト、つまり企業家の積極的な活動がなければ成立しない。起業家は、いかに創業機会を発見し、それをどのように企業創業に結びつけていくのか。そのあたりに焦点を当て、ビジネス・プランの策定などを試みる。
2. 現代企業について･･･ここではアメリカの石油産業を支配したスタンダード・オイル社の歴史をみる。現代企業の誕生を水平的統合と垂直的統合という概念を使って説明する。そして企業の法的形態の変化と、所有と経営のあり方の変化などについても言及する。
3. 環境と組織について･･･フォード社がどのようにして大衆車モデルＴを開発し、そしてアメリカの自動車産業を制覇したのか。フォード車は、なぜＧＭ（ゼネラル・モーターズ）社に追い越されたのか。企業をとりまく環境と企業が採用する戦略、組織のあり方がどのように関連しているかなどについて言及する。
4. 新事業の創出について･･･新事業の創造は現代企業の宿命である。企業は新事業を創造し、若返りを図る。しかし、新しい事業を創造することは「生みの苦しみ」という困難な作業を伴う。ここでは具体例を通じて説明し、新事業を展開するさいの経営管理上の重要性を示唆する。
5. 競争戦略について･･･ここでは「競争戦略」について、具体例を通じて説明する。競争戦略とは、いかに競合他社に対して競争上の優位性を確立し、またそれをどう持続させていくのかを決定することをいう。戦略では、相手との「ちがい」を作りだし、効果的かどうかをみることである。
6. Ｍ＆Ａについて･･･企業は外部資源を利用することで、内部資源の不足を補うことができる。Ｍ＆Ａは、他の企業の一部または全部を買い取ることで外部資源を利用する方法である。ここでは事例を通して、Ｍ＆Ａの効果や経営問題について学習する。
7. 日本的経営について･･･終身雇用・年功序列などによる日本的経営の転換といわれて久しいが、この体制のなにを意味していたのか。少なくとも高度経済成長時には意味を持っていたのか。なぜ日本的という形容が付されるのか。これらについて、具体例を通じてドーアなどの見解をみることにする。
8. 寡占について･･･経済学では、市場に複雑だが少数の売り手が存在するとき、それを寡占と呼ぶ。とくに競争戦略などを考えるときには、この理論が前提とならなければならない。この理論的な問題は、一般にはゲーム理論を用いることになる。これによって、格段の情況理解を深めることをねらいとする。
9. よい会社とは何か･･･それぞれの会社はそうなりたいと願う「良い会社」のイメージがある。良い会社の客観的な基準を作るとなるとそれは難しい。結論からいうと「良い会社」の条件やウエートの置き方は、時代や国によって異なり、これが必要十分条件であるということはないということを探る。
10. 製品開発について･･･キャラクターを交換することで遊びを創出した「ポケットモンスター」は、社会問題まで巻き起こしながら大ヒット商品となった。その製品開発までの軌跡を辿ることで、つまらないものには見向きもしない子供たちを相手に成功した要因を探る。
11. ネットワーク組織について･･･企業が、そのときどきに市場に求められているモノやサービスを生産し供給することを「マーケットイン」という。そのためには市場に柔軟に対応できる組織が求められる。一般にはこのような仕組みをもつ組織をネットワー

ク組織と呼んでいる。

12. 会社は誰のものか･･･ここでは現代企業の行動とそのコントロールについて考える。それは株主を重視するアメリカ的会社観と、株主をそれほど重視しない日本的会社観の問題をみることにする。今日の企業経営のあり方において、その支配形態である株式会社は、経営者や株主は具体的にどのように位置付けられるのか。

13. 企業文化･･･沈滞している会社の社長や中間管理職が社員たちのムードや考え方の枠組みを変えると、企業全体の活動が見違えるほど生き生きとすることがある。それは企業のトップやミドルたちが組織全体の価値観を変えたりすることで、活性化されるからである。この企業独自の価値観や考え方、行動パターンを「企業文化」という。具体例を通じて、企業文化の変遷、組織活性の実態などについて考える。

01 **科目名**	**経　営　学ａ・ｂ**
98 **科目名**	**経　営　学**
97 **科目名**	
担当者	**冨　田　忠　義**

講義の目標

企業、経営、管理をキーワードとして取り上げて、実践学としての現代経営学について概説する。はじめて経営学を学ぶ受講生を前提にして、最新の内容と入門的易しさとを両立させたいと考えている。本講義は「経営学入門の入門」である。

講義概要

ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の最新の研究成果の紹介を通して行う。まず経営学の研究対象と研究方法について概説し、この学問が企業の経営と管理を実践学的方法で研究するものであることを明らかにする。次に企業についてその種類や性格、他の企業との関係の仕方について概説する。最後に、現代企業についてその目的や理念、戦略を激動する企業環境と関連させて概説して、全体として、現実の企業行動を専門的に理解するための経営学的見方を教授する。

テキスト

河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版

参考文献

金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣　経済辞典（第３版)』有斐閣

車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版

森本三男著『経営学入門（増補版)』同文舘

評価方法

期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。

定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込み無し。

受講者への要望

テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するということではないので、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。

半期授業計画

1. 授業計画の概説
2. 経営と管理、機能と機関
3. 企業形態
4. 企業集団と企業間関係
5. 経営社会責任と経営理念
6. 経営環境と経営戦略
7. 授業のまとめ

01 **科目名**	**経　営　学ａ・ｂ**
98 **科目名**	**経　営　学**
97 **科目名**	
担当者	**西　川　純　子（半期）**

講義の目標

経営学の入門講座。基礎的な知識を与えながら、学生諸君の経営学への興味をかき立てていくような講義を心掛けたい。

講義概要

歴史的な考証、理論的な整理、現状分析など、いろいろな方法を用いながら、企業を中心にその社会における役割を検討する。

テキスト

特に定めない。

参考文献

その都度指示する。

評価方法

筆記試験

半期授業計画

1. 企業家
2. 資本家
3. 経営者
4. 日本的経営　その１
   財閥
5. 日本的経営　その２
   企業集団
6. 日本的経営　その３
   企業系列
7. 日本的経営　その４
   官民協調
8. 日本的経営　その５
   公的金融
9. グローバリゼーションと日本的経営
10. アメリカ的経営　その１
    効率主義と市場主義
11. アメリカ的経営　その２
    大企業と小企業
12. グローバリゼーションと企業

01 科目名	簿記原理ａ・ｂ
98 科目名	簿 記 原 理
97 科目名	簿 記 原 理
担当者	井　出　健二郎

講義の目標

世の中にたくさんある企業を良い・悪い、就職したい・そうでない…と評価するモノサシには何があるでしょうか？　色々と考えられますが、どれだけもうかっているか、いくら借金があるかというおカネのモノサシがあるでしょう。そのモノサシを作るもの…それが簿記です。

また、皆さんが就職される際、評価されるモノサシは何でしょうか？おそらく、第一は個人のキャラクターが左右されますが、資格の有無もポイントです。日商検定・税理士・公認会計士などは簿記をもとにした資格です。また、海外志向の方は、アメリカ会計士(U.SCPA）などもあります。

会社の「成績表」が作れるようになり、皆さんのプラスとなるようにすることが本講義の目的です。

講義概要

前期では、簿記がどうして役立つか、どのような目的があるかを説明します。続いて、簿記の大きな流れをひと通り講義していきます。その場合、用語の説明、手順の紹介を行うと同時に、皆さんにも実際に作業してもらいます。

後期では、前期での簿記の大きな流れをもとにしつつ、細かいポイントについて説明し、作業してもらいます。その結果として総合的な簿記の全体を講義します。さらに、日本商工会議所簿記検定試験 3 級（2 月）向けの対策をも考慮して問題などをできる限り解いていくことにします。

テキスト

湯田雅夫共著『商業簿記入門』中央経済社

井出健二郎ほか『3 ステップ基本商業簿記演習』創成社

参考文献

a. 染谷恭次郎著『簿記の手ほどき』日経文庫

b. 中村泰將編著『現代簿記』中央経済社

c. 小川　洌共著『簿記会計の基礎』創成社

d. 片山覚監修　井出ほか『中級商業簿記』創成社

★電卓（10 ケタ以上のもの）を必ず用意してください。

評価方法

前・後期ともに通常の出席状況をもとに試験をふまえたうえで総合評価していきます。評価配分としては、出席 50%、試験 40%、その他 10%を基本としていきます。つまり、出席していただき、講義を聞いてもらいたいと思っています。なお、資格を取得された方についてボーナス評価を行うつもりです。

受講者への要望

何か１つくらい資格を…と考えている他学部の方も歓迎しています。初心者を前提とし、できる限りわかりやすく、皆さんにヤル気をおこさせる講義を心がけます。皆さん自身も"この講義をうけて得るものが多かった"と充実感の残るようにしましょう。

前期授業計画

1. 簿記の諸目的と種類について
2. 簿記の基本等式と基本概念について
3. 簿記上の取引とその記録について
4. 簿記上の取引の勘定記入について
5. 簿記のプロセス 1：仕訳について
6. 簿記のプロセス 2：（元帳）転記について
7. 帳簿記入と伝票について
8. 簿記のプロセス 3：試算表について
9. 簿記のプロセス 4：精算表について
10. 簿記のプロセス 5：決算手続について
11. 簿記のプロセス 6：財務諸表の作成について
12. 簿記のプロセスの復習とまとめ

後期授業計画

1. 前期講義内容の復習
2. 現金・預金・商品売買取引に関する簿記
3. 売掛金、買掛金、その他債権・債務に関する簿記
4. 手形取引に関する簿記
5. 貸倒損失・貸倒引当金に関する簿記
6. 有価証券、固定資産に関する簿記
7. 費用・収益に関する簿記
8. 資本と税金に関する簿記
9. 決算手続についての簿記 1
10. 決算手続についての簿記 2
11. 財務諸表の作成について
12. 簿記の役割の再確認、会計学とのかかわり

01 科目名	簿 記 原 理 a・b
98 科目名	簿 記 原 理
97 科目名	簿記原理
担当者	内　倉　　滋

講義の目標

企業会計は、しばしば「事業の言語」であると言われる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という１つの言語にも「文法」に相当するものがあるわけであるが、その基本的な原理を習得することが本講義の目標である。そうした、言葉の構造を純粋に形式的に解明していく分野を、自然言語の世界では「構文論」と呼ぶのであるが、言ってみるならば「会計言語」における構文論が本講義である、ということとなろう。

講義概要

会計という言語は、今日では１つの世界共通語である。それゆえその「構文論」として講義すべき中身もまた、講義担当者によって大きく変わるものではない。本講義では、そうした共通的な中身のうちの、とりわけ最大公約数の部分だけを、丹念に議論していきたいと考えている。まず前期（「簿記原理ａ」）で、決算整理を含まない、「分記法」を前提とした「簿記一巡の手続き」までの内容を取り扱う。そして後期（「簿記原理ｂ」）に、その内容に「商品３分法」や各種の「決算整理」といったディテールを付け加えていき、その中身を、より実際の会計実践に近い形のものに深化させていくこととしたい。

テキスト

中村泰將編著、『講座現代簿記』（中央経済社）

参考文献

特に必要とはいたしません。

評価方法

[前期]受講生の理解度を知る目的からしばしば小テストを実施したいと考えているが、評価の中心は期末試験の結果である。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。

[後期]前期と同様

受講者への要望

検定試験類に、どしどしチャレンジしてみて下さい。合格した場合は、平常点に加味いたします。それよりも何よりも、自分の一生の道を見つけ出すことができるかもしれません。

年間授業計画

1. 企業の財政状態と貸借対照表……簿記の目的；資本；貸借対照表の内容
2. 企業の経営成績と損益計算書……簿記の第 2 目的の達成方法；損益計算書等式（損益計算書）
3. 取引と取引の分解……期首貸借対照表と「取引」の記録からの貸借対照表と損益計算書との作成；「取引」記録のルール
4. 仕訳帳と総勘定元帳その 1：「仕訳」……仕訳とは；設例による説明
5. 仕訳帳と総勘定元帳その 2：「勘定口座」……その必要性；勘定口座の形式；勘定口座への記入ルール
6. 仕訳帳と総勘定元帳その 3：「仕訳帳と元帳」……仕訳帳（形式、「摘要」欄、「元丁」欄）；元帳（形式、「仕丁」欄、「摘要」欄、「相手勘定科目」）；3 伝票制
7. 試算表と精算表その 1：「試算表」……決算（決算予備手続き、決算本手続、財務諸表の作成）；合計試算表；残高試算表；合計残高試算表
8. 試算表と精算表その 2：「精算表」……仮設例の提示（次回と共通）；精算表の原理
9. 「勘定の振替え」という技法について……定義；具体例による説明
10. 決算手続その 1：純損益の振替……決算の第 1 の目的（＝資本金勘定を正しい値に修正）；資本金勘定を正しい値に修正するための第 1 の方法；その第 2 の方法
11. 決算手続その 2：帳簿の締切りと繰越試算表……繰越試算表（その必要性等）；勘定口座の締切り（参考：大陸式決算法）；仕訳帳の締切り；財務諸表の作成
12. 前期の総復習……同形式の問題により、前期末試験の予行演習
13. 現金と預金・有価証券……現金（簿記上の現金概念、現金過不足の処理）；当座預金（特徴、当座借越、当座預金出納帳）；小口現金（小口現金勘定、小口現金出納帳）；有価証券の評価
14. 商品の 3 分法その 1……設例の提示；“ 修正された ” 分記法；3 分法（2 つの仮定を導入；期末に在庫が有る時の問題；売上時の処理）
15. 商品の 3 分法その 2……3 分法の復習；値引・返品の処理；諸経費の処理（買主負担の場合〔仕入諸掛〕、売主負担の場合〔発送費〕）
16. 仕入と売上の記帳その 1……帳簿の種類（主要簿、補助簿〔補助元帳、補助記入帳〕）；仕入帳・売上帳（補助元帳でない理由、記帳上の留意点）；掛け売

買の記帳（売掛金〔買掛金〕元帳、貸倒れ）

17. 仕入と売上の記帳その 2：商品有高帳……その必要性；その位置付け（3 分法では存在しない「商品」勘定の「補助元帳」）；移動平均法；先入先出法

18. 貸倒引当金繰入と貸倒引当金……貸倒れの見越しの意義；原理；償却債権の取立て

19. 受取手形と支払手形……手形の種類；簿記上の勘定；為替手形振出しの説明；手形の裏書譲渡（意義等、割引）；受取手形記入帳・支払手形記入帳

20. 有形固定資産……固定資産の記帳（固定資産の意味、種類、固定資産台帳）；減価償却（意義、毎期の減価償却費〔定額法〕、仕訳方法、売却時の処理）

21. その他の債権債務・資本金と引出金……その他の債権・債務の処理（商品券等）；個人企業の資本の記帳

22. 収益・費用の見越しと繰延べ……設例の提示；収益・費用の繰延べ；収益・費用の見越し

23. 決算整理項目と決算仕訳……決算整理とは；3 分法関係の「決算整理仕訳」と「決算振替仕訳」の例；消耗品の処理；8 桁精算表（6 桁精算表の限界、8 桁精算表の原理）；損益計算書（仕入勘定等の表示、区分式）；貸借対照表（評価勘定の表示等）

24. 後期の総復習……同形式の問題により、後期末試験の予行演習

01 **科目名**	**簿記原理ａ・ｂ**
98 **科目名**	**簿 記 原 理**
97 **科目名**	**簿 記 原 理**
担当者	**香　取　　徹**

講義の目標

簿記は必ず身につけておかなければならない基本的な技術です。どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠ですから、全学の学生が履修する必要があります。この講義では、日本商工会議所簿記検定 3 級の範囲を完全に網羅します。また、会計学原理、財務会計論、原価計算論、管理会計論などの会計に関連する科目を学ぶ上でとても重要な基礎になります。

講義概要

簿記は難しいものではありませんが、技術ですから、身につけるためには、練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題の解説をしてから講義に合わせてプリントを配布して練習します。講義中に練習しなが質問を受けていきますし、プリントでも意見や質問を書いて下さい。また、ワークブックも自宅での練習に利用してください。

日経新聞で会計に関するトピックを毎回コピーして紹介して簡単な解説をします。

テキスト

・New Concept 日商簿記検定試験　商業簿記 3 級　税務経理協会

・　同　　商業簿記 3 級　ワークブック　税務経理協会

評価方法

前期：5 月（100）と定期試験（200）の 2 回の成績とプリントとワークブック（100）

後期：11 月（100）と定期試験（200）の 2 回の成績とプリントとワークブック（100）

受講者への要望

とにかく講義には休まないで、がんばって練習してください。また、検定試験にどんどんチャレンジして下さい。合格したら試験の点数に加算します。

前期授業計画

第 1 週　第 1 章　簿記の基礎概念
第 2 週　第 2 章　資産・負債・資本と貸借対照表[1]
第 3 週　第 3 章　収益・費用と損益計算書[2]
第 4 週　第 4 章　取引と勘定[3]
第 5 週　第 5 章　仕訳と転記[4]
第 6 週　第 6 章　仕訳帳と総勘定元帳[5][6]
第 7 週　小テスト
第 8 週　第 7 章　試算表と精算表[7]
第 9 週　第 8 章　決算手続[8][8 補]
第 10 週　第 11 章　現金と預金[10][11][12]
第 11 週　決算手続　練習[9]
第 12 週　繰上試験

後期授業計画

第 1 週　第 9 章　三分法による商品売買[14][15]
第 2 週　第 10 章　仕入帳･売上帳･商品有高帳[16][17]
第 3 週　第 12 章　有価証券[13]
第 4 週　第 13 章　売掛金と買掛金[18]
　　第 14 章　その他の債権・債務[19]
第 5 週　第 15 章　手形、[20][21]小テスト
第 6 週　第 16 章　貸倒れと貸倒引当金[22]
第 7 週　第 17 章　有形固定資産[23]
　　第 18 章　資本金と引出金
第 8 週　第 19 章　費用・収益の見越・繰延[24][25]
第 9 週　第 20 章　試算表の作成[26][27]
第 10 週　第 21 章　決算整理と仕訳の訂正
第 11 週　第 22 章　精算表の作成[28][29]
　　第 23 章　伝票会計[30]
第 12 週　繰上試験

01 科目名	簿記原理ａ・ｂ
98 科目名	簿 記 原 理
97 科目名	簿 記 原 理
担当者	金　井　繁　雅

講義の目標

複式簿記の計算原理を探求することに主眼を置き、商企業の経済活動つまり取引を正確に記録・計算・整理する能力を身につけることを目的とする。この科目は、会計学原理、財務会計論、原価計算論、経営分析論、上級簿記など会計系統の諸科目の基礎講座として機能するので、会計学の理解にとって不可欠である。

講義概要

複式簿記の原理およびその計算構造を学び、複式簿記の一連の手続を習得し、商企業の日常取引の記帳処理と決算処理を理解してもらう。つまり、資産、負債、資本、収益および費用という 5 つの概念とその相互関係、資本等式や貸借対照表等式を解説し、資本をストックとしてとらえて利益を計算する財産法と資本をフローとしてとらえて利益を計算する損益法の計算原理を理解してもらう。更に、簿記の対象である取引を分解し、仕訳帳に記入し、それを総勘定元帳に転記し、決算において、試算表を作成し、その記録の正確性を検証し、精算表を作成し、帳簿決算の手続を経て、財務諸表を作成するという簿記手続の全体像を把握してもらう。

テキスト

中村泰將編著「講座現代簿記」中央経済社

参考文献

未定

評価方法

定期試験および出席率を加味して総合的に成績評価を行う。

受講者への要望

簿記はその性格上、単に頭の中で理解するだけでなく、数多くの練習問題を繰り返し解くという勉学態度が要求され、階段を一歩一歩登っていくという努力が必要である。

前期授業計画

1. ［簿記の意義と目的］企業社会において、簿記の果たす機能とその目的について概説する。
2. ［資産・負債・資本］簿記の基本概念である資産、負債および資本の意味とそれらの相互関係について説明する。
3. ［収益・費用］収益と費用の概念を明らかにするとともに、その差額である利益について考察する。
4. ［財産法と損益法］利益計算の方法としての財産法と損益法の原理について考える。
5. ［取引と勘定記入］簿記上の取引と一般的な取引の区別および勘定記入の法則について説明する。
6. ［仕訳と転記］仕訳の意味、仕訳の方法および仕訳帳について説明すると同時に、元帳への転記の方法を概説する。
7. ［試算表と精算表］貸借平均の原理、試算表の意義および 6 桁精算表の構造と作成方法について説明する。
8. ［帳簿決算手続］主に英米式決算法を解説する。また、決算振替仕訳について十分に練習する。
9. ［現金・預金］現金と通貨代用証券、現金過不足勘定、小口現金、当座預金と当座借越について学ぶ。
10. ［有価証券］有価証券の購入と売却および評価替えについての記帳を解説する。
11. ［商品勘定の３分法］分記法と３分法の相違および３分法での決算整理について説明する。
12. ［仕入帳と売上帳］商品の仕入と売上についての明細を記録する補助簿について学ぶ。

後期授業計画

13. ［商品有高帳］商品有高帳の作成方法、つまり先入先出法や移動平均法等を理解する。
14. ［得意先元帳と仕入先元帳］売掛金勘定と得意先元帳の関係および買掛金勘定と仕入先元帳の関係について考える。
15. ［手形取引の記帳］約束手形と為替手形の意味と手形取引の仕訳を学ぶ。また手形の裏書や割引にも触れる。
16. ［その他の債権・債務］前払金と前受金、立替金と預り金、仮払金と仮受金などを学ぶ。
17. ［貸倒れと貸倒引当金］貸倒れの意味と貸倒引当金の設定（差額補充法）について学ぶ。
18. ［固定資産と減価償却］固定資産と減価償却の意味および定額法による減価償却の処理について説明する。
19. ［資本金と引出金］個人企業における資本金勘定と引出金勘定について概説する。
20. ［収益・費用の繰延］損益の期末整理として、前受収益と前払費用の処理について学ぶ。
21. ［収益・費用の見越］損益の期末整理として、未収収益と未払費用の処理について学ぶ。

22. ［試算表の作成］試算表の作成に関する問題を練習する。
23. ［8 桁精算表］8 桁精算表の作成に関する問題を練習する。
24. ［財務諸表の作成］財務諸表の作成について総合的に考察する。

01 科目名	簿記原理ａ・ｂ
98 科目名	簿 記 原 理
97 科目名	簿 記 原 理
担当者	千　葉　啓　司

講義の目標

以下の項目を講義の主要な目標とする。

・簿記、特に商業簿記の意義とその体系の理解

・代表的商取引の仕組とその記録方法

・決算の意義と方法

このほか、簿記には各種資格試験があるため、その資格試験の意義、取得に向けての勉強方法なども合わせて補足的に講義する。

講義概要

まず第一段階として、簿記の意義について講義する。ここでは、簿記が必要とされる理由、簿記の果たす役割、簿記の分類などの説明をする。第二段階として、簿記の全体像について講義する。ここでは、取引の記録から決算に至るまでの簿記の一連の手続について説明する。第三段階として、主要取引の仕組みとその記録方法を講義する。ここでは、商品売買取引、手形取引等の仕組みとその記録方法について説明する。最後に第四段階として、決算について講義する。ここでは、決算の意義と手続について講義する。

テキスト

加古宜士・穐山幹夫　監修『段階式日商簿記３級商業簿記』税務経理協会

参考文献

加古宜士・穐山幹夫　監修『段階式日商簿記ワークブック３級商業簿記』税務経理協会

評価方法

期末試験に平常点を加味して評価する。

受講者への要望

講義の時間以外にも、特に復習に力を入れて勉強して欲しい。また、各種資格試験にもチャレンジして欲しい。

前期授業計画

1. 簿記の意義、役割、分類。簿記と会計学その他関連科目との関係
2. 簿記上の取引、資産・負債・資本・収益・費用の意味
3. 簿記の記録方法
4. 試算表と精算表
5. 決算手続、財務諸表の作成
6. 商品売買取引（分記法、総記法、３分法）
7. 買掛金と売掛金、値引・返品
8. 売上原価の算定方法１（仕入勘定で売上原価を算定する場合）
9. 売上原価の算定方法２（売上原価勘定で売上原価を算定する場合）
10. 商品有高帳（先入先出法、移動平均法）
11. 現金・預金、小切手の処理
12. 当座借越の処理と小口現金

後期授業計画

1. 株式及び社債・国債の意義
2. 株式及び社債・国債の取得と売却の仕組みとその記録方法
3. 株式及び社債・国債の評価替
4. 貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金
5. 手形取引。約束手形と為替手形。
6. 手形の裏書譲渡と割引
7. 決算の意義と手続
8. 貸倒と貸倒引当金
9. 減価償却
10. 費用収益の見越・繰延
11. 試算表の作成
12. 精算表の作成

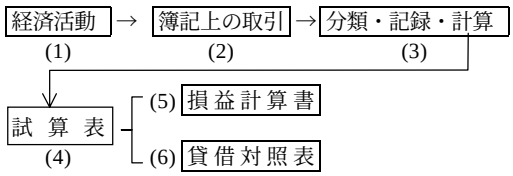
01 科目名	簿記原理ａ・ｂ
98 科目名	簿 記 原 理
97 科目名	簿 記 原 理
担当者	中　村　泰　將

講義の目標

コンピュータの発達により、計算技術的には迅速かつ正確な計算が可能になったが、経済活動を記録・計算する原理は簿記システムを学ばなければ理解できない。企業の利益の計算、課税所得の計算を始め、すべての経済活動の成果は、簿記によって計算される。この計算構造の原理を学ぶことが本講座の目的である。

講義概要

前期：企業の目的と企業のシステムを学び、そこで行われる経済活動を理解し、簿記がなぜ、そこに登場しなければならないかを考える。経済活動の結果は、富のフローとストックで表すことが出来るから、その報告書が作成できるようにしたい。



上の一連の行為((1)～(6))を簿記の処理として学ぶ。（ワンサイクルの学習と呼ぶ。）

後期：前期で学んだ一連の処理を前提として、前期よりも複雑な取引を対象としてその簿記処理を学ぶ。従って、(2)と(3)の基本的原理は同じだが、(4)から(5)と(6)を作成する過程が複雑になる。

テキスト

中村泰將編著『講座現代簿記』中央経済社、H.13

評価方法

前期：前学期テストによって成績評価を判定する。毎回、10 分程度の小テストを行うので、その成績も加算する。

後期：後学期テストよって成績評価を判定する。毎回、10 分程度の小テストを行うので、その成績も加算する。

受講者への要望

出欠は自由であるが、簿記の授業は毎回実際に記帳練習するので必ず出席すること。この講義が終了したら、上級簿記を履修することが望ましい。

前期授業計画

1. 簿記とは何かを理解する
2. (1) 複式簿記の基本等式
   (2) 複式簿記の基礎概念
   (3) 複式簿記の 5 つの基本要素
3. (1) 簿記上の取引の意味と種類
4. (1) 「勘定」とは何か
   (2) 勘定でどのような計算をするか
5. (1) 「仕訳」とは何か
   (2) 仕訳の仕方
   (3) 「仕訳」から「勘定」へ転記する
6. 第 5 回までの一連のプロセス
   取引→仕訳帳→元帳→次へ
7. 試算表の作成 (1)試算表とは何か
   (2)試算表の作成
8. 精算表の作成 (1)精算表とは何か
   (2)試算表から損益計算書と貸借対照表を作成する
9. ～10 決算の方法を理解する(1)
   (1) 決算とは何か
   (2) 決算の手続→予備手続と本手続
   (3) 元帳の締切~10.
11. ～12 決算の方法を理解する(2)
   (1) 費用・収益勘定を締め切る
   (2) 当期純利益を資本金勘定に振り替える
   (3) 資産・負債・資本の勘定を締め切る

後期授業計画

1. 現金と預金
2. ～4 商品の購入・管理・販売の処理
   (1) 商品の売買利益の算定方法
   (2) 商品の 3 分割
   (3) 商品有高帳の作成
   (4) 仕入帳と売上帳の作成
5. 有価証券の購入・保有・売却の処理
6. 固定資産の購入・利用・修繕・処分の処理
7. 手形の取引
8. その他の債権・債務
9. 資本金の処理
10. 決算の修正手続(1) (1) 収益と費用の繰延
    (2) 前払費用と前受収益
11. 決算の修正手続(2) (1) 収益と費用の見越
    (2) 未収収益と未払費用
12. 決算の修正手続(3) (1) 8 桁精算表の作成
    (2) 損益計算書と貸借対照表の作成

01 **科目名**	**簿記原理ａ・ｂ**
98 **科目名**	**簿 記 原 理**
97 **科目名**	**簿 記 原 理**
担当者	**細　田　　哲**

講義の目標

「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続について理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続を遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができるようになることを目標とする。

講義概要

前期講義は、学生諸君が複式簿記を理解し、簡単な精算表の作成、決算本手続を遂行できるようにすることを目的とする。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。

・複式簿記とは　・簿記の仕組み　・試算表と精算表　・決算（Ⅰ）

後期講義は、学生諸君が次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。個々の取引に対する記帳、8 桁精算表の作成、決算本手続の遂行、損益計算書と貸借対照表の作成である。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。

・現金・預金取引の記帳　・商品売買取引の記帳　・手形取引の記帳　・その他の取引の記帳　・決算（Ⅱ）決算整理　・損益計算書と貸借対照表の作成

テキスト

中村泰将（編著）「講座　現代簿記」（中央経済社）
平松一夫（編著）「New Concept　日商検定　商業簿記 3 級」（税務経理協会）

評価方法

前後期ともに、期末試験の結果による。

年間授業計画

1. 1. 複式簿記とは（1）
   a）簿記の目的と種類
2. 1. 複式簿記とは（2）
   b）簿記の要素
3. 2. 簿記の仕組み（1）
   a）取引と勘定、b）勘定記入法
4. 2. 簿記の仕組み（2）
   a）取引と勘定、b）勘定記入法
5. 2. 簿記の仕組み（3）
   c）仕訳と転記、d）仕訳帳と総勘定元帳
6. 2. 簿記の仕組み（4）
   c）仕訳と転記、d）仕訳帳と総勘定元帳
7. 3. 試算表と精算表（1）
   a）試算表の作成、b）精算表の作成
8. 3. 試算表と精算表（2）
   a）試算表の作成、b）精算表の作成
9. 4. 決算（Ⅰ）（1）
   a）決算の意味と手続
10. 4. 決算（Ⅰ）（2）
    b）大陸式決算法、c）英米式決算法
11. 4. 決算（Ⅰ）（3）
    b）大陸式決算法、c）英米式決算法
12. 4. 決算（Ⅰ）（4）
    d）損益計算書と貸借対照表の作成、e）開始記入
13. 5. 現金・預金取引の記帳
14. 6. 商品売買取引の記帳（1）
    a）分記法、3 分法
15. 6. 商品売買取引の記帳（2）
    b）仕入帳と売上帳、c）商品有高帳
16. 6. 商品売買取引の記帳（3）
    b）仕入帳と売上帳、c）商品有高帳
    d）掛取引の記帳
17. 7. 手形取引の記帳（1）
    a）約束手形と為替手形、b）受取手形勘定と支払手形勘定、c）手形の裏書と割引
18. 7. 手形取引の記帳（2）
    d）受取手形記入帳と支払手形記入帳、e）不渡手形、f）手形貸付金と手形借入金
19. 8. その他の取引の記帳
    a）その他の債権、債務取引、b）有価証券取引、c）固定資産取引、d）営業費等の取引
20. 9. 決算（Ⅱ）決算整理（1）
    a）決算整理の意味、b）棚卸減耗損および商品評価損
21. 9. 決算（Ⅱ）決算整理（2）
    c）有価証券評価損額、d）固定資産の減価償却
22. 9. 決算（Ⅱ）決算整理（3）
    e）費用・収益の繰延べと見越し、 f）8 桁精算表の作成
23. 9. 決算（Ⅱ）決算整理（4）
    e）費用・収益の繰延べと見越し、 f）8 桁精算表の作成
24. 損益計算書と貸借対照表の作成

01 科目名	簿記原理ａ・ｂ
98 科目名	簿 記 原 理
97 科目名	簿 記 原 理
担当者	百　瀬　房　徳

講義の目標

本講では、特に複式構造を内包した商業簿記を取り上げる。複式構造は仕訳にもとずき勘定システムを通じて事業の資産、負債および資本の増・減を測定する。この勘定システムと事業体の組織との関係で、各勘定の意義および機能と具体的な処理について理解を深めることにする。

講義概要

複式簿記とは、貸方および借方の複式構造を持ち、取引を仕訳帳、元帳および補助簿へ記入する簿記をいう。まず、複式簿記の基本的な勘定システムを前期に修得し、つぎに、基本的な勘定について仕訳帳の記入、元帳における勘定への転記および補助簿への記入について取引を記録する過程を具体的に修得する。

テキスト

・中村・曾田・百瀬著『現代簿記精説』中央経済社

参考文献

無し

評価方法

前期：テスト

後期：テスト

受講者への要望

講義のあった日に必ず復習すること。

前期授業計画

1. 一年間の講義内容の説明および複式簿記の解説
2. 複式簿記の体系の説明およびこの簿記における取引とは何か
3. 仕訳の基本原理および取引勘定への転記
4. 補助簿への記入、および試算表の作成
5. 清算表の作成原理、損益勘定および残高勘定への転記
6. 取引パターン別の仕訳例の説明
7. パターン別に仕訳された例の勘定への転記
8. 例題による取引の仕訳、勘定への転記
9. 例題による清算表の作成および決算に際しての損益勘定および残高勘定の完成
10. 練習問題…取引の仕訳帳記入および仕訳帳から元帳への転記
11. 練習問題…試算表の作成および清算表の作成
12. 練習問題…元帳締切による損益勘定および残高勘定の完成

後期授業計画

1. 現金勘定と現金出納帳
2. 当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳
3. 商品勘定の記入方法…単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割
4. 仕訳勘定と売上勘定、商品の仕入価額および返品と値引
5. 仕入勘定と仕訳帳および売上勘定と売上帳
6. 繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗費および商品評価損
7. 売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳
8. 受取手形勘定と受取手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳
9. その他の債券・債務の諸勘定、および有価証券勘定
10. 固定資産の諸勘定…特に減価償却に関する処理
11. 決算前の諸勘定の整理について
12. 決算…勘定の締切、損益勘定および残高勘定の完成、および 8 桁精算表の作成

01 科目名	簿記原理ａ・ｂ
98 科目名	簿 記 原 理
97 科目名	簿 記 原 理
担当者	湯　田　雅　夫

講義の目標

簿記は、企業の管理運営を合理的に推進するにあたって、また企業の財政状態や経営成績を外部の利害関係者に正しく報告するうえで、欠くことのできない計算技術である。

本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定 3 級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。

なお、受講生の理解力を確かめるために、今年から、定期的に小テストを行うことにする。

講義概要

複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。簿記は、技術がかなりのウェートを占めている学問であるので、単に書物を読んで学習するだけでは修得できない。各自、授業の進歩度に応じて教科書の「練習問題 A」および「練習問題 B」に取り組み、記帳練習を重ねる必要がある。

テキスト

・上田・小川・渋谷・湯田『演習　商業簿記入門』中央経済社

参考文献

・渋谷武夫『日商簿記検定 3 級　初級簿記演習』税務研究会出版局

・渋谷武夫『日商簿記検定 2 級　初級簿記演習』税務研究会出版局

・小川　洌・渋谷武夫『現代工業簿記』税務経理協会

評価方法

前期：定期試験期間中に実施する試験と授業中に行う小テストの成績を基本に評価する。なお、出席状況を素点に加点するために、数回の出席をとる。

後期：定期試験期間中に実施する試験と授業中に行う小テストの成績を基本に評価する。なお、出席状況を素点に加点するために、数回の出席をとる。

受講者への要望

私語をしないこと。予習復習を必ずして出席すること。

前期授業計画

1. イントロダクション：講義概要ならびに授業の進め方
2. 簿記の歴史
3. 第 1 章　簿記の意義と目的；第 2 章　資産・負債・資本と貸借対照表
4. 第 2 章　東京商会の事例解説；第 3 章　収益・費用と損益計算書
5. 第 4 章　取引；第 5 章　勘定
6. 第 6 章　仕訳と転記
7. 第 7 章　帳簿
8. 第 8 章　簿記一巡の手続き
9. 第 9 章　現金預金
10. 第 10 章　商品売買
11. 第 10 章　商品売買
12. 第 11 章　有価証券；第 12 章　売掛金と買掛金

後期授業計画

1. 第 13 章　その他の債権・債務
2. 第 14 章　手形
3. 第 15 章　貸倒れと貸倒引当金
4. 第 16 章　固定資産；第 17 章　資本金と引出金
5. 第 18 章　収益・費用の繰延と見越
6. 第 19 章　決算予備手続
7. 第 19 章　決算予備手続
8. 第 20 章　例題解説
9. 第 20 章　決算本手続
10. 第 20 章　決算本手続
11. 総合問題
12. 本講義の結びとして、「簿記学習の継続」の必要性を指摘。

01 科目名	英　語　Ⅰ（会話）
98 科目名	英　語　Ⅰ（会話）
97 科目名	英　語　Ⅰ（会話）
担当者	各 担 当 教 員

講義の目標

自然なスピードの英語を理解し、また、基本的な日常英会話が行えるようになることを目的とする。

講義概要

ビデオを見てその内容を理解し、その中で使われている口語表現や発音を練習する。毎回学習した内容の確認として最後に true-false quiz を行う。また担当教員によってはリスニングスキル養成のための他の教材を一部用いることもある。

テキスト

Your Life in Your Hands

評価方法

前後期定期試験としてビデオを使ったヒアリングテストを行なう。これに加え毎週実施する True-False Quiz, 出席、平常点などをもとに評価を行なう。特に遅刻せず授業に出席することが重要である。

受講者への要望

テキスト及び 60 分のテープを毎回持ってくること。（クラスによっては MD 持参となるので、クラスガイダンスの指示に従うこと）

授業外でもたくさんテープを聞くこと。

年間授業計画

Part 1

1. unit 1　Sound Video
2. unit 1　Profiles
3. unit 2　Sound Video
4. unit 3　Sound Video
5. unit 3　Profiles
6. unit 4　Sound Video
7. unit 5　Sound Video
8. unit 5　Profiles
9. unit 6　Sound Video
10. unit 6　Profiles
11. unit 7　Sound Video
12. unit 8　Sound Video

Part 2

13. unit 1　Profiles
14. unit 2　Sound Video
15. unit 3　Sound Video
16. unit 3　Profiles
17. unit 4　Sound Video
18. unit 5　Sound Video
19. unit 5　Profiles
20. unit 6　Sound Video
21. unit 7　Sound Video
22. unit 7　Profiles
23. 総復習
24. Extra

01 科目名	英　語　Ⅰ（会話特別）
98 科目名	英　語　Ⅰ（会話特別）
97 科目名	英　語　Ⅰ（会話特別）
担当者	E. J. ナオウミ

講義の目標

This is a conversation class in which students will become familiar with everyday English used in different situations they may encounter while travelling abroad on business or for pleasure. I hope that by the end of the course students will have more confidence in understanding and using English.

講義概要

The first semester will cover topics such as how to meet people, how to give directions and how to order a meal in a restaurant. The second semester will move onto invitations, shopping and how to give instructions in English. There will be many class activities using supplementary prints, games and videos.

テキスト

English Firsthand 1 Gold Edition Hegelsen, Brown and Mandeville, Longman

参考文献

Dictionary

評価方法

[前期] Class participation, listening exercises and a short oral test.

[後期] Class participation, listening exercises and a short oral test.

年間授業計画

1. Introduction to the course and task
2. Nice to meet you.
3. 〃
4. Who are they talking about?
5. 〃
6. When do you start?
7. 〃
8. Where does this go?
9. 〃
10. Where is it?
11. 〃
12. Tell me what happened and outline of test.
13. Review of previous semester ― I think I'd like that job.
14. Job interviews
15. What's playing?
16. Invitations- accepting and refusing- telephoning.
17. What are you going to do?
18. Travelling.
19. How much is it?
20. Shopping.
21. How was it?
22. Going to the doctor's.
23. How do you make it?
24. How do you use it? ― outline of the test.

The topics may vary according to student interest.

01 科目名	英　語　Ⅰ（講読）
98 科目名	英　語　Ⅰ（講読）
97 科目名	英　語　Ⅰ（講読）
担当者	各 担 当 教 員

講義の目標

国際化が進む中で、英語で情報を得る力が必要性を増してきたといえる。英語Ⅰ（講読）の授業では、英語で書かれた新聞、雑誌、随筆など様々な文章を読みこなすことができる能力を養うことを目標とする。

講義概要

講義は、学生の英語力と興味を考慮した上で決めた教材により行う。教材の内容は、現代英語で平易に書かれたものとし、訳読に偏ることなく、読解力を養うための技術などを総合的に学ぶ。

テキスト

各担当教員が決める。

参考文献

各担当教員の指示による。

評価方法

各担当教員による。

受講者への要望

予習、復習を欠かさず、積極的に学習してほしい。

年間講義予定については、授業時に指示する。

01 **科目名**	**ドイツ語Ⅰ（第二外国語）**
98 **科目名**	**ドイツ語Ⅰ（第二外国語）**
97 **科目名**	**ドイツ語Ⅰ（第二外国語）**
担当者	**各 担 当 教 員**

講義の目標

ＩA（基　　礎）／ドイツ語圏の社会や文化についての基礎的な知識の獲得と、ドイツ語の基本能力の修得を目標とします。

ＩB（読解練習）／読解に重点を置きながら、ドイツ語の基本的な語彙や構文が理解できるよう指導します。

ＩC（口頭練習）／日常会話における基本的な表現を使って、ドイツ語での応答ができるよう指導します。

ＩA を中心に、ＩA とＩB、またはＩA とＩC というように組み合わせて履修して下さい。

講義概要

ＩA（基　　礎）／ドイツ語圏の社会や文化にさまざまな形で触れた後､発音･数字・日常的な表現等の導入を経て、徐々にドイツ語の基本的語彙・表現・文法事項を学んでいきます。

ＩB（読解練習）／易しい文章を読みながら、そこに出てくる基本的な語彙や構文を理解し、修得していきます。

ＩC（口頭練習）／コミュニケーションを意識しながら、日常会話における場面ごとの基本表現を学び、口頭で応答できるように練習を行います。

テキスト

詳しくは教科書販売所の掲示を見て下さい。

参考文献

・独和辞典（中型のもの）

評価方法

前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。

受講者への要望

練習が主体の科目ですから、授業には必ず出席し、積極的に発言して下さい。

年間授業計画

1. 第 1 週　テキストの内容を紹介し、今後の授業の進め方・進度等について説明します。
2. 第 2 週～第 24 週は、テキストに基づいた練習。

01 科目名	フランス語Ⅰ（第二外国語）
98 科目名	フランス語Ⅰ（第二外国語）
97 科目名	フランス語Ⅰ（第二外国語）
担当者	各 担 当 教 員

講義の目標

「文法」ではフランス語の基礎的文法を習得し、「総合」では文法を応用し簡単なテキストを読む力をつけます。「文法」と「総合」からそれぞれ一科目ずつ選択して履修して下さい。

講義概要

フランス語の基礎を学びます。発音、動詞の活用、文法事項など、最初は複雑に思えるかも知れませんが、ある程度の根気と努力さえあれば、習得できます。予習、復習に力を入れて、その都度マスターするように心掛けて下さい。

テキスト

各担当者による

参考文献

初学者のために工夫された仏和辞典がいろいろとありますので、担当者の説明を聞いて購入して下さい。

その他の参考書については、担当者に直接相談して下さい。

評価方法

評価方法については各担当者から説明があります。

受講者への要望

どの学習もそうですが、とくに語学では持続的な積み重ねが大切です。毎日少しの時間でもよいから、フランス語に触れるように努力して下さい。

01 科目名	スペイン語Ⅰ（総合）（第二外国語）
98 科目名	スペイン語Ⅰ（総合）（第二外国語）
97 科目名	スペイン語Ⅰ（総合）（第二外国語）
担当者	各 担 当 教 員

講義の目標

スペイン語入門の授業である。基礎的文法を、基本単語を用いた会話文を通して学ぶ。声に出して練習することによって、あいさつ文、現在形を使う文、過去形を使う文まで学びたい。

講義概要

テキストにそって、第 6 課（点過去）あるいは第 7 課まで進む。

テキスト

¡ Hola, amigos !（芸林書房）

評価方法

授業への積極的参加。年 2 回のテスト。小テストをおこなう場合もある。

受講者への要望

スペイン語Ⅰ（会話）との同時履修を望む。

年間授業計画

1. ～12. テキストにそって第 1 課から第 3 課あるいは第 4 課まで前期でおこなう。
13. ～24. テキストにそって第 4 課から第 6 課あるいは第 7 課まで後期でおこなう。

01 科目名	スペイン語Ⅰ（会話）（第二外国語）
98 科目名	スペイン語Ⅰ（会話）（第二外国語）
97 科目名	スペイン語Ⅰ（会話）（第二外国語）
担当者	各 担 当 教 員

講義の目標

スペイン語会話入門の授業である。基本単語を用いた会話文を練習し、あいさつ文、現在形の文、過去形の文までを使えるようにする。

講義概要

スペイン語Ⅰ（総合）と同じテキストを使い、その進度にあわせながら、会話練習をおこなう。

テキスト

¡ Hola, amigos !（芸林書房）

評価方法

授業への積極的参加。年 2 回のテスト。小テストをおこなう場合もある。

受講者への要望

スペイン語Ⅰ（総合）との同時履修を望む。

年間授業計画

1. ～12. テキストにそって第 1 課から第 3 課あるいは第 4 課まで（前期）
13. ～24. テキストにそって第 4 課から第 6 課あるいは第 7 課まで（後期）

01 **科目名**	**ロシア語Ⅰ（文法）**
98 **科目名**	**ロシア語Ⅰ（文法）**
97 **科目名**	**ロシア語Ⅰ（文法）**
担当者	**佐　藤　千登勢**

講義の目標

この授業はロシア語Ⅰ（講読）と併せて受けるもので、まったくの初学者を対象としています。ロシア語は、習得が難しいと思われがちですが、文法体系はじつにシステマティックな言語です。この講義では、その文法事項を簡潔なかたちで習得してゆき、まずはロシア語文法の全体像をつかみ、ロシア語に慣れることを目標とします。ロシア語の音の響きの美しさ――ロシア人はそれを次のように誇っています。

「ドイツ語は男と話すによく、フランス語は女と話すによい、スペイン語は神と話すにふさわしい、ところがロシア語はそのすべてに適している」と。このようなロシア語の美しさ、豊かさに触れてもらうことが、当講義の最終的な目標となります。

講義概要

使用教材で呈示したテキストに基づき、ロシア語文法の基礎を学びます。アルファベットの文字と発音に慣れるところから始め、名詞の格変化、動詞の人称変化、過去の時制、未来の時制をゆっくりと（復習を重ねながら）確実にこなしてゆき、基本的な構文の読解と作文ができるようにします。ロシアの芸術、文化や生活習慣についても、音声や映像資料を通して紹介していきます。

テキスト

諫早勇一他著「セメスターのロシア語」（白水社）

参考文献

博友社「ロシア語辞典」

評価方法

前期、後期に１回ずつ行う定期試験、および出席率を含め総合的に評価しますが、判断の上でもっともウェートを占めるのは出席率です。

受講者への要望

とにかく授業に毎回出席することを心掛けて下さい。語学は継続です。

年間授業計画

前期：アルファベット（キリル文字）の発音、綴り、簡単な文章のイントネーションの習得。併せて、筆記体の練習も行います。文法事項は、名詞の性について、過去の時制、名詞の格の概要、所有代名詞を学んでゆきます。テキストは、最初から第５課までが範囲となります。

後期：疑問詞を用いた疑問文、所有の表現、動詞の体、動詞の人称変化、未来の時制について学んでゆきます。テキストは、第６課から第１０課までが範囲となります。

01 **科目名**	**ロシア語Ⅰ（講読）**
98 **科目名**	**ロシア語Ⅰ（講読）**
97 **科目名**	**ロシア語Ⅰ（講読）**
担当者	**斉　藤　　毅**

講義の目標

この授業は「ロシア語Ⅰ（文法）」とセットになっており、まったくの初心者を対象としています。授業名は「講読」となっていますが、実際は、ロシア語を実際に声に出して身につける「発話」が中心の授業です。「文法」の授業で学んだ単語・文法事項・定型表現を、より具体的な会話形式で応用練習することにより、実践的なロシア語力をつけることを目的とします。

講義概要

「文法」の授業と同じ教科書、およびプリントによる教材を使って進めてゆきます。授業で行なう練習の内容は「年間授業計画」の項を見てください。

テキスト

①諫早勇一他『セメスターのロシア語』（白水社）（「文法」の授業で使うのと同じもの）。②授業中に配布するプリント。

参考文献

米重文樹『パスポート初級露和辞典』（白水社）
『博友社ロシア語辞典』（博友社）など

評価方法

①出席・授業中に行なう小テストなどの平常点。
③年 2 回の期末試験。なかでも出席を最も重視します。

受講者への要望

とにかく継続して出席してください。評価基準は出席を最も重視します。

年間授業計画

まず文字の読み書きを覚えた後、「文法」の授業の進度にあわせて、以下のような練習を、教科書とプリントを使って行ないます。
①文法・表現：「文法」の授業で学んだ文法事項を応用した、会話形式の発話練習。授業ではこの練習をとにかく反復して行ないます。
②単語：教科書の各課に出てくる単語の具体的な用法の習得。
③発音：テープ教材をもちいた、教科書の例文などの発音・聞き取りの練習。

01 科目名	中国語Ⅰ（講読）
98 科目名	中国語Ⅰ（講読）
97 科目名	中国語Ⅰ（講読）
担当者	各 担 当 教 員

講義の目標

中国語を学ぶ上で、発音の習得は非常に重要です。正しく発音できることは、自信につながり、中国語そのものも楽しくなります。この授業では、発音の繰り返し練習に重点を置き、文法は必要最小限に押さえ、話せる中国語を目指します。

講義概要

教科書に沿って進みます。前期は発音や中国語の音声表記であるピンインの習得が最大の課題です。後期は実際の会話文の発声練習を中心に進み、基本例文の暗記とその応用が中心となります。テキストの本文の暗記・暗唱が必要最低条件です。

テキスト

『発信型中国語初級テキスト』大塚秀明他著　光生館　2400 円

参考文献

『はじめての中国語』相原茂著　講談社現代新書　650 円

評価方法

出席を重視し、授業態度、学期末試験と総合して評価します。

受講者への要望

授業は休まず出席してください。

教科書の本文が暗記・暗唱できるよう、教材に付属の CD を毎日聞いてください。

年間授業計画

教科書に沿って進みます。（詳しくは授業中に指示します。）

01 科目名	中国語Ⅰ（文法）
98 科目名	中国語Ⅰ（文法）
97 科目名	中国語Ⅰ（文法）
担当者	各 担 当 教 員

講義の目標

はじめて中国語を学ぶ学生を対象とします。中国語の文法についての基礎的な知識を得ること、中国語の文型や会話パターンを知り、語彙を増やしていくことによって、簡単な日常の会話ができるようになることをめざします。

講義概要

最初は発音の基礎から入ります。そのうえで、各課において、会話パターンの内容を把握し、文法の要点を理解し、パターン練習などによってそれを定着させ、さらに応用できることをめざします。

そのためには講義を聴いている・テキストを見ているという受身の姿勢ではなく、自ら声を出す・質問をするといった活動を期待します。

また、国際理解の第一歩として、もっとも古くからの隣人である中国を知るための知識・情報を紹介し、異文化理解の一つとして表現形式から見た日本語と中国語の違いなどにも触れたいと思います。

テキスト

『学ビテ時二之ヲ習フ』相原茂・郭雲輝・保坂律子共著　好文出版

参考文献

辞書・参考書類については授業時間に紹介します。

評価方法

前・後期の定期考査の成績や小テストの結果および出席率に基づき、授業への取り組み方なども加味して総合的に評価します。

受講者への要望

中国語は高等学校で学んだ漢文と同じではありません。一つの外国語ととらえてください。日本語とは異なる音韻体系・アクセント体系を持っているので、とりわけ発音練習がかかせません。週 1 コマの授業のみでは絶対的に時間が不足するので、テキストに附属している CD を聞いて自分で発音してみなくては上達できません。

また，語学は地道な積み重ねが重要です。授業中の双方向の活動を望みます。

年間授業計画

週 1 コマ、1 年間では約 24 時間の授業時間をむだなく用いるにはめやすとして 1 時間で 1 課を進めます。また、理解度に応じてテキストの他にプリント教材やヒアリング教材を使用することもあります。

01 **科目名**	**韓 国 語 Ⅰ（講読）**
98 **科目名**	**韓 国 語 Ⅰ（講読）**
97 **科目名**	**韓 国 語 Ⅰ（講読）**
担当者	**李　　貞　美**

講義の目標

日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化等の諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流が進展していくことが期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌等から時事情報を得る基本的能力の総合的な定着をめざし、多角的な授業を行う。

講義概要

韓国語を初めて学ぶ人を対象とし、読解・作文力の養成を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけることをめざす。その際に韓国語と日本語の共通点・類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させるようにする。そして韓国の典型的文化や生活等を紹介しながら直結する学習内容を精選・組織し、学習内容に臨場感を持たせる。また言語だけでなく、絵・写真・スライド・ビデオ等を提示し、学習の場面の雰囲気や情調を感得させる。

テキスト

『韓国語学習－基礎から完成まで－』朴勇俊
（プリント）

参考文献

後日指定

評価方法

評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

受講者への要望

外国語の学習は持続的な学習や訓練に関する学習者の積極的な興味、関心が大切である。意欲的に熱意をもって取り組んでほしい。

年間授業計画

1. 本講義に対する紹介、概要説明、注意点について
2. 韓国語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得
3. 韓国語の文字・文章の理解と解読
4. 韓国語の文字・文章の理解と解読
5. 韓国語の文字・文章の理解と解読
6. 次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。
「自己紹介」
7. 「あいさつ」
8. 「学校生活①」
9. 「学校生活②」
10. 「家族①」
11. 「家族②」
12. 前期末試験
13. 「友人①」
14. 「友人②」
15. 「買い物①」
16. 「買い物②」
17. 「趣味①」
18. 「趣味②」
19. 「海外旅行①」
20. 「海外旅行②」
21. 「伝統文化」
22. 「衣・食・住　①」
23. 「衣・食・住　②」
24. 後期末試験

01 科目名	韓 国 語 Ⅰ（文法）
98 科目名	韓 国 語 Ⅰ（文法）
97 科目名	韓 国 語 Ⅰ（文法）
担当者	朴　　勇　俊

講義の目標

韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。

会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住等のストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め積極的に学習に取り組むようにする。

講義概要

(1)韓国語の特徴と学習への取り組み方の理解･体得
韓国語の特徴、特に「ハングル」の構造を日本語およびその文字との比較からわかりやすく説明する。
(2)韓国語の文字、文章の理解と解読
辞書の活用による「ハングル」の解読、「ハングル」による表現、「ハングル」の音韻的法則を指導する。
(3)実用会話
基本会話文（あいさつ、自己紹介、基本的感情表現、ショッピング、食事の注文等の日常生活に必要な表現）を厳選し、学習者同士が役割を変えながら問答型の会話の反復練習をする。

テキスト

『韓国語学習－基礎から完成まで－』朴勇俊
（プリント）

参考文献

参考書や辞書等は後日指定する。

評価方法

評価は原則として定期試験と授業への取り組み、出席状況等を総合的に判定する。

受講者への要望

外国語の学習は学習者が持続的な学習や訓練に対応する積極的な興味や関心、持続的努力などを一貫して維持できるかどうかによって成果が左右される。意欲を持って主体的に取り組む姿勢を身につけてほしい。

年間授業計画

1. 本講義に対する紹介、概要説明、注意点について
2. 韓国語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得
3. 韓国語の文字・文章の理解と解読
4. 韓国語の文字・文章の理解と解読
5. 韓国語の文字・文章の理解と解読
6. 次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。
「スーパーマーケット」
7. 「市場」
8. 「薬局」
9. 「喫茶店」
10. 「郵便局」
11. 「洋服店」
12. 前期末試験
13. 「映画館」
14. 「スポーツ」
15. 「図書館」
16. 「クリーニング店」
17. 「銀行」
18. 「役所」
19. 「銭湯」
20. 「美容院」
21. 「趣味」
22. 「国際電話」
23. 「健康管理」
24. 後期末試験

01 **科目名**	**英　語　II（講読）**
98 **科目名**	**英　語　II（講読）**
97 **科目名**	**英　語　II（講読）**
担当者	**各 担 当 教 員**

講義の目標

国際化が進む中で、英語で情報を得る力が必要性を増してきたといえる。英語Ⅱ（講読）の授業では、英語Ⅰ（講読）の授業に引き続き、英語で書かれた新聞、雑誌、随筆など様々な文章を読みながら総合的な読解力を養うことを目標とする。

講義概要

講義は、学生の英語力と興味を考慮した上で決めた教材により行う。教材の内容は、現代英語で平易に書かれたものとし、訳読に偏ることなく、より多くの英文を読みながら読解力を養うための技術などを総合的に学ぶ。

テキスト

各担当教員が決める。

参考文献

各担当教員の指示による。

評価方法

各担当教員による。

受講者への要望

予習、復習を欠かさず、積極的に学習してほしい。
年間講義予定については、授業時に指示する。

01 **科目名**	**英　語　II（総合）**
98 **科目名**	**英　語　II（総合）**
97 **科目名**	**英　語　II（総合）**
担当者	**各 担 当 教 員**

講義の目標

国際化が進む中で、英語で情報を発信･受信する力が益々必要性を増してきたといえる。英語Ⅱ（総合）の授業では、読む、書く、聞く、話すの 4 技能を総合した、現代英語でのコミュニケーション能力の習得を目標とする。

講義概要

講義は、学生の英語力と興味を考慮した上で決めた教材により行う。教材の内容は、現代英語で平易に書かれたものとし、より多くの英語に接しながら総合的な英語力を養う。

テキスト

各担当教員が決める。

参考文献

各担当教員の指示による。

評価方法

各担当教員による。

受講者への要望

予習、復習を欠かさず、積極的に学習してほしい。

年間講義予定については、授業時に指示する。

01 **科目名**	**英　語　II（会話）**
98 **科目名**	**英　語　II（会話）**
97 **科目名**	**英　語　II（会話）**
担当者	E. **ハードスターク**

講義の目標

I hope in the class we could reach the level of having discussions dealing with International as well as national current events. There will be plenty of opportunity for students to improve their speaking ability through role play and presentations. Listening comprehension is also an important component of the class and I will bring in a variety of videos and tapes according to the class level.

講義概要

I will decide the level of the class and we will precede from that point. Besides the emphasis on improving both the students' speaking and listening ability, I would like to get the students to enlarge their learning experience. I plan to use both videos and newspaper articles that deal with international and national interests, some of the topics will deal with health, the environment, Art, sports, and politics.

テキスト

Net yet decided

評価方法

[前期]　(1)Attendance 30%　(2)Class participation 30%　(3)Test presentation 40%

[後期]　(Same as above)

受講者への要望

I hope we can enjoy learning English together but expect students to come to class and give their best effort.

年間授業計画

1. Introduction, course explanation
2. How we met. Present perfect or past simple
3. Caring and Sharing. Present perfect continuous or simple.
4. Good relations.
   both, neither either.
5. Hello and goodbye. Meeting people saying goodbye.
6. The time of your life.
   adverbs of frequently
7. Food for thought.
   Quantifiers! a few, a little, etc,.
8. Talking about health
9. Checking and apologizing.
   checking information.
10. The day that changed my life.
    used to t infinitive.
11. Still me.
    can/could/be able to
12. Could you do me a favor
13. The good side and the bad side.
    Future forms.
14. First conditional
15. Living in the material world
    Second conditional
16. Getting what you want
17. Race through the rush hour
    must, have to, should
18. Survival of the fittest
    comparatives and superlatives
19. Going out. Inviting,.
    suggesting. Making arrangements
20. Where am I? Tourism.
21. I Love New York. Video
22. Travelers' tales.
    Reported speech.
23. Review for test.
24. Test

01科目名	英　語　II(会話)
98科目名	英　語　II(会話)
97科目名	英　語　II(会話)
担当者	K.　ミ　ー　ハ　ン

講義の目標

The aim of the course is to improve students English Conversation ability and skills.

講義概要

Classes will be divided into parts: Listening, pair interaction, grammar awareness, and read and respond.

テキスト

To be assigned

評価方法

Final grade will be attendance(50%), class participation(25%), and tests(25%)

受講者への要望

Students need to bring a Japanese/English dictionary and notebook.

年間授業計画

1. Introductions
2. Lifestyles and Activities
3. Living Space
4. Family history (expressions)
5. Important people (terms related to personal influence)
6. Personality (preference and actions)
7. Shopping (items/prices/reasons for needing things)
8. My Mysteries (words and expressions)
9. Different generations (complaints from parents)
10. Working world (good and bad points of Jobs)
11. Information Age (activities/expressions related to opinions)
12. Quiz
13. Film (discussion/genre)
14. Description (places, people, and ideas)
15. First Impressions
16. Quiz
17. Different Ways (good rules and bad rules)
18. Education (subjects/system/opinions)
19. Childhood experiences
20. Diet (Vegetarian/meat eater)
21. Memories (events/emotions)
22. What's new (recent activities)
23. Test preparation
24. Test

01 **科目名**	**ドイツ語Ⅱ（第二外国語）**
98 **科目名**	**ドイツ語Ⅱ（第二外国語）**
97 **科目名**	**ドイツ語Ⅱ（第二外国語）**
担当者	**各 担 当 教 員**

講義の目標

ⅡA（読解練習＝ノンフィクション）
ⅡB（読解練習＝フィクション）

／ドイツ語Ⅰで修得したドイツ語の基礎知識を応用し、辞書さえ使用すれば、大方のドイツ文の内容を正確に読み取れるだけの読解力を養成します。

ⅡC（口頭練習）

／基本単語を使用して、何とか自分の意思をドイツ語で相手に伝えられる能力を養成することを目標とします。

講義概要

ⅡA（読解練習＝ノンフィクション）
［ドイツの政治・経済・社会・雑誌などに関する文章やエッセイ等、いわゆるノンフィクションをテキストとして使用します。］
ⅡB（読解練習＝フィクション）
［小説・童話・説話などのフィクションを教材とします。］

／最初に文法の基本事項の復習と未修事項の学習を行い、その後テキストの読解に入ります。
はじめは文法的な解説を充分に行い、ドイツ文の構造を理解させることに力点を置きます。
それから徐々にテキスト内容の全体的な把握に授業の重点を移し、読解の速度を上げていきます。

ⅡC（口頭練習）

／場面に応じて、基本的な文章を聞き取り、反復・応答できるように指導します。

テキスト

各担当者の使用テキストは、教科書販売所の掲示を見て下さい。

参考文献

・独和辞典（中型のもの）、ドイツ語Ⅰで使用したテキスト。

評価方法

前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。

受講者への要望

練習が主体の授業ですから、必ず出席して積極的に発言して下さい。

年間授業計画

第 1 週
テキストの内容の紹介と今後の授業の進め方、速度などについて話します。また 1 年次に使用したテキスト（各自持参）及び既修・未修文法項目の確認と、基本的な文法事項の復習を行います。

第 2 週～7、8 週
文法の復習、未修事項の学習を行います。

第 8、9 週以降
ドイツ語ⅡA、B ではテキストの読解練習に、ドイツ語ⅡC では口頭練習に入ります。

01 科目名	フランス語Ⅱ（第二外国語）
98 科目名	フランス語Ⅱ（第二外国語）
97 科目名	フランス語Ⅱ（第二外国語）
担当者	各 担 当 教 員

講義の目標

一年次に学んだフランス語の基礎知識を復習しながら、より高度なフランス語の多様な表現の運用を学びます。

講義概要

フランス語Ⅱ（二外）は、二人の担当者により週 2 コマ開講されます「総合」ではテクストの講読を通じて語彙、文法知識の充実によって読解力を高めます。「会話」はフランス人教員が担当し、日常会話表現とその運用を学習します。

テキスト

各担当者による（場合によっては、二人の担当者が共通の教科書を用いることもありますので、教科書販売所の掲示を確認して下さい。）

評価方法

評価方法については各担当者から説明があります。

受講者への要望

授業の進め方などについて説明がありますので、第一回目には必ず出席して下さい。

01 科目名	スペイン語Ⅱ（総合）（第二外国語）
98 科目名	スペイン語Ⅱ（総合）（第二外国語）
97 科目名	スペイン語Ⅱ（総合）（第二外国語）
担当者	各 担 当 教 員

講義の目標

スペイン語Ⅰ（総合）の既修者を対象にした授業である。1 年次にひきつづいて、テキストの第 6 課以降を学ぶ。二つの過去形（点過去と線過去）および、現在分詞、過去分詞、接続法の活用とその使い方がポイントである

講義概要

テキストにそって、第 6 課以降を学ぶ。

テキスト

¡ Hola, amigos !（芸林書房）

評価方法

授業への積極的参加。年 2 回のテスト。小テストをおこなう場合もある。

受講者への要望

スペイン語Ⅱ（会話）との同時履修を望む。

年間授業計画

1. ～12. テキスト第 6 課から 9 課まで
13. ～24. テキスト第 10 課から第 12 課まで

01 科目名	スペイン語Ⅱ（会話）（第二外国語）
98 科目名	スペイン語Ⅱ（会話）（第二外国語）
97 科目名	スペイン語Ⅱ（会話）（第二外国語）
担当者	各 担 当 教 員

講義の目標

スペイン語Ⅰ（会話）の二年目の授業である。スペイン語Ⅱ（総合）の進度にあわせて、より高度な会話文（過去形と分詞、接続法が中心となる）を練習し、日常生活に必要な最小限の表現法を身につける。

講義概要

スペイン語Ⅱ（総合）と同じテキストを使い、第 6 課以降の文法事項の進度にあわせて、練習をおこなう。

テキスト

¡ Hola, amigos !（芸林書房）

評価方法

授業への積極的参加。年 2 回のテスト。小テストをおこなう場合もある。

受講者への要望

スペイン語Ⅱ（総合）との同時履修を望む。

年間授業計画

1. ～12. テキスト第 6 課から 9 課まで（前期）
13. ～24. テキスト第 10 課から第 12 課まで（後期）

01 科目名	ロシア語Ⅱ（総合）
98 科目名	ロシア語Ⅱ（総合）
97 科目名	ロシア語Ⅱ（総合）
担当者	佐　藤　千登勢

講義の目標

この授業はロシア語Ⅱ（講読）と併せて受けるもので、基本的には、ロシア語・を履修した学生を対象としています。初級文法の復習・確認を行いながら、「読む、話す、書く」の要素において、バランスよく、さらなるロシア語の力を身に付けていくようにします。

講義概要

この授業では、平易な読み物とこれに関する設問を通して、日常に密着した実用的なロシア語を身に付けていきます。また、毎回の授業では、ロシア語の資料を読む際に必要な知識となる、ロシアの文化や生活習慣について、音声や映像の資料を用いて紹介していきます。

テキスト

米重文樹、リュドミーラ・ヤマダ編「ロシア語・読本と練習」（白水社）

参考文献

博友社「ロシア語辞典」

評価方法

前期、後期に１回ずつ行う定期試験、および出席率を含め総合的に評価しますが、判断の上でもっともウェートを占めるのは出席率です。

受講者への要望

とにかく授業に毎回出席することを心掛けて下さい。語学は継続です。

年間授業計画

前期：動詞の現在人称変化、所有の表現など、初級の文法の確認と補強を行いながら、語彙力や読解力を高めていきます。また、新しい文法事項となる、形容詞の格変化、関係代名詞、再帰動詞を学んでゆくことで、さらに基礎を固めてゆきましょう。テキストは、第７課の文法事項までが対象となります。

後期：比較級の表現、ことわざの表現、数量を示す表現、命令形、形容詞の短語尾、そして形動詞と、新しい文法事項をゆっくりと、練習問題を重ねながら学んでゆきます。これらがひととおり終われば、ロシア語の文法の基礎は完成したと言ってよいでしょう。テキストは、第１０課までが対象となりますが、文法の説明を補うために、適宜、プリントを配付します。

01 科目名	ロシア語Ⅱ（講読）
98 科目名	ロシア語Ⅱ（講読）
97 科目名	ロシア語Ⅱ（講読）
担当者	斉　藤　　毅

講義の目標

この授業は「ロシア語Ⅱ（総合）」とセットになっており、「ロシア語Ⅰ」を履修した人を対象としています。授業名は「講読」となっていますが、授業の形式は、昨年度の「ロシア語Ⅰ（講読）」と基本的に同じで、これまで学んできたことを基礎に、さらに新たな文法事項・単語・定型表現を学び、「発話」中心の応用練習をすることにより、より内容のあるロシア語が使えるようになることを目指します。今年度は、より実際の「会話」に近い表現が練習できると思います。

講義概要

「ロシア語Ⅱ（総合）」の授業と同じ教科書、およびプリントによる教材を使って（前年度の復習も行ないながら）進めてゆきます。授業で行なう練習の内容は「年間授業計画」の項を見てください。

テキスト

①米重文樹、リュドミーラ・ヤマダ編「ロシア語・読本と練習」（白水社）（「総合」の授業で使うのと同じもの）。②授業中に配布するプリント。

参考文献

米重文樹『パスポート初級露和辞典』（白水社）
『博友社ロシア語辞典』（博友社）など

評価方法

①出席・授業中に行なう小テストなどの平常点。③年 2 回の期末試験。なかでも出席を最も重視します。

受講者への要望

とにかく継続して出席してください。評価基準は出席を最も重視します。

年間授業計画

「総合」の授業の進度にあわせて、以下の練習を教科書とプリントを使って行ないます。

①文法・表現：「文法」の授業で学んだ文法事項を応用した発話形式の応用練習。授業ではこの練習をとにかく反復して行ないます。今年度は、より実際の「会話」に近いテキストも用います。

②単語：教科書の各課に出てくる単語の具体的な用法の習得。

③発音：今年度はテープ教材を用いた発音・聞き取りの練習も、以上の練習と並行して行なってゆきます。

01 **科目名**	**中国語Ⅱ（総合）**
98 **科目名**	**中国語Ⅱ（総合）**
97 **科目名**	**中国語Ⅱ（総合）**
担当者	**横　川　澄　枝**

講義の目標

中国語Ⅰを履修した学生を対象とします。中国語Ⅰで学んだ中国語の文型・会話パターンの基礎の上にたって、さらにコミュニケーションに使える中国語の文型・語彙・文法知識を増やすことを目標とします。

講義概要

このテキストは 18 課からなり、各課は会話パターンと「文法のポイント」、ドリルという構成をとっています。中国語Ⅰで使用したテキストの姉妹編なので、Ⅰをさらに発展させた内容および新出の項目が含まれています。Ⅰでの既習項目を復習し確実なものとしながら新たな文法項目の要点を理解し、それをパタン練習によって定着させ、さらに応用できることを目指します。

また、国際理解の第一歩として、もっとも古くからの隣人である中国を知るための知識・情報を紹介し、異文化理解の一つとして表現形式から見た日本語と中国語の違いなどにも触れたいと思います。

テキスト

『朋アリ遠方ヨリ来タル』相原茂・郭雲輝・保坂律子共著　好文出版

参考文献

（楽しみながら中国語の文法を概観するためのアイテムとして推薦します）

『はじめての中国語』相原茂著　講談社現代新書

『中国語はじめの一歩』木村英樹著　ちくま新書

評価方法

前・後期の定期考査の成績や小テストの結果および出席率に基づき、授業への取り組み方なども加味して総合的に評価します。

受講者への要望

週 1 コマの授業のみでは絶対的に時間が不足するので、授業外の予・復習を期待します。とくに発音は CD を聞いて自分で発音してみなくては上達できません。

語学の授業は、講義形式で一方的に話す・聞くという一方通行ではなく、双方向の活動を望みます。

年間授業計画

週 1 コマ、1 年間では約 24 時間の授業時間をむだなく用いるにはめやすとして 3 時間で 2 課を進めます。また、理解度に応じてテキストの他にプリント教材やヒアリング教材を使用することもあります。

01 **科目名**	**中国語Ⅱ（講読）**
98 **科目名**	**中国語Ⅱ（講読）**
97 **科目名**	**中国語Ⅱ（講読）**
担当者	**大　嶋　広　美**

講義の目標

「生きた中国語」を身につけるためには、口頭による意志伝達能力の養成が必要である。この授業は、これまでに習得した中国語の基礎知識を再確認しながら、中国語のネイティブの人と簡単な会話ができる能力を身に付けること、そして中級レベルの文章の読解力をつけることをねらいとする。

講義概要

最初は会話を中心とした練習問題のテキストを用いて、中国語で話すために必要な口語知識を解説する。そして、教科書の本文と練習文を繰り返して読み終えた後、本文をすべて暗記する授業を行う。

後期は、会話文を続けながら、講読の方にも重点をおく授業を進める。また、参加者がグループを組んで予めテーマを決め、中国語で発表することも予定する。

理解度を確かめるため、また既習事項を十分に消化していないということがないように、前期、後期ともに必ず小テストを行う。尚、会話や講読の授業の際にも、最低限の文法説明を行う。

テキスト

プリントとテキストを使用。テキストは教場で指示する。

参考文献

「中国語用例辞典」、呂叔湘主編、牛島徳次監修・菱沼透訳、東方書店

評価方法

[前期]　実際中国語で表現できるかを確認するため、ヒアリング、会話、及び筆記の試験を実施する。

[後期]　後期で学んだ内容についての筆記試験を行う。前期、後期の出席状況と論読の積極性を加味して総合的に評価する。

受講者への要望

初級修了のレベルの力量、学習意欲を備えていることが望ましい。

年間授業計画

1. 授業についての説明、発音の確認
2. 会話：「了」についての説明（1)、連動文
3. 会話：「了」についての説明（2)、
4. 会話：「了」についての説明（3)、「可能」について
5. 会話：経験を表す「過」、仮定を表す言い方。
6. 講読及び 2〜5 回目の授業のまとめ。
7. 会話：逆接を表す言い方、強調を表す「是」
8. 会話：「在＋動詞」と「動詞＋着」の違い
9. 会話：「再」について、結果補語
10. 会話：程度補語、数量補語
11. 講読及び 7〜10 回目の授業のまとめ
12. いままでの会話文のまとめとヒアリング
13. 会話：方向補語、禁止の表現
14. 会話：「是〜的」について、「把」の使い方
15. 会話：可能を表す助動詞と可能補語との違い
16. 会話：祝う、願うときの表現
17. 講読及び 13〜16 回目の授業のまとめ
18. 講読（17 回目の続き)、中国語によるグループ口頭発表
19. 会話：使役
20. 会話：受身
21. 会話：助動詞のまとめ（「打算」、「応該」など）
22. 会話：様態補語、「〜しながら〜する」の表現
23. 講読及び 19〜22 回目の授業のまとめ
24. 講読

01 **科目名**	**韓 国 語 II（総合）**
98 **科目名**	**韓 国 語 II（総合）**
97 **科目名**	**韓 国 語 II（総合）**
担当者	**朴　　勇　俊**

講義の目標

韓国語の多用かつ実用的な表現力を身につけることをめざす。そして韓国の典型的文化や生活等を紹介しながら直結する学習内容を精選・組織し、学習内容に臨場感を持たせる。また、言語だけでなく、絵・写真・スライド等を提示し、学習の場面の雰囲気や情調を感得させる。

講義概要

韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型等を身につけさせる。また、外国語は異文化の典型的集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報等を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。

テキスト

『韓国語学習－基礎から完成まで－』朴勇俊（プリント）

参考文献

参考書や辞書等は後日指定する。

評価方法

評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

受講者への要望

意欲的に熱意を持って取り組んでほしい。

年間授業計画

1. 本講義に対する紹介、概要説明、注意点について

2〜11

次のような内容を題材にクラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話文を暗唱できるようにしていく

入国審査、税関
外国人登録、ビザの延長
両替、予約便の確認
国際電話、伝言
地下鉄利用、忘れ物
ホテル・旅館、病状
慶州観光、韓国料理
名刺交換、出身地
伝統的行事、余暇

12. 定期試験

13〜23

以下のような内容の題材をとりあげ幅広い会話力の定着をめざす。

名刺交換
出身地
伝言
外国人登録
ビザの延長
健康管理
演劇
病状
伝統的行事
余暇
韓国料理

24. 後期定期試験

01 **科目名**	**韓 国 語 II（講読）**
98 **科目名**	**韓 国 語 II（講読）**
97 **科目名**	**韓 国 語 II（講読）**
担当者	**李　　貞　美**

講義の目標

韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力をつけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また韓国の文学（詩や小説）や映画、音楽等を題材にとりあげることで文化や芸術に対する理解を深めるとともに多様な表現力の取得をめざす。

講義概要

文章による表現力を養成するために新しい語彙の習得と活用にも力を入れ基礎的な文法をもとに文型練習を反復することで基本構文を定着させる。さらに読解、作文に重点をおき、特に実用文（手紙、日記、メモ等）の活用能力を習得させ、実際に韓国語での手紙のやりとり等ができるようにしていく。また韓国の文学作品（詩や小説、エッセイ、映画の脚本等)、論説等を題材にとりあげることで、芸術や文化に対する理解を深めるとともに多様な表現力の取得をめざす。特に新聞雑誌等を読みこなして時事情報を得る応用力を身につけさせる。

テキスト

「韓国語学習－基礎から完成まで－」朴勇俊
（プリント）

参考文献

参考書や辞書等は後日指定する。

評価方法

評価は原則として定期試験と授業へのとりくみ、出席状況等を総合的に判定する。

受講者への要望

外国語の学習は持続的な学習や訓練に関する学習者の積極的な興味、関心が大切である。意欲的に熱意をもって取り組んでほしい。

年間授業計画

1. 本講義に対する紹介、概要説明、注意点について

2〜11

次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。

誕生日、記念日
古宮、能楽
旅行、交通
登山、済州島
正月の風俗
虎と干し柿（民話）
牛になった怠け者（民話）
韓国の風俗と礼節
民族衣装

12. 定期試験

13〜23

次のような内容の題材をとりあげ、読解・作文学習を行っていく。

農薬
端午
世宗大王
交通
記念日
手紙
昔話
牛になった怠け者
済州島
韓国の風俗と礼節
民族衣装

24. 後期定期試験

01 科目名	高齢化社会論　a・b
98 科目名	高齢化社会論
97 科目名	老年社会学
担当者	奥　山　正　司

講義の目標

現代社会が、情報化、国際化、高齢化の社会であるといわれてから久しい。本講義では、その高齢化や加齢という現象を通して、経済・社会にどのような変化が生じているのかを明らかにしていくことをねらいとする。

なお、高齢化社会を研究するソーシャル・ジェロントロイジィ（社会老年学）は、老年学（gerontology）の一領域であるとともに、社会学（sociology）の一領域として位置づけられるまた、ジェロントロイジィは「高齢化や加齢現象に関する科学的研究」を意味し、社会学とは「社会現象を人間生活の共同という視角から研究する社会科学」である

講義概要

年間を通して、人口高齢化がもたらす社会的インパクトや老年期における高齢者の社会生活の変化及び老人福祉、老後保障の動向などについて学ぶ。

前半では、人口高齢化、寿命、健康寿命、エイジズム、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の客観的な生活の様相、後半では、老人福祉、老後保障、介護保険などの側面から講義し高齢（化）社会の全体像を明らかにする。

参考文献

小笠原祐次編『老人福祉論』ミネルヴア書房、2000

その他の参考文献は授業中にその都度指示する。

評価方法

〔前期〕レポート、出席、試験等の総合的な評価によって行う。

〔後期〕レポート、出席、試験等の合計点によって評価する。

前期授業計画

第 1 〜 2 週　高齢化社会に関する社会科学と周辺科学

社会学及び社会福祉学など社会科学的視点から高齢者をとらえていくジェロントロジィ（老年学、Gerontologgy）とはどういう学問か。それは、医学的観点とはどのように異なるのか。また、ジェロントロジィが社会学の代表的理論といわれる離脱理論、活動理論とは高齢者と社会のあり方をどう見ているのか。

第 3 〜 4 週　人口高齢化と高齢化社会・エイジズム

エイジング（加齢、Aging）及びエイジズム（Agism）とはどういう現象か。また、わが国の人口高齢化の進展は、諸外国の高齢化と比較するとどのような特徴が見られるのか。人口高齢化の要因とは何か。人口高齢化の地域的偏在とそこに生起する問題とはなにか。

第 5 〜 6 週　高齢者と家族、老親子の居住形態

戦後、イエ制度の廃止により、これまで社会的に承認されてきた子が老親を扶養するという規範が弱体化し、老親と既婚子との生活の結合が徐々に分離してきている。その具体的様相はどのような状況なのか。

第 7 〜 8 週　ライフ・サイクル、家族周期と老年期

人間一人ひとりの一生は生物学的な加齢によって規定されるとともに、年齢に結びついた役割と出来事によってつくられる。出生から死亡に至るライフ・サイクルの過程は、戦前と戦後でどのように変化し、それが高齢者の生きかたにどのように影響しているのであろうか。

第 9 〜 10 週　高齢者と生計

高齢者の生計をとりまく経済状況はどのような状況か。高齢者世帯の所得水準、高齢者世帯の所得構造、高齢者世帯の消費水準、高齢者世帯の消費構造、高齢者の資産・負債などについて。

第 11 〜 12 週　高齢者と就業・雇用、定年退職

人口の高齢化に伴い、労働力人口も急速に高齢化し、わが国の経済社会の動向にも大きな影響を及ぼしている。高齢者の就業意向とその現実、高年齢雇用対策やシルバー人材センターの状況などについて。

後期授業計画

第 1 週 〜 2 週　高齢者と住宅環境

住宅は高齢者にとって安全で健康な生活を支える道具として機能しなければならない。住宅水準の状況、特に首都圏の状況と高齢者の住宅対策、居住環境、福祉のまちづくりなどについて。

第 3 〜 4 週　高齢者と生涯学習、社会参加

高齢期を快活に生きるためには、趣味や生きがいをもち、仲間づくりや地域社会における役割分担ができるという状況が必要である。これらの能力や資質は、若中年期からの学習や社会参加によって身につくものであるが、その実状と対応策について。

第 5 〜 6 週　高齢者と保健・医療

死亡率、有病者率、受療率、国民医療費の動向は

どのような状況なのか。また、健やかに老いるために、従来、老人福祉対策等の一環として行われてきた老人保健医療対策と成人保健対策を一元化した老人保険法とはどのような対策なのか。

第 7 〜 8 週　高齢者と在宅福祉及び施設福祉

本格的な高齢化社会を向かえ、身近かな市町村による福祉サービスの時代が到来しつつある。在宅福祉 10 箇年計画をかかげたゴールドプラン、新ゴールドプラン、平成 12 年度から開始したゴールドプラン 21 とはどのような計画か。また、ホームヘルパー、ショートステイサービス、ディサービスの現在の水準と将来の達成度などについて。

第 9〜 10 週　高齢者と介護保険制度

2000 年 4 月から導入された介護保険法の制度の内容を、保険者、保険給付、保険料、利用料、保健の財源構成、利用者が介護サービスを受けるまでの流れなどについて、また、現状で利用者がどのような問題をかかえているのか等について。

第 11 週　高齢者及び高齢化対策と社会保障、財政支出

老後生活を送るうえで、経済的基盤の中心となるのは年金である。年金は大別すると公的年金、企業年金、個人年金に分けられる。そのうち、老後保障の柱となるのは公的年金である。その歴史と現状、将来にむけての問題点とは何か。

第 12 週　諸外国の高齢者対策

福祉先進国といわれるスエーデン、デンマーク、イギリス、その対極にあるアメリカの高齢者対策の状況について。

01 科目名	社　会　学
98 科目名	社　会　学
97 科目名	
担当者	有　吉　広　介

講義の目標

現代社会の問題は 18 世紀に始まった産業革命に端を発し、現在も進行している産業化、そして引き続いて今世紀に起こる脱産業化、さらにこれらが引き起こした社会構造の変化とおおいに関係がある。本講義ではこのような視点から、現代のわれわれの日常生活に見られる諸変化と、そこに起こる様々な社会問題とを考える。

講義概要

豊かで、ゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、企業では能率主義的管理体制のもとにサービス残業が求められたり、過労死までもがみられる。その背景には、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、これらを変化させてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動社会化、学歴主義化、高齢化と少子化、福祉化などもそうした流れのなかに起こる。講義では、産業化が職業生活を含めてわれわれの日常生活のなかで多くの社会問題をどのように生みだしているのかを説明していく。講義の進行は、講義メモを配布して理解を深めることによる。

テキスト

プリントを配る。

参考文献

随時紹介

評価方法

評価は、前・後期の定期試験期間中に各一回おこなう試験の成績による。

受講者への要望

講義に出席し、そこで要点を把握すること。

年間授業計画

1. 社会学の先駆者サン・シモンやオーギュスト・コントなどにおける社会学のテーマ
2. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解
3. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解
4. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解
5. 社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
6. 社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
7. 現代の職業構造の分析
8. 雇用社会と職業的キャリア
9. 産業社会における知識の性格と教育
10. 日本の近代化、教育システム、および学歴社会
11. 社会的不平等の諸次元
12. 不平等の構造化
13. 社会移動の現実
14. 日本の階層社会と社会移動
15. 管理社会の中核としての官僚制
16. 近代的経営の社会構造
17. 日本的組織構造
18. 都市化と地域社会
19. 家族の定義・類型、そして核家族化・少子化
20. 家族のライフサイクルの変化
21. 高齢化社会の人口学的および社会学的分析
22. 高齢化社会における社会問題
23. 生活の質を考える
24. まとめ

01 **科目名**	**法　　学**
98 **科目名**	**法　　学**
97 **科目名**	**法　　学**
担当者	**古　関　彰　一**

講義の目標

日本の法制度の基本的構造を理解してもらうと同時に、法律学が対立する利害を論理的に調整し、解決することをひとつの目標としていることから、論理的に考える能力を養えるようにしたい。結論（結果）よりも論理展開の過程を、暗記ではなく思考力を養えるよう努めたい。

講義概要

経済学部の「法学」であることを念頭において、「法学」を理解する上で基本となる、法の形式、裁判制度と判例などを解説した後、人権と統治原理、平和主義、国内法と国際法、国際化時代と法など多岐にわたる問題を講ずる。

テキスト

西村健一郎・西井正弘・初宿正典編著『判例法学』第 3 版（有斐閣、2000 年）

参考文献

講義の中で指示する。

評価方法

[前期]　前期試験期間中に、前期に講義した範囲のなかから、3 問出題し、2 問につき論述したもの（持ち込み一切不可）を評価対象とする。

[後期]　後期試験期間中に、後期に講義した範囲のなかから、3 問出題し、2 問につき論述したもの（持ち込み一切不可）を評価対象とする。

前期授業計画

1. 開講の辞：近代国家と法：公法と私法
「事件」「紛争」を様々な視点から見る。交通事故を刑事・民事・行政から見ると。
2. 法の形式：法源、不文法、成文法（法律、命令、規則、条約、条例など）
実定法（実体法と手続法)、「六法」とは、学説（通説、少数説）の意義
3. 裁判制度：裁判の意義、裁判制度、法曹三者（判・検・弁）
4. 判例：判例の意義、判例・裁判例の調べ方
5. 人権の主体：憲法の「国籍要件」規定、マクリーン事件、外国人の選挙権・公務就任権事件
6. 人権と私法関係：公法と私法（私人関係）の関係、三菱樹脂事件
7. 法の下の平等：法的性格、性差別（定年年齢）日産自動車事件
8. 法の下の平等：衆議院議員定数事件（参議院、地方議会議員定数事件）
9. 信教の自由：オウム真理教解散命令事件、津地鎮祭訴訟、愛媛玉串事件
10. 表現の自由と検閲：博多駅フィルム提出命令事件、税関検査事件
11. 職業選択の自由と営業の自由の制限：薬事法事件、公衆浴場事件

後期授業計画

12. 前期のまとめ、論述試験の論じ方
13. 財産権の保障とその制限：森林法の共有林分割請求事件
14. 生存権：生存権の意義、朝日訴訟、堀木訴訟
15. 教育を受ける権利と教育の自由：教育権の所在、旭川学力テスト事件
16. 刑事人権概説：憲法・刑事訴訟法上の被疑者、被告人の刑事手続規定
17. 死刑と残虐な刑罰：死刑制度、死刑合憲判決
18. 日本国憲法の統治原理：議会制民主主義、議院内閣制、職業裁判官制度
19. 平和主義と人権：平和的生存権、国防義務、軍法会議、国家緊急権
20. 自衛隊と軍備不保持：憲法 9 条の政府解釈、長沼ナイキ基地事件判決
21. 国の安全保障と日米安保条約：安全保障の概念、日米安保条約と人権、砂川基地事件判決
22. 国家主権と国際組織：国際法上の国家、人権の国際化、塩見事件判決、ベルナドッテ伯事件勧告的意見
23. 国際化と法：難民条約への加入と国内法の改正
24. 閉講の辞：「国家」と「国民権」の近・現代の法は今後どう変化するのか

01 **科目名**	**日本国憲法**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**元　山　　健**

講義の目標

日本国憲法の基本原理（基本的人権の尊重、国民主権、平和主義）を理解すること。それを通じて一人一人の人間がかけがえのない存在であること、そうした自律した個人が連帯しあって良き人生を過ごしていくために、お互いに合意した「人間性の実現のための規範」が憲法であることを理解すること。そして核時代の現代では、民主主義も人権も平和なればこそ活かされることを理解すること。

講義概要

前期は憲法の総論と統治機構（国会、内閣、裁判所）について学習します。まず憲法とはどういう法かという話から始めます。次に日本の憲法の歴史を幕末・維新から現在まで学習します。そして統治の制度と作用について具体的に学習します。

後期は平和主義と人権について学習します。ここでは理論だけでなく、具体的な事件なども素材にして勉強します。

テキスト

元山健編著『CD で学ぶ現代日本の憲法』（法律文化社 2002 年刊）

参考文献

『小六法』（三省堂刊）

評価方法

前期と後期のテスト。

受講者への要望

遅刻、欠席をしないで、自覚的に授業に臨んでください。

年間授業計画

1. 開講にあたって
2. 憲法とは何か
3. 近代憲法の歴史
4. 日本憲法史（その１）明治憲法史
5. 日本憲法史（その２）戦後憲法史
6. 国民主権と象徴天皇制
7. 議会制民主主義の歴史と理論
8. 選挙と政党
9. 国会
10. 内閣
11. 司法
12. 地方自治
13. 基本的人権：総論
14. 個人の尊重と幸福追求権
15. 法の下の平等
16. 精神的自由権（その１）総論と思想・良心の自由
17. 精神的自由権（その２）信教の自由
18. 精神的自由権（その３）表現の自由の原理
19. 精神的自由権（その４）表現の自由の諸問題
20. 精神的自由権（その５）学問の自由
21. 社会的経済的権利（その１）経済的自由権
22. 社会的経済的権利（その２）生存権
23. 社会的経済的権利（その３）労働と教育
24. 人身の自由と刑事手続き

01 科目名	現代文化論　ａｂ
98 科目名	現代文化論
97 科目名	日本文化論(社会)
担当者	柴　崎　信　三

講義の目標

昨年の「9/11」の同時テロにより米国主導でグローバル化が進む世界が大きく揺らいだ。冷戦後の世界は米国から国境を超えて広がる単一の文化で覆われるかに見えるが、その水面下では経済力格差と異文化のマグマがのぞく。一方欧州では今年から共通通貨ユーロの導入で「一つの家」への地域統合が進み、アジアでは巨大国家中国の WTO 加盟で市場を軸にした国際関係の流動化が起きている。こうした激しい変動の中で二十一世紀を迎えた日本はどこへ向かうのか。日本と世界を時代の鏡に映しながら、「文化」という歴史を動かす係数の意味を考える。

講義概要

国民国家という枠組みが揺らいで国境があいまいになる中で、世界は多様な「文化」のモザイクに編み込まれているようである。講義ではその「文化」の固有性と普遍性をどう理解し、現代社会にどう働きかけていくのかを考える。前期課程では「米国とその覇権」へ視点を定め、現在から過去にわたって世界をリードした大国を「文化」という観点から捉えなおしたい。後期課程では「日本モデルの成功と破綻」をテーマに、近代以降の日本という国家の足跡をそのシステムと文化からたどり、二十一世紀秩序へ向かう現在の試練を見つめたい。

テキスト

特に指定せず、各回の授業で参考データ、文献コピー、新聞雑誌の論説などを資料として提供する。ビデオなど映像資料も利用する。

参考文献

前期　トーマス・フリードマン『レクサスとオリーブの木』上・下（草思社）
佐伯啓思『「アメリカニズム」の終焉』（TBS ブリタニカ）

後期　ロナルド・P・ドーア『イギリスの工場・日本の工場』（ちくま学芸文庫）
夏目漱石の小説（『三四郎』『それから』『明暗』など）
松原隆一郎『消費資本主義の行方』（ちくま新書）

評価方法

（前期・後期とも）それぞれの期末の定時試験（小論文）の成績をもとに、平時の授業で時々課すレポートの実績を勘案して判定する。

受講者への要望

この授業で扱う「文化」は必ずしも芸術や表現だけではなく、われわれの社会のシステム、価値観、行動様式、商品やサービスなどを含めたものを指します。従ってメディアなどを通じて内外のニュースに幅広く意欲を持って接することを求めます。

前期授業計画

1：序論（文明と文化と）
2：米国と冷戦後の世界①民主化
3：米国と冷戦後の世界②金融と経済
4：米国と冷戦後の世界③情報支配と世界秩序
5：アメリカ文化①フォーディズム
6：アメリカ文化②大量消費とマクドナルド
7：アメリカ文化③ディズニーと大衆文化
8：日米関係①占領と日本人
9：日米関係②摩擦とバッシング
10：日米関係③ベトナム、湾岸、テロ戦争
11：制度比較と文化①（信頼・社会的紐帯・安全）
12：制度比較と文化②（自由・機会平等・豊かさ）
13：結び「文明の衝突」を超えるもの

後期授業計画

1：序論
2：日本モデルの形成①官僚システムと科学技術
3：日本モデルの形成②産業育成とナショナリズム
4：日本モデルの形成③満州国と 1940 年体制
5：後発国家の飛躍①日本的経営
6：後発国家の飛躍②護送船団体制
7：後発国家の飛躍③ホンダとトヨタ
8：日本の文化表象①ウォークマンと SONY
9：日本の文化表象②安全神話の揺らぎ
10：日本の文化表象③ユニクロと消費社会
11：グローバル文化の中で①世界標準とカンバン方式
12：グローバル文化の中で②地球環境とモザイク化する社会
13：グローバル文化の中で③米、中国と日本－その葛藤と融合

01 **科目名**	**文化人類学**
98 **科目名**	**文化人類学**
97 **科目名**	
担当者	**井　上　兼　行**

講義の目標

文化人類学は、文明社会から最も遠い位置にあり、現在急速に消滅しつつある未開社会の文化を、異文化として理解し、同時にそれを通してわれわれの文化についても理解を深めようとする学問である。形成の歴史、方法、事例分析を通じてそのおおよそを知る。

講義概要

文化人類学形成の歴史を通して、未開社会に対するこの学問の態度を明らかにし、次いでその独特の研究方法を述べる。そのあと、いくつかの事例を通して異文化理解の仕方を示し、またそこからわれわれの文化をどのように考えることができるかを説明してゆく。

テキスト

なし。

参考文献

随時紹介する。

評価方法

定期試験期間中の試験によって評価する。

４年生諸君へ。当然ですが１～３年生と同じ規準で評価を出します。安易には考えないように。

年間授業計画

1. 序―どんな学問か。
2. 学問形成の歴史―（1）スペイン人のインディオ観①
3. 〃　―（2）〃　②
4. 〃　―（3）16C 後半～18C 後半の西欧人の未開人観
5. 〃　―（4）18C 後半～19C 後半の西欧人の未開人観
6. 19C 後半　文化人類学の誕生―（1）"文化"の概念①
7. 〃　―（2）〃　②
8. 〃　―（3）"進化"の概念
9. 19C 末～20C 初　現代の文化人類学へ
10. 研究方法としての"実地調査"―（1）
11. 〃　―（2）
12. これ以降は事例研究。テーマは未定。これまでの話の脈絡から決めてゆく。

01 科目名	心　理　学
98 科目名	心　理　学
97 科目名	心　理　学
担当者	増　田　直　衛

講義の目標

心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては，心理学というとＴＶや雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思い起こすと思います。もちろん，このような分野も心理学の一部ではありますが，それらはほんの一部分なのです。ここでは，心理学が自然科学の一分野として誕生してから，今日までどんな分野の学問と連携しつつ，自らの学問を築いてきたかを考えてみます。その中で心理学の対象，心理学の方法などを具体的に理解しながら，心理学とはどんな学問かを考えます。

講義概要

最初に心理学とはどんな学問か，心とはなんだろうか，心理学の誕生，心理学の分野，心理学の方法，個体と環境との関係，などについて考察します。次に，感覚・知覚心理学を中心に，主として人間の認識機構について講義をします。その次に，行動・学習心理学を中心に，人間以外の動物も含めた行動の発達，変容について講義を，さらに，小集団の社会心理学の問題にも触れていく。ＯＨＰ，ＶＴＲなどＡＶ資料を使って具体的に理解できるようにこころがけます。

テキスト

特に指定しません。

参考文献

宇津木　保ほか著「心理学のあゆみ」（有斐閣新書）

野口　薫ほか著「心理学入門」（有斐閣新書）

この２冊は心理学の扱う領域と歴史を概観するのに便利です。

講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。

評価方法

前期：定期テスト

後期：定期テスト

２回の定期テストと随時行う出席調査をかねる小レポートなどにより総合的に評価します。

受講者への要望

岸田　秀「ものぐさ精神分析」（中公文庫）や橋本治「帰ってきた桃尻娘」（講談社文庫）に劇画化されている大学で講義されている心理学の記述にはあらかじめ目を通しておくことをお勧めいたします。

前期授業計画

1.ガイダンス　心理学とはなんだろう
2.心理学の過去と現在
3.科学としての心理学のあり方
4.心理学の方法とその実例(1)
5. (2)
6. (3)
7.個体と環境　心理学のもののとらえ方
8.環境の認知(1)物理的世界と心理学的環境
9. (2)感覚の世界
10. (3)主観のものさし
11. (4)まとまり
12. (5)ゲシュタルト知覚

後期授業計画

1.行動とその変容(1)環境への適応様式
2. (2)生得的な行動
3. (3)レスポンデント条件付け
4. (4)オペラント条件付け
5. (5)行動分析学とその応用例
6. (6)問題解決
7. (7)推理・記号行動
8.社会の中での行動(1)認知
9. (2)態度
10. (3)状況の中で
11. (4)社会的現実の構築
12.もう一度，心理学ってなに？

01 **科目名**	**歴史学（日本史）**
98 **科目名**	**歴史学（日本史）**
97 **科目名**	**歴史学（日本史）**
担当者	**新　井　孝　重**

講義の目標

身近な地域の歴史を学習し理解する。

講義概要

源頼朝が鎌倉に幕府を開いて以来、関東は武家の勢力基盤として重要な位置を歴史上占めた。幕府草創期から戦国時代に至るまでの東国史を学ぶ。

テキスト

なし。随時プリント配布。

参考文献

『埼玉県史』通史編

『草加市史』通史編上

評価方法

[前期]　なし

[後期]　試験

受講者への要望

私語、飲食厳禁。

年間授業計画

1. 源頼朝の平氏討滅
   （結集する武蔵武士、西へ向う）
2. 鎌倉幕府の政治権力
   （あいつぐ内部抗争、承久の乱勃発）
3. ある中世武士の存在形態
   （遠江国住人内田氏のこと）
4. （内田家吉の系譜、武蔵に移った内田氏）
5. 北条得宗体制と武蔵武士
   （三浦氏滅亡、蒙古襲来、九州へ向う武士）
6. （戦時体制と得宗の専制化）
7. （武蔵武士団の政治的後退）
8. 武蔵国の社会状態
   （流域低湿地の人々の暮らし）
9. （古利根川流域の荘園、堤を設けた村）
10. 在地武士の暮らし
    （惣領制の解体）
11. （悪党の時代、草加地域の様子）
12. 東武蔵武士の九州移住
    （九州と東武蔵を往復する百姓）
13. 鎌倉幕府の滅亡
    （鎌倉を改める武蔵の武士）
14. 内乱期の関東諸国
    （東武蔵、常総方面の戦乱）
15. （破綻する建武政権、東国からの反逆）
16. （北畠親房、常陸国へ入る）
17. （観応擾乱、尊氏、武蔵野を駆る）
18. 内乱期の武士の生活
    （下河辺氏の悩み）
19. （戦乱は採算がとれない）
20. （領主が合戦に出かけると）
    （馬を射る合戦）
21. 室町・戦国時代
    （鎌倉府体制と武蔵国）
22. （公方と管領の対立)
23. （小田原北条氏の武蔵支配）
24. （武蔵野の戦国争乱）
    （小田原北条氏の滅亡）

01 科目名	歴　史　学（日本史）
98 科目名	歴　史　学（日本史）
97 科目名	歴　史　学（日本史）
担当者	新　宮　譲　治

講義の目標

主として明治維新（幕末を含む）期より明治末年までの日本社会近代化の変遷を、下記「講義概要」に示した時期に画し、近代天皇制確立過程の問題として追う。

そのことを通じ、第二次世界大戦終了までの近代日本社会の特質とともに、「グローバル化」がいわれる現代日本の諸問題を見通すことのできる糧の一端も、学生諸君に学んでもらいたいと意図している。

講義概要

①幕末・明治維新期
②西南戦争期
③自由民権から帝国憲法体制期
④日清戦争期
⑤日露戦争期
⑥戦前の日本
⑦戦後の日本

テキスト

『日本史概説講義案』（1）（2）。

参考文献

齊藤博『民衆史の構造』新評論。
新宮譲治『戦争碑を読む』光陽出版社。
『普及版・日本史大系』山川出版社（第 11 巻「幕藩体制の展開と動揺〔下〕」以後）
その他適宜配布、または指定する。

評価方法

前期：論述形式でのペーパーテストによる。
後期：前期に同様。

受講者への要望

まじめな受講と真摯な思考。

年間授業計画

1. 諸史料に出る幕末本百姓体制崩壊の実態→日本における初期資本本源的蓄積期の問題として。
2. 諸史料に表れる明治維新前後の民衆像。
3. 西南戦争と戦後にみられる政府の対応（軍人勅諭を中心に）。
4. 自由民権運動（秩父事件、武相自由民権運動を中心に）。
5. 文明開化と福沢諭吉の思想（『時事新報』を中心に）。
6. 自由民権各派の国権主義への傾斜。
7. 大日本帝国憲法（明治憲法）・教育勅語。
8. 日清戦争と三国干渉。
9. 資本主義経済の発達。
10. 日英同盟・日露戦争。
11. 韓国併合。
12. 「日本資本主義発達史論争」を中心に、戦前日本資本主義の特質について検討。

01 科目名	歴　史　学（東洋史）
98 科目名	歴　史　学（東洋史）
97 科目名	歴　史　学（東洋史）
担当者	熊　谷　哲　也

講義の目標

西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。

講義概要

前半は 7 世紀における預言者ムハンマドの出現から 16 世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教の拡大によって広大なイスラーム世界が形成されるまでの様相を理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。

後半はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する、今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係について、関心と理解が深められるよう留意したい。

テキスト

とくにさだめない。

参考文献

夏休みあけに読書レポートを提出していただくが、そのためにイスラームに関する新書程度の本を用意してもらう。詳しくは授業で指示する。

評価方法

試験とレポート。発想のオリジナリティを重視する。

年間授業計画

1. イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。
2. イスラーム教の誕生以前の世界について考える。ユダヤ教やキリスト教に関する知識が必要である。
3. 預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、その時代背景について考える。彼の教えと、それがアラビア半島内に広まる経過を理解する。
4. 最初の４人のカリフ（正統カリフ）の時代について考える。第一次内乱、シーア派の出現を理解する。
5. ウマイヤ朝の歴史について考える。これがヴェルハウゼンの古典理論において「アラブ帝国」と定義される意味を検討する。
6. アッバース朝の歴史について考える。その成立が、古典理論において「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行と定義される意味を検討する。
7. イスラーム教の聖典であるコーラン（クルアーン）、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって成立・発達した初期思想と学問について学ぶ。
8. アッバース朝時代から発達したアラビア科学とその内容について、また、中世イスラーム社会において民衆教化の役割をはたしたイスラーム神秘主義について考察する。
9. アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開について概観する。
10. エジプトのマムルーク朝について学ぶ。とくにイクター制と呼ばれる制度が西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。
11. ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代、これらが作り上げたヨーロッパの人々の歴史観について検討する。
12. 同　その２
13. オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。また、カピチュレーションの問題をとりあげる。
14. 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述し、アジアにおける近代化の枠組みをひとまず一般論として把握する。
15. 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容を考察する。欧化主義や原理主義（復興主義）の基本的メカニズムを理解する。
16. さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・ズーフィズムなどの問題について考える。
17. エジプトの近代化とその過程について考える。
18. トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。
19. 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて、いくつかの問題をとりあげて考察する。
20. 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会に固有な事項をとりあげ、近代化との関係について検討する。

21. 近・現代のアラブ世界の文化について考える。
22. 今世紀のイスラーム世界について考える。イスラーム諸国における民族主義とそのゆくえ、マイノリティーの問題をとりあげる。
23. 現在のアラブ諸国のかかえる問題を検討する。ポスト冷戦時代におけるイスラーム諸国と欧米諸国との関係を考える。
24. （予備）　まとめをおこなう

01 科目名	歴史学（西洋史）
98 科目名	歴史学（西洋史）
97 科目名	歴史学（西洋史）
担当者	御　園　生　　眞

講義の目標

近代以降のヨーロッパの歴史を、社会経済の歴史に視点をおいて講義する。学部で専門科目を学習するときに基礎として役立つことを目標とする。

講義概要

前期の中心テーマは、近代ヨーロッパにおける社会経済の基本的なシステムの成立過程である。

後期は、現代社会経済の起源であるイギリス産業革命と、19 世紀以降の社会経済的変化とその問題点を中心に講義する。

参考文献

大下尚一・西川正雄・服部春彦・望田幸男編『西洋の歴史〈増補版〉』〔近現代編〕ミネルヴァ書房、1998年。

その他の参考書・参考文献については、最初の講義で紹介する。

評価方法

[前期]　出席と試験で評価する。比率はそれぞれ 50%。
　　出席が 50%以下の場合は単位が認定されない。

[後期]　前期と同じ。

受講者への要望

講義中のマナーを守ること。

講義内容や評価方法は、変更される場合がある。

年間授業計画

1. 序論（ガイダンスを含む）
2. Ⅰ　大航海時代
3. （続）
4. （続）
5. Ⅱ　絶対王政
6. （続）
7. （続）
8. Ⅲ　市民革命
9. （続）
10. （続）
11. （続）
12. 前期のまとめ
13. Ⅳ　イギリス産業革命
14. （続）
15. （続）
16. （続）
17. Ⅴ　ナショナリズムと国民国家の形成
18. （続）
19. （続）
20. （続）
21. Ⅵ　19 世紀後半のヨーロッパ
22. （続）
23. （続）
24. （続）

01 **科目名**	**哲　　学**
98 **科目名**	**哲　　学**
97 **科目名**	**思想（哲学）**
担当者	**谷　口　郁　夫**

講義の目標

まず、「哲学」とは何かということから始めます。哲学が他の学問と違うのはここです。哲学とは何かと問うことがすでにして哲学なのです。しかも、客観的に問うと同時に、主体的に問うこと、自己自身にかかわる問題として問うことが要請されます。それを通じて、人間、自己、歴史、理性、などについて、考えてゆくことにします。

講義概要

いくつかのテーマを取り上げ、それに関連する哲学書を読んでいきます。哲学書を読んだことのある学生はほとんどいないでしょうから、できるだけ易しいもの取り上げ、できるだけ易しく解説していきたいと考えています。講義で使った資料の元となった資料も用意してありますので、利用していただきたいと思います。

テキスト

すべてこちらで用意しますが、インターネット上のファイルをダウンロードしていただく場合があります。

参考文献

プラトン「ソクラテスの弁明」「クリトン」「饗宴」、デカルト「方法序説」、パスカル「パンセ」、ヘーゲル「歴史哲学講義」など。PDF ファイルを利用できるように準備していますが、詳細は講義のなかで話します。

評価方法

前後期、各 1 回レポートを課します。また毎回、出席を採りますが、レポート重視です。なお、就職活動などで出席できなかった学生は、必ずメールで欠席届を提出してください。アドレスは最初の講義でお知らせします。

受講者への要望

インターネット、メールなどをきちんと利用できるようにしてください。質問は、特に重要な質問に関しては、メールを使ってください。なお、私が開設している HP は獨協大学の HP ではありません。HP のアドレスは最初の講義でお知らせします。私語は厳禁です

年間授業計画

1. 古代ギリシャの哲学者を紹介しながら、哲学という学問において、何が、どういうふうに問われるのか、などについて考えます。
2. ソクラテス以前の哲学者の断片。
3. プラトン「ソクラテスの弁明」&「クリトン」
4. 前回のつづき。
5. プラトン「饗宴」など。エロスについて。
6. プラトン「パイドン」など。死について。
7. イギリス経験論の祖フランス・ベーコンの「ノヴム・オルガヌム」を取り上げます。特に、イドラについて。
8. 大陸合理主義の祖デカルトの「方法序説」を取り上げます。特に、方法的懐疑について。
9. デカルト「方法序説」2
10. デカルト「方法序説」3
11. パスカル「パンセ」。パスカルにおける人間観について。
12. 前回のつづき。
13. 後期は特に人間性と歴史を中心に考えていきます。カントにおける理性概念について。「道徳形而上学原論」の一部を取り上げます。
14. カントの「人間愛からなら嘘をついてもよいという誤った権利に関して」を取り上げます。
15. 三回にわたって、歴史哲学の問題を取り上げます。ヘーゲル「歴史哲学講義」
16. フォイエルバッハ「キリスト教の本質」
17. マルクス「共産党宣言」
18. 楽観的哲学と悲観的哲学を取り上げます。ショーペンハウアーの思想を紹介します。
19. ニーチェ「善悪の彼岸」の一部を取り上げます。
20. サルトル「実存主義とは何か」を取り上げます。
21. 前回のつづき。
22. 前回のつづき。
23. 予備（イスラエル・アウシュビッツなどのスライド）
24. 予備（イスラエル・アウシュビッツなどのスライド）

01 **科目名**	**哲　　学**
98 **科目名**	**哲　　学**
97 **科目名**	**思想（哲学）**
担当者	**松　丸　壽　雄**

講義の目標

諸文化の担い手としての人間存在は存在するかぎり、根源的なレベルから実際的レベルまで様々な問題と遭遇し、これと対決せざるを得ない、その場合に、どのような立場から、どのような方法でこれらの問題に対処するかを、様々な角度から考えることができる基礎力を養うことを目標とする。

講義概要

実地に現代の諸問題の根元を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。

テキスト

なし。

参考文献

講義中に適宜指示。

評価方法

最低年２回のレポートとディスカッションへの積極的貢献度により評価。

受講者への要望

自分で考えようと努力し、ディスカッションに積極的に参加するつもりのある人。ディスカッションという性質上、受講者多数の場合には人数制限もあり得る。授業内容については変更もありうる。

年間授業計画

1. 講義の概要説明。
2. 愛とは何かについての考察。ビデオ鑑賞。
3. 愛についての様々な思想（1）
4. 愛についての様々な思想（2）
5. 愛についての様々な思想（3）
6. グループ分けと小グループによるディスカッション時の諸注意。
7. ディスカッション（小グループ）。
8. ディスカッション（全体でのグループ意見の発表と討議）。
9. 差別についての考察。
10. 障害者と差別。ビデオ鑑賞。
11. ディスカッション（小グループ）。
12. ディスカッション（全体でのグループ意見の発表と討議）。
13. 生と死についての考察。
14. 生と死についての様々な思想（1）宗教と哲学
15. 生と死についての様々な思想（2）
16. ディスカッション（小グループ）
17. ディスカッション（全体でのグループ意見の発表と討議）。
18. 脳死と倫理。
19. 生命倫理について。
20. ビデオ鑑賞。
21. ディスカッション（小グループ）。
22. ディスカッション（全体でのグループ意見の発表と討議）。
23. 年間を振り返ってのディスカッション（小グループ）。
24. 年間を振り返ってのディスカッション（全体でのグループ意見の発表と討議）。

01 **科目名**	**文学（日本文学）**
98 **科目名**	**文学（日本文学）**
97 **科目名**	**文学（日本文学）**
担当者	**飯　島　一　彦**

講義の目標

中世から近世にかけて爆発的に産み出された『お伽草子』群は、日本文学史上においては初の庶民文藝のジャンルを築いたと言ってよいが、庶民文藝であるからこそ、実は長きにわたる日本の文化伝統の底流をそのままに体現していて重要である。その中でも特に親しまれ、昔話としても流布し、日本人学生諸君も小さい頃から知っているはずである「浦島太郎」と「一寸法師」をとりあげて、単なるお伽話としか思っていないものが、どれほど深くて長い文化伝統にのっとっているか、また、現代日本の価値観が、実はどれだけ伝統的なのかを、明らかにしていく。

講義概要

前期は「浦島太郎」、後期は「一寸法師」をとりあげる。どちらの話も記紀万葉から明治時代の国定教科書を経て、現代に至るまでの長い伝承（口承・書承）の歴史を持っているが、歴史的な変容を明らかにすると共に、変わらない点はどこなのかも明らかにしていく。そのために、江戸時代の擬古文（渋川清右衛門版『御伽文庫』）の講読・解釈を毎時間することになるが、一字一句の表現の底に潜む日本の庶民の伝統的価値観を明らかにしながら進むので、進度は速くはない。

テキスト

その都度教室で配布する。

参考文献

その都度教室で指示する。

評価方法

レポートの成績による。

受講者への要望

長大なレポートを課するので、様々な文献を読み、考える覚悟が必要である。

年間授業計画

1. 「お伽草子」とは何か?
2. 「浦島太郎」を読む①
3. 「浦島太郎」を読む②
4. 「浦島太郎」を読む③
5. 「浦島太郎」を読む④
6. 「浦島太郎」を読む⑤
7. 「浦島太郎」を読む⑥
8. 「浦島太郎」を読む⑦
9. 「浦島太郎」を読む⑧
10. 記紀万葉から現代の昔話の「浦島太郎」まで
11. まとめ：日本人の異郷意識：異人、幸福、時間
12. 予備日
13. 「一寸法師」を読む①
14. 「一寸法師」を読む②
15. 「一寸法師」を読む③
16. 「一寸法師」を読む④
17. 「一寸法師」を読む⑤
18. 「一寸法師」を読む⑥
19. 「一寸法師」を読む⑦
20. 「一寸法師」を読む⑧
21. 記紀万葉から現代の昔話の「一寸法師」まで
22. まとめ①：日本人の侏儒観、異人と差別意識。
23. まとめ②：日本人の世界認識、「異常」ということ、能力・容姿に対する畏れと憧れ。
24. 予備日

01 **科目名**	**文学（日本文学）**
98 **科目名**	**文学（日本文学）**
97 **科目名**	**文学（日本文学）**
担当者	**肥田野　昌　之**

講義の目標

日本の代表的な古典である『万葉集』を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的事件などについて解説し、教養として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。

講義概要

前期は主として、初期万葉の歴史的事件を背景として、有間皇子や大津皇子の悲劇・額田王や但馬皇女の恋などについて、その歌とのかかわりで物語風に概説するとともに代表歌人たる柿本人麿や山部赤人についても考察する。後期は主として、伝説・説話の歌から東歌・防人歌の問題および山上憶良・大伴家持などの有力歌人についても広く検討してみたい。

テキスト

毎時間プリント配布

参考文献

斎藤茂吉『万葉秀歌』上・下（岩波新書）

評価方法

前・後期試験よって決定する。受講者数によって多少の変更がある。

年間授業計画

1. 巻一国歌大鑑 1 番・雄略天皇の歌について考える。
2. 中大兄の三山歌について、いろいろな角度から考察する。
3. 額田王とその歌についての説明と鑑賞。
4. 柿本人麻呂とその長歌を中心によむ。
5. 大津皇子・大伯皇女について、謀反事件を考察しながら、それらの歌をよむ。
6. 穂積皇子と但馬皇女との悲恋と歌物語について。
7. 有間皇子の謀反と歌について、『日本書紀』を参考にして考える。
8. 再び柿本人麻呂の短歌とその終焉について考える。
9. 前期のまとめとして、プリント二枚を配って前期試験の傾向と対策について説明する。
10. 石川郎女歌物語。
11. 坂上郎女歌物語。
12. 山部赤人「不尽山を望くる歌」を中心によむ。
13. 大宰帥大伴旅人「酒を讃むる歌」を中心にしてよむ。
14. 真間娘子の歌――赤人と虫麻呂――
15. 山上憶良とその歌――貧窮問答歌を中心にして―
16. 万葉集の歌体について、特に旋頭歌を中心にしての歌と説明。
17. 高橋虫麻呂の伝説歌について――浦島子・菟原処女など――
18. 寄物陳思・正述心緒――巻十一の歌を読む。
19. 万葉集の用字法――特に義訓・戯訓――
20. 東歌について説明と歌。
21. 中臣宅守と狭野弟上娘子の贈答を中心にして
22. 後期のまとめとして、プリント二枚を配り後期試験の傾向と対策について説明する。
23. 大伴家持とその歌について講読する。
24. 防人歌についての説明と歌。上代特殊仮名遣について

01 **科目名**	**文学（日本文学）**
98 **科目名**	**文学（日本文学）**
97 **科目名**	**文学（日本文学）**
担当者	**福　沢　　健**

講義の目標

日本文学史は、上代（奈良）・中古（平安）・中世（鎌倉・室町）・近世（江戸）・近代（明治～太平洋戦争まで）・現代（戦後）に区分されます。この講義では上代から現代までの代表的な作品を取り上げ、その作品の魅力と文学史的意義について話します。古典と現代文学を、一連の日本文学として読んでいくことを目標とします。

講義概要

皆さんが日本文学に触れる機会は、高等学校の国語の時間以外にほとんどなかったのではないでしょうか。ところが、残念なことに高等学校の国語の評価はよくありません。古文はつまらなくて古くさいし、現代文も何のためにあるのか分からないなどと毛嫌いされています。しかし、日本文学を国語教材ではなく、文学作品として読みなおしてみると、それぞれの作品の魅力をあらためて見出せると思います。講義の形態は、１時間に１作品を取り上げ、その抜粋を読むというかたちとなります。

テキスト

特に定めません。必要に応じてプリントを用意します。

参考文献

その都度教室で指示します。

評価方法

期末テスト

受講者への要望

いわゆる古文解釈の技術は必要ありません。日本文学に対する興味を有する学生の受講を希望します。

年間授業計画

1. はじめに
2. 神としての天皇【古事記】　壬申の乱に勝利した大海人皇子は絶対的な権力をもつ天皇となり、神々の物語編纂を命じる。
3. 古代都市の文学【万葉集】　持統天皇は、天人感応説に基づいて藤原京の中心で四季の運行を司る歌をうたう。
4. 武人の末裔【万葉集】　大王親衛隊の末裔大伴家持は、仏の都平城京に絶望し、隠遁の意志を表明する春愁三首をうたう。
5. 流浪する魂【伊勢物語】　平城天皇の末裔たる在原業平の反藤原の戦いと敗北を語る物語は、敗者の鎮魂を目的として作られた。
6. 仮構された秩序【古今和歌集】　醍醐天皇は、菅原道真の怨霊を恐れ、美しい秩序の世界を織りなす勅撰和歌集の編纂を命じる。
7. 幸福の記憶【枕草子】　清少納言は、悲運の中宮定子鎮魂のために、定子を中心として四季が運行するた幸福の宇宙を描く。
8. 地上世界の天女【源氏物語】　桐壺帝と桐壺更衣の別れの悲劇物語は、女人成仏の道を開く方便として描かれた。
9. 苦悩の王権【源氏物語】　地上の栄光を極めた光源氏が作った風流の王権の象徴である六条院は、男女の情欲によって崩壊する。
10. 衰弱する天皇【讃岐典侍日記・今昔物語集】　病に衰弱する天皇の姿や百鬼夜行の跋扈は、古代都市平安京の終焉を象徴する。
11. この世の終わり【方丈記】　陰陽師の末裔鴨長明は、1052 年から始まった末法の世を象徴する平安京の崩壊を描く。
12. 乱世と芸術至上主義【新古今和歌集】　西行法師・藤原定家は共に京を捨て、旅と伝統美の世界にそれぞれ安息の地を見出す。
13. 華麗なる滅亡【平家物語】　天台座主慈円は、平家の武士たちの華麗な死に様を語らせることによって、怨霊から京を守ろうとする。
14. 無常の美【徒然草】　兼好は無常を突き詰めて考えることによって、全てのこだわりを捨て、無常の美を楽しむ態度に至る。
15. 花の御所と花の芸能【井筒】　花の御所の日本国王足利義満は、世阿弥の夢幻能を用いて日本を地霊を再統合しようとする。
16. 欲望の肯定【好色一代男】　商業の都大阪の繁栄を背景として、井原西鶴は現世の欲望（女・金）を肯定・享受する浮世草子を描く。
17. 風雅への旅立ち【奥の細道】　松尾芭蕉は、諸国の歌枕をたどることによって、パロディとしての俳諧を新しい雅として再生する。
18. 義理と人情の相克【曽根崎心中】　元禄末期の経済的混乱の下、近松門左衛門は現世の欲望に引き裂かれる男女の悲劇を描く。
19. ロマンスとノベル【南総里美八犬伝】　曲亭馬琴の勧善懲悪主義に対して、坪内逍遥は写実主

義の立場から人物描写の方法を批判する。

20. 近代日本人の苦悩【こころ】　夏目漱石は、近代国家に生きる知識人の苦悩を主題として、近代日本を支える道徳を探る。
21. 生きていることの証し【無常という事】　小林秀雄は、近代都市における個人の尊厳を守るために、唯物史観に反撃する。
22. 二人のノーベル賞作家【美しい日本の私・あいまいな日本の私】　川端康成は日本の伝統文化に対する憧憬を語り、大江健三郎は周縁にこだわって日本文化を相対化する。
23. サブカルチャーの台頭と文学の終焉【希望の国エクゾダス】　村上龍の描いた中学生の「希望の国」は、トータルカルチャーとしての文学をいう「大きな物語」が失われたことを表わす。
24. おわりに

01 科目名	文学（世界文学）
98 科目名	文学（世界文学）
97 科目名	文学（世界文学）
担当者	北　澤　滋　久

講義の目標

文学を味わうことの愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。

講義概要

―英米の文学に観る人間像―

英米文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1 講義、1 作家、1 作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていれば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもりの科目ではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来愉しいもののはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会えて、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、今年も肩のこらない楽しい授業にしたく思います。

興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。

テキスト

テキストは特に定めません。簡単なハンドアウトを適宜配布します。

参考文献

参考文献は、2 回目の授業時間に一覧表にして配布します。

評価方法

前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで（翻訳可）、その感想文（小論文）を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。

受講者への要望

毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年 25%以上の不合格者が出ています。

年間授業計画

1. 登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2. 開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学

Ⅰ　現代文明下のアメリカの少年たち

3.『ハックルベリィの冒険』：イノセントな魂

THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN　by Mark Twain

4.『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って

BLACK BOY　by Richard Wright

5.『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩

THE CATCHER IN THE RYE　by J. D. Salinger

Ⅱ　19 世紀、イギリスの娘たち

6.『テス』：汚された？純潔

TESS OF THE D'URBERVILLES　by Thomas Hardy

7.『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きかたを求めて

THE MILL ON THE FLOSS　by George Eliot

8.『ジェーン・エア』：自立する女性

JANE EYRE　by Charlotte Brontë

Ⅲ　19 世紀、英米文学の驚異

9.『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス

WUTHERING HEIGHTS　by Emily Brontë

10.『白鯨』：近代的英雄の悲劇

MOBY－DICK　by Herman Melville

Ⅳ　英雄不在の 20 世紀の英雄たち

11.『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇

LORD JIM　by Joseph Conrad

12.『老人と海』：一老漁師にみる英雄的姿

THE OLD MAN AND THE SEA　by Ernest Hemingway

Ⅴ　海洋（冒険）小説の諸相

13.『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人

THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE by Daniel Defoe

14.『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶

GULIVER'S TRAVELLS　by Jonathan Swift

Ⅵ　近代芸術観の極致

15.『月と六ペンス』：芸術家の狂気

THE MOON AND SIXPENCE　by William Somerset Maugham

16.『アッシャー館の崩壊』他：至上の美を求めて

THE FALL OF THE HOUSE OF USHER　by Edgar Allan Poe

17.『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って

THE PICTURE OF DORIAN GRAY　by Oscar Wilde

Ⅶ　父なるもの、母なるものの原像

18.『ハムレット』：青年の母への愛憎

HAMLET　by William Shakespeare

19.『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆

SONS AND LOVERS　by D. H. Lawrence

20.『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて

A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN　by James Joyce

Ⅷ　倫理と欲望の峡間

21.『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想

THE TURN OF THE SCREW　by Henry James

22.『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて

THE HEART OF THE MATTER　by Graham Greene

23.『緋文字』：姦通と復讐の贖い

THE SCARLET LETTER　by Nathaniel Hawthorne

24. 閉講の辞：芸術と人生、そして質疑・応答

01 **科目名**	**国　　語**
98 **科目名**	**国　　語**
97 **科目名**	**国　　語**
担当者	**飯　島　一　彦**

講義の目標

言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」「考える」などの分野があるが、その中でも、現在の日本の国語の教育課程ではほとんど省みられることのない、日本語を「話す」「聞く」ことを中心に、「考える」にまで至る、表現の基礎的なトレーニングを行う。表現手段を獲得できなければ、充分な表現はなしえず、従って他者とのコミュニケーションを完成させることも期待できない。この授業は、日本語によるコミュニケーションを、口頭表現を中心に、より完全に近づけることが目標であり、そのためのトレーニングを積み重ね、高度な技術を身につけるための基礎を養成する。

講義概要

基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実践、つまり学生諸君一人一人が取り組む、毎時間の実際のトレーニングが主体となる。毎週出される課題に一週間とりくんで、次の週の授業時にその結果をもとに実践する、といった形式が基本となる。従って、トレーニングは課題を前提としてなされるから、課題にとりくまなかったものは受講しても無意味である。

テキスト

特になし

参考文献

特になし

評価方法

毎回のトレーニングに対するとりくみの姿勢の深さ、その成果、夏期・冬期休業中に課するレポート他の課題の提出、後期最後に行われる発表の成果、等々平常点の成績が中心となる。

受講者への要望

膨大な課題が出されるので、覚悟して受講すること。欠席すると表現のトレーニングの連続性が損なわれるので、欠席しないこと。

年間授業計画

1. 授業ガイダンス。
2. 講義：国語とは、表現とは、コミュニケーションのサイクル。
3. 諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
4.
5.
6.
7.
8.
9. 諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
10.
11.
12. 夏休み課題ガイダンス。
13. 夏休み課題提出。後期ガイダンス。
14. 諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム
15.
16.
17.
18.
19.
20.
21.
22.
23.
24. 冬休み課題提出。年間のまとめ。

01 **科目名**	**国　　語**
98 **科目名**	**国　　語**
97 **科目名**	**国　　語**
担当者	**小　島　幸　枝**

講義の目標

過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語りかけられるのはことばの力である。しかしことばは、ただ通じればよいというものでもない。人の心をうつ美しいことば、的確な表現、それは確かに才能にもよるがたゆまぬ努力と訓練によってある程度習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を培うために、社会の変化に関心をもち情報の収集および判断力を養うこと、実用文を短時間で書きあげる練習、敬語の使い方の修得、手紙の書き方など、国語の運用面について講述する。

講義概要

前期は音声言語表現を中心とし、一分間スピーチの演習、朗読、敬語の使い方など、後期は文字言語表現を中心とし、実用文の実作、相互の添削、手紙のかき方などを学ぶ。評価は平常点をもってする。すなわち課題として社説の要約、800 字の作文、読書報告文を提出する。

テキスト

岡田啓助他『国語表現法』（おうふう）

参考文献

・都度、紹介する。

評価方法

提出物による平均点、および出席点。

受講者への要望

授業中に作業することがありますので、無断で 2 週連続して欠席した場合は受講資格がなくなると思ってください。

年間授業計画

1. 表現者（送り手）と理解者（受け手）のことばにおけるメカニズムを概説
2. 音声言語について、文字言語との差異および特徴の認識
3. 日本語の基礎知識－日本語の音韻
4. 日本語の基礎知識－アクセントの特徴
5. 美しい言葉の条件－正確さと品位をどのように獲得するか
6. スピーチ（演習）－互いのスピーチをきいて評価、および自己評価をする
7. 反省とまとめ（ディベートの予告）
8. ディベート（ビデオ鑑賞）
9. 反省とまとめ
10. 敬語について－日本語の敬語の特徴と歴史（上代 ～ 中世）
11. 敬語について－日本語の敬語の特徴と歴史（中世末 ～ 現代）
12. 漢字テスト
13. 文と文章
14. 文の構造
15. 文章の構造
16. 文章の種類
17. 文字言語－文章を書く手順、材料の収集法
18. 主題と題材
19. 材料を集める－説明文、報告文を書く
20. 材料を並べる－アウトラインを作る（効率よく文章を書くために）
21. 文献、資料を用いて文章を補強する
22. 交換、批評しあう
23. 推敲のポイントを学ぶ－まとめ
24. （予備）

備考

前期は実作を習慣づけるために、宿題形式で①社説要約（週 1 作）②読書報告（月 1 本）③作文（週 1 作）を課すが、後期は実作の習慣をつけるために作文は授業中に完成させる。従って③の課題はない。

01 **科目名**	**国　　語**
98 **科目名**	**国　　語**
97 **科目名**	**国　　語**
担当者	**千　本　健一郎**

講義の目標

外国語修得の重要性を説く声が強い。だがあなたは、日本語表現について自信あり、と言い切れるだろうか。もしも言い切れないとしたら、まず母語表現を自由自在なものにしなければなるまい。

ここでは、その第一歩として、日本語の＜書く力＞を鍛える。実地訓練を通じて、書くのが「得意」を自認する人には文章を書くことの手ごわさを、苦手意識をもつ人には一定の手順を踏めばだれしもきちんと書けるのだ、ということを知ってもらう。それはまた、外国語修得のより豊かな基盤にもなるはずである。

講義概要

よく書こうとする者は、よく読まなければならない。第一、他人の書いたものに興味や関心をもてない人が、なぜ自分の書いたものなら他人が目光らせてくれるなどと思えるのだろう。というわけで、「浴びるほど、ひっくり返るほど本を読もう」を、この場の合言葉にしたい。

授業では読むべき本を講読、あるいは提示しつつ、自分の考えを過不足なく他者に伝えるための文章の書き方を追究する。履修者には宿題その他の形で、実践的な訓練を課することになる。人間同士の生き方のいい、理にかなった言語表現をめざす。

具体的な授業の運営方法は履修者数の多寡によって変動する。

テキスト

随時、提示する。

参考文献

千本健一郎『「書く力」をつける本』（三笠書房）

千本健一郎『「いい文章」の書き方』（三笠書房）

評価方法

前期

夏休みに自由題のエッセーを課する（分量未定。休みあけに提出）。

後期

学年末にレポートを課する（題・分量未定）。最終講義日に提出。

その他、日常授業時の提出物を総合して評価する。

受講者への要望

日本語表現を意識的にとらえなおし、より正確に、より魅力的に駆使したいと希望する者は歓迎。より高度な言語能力は、自ら獲得しようとする意欲と持続力がなければ育たない。自主性、積極性が必要条件。

年間授業計画

1. ガイダンスおよび試験
2. 講義概要
3.
4.
5.
6.
7. 　実践的文章論とトレーニング
8.
9.
10.
11.
12. 前期のまとめ。夏休みエッセー提示
13. 夏休みエッセー提出
14.
15.
16.
17.
18. 　実践的文章論とトレーニング
19.
20.
21.
22.
23. 学年末レポート出題
24. 学年末レポート提出

01 **科目名**	**国　　語**
98 **科目名**	**国　　語**
97 **科目名**	**国　　語**
担当者	**肥田野　昌　之**

講義の目標

日本語への関心を深め、日本語による表現を豊かにしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識などの学習を通して、大学生としての教養も深めたいと思う。

講義概要

論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基礎的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。

また、文字の問題・仮名づかいなど日本語に関する知識や教養としての日本文学に関連する基本的知識についても言及したい。

テキスト

特に使用せず、その都度プリント配布。

評価方法

実作および年度末試験によって決定する。受講者数によって多少の変更がある。

年間授業計画

1. 国語表現についての意義と一年間の講義概要を説明する。
2. 現代社会における文章の機能についての考察とともに文章上達法についても考える。
3. 「文は人なり」について考えるとともに文章と文体についても言及する。
4. 文章表現のプロセスとして、文章の目的･主題の選定・主題の限定などについて説明する。
5. 文章表現のプロセスとして、材料の意義･材料の源泉などについて説明する。
6. 文章表現のプロセスとして、材料の順序と構成・アウトラインについて説明する。
7. 豊かな内容とは――物の見方や読書などについて考える。
8. 国語表記の問題――段落の分け方や送りがなどについても言及する。
9. 原稿用紙の使い方や校正などについても説明する。
10. 作文を書く（添削と採点）。
11. 作品を返還して、感想や注意事項を述べる。誤字の問題、常体・敬体の混在など。
12. 学生が黒板に出て、漢字かなつけ・漢字書き取りを行う。
13. 教養として能・狂言の入門――熊野・附子など―
14. 教養としての歌舞伎入門――勧進帳・与話情浮名横櫛など――
15. 文字について――特に「漢字御廃止之儀」から常用漢字までを概説する。
16. 仮名づかいについて――仮名づかいの歴史、特に歴史かなづかいと現代かなづかいに力点をおいて説明する。
17. 標準語と方言について説明し、女房詞や忌詞などについてもふれる。
18. 文章のさまざま――実用性の濃い文章と芸術性の濃い文章など――
19. 手紙の書き方――手紙の形式を中心にして説明する。
20. 課題作文を書く（添削と採点）
21. 作品を返還し、感想や注意事項を述べる。
22. まとめとしてプリントを二枚を配布し、年度末試験について傾向と対策を説明する。
23. 学生が黒板にでて、四字句の完成などを行う。
24. ことばと社会について――ことばの乱れや敬語法について考える。

01 **科目名**	**国　　語**
98 **科目名**	**国　　語**
97 **科目名**	**国　　語**
担当者	**福　沢　　健**

講義の目標

言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」の４技能がある。この４技能に関わるさまざまなタスクの実施を通して、日本語表現の基礎的なトレーニングを行う。表現手段を獲得できなければ、充分な表現をなし得ることはできず、したがって他者とのコミュニケーションを完成させることはできない。この授業は、日本語によるコミュニケーションの能力を総合的に向上させることを目標とする。

講義概要

基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実践、つまり学生諸君の実際のトレーニングが主体となる。具体的には、概説・練習問題を通して国語表現の基礎力を身につけたあと段階を追って小論文レポートなどを実際に書いてもらう。また、社会生活に不可欠な敬語の正しい使い方の練習、手紙文の書き方などについても触れる。

テキスト

特に定めない。プリントを使用する。

参考文献

授業時にその都度指示する。

評価方法

毎回の出席状況、授業の参加の度合い、課題の提出など平常点評価及び授業時の試験によって評価する。

受講者への要望

熱意を持って授業に参加してほしい。授業中の私語は、厳に慎んでもらいたい。

年間授業計画

1. はじめに
2. 語彙・熟語
3. 同義語・類義語・対義語
4. 同音異義語・同君異義語
5. 四字熟語
6. 用字法
7. 句読法
8. 文法１　主語と述語
9. 文法２　修飾語
10. 比喩表現
11. 文章展開の表現技法
12. 文章伝達の表現技法
13. 常体と敬体１
14. 常体と敬体２
15. 表現上の推敲１
16. 表現上の推敲２
17. 文章の構成
18. 段落の構成
19. レポートの作成１
20. レポートの作成２
21. レポートの作成３
22. レポートの作成４
23. 手紙文
24. まとめ

01 **科目名**	**地球環境論**
98 **科目名**	**地球環境論**
97 **科目名**	**自然科学概論**
担当者	**鈴　木　　滋**

講義の目標

人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題を地球科学・資源環境科学・一般科学技術の立場からその内容の把握を目的とする。また、この問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えていることの理解を深める。

講義概要

我々の環境は目まぐるしく変化している。それは自然科学も社会・人文科学も同様である。地球環境を自然科学的側面から捉え、環境におけるその位置づけや地球規模の問題として資源と環境がどのような因果関係にあるのか考察する。さらに、地球環境に生じる具体的現象、その問題の原因ならびに対策について資源論・環境論を交えて検討する。受講者が自然科学を専門としない学生であることを充分に考慮し、地球環境問題を取り巻く資源・環境・科学技術がなぜ重要な意味を持っているかも理解できるようにする。さらに、自然科学の持つ客観的な物の見方を養い、経済への一助とする。

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考文献

国内外ともに多数の文献がある。講義内容によって、適時指示する。なお、グローバルなものの見方を養うため、場合によっては、地球環境に関する諸問題について最近の英文記事を紹介し、内容を検討する。

評価方法

定期試験（2回）と平常点により総合評価する。

受講者への要望

できるだけ平易に内容を説明するので熱心な受講姿勢を期待する。また、講義の進度に連れて、地球環境を身近な問題と捉え、各自が自分なりの意見を持つことができるよう要望する。

前期授業計画

1. オリエンテーション：授業内容・受講姿勢等について説明。
2. 地球環境論は今なぜ必要か？
3. 地球環境の歴史。
4. 地球環境の構造等：地球という惑星について。
5. 地球環境と地球システム。
6. 地球環境と資源（Ⅰ）：資源の特性。
7. 地球環境と資源（Ⅱ）：エネルギー。
8. 地球環境と材料：地球材料学とは。
9. 地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？
10. 環境：地球環境と広域・地域環境との比較。
11. 地球環境問題概論。
12. 前期のまとめ。

後期授業計画

1. 後期の概要説明。
2. 地球環境問題各論（Ⅰ）。
3. 同上
4. 同上
5. 地球環境問題各論（Ⅱ）。
6. 同上
7. 地球環境問題各論（Ⅲ）。
8. 同上
9. 地球環境の保全：文化・経済・社会等の今後のあり方。
10. 地球環境論を通しての意見交換。
11. 地球環境論と科学論の関係について。
12. 総合的まとめ。

備考：授業の進度により若干の変更がある。

01 科目名	数学ａ・ｂ
98 科目名	数　　学
97 科目名	数　　学
担当者	遠　藤　　信

講義の目標

経済学は、多かれ少なかれ、数学的な学問である。或る程度の数学の知識がなければ、経済学を学ぶことは難しいと云っても過言ではない。また、経済学でよく使われる基本的な概念が、数学で扱われる問題の特殊な場合であることが多い。

この講義では、経済学を学ぼうとする学生にとって必要最小限と思われる基礎的な数学の知識と数学的な考え方を身につけ、学生が経済学をより深く理解できることを目標とする。扱う分野は、線形代数と微分である。

講義概要

前期では、行列と行列式を講義する。これらは、数学の基礎であるとともに、例えば線形計画法、産業連関分析のように、経済学部の学生が実社会に出て、応用することが多い分野である。

後期では、微分を講義する。これは、応用分野が広範であるとともに、経済学の発展の上で極めて重要性をもつものである。

定理の証明や公式を導くにあたっては、数学の厳密さよりも分かり易さを第 1 とし、数学的な考え方を中心に、複雑な計算をできるだけ避けるように心がける。

テキスト

特に定めない。必要に応じて、プリント使用。

参考文献

参考書の類いは枚挙にいとまがない位ある。授業の際に、適当と思われるものを示す。

評価方法

出席状況と授業中におこなう演習での平常点と、授業中におこなう何回かのまとめの小テストの成績を総合して成績評価をする。数学では、きちんと出席して、演習問題を解くことが非常に大切なので、欠席の多い者（全授業数の 3 分の 1 以上を欠席した者）は単位が取れない。

受講者への要望

第 1 回目の授業（b だけの者は後期の第 1 回目の授業）には必ず出席して、大切な注意事項をよく聞くこと。

前期授業計画

1. 行列の定義　行列の演算
2. 行列の演算
3. 行列の性質
4. 行列式の定義
5. 行列式の計算
6. 行列式の性質
7. 行列式の性質と行列式の計算
8. 余因子とその性質
9. 余因子とその性質
10. 余因子を用いて逆行列を求める方法
11. 連立 1 次方程式　Cramer の公式
12. 補充とまとめ

後期授業計画

1. 関数と関数の極限
2. 関数の極限　関数の連続
3. 微分係数と導関数の定義
4. 微分法の公式　関数の和、積、商の微分　いろいろな関数形の微分
5. 微分法の公式　関数の和、積、商の微分　いろいろな関数形の微分
6. 関数の極大・極小
7. 関数の極大・極小
8. 高次導関数　平均値の定理
9. 偏微分の定義　偏微分の計算
10. 偏微分の計算
11. 微分の社会科学への応用
12. 補充とまとめ

01 **科目名**	**地　理　学**
98 **科目名**	**地　理　学**
97 **科目名**	**地　理　学**
担当者	**秋　本　弘　章**

講義の目標

地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。

講義概要

まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、各地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。

テキスト

山本正三（他）著『自然環境と文化』大明堂

参考文献

久馬一剛著「食糧生産と環境」化学同人

渡部忠世著「農業を考える時代」農山漁村文化協会

Bayliss-Smith, T. P.; "The Ecology of Agricultural System." Cambridge Univ. Press

評価方法

[前期]出席等を考慮するが、基本的に定期試験による。

[後期]出席等を考慮するが、基本的に定期試験による。

受講者への要望

高校時代に用いた地図帳を持参すること。

年間授業計画

1. オリエンテーション
   地理学とは、どのような学問か
2. 自然と人間とのかかわり－環境論、風土論への招待－
3. 環境の諸要素（1）－地形環境－
4. 環境の諸要素（2）－気候環境－
5. 環境の諸要素（3）　植生と土壌、環境の諸類型
6. 熱帯地域（1）　自然的特色と伝統的農業
7. 熱帯地域（2）　熱帯アジアの稲作
8. 熱帯地域（3）　熱帯地域の開発
9. 砂漠地域（1）　自然的特色と伝統的経済活動、世界宗教の起源地と砂漠
10. 砂漠地域（2）　石油資源と近代化、砂漠の開発
11. 地中海森林地域（1）　西欧文化の原点
12. 地中海森林地域（2）　カリフォルニアの生活様式
13. 温帯草原地域（1）　自然環境と伝統的生活
14. 温帯草原地域（2）　世界の穀倉地帯
15. 温帯混合林地域（1）　東アジアと西ヨーロッパ
16. 温帯混合林地域（2）　経済の中心地としてのヨーロッパと北アメリカ
17. 亜寒帯森林地域、ツンドラ地域と氷雪地域
18. 山地地域
19. 世界の環境問題（1）　人口問題
20. 世界の環境問題（2）　食料問題
21. 世界の環境問題（3）　森林破壊
22. 世界の環境問題（4）　砂漠化
23. 世界の環境問題（5）　地球温暖化と異常気象
24. まとめ―私たちの暮らしと自然環境

01 **科目名**	**地　理　学**
98 **科目名**	**地　理　学**
97 **科目名**	**地　理　学**
担当者	**犬　井　　正**

講義の目標

地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。

講義概要

まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、各地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。

テキスト

山本正三（他）著『自然環境と文化』大明堂

参考文献

久馬一剛著「食糧生産と環境」化学同人

渡部忠世著「農業を考える時代」農山漁村文化協会

評価方法

[前期]基本的に定期試験による。

[後期]基本的に定期試験による。

受講者への要望

地図帳を持参すること。

年間授業計画

1. オリエンテーション
   地理学とは、どのような学問か
2. 自然と人間とのかかわり－環境論、風土論への招待－
3. 環境の諸要素（1）－地形環境－
4. 環境の諸要素（2）－気候環境－
5. 環境の諸要素（3）　植生と土壌、環境の諸類型
6. 熱帯地域（1）　自然的特色と伝統的農業
7. 熱帯地域（2）　熱帯アジアの稲作
8. 熱帯地域（3）　熱帯地域の開発
9. 砂漠地域（1）　自然的特色と伝統的経済活動、世界宗教の起源地と砂漠
10. 砂漠地域（2）　石油資源と近代化、砂漠の開発
11. 地中海森林地域（1）　西欧文化の原点
12. 地中海森林地域（2）　カリフォルニアの生活様式
13. 温帯草原地域（1）　自然環境と伝統的生活
14. 温帯草原地域（2）　世界の穀倉地帯
15. 温帯混合林地域（1）　東アジアと西ヨーロッパ
16. 温帯混合林地域（2）　経済の中心地としてのヨーロッパと北アメリカ
17. 亜寒帯森林地域、ツンドラ地域と氷雪地域
18. 山地地域
19. 世界の環境問題（1）　人口問題
20. 世界の環境問題（2）　食料問題
21. 世界の環境問題（3）　森林破壊
22. 世界の環境問題（4）　砂漠化
23. 世界の環境問題（5）　地球温暖化と異常気象
24. まとめ―私たちの暮らしと自然環境

01 **科目名**	**精神衛生論**
98 **科目名**	**精神衛生論**
97 **科目名**	**地域精神衛生論**
担当者	**中　野　隆　史**

講義の目標

体と心の健康はわれわれのあらゆる活動の基盤として重要である。２１世紀は心の世紀といわれているが、社会では心の健康に関連する重大な問題が繰り返し注目を浴びている。これには家庭、地域、学校、職場といった生活の場において心の健康に関する知識と理解が不足しているために必要な対応がなされていないことが一因をなしている。心の健康に関する知識はわれわれが生産的な社会生活を送る上で重要である。本講義では精神衛生（精神保健）の基本的な知識を身につけ、日常の生活の中に生かしていける社会人を育成することを目標とする。

講義概要

精神衛生（精神保健）の概念とその実践の対象から講義を始める。次いで精神保健の理解に必要な精神医学の基本的知識を学ぶ。これらを踏まえて、生活の場（家族、地域、学校、職場）から見た精神保健とライフサイクル（乳幼児期、小児期、思春期・青年期、成人期、老年期）から見た精神保健という縦横の軸から精神保健を考えていく。さらに、精神障害の予防（一次予防、二次予防、三次予防）と精神の健康管理（精神的健康の維持増進）について学ぶ。講義全体を通して、自分の身の回りの問題やマスコミの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。

テキスト

とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考文献

講義の際に指示する。

評価方法

［前期］出席点と期末試験の得点を加えて評価する。出席を重視する。出席点は出欠とレポート、プレゼンテーション、討論での発言等を合わせて評価する。

［後期］前期と同じ。

受講者への要望

心の健康に関心のある多くの学生の受講を期待する。身の回りの問題を通して、心の健康について考えていきたい。講義に出席することが基本である。積極的な発言を望む。私語は厳禁。

前期授業計画

1：オリエンテーション

精神保健（精神衛生）とは何か；狭義では精神障害の治癒と予防、広義では一般人の精神的健康の維持増進を含む。

2：精神保健の実践の対象

専門家の介入を要する問題（事例性）。精神障害、社会病理現象（自殺、犯罪・非行、アルコール・薬物乱用、暴力、離婚など）。

3：疾病・障害の概念と社会

現代社会における精神疾患・精神障害の理解；病気と健康の境界、精神障害に対する社会的偏見。

4：精神医学の基本的知識（1）

精神障害とは。精神障害の成因。精神障害の分類。

5：精神医学の基本的知識（2）

心因性精神障害；心因反応、神経症。心的防衛規制。

6：精神医学の基本的知識（3）

内因性精神障害；うつ病（気分障害）、精神分裂病。

7：精神医学の基本的知識（4）

精神科の治療；薬物療法、精神療法、精神科リハビリテーション。

8：生活の場から見た精神保健（1）ー家族の精神保健（1）

親子関係、夫婦関係。妊娠時の出産への不安、生後の育児不安。

9：生活の場から見た精神保健（2）ー家族の精神保健（2）

愛着障害、分離体験、被虐待児症候群（児童虐待）、家庭内暴力

10：生活の場から見た精神保健（3）ー地域の精神保健

11：生活の場から見た精神保健（4）ー学校の精神保健（1）小学校、中学校、高等学校

精神疾患（精神分裂病など）、不登校、引きこもり、いじめと校内暴力、非行、行動異常

12：生活の場から見た精神保健（5）ー学校の精神保健（2）大学

精神疾患（精神分裂病など）、無気力、不本意入学、摂取障害、アルコール・薬物乱用

後期授業計画

1：生活の場から見た精神保健（6）ー職場の精神保

健（産業精神保健）（1）
　精神疾患（うつ病、不安障害、アルコール関連障害)、不適応、不本意入社、出社拒否、常習欠勤
2：生活の場から見た精神保健（7）ー職場の精神保健（産業精神保健）（2）
　燃えつき症候群、テクノストレス、退却神経症と逃避型抑うつ、経済不況と自殺
3：ライフサイクルから見た精神保健（1）ー乳幼児期
　精神遅滞、広範性発達障害、分離不安障害
4：ライフサイクルから見た精神保健（2）ー小児期
　不登校、注意欠陥／多動障害、行為障害
5：ライフサイクルから見た精神保健（3）ー思春期・青年期
　家庭内暴力、非行
6：ライフサイクルから見た精神保健（4）ー成人期
　ストレス反応、出社拒否、うつ病、自殺
7：ライフサイクルから見た精神保健（5）ー老年期
　うつ病、自殺、痴呆
8：わが国の精神科医療の現状
9：精神障害の予防と健康管理（1）
　一次予防、二次予防、三次予防。心の健康づくり；心の健康相談
10：精神障害の予防と健康管理（2）専門機関
　精神保健福祉センター、保健センター、精神病院、総合病院精神科、精神科診療所、児童相談所、教育相談所、大学保健センター、企業の健康相談室
11：精神障害の予防と健康管理（3）専門家
　精神科医、保健婦、看護婦、臨床心理士、精神科ソーシャルワーカー
12：まとめ

01 科目名	医療・福祉概論ａｂ
98 科目名	医療・福祉概論
97 科目名	保健論
担当者	藤　井　賢一郎

講義の目標

以下の①～④を講義の目標とします。

①わが国の医療・福祉の現在及び今後の環境（人口、社会、家族の状況）を理解する。

②わが国の医療・福祉の制度の概要を理解する。

③わが国の医療・福祉の課題を理解する。

④医療・福祉に関する経済学の視点を理解する。

講義概要

医療や福祉の制度は、我々いつかは必ず利用する制度です。現在、急速な高齢化もあって、今後の医療や福祉制度のあり方について、国民全体で真剣に議論することが問われています。しかし、我々の多くは、このような状況を知らないで生活しています。

本講義では、このような状況をふまえ、できるだけ皆さんに医療や福祉について興味を持ってもらいながら、我々が今何を考え、議論する必要があるのかについて学び取ってもらえることを目指しています。また、単に教養としてではなく、経済学の視点から整理することで、より焦点を絞り、理解を深めます。

具体的な内容としては、医療保険制度と介護保険制度が中心となっています。（授業計画は一部変更される可能性があります。）

テキスト

三菱総合研究所「図説　福祉・介護ハンドブック」東洋経済新報社（全講義の３分の２程度は、本書をもとに授業します。特に、図表を参照するため、必ず用意してください。）

参考文献

次の①～⑧の順で本講義と関連深い内容となっています。①③④は比較的手軽な読み物、⑥⑦は経済学科学生であれば、一読を期待します。①広井良典「日本の社会保障」岩波新書、②厚生省「厚生白書（平成 12 年版）」、③春山満「介護保険・何がどう変るか」講談社現代新書、④池上直己、ＪＣキャンベル「日本の医療」中公新書、⑤福祉士養成講座編集委員会編「精神保健」中央法規、⑥ＪＥスティグリッツ／薮下訳「公共経済学上」東洋経済新報社、⑦小塩隆士「社会保障の経済学」日本評論社、⑧ＯＥＣＤ「ＯＥＣＤ諸国・活力ある高齢化への挑戦」ミネルヴァ書房

評価方法

前期：前期終了後の試験結果点に出席点を付加します。出席点は、各講義後レポート及び講義中発言でカウントします。詳細は前期 1 回目に説明します。出席点の取り扱いは、出席状況により若干変更します。

後期：後期終了後の試験結果点に出席点を付加します。出席点は、各講義後レポート及び講義中発言でカウントします。詳細は後期 1 回目に説明します。出席点の取り扱いは、出席状況により若干変更します。

受講者への要望

講義中には発言を求めますので、積極的に議論に参加して下さい。分からないことは、どんなことでも恥ずかしがらず、どんどん聞いて下さい。特別な勉強や予習・復習等は必要ありませんが、医療・福祉に関係する新聞・雑誌記事やテレビ番組は興味を持って接してください。

前期授業計画

1. オリエンテーション
   高齢化社会の要因（なぜわが国は高齢化が進んでいるのか、高齢化が進む要因とはなにか）
2. 将来人口推計のゆがみ
   政府の発表する将来人口推計とは何か、どうやって人口推計を行うのか、将来人口推計がなぜ当たらないのか
3. 将来の人口構成と世代間の不公平感
   合計特殊出産率の人口置換水準と安定人口構造、後期高齢者比率の収束値
4. 変貌する社会・家族
   核家族化、子どもと同居しない高齢者の増加、結婚・子育て
5. 女性の社会参加と合計特殊出生率
   女性の社会進出の状況と影響、女性の年齢別労働力率、合計特殊出生率、男女共同参画社会
6. 新しい高齢者像
   高齢者の貯蓄、収入
7. わが国の医療・福祉の水準①
   GDP と社会保障の国際比較
8. わが国の医療・福祉の水準②
   社会保障の内訳別国際比較
9. 負担と給付の関係
   国民負担率の国際比較

10. 社会保障構造改革のあり方
病床数と医療費、平均在院日数、薬剤費と医療費の適正化、保健医療計画
11. 世代間の公平
世代論、世代と時代、昭和一桁、団塊の世代、ベビーブーマーと社会保障負担
12. 社会保険と税
先進諸国及びわが国の保険料・税の状況、社会保険料と税の性格の相違、社会保険料のメリット・デメリット

後期授業計画

1. オリエンテーション
医療についての基礎知識
2. 高齢化と医療費問題
国民医療費の推移、高齢化の進展と医療費への影響
3. わが国の医療制度
国民皆保険制度、フリーアクセス
4. 日本の医療の「歪み」
長い平均在院日数、過度の病床、不足する医療スタッフ、社会的入院
5. 医療保険制度
社会保険制度の必要性（逆選択、モラルハザード)、医療保険の制度と保険料、窓口負担。
6. 技術の進歩と医療
エイズ薬害問題を考える
7. 介護保険制度の必要となった背景
高齢者の増加と家族・社会の変化、戦後の高齢者福祉・医療制度の見直し、社会保険制度による介護の社会化
8. 介護の実際場面
筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の生活と介護
9. 介護保険制度のサービス
訪問介護、訪問看護、訪問入浴介護、訪問リハビリテーション、通所介護、通所リハビリテーション、短期入所生活介護、短期入所療養介護、福祉用具貸与、居宅介護支援、介護保険施設
10. 要介護認定とケアプラン
サービス利用の手続きと流れ、要介護認定、一次判定の課題
11. 区分支給限度基準額とケアプラン
ケアプランの内容、区分支給限度基準額
12. まとめ
医療と福祉の今後、課題

01 科目名	スポーツ・健康論ａ・ｂ
98 科目名	スポーツ・健康論
97 科目名	体育理論（半期）
担当者	和　田　　智

講義の目標

健康・生涯スポーツの創造に向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れ、健康で豊かなライフスタイルを形成できる能力を身に付けるため、健康・生涯スポーツの考え方・実践の仕方を考える。

講義概要

前期には、我々を取り巻く、スポーツ、自由時間、健康などの現状を把握し、プレー・レジャー論についての文化的視点から、その考え方・価値について話し合う。後期では、健康づくりのための運動・スポーツを科学的視点で話し合う。

受講生人数によって、授業形態を変える。

テキスト

必要に応じプリントを配布する。

参考文献

中野孝次、「清貧の思想」、草思社.

松田義幸他、「人生 80 年時代のライフスタイル」、日経マーケディア.

ミヒャエル・エンデ（大島かおり訳）、「モモ」、岩波書店.

評価方法

[前期]　出席状況（40%）、テストの結果（40%）、プレゼンテーション（20%）で評価する。

[後期]　出席状況（40%）、テストの結果（40%）プレゼンテーション（20%）で評価する。

受講者への要望

いくつかのグループに分け、それぞれのグループでのプレゼンテーションをしてもらう。

学生による工夫に富んだプレゼンテーションを期待する。

積極的にインターネットを利用するので、ブラウザを操作する・E メールを送る等の知識はつけておいてください。

年間授業計画

1. オリエンテーション
2. あなたの自由時間の現状
3. レジャーとレクリエーション
4. 古典的解釈から知るレジャー
5. 人生 80 年時代のレジャー
   プレゼンテーション準備のための話し合い
6. あなたレジャーライフデザイン
   プレゼンテーション準備のための話し合い
7. シンプルライフとレジャー
   プレゼンテーション準備のための話し合い
8. 自由時間に関わるトピック 1
   プレゼンテーション準備のための話し合い
9. 自由時間に関わるトピック 2
   学生プレゼンテーション
10. 自由時間に関わるトピック 3
    学生プレゼンテーション
11. 学生プレゼンテーション
12. 学生プレゼンテーション
    まとめ
13. 身体計測、体力測定についてのガイダンス
14. 身体計測、体力測定
15. 身体計測、体力測定の解説
16. 運動しないとどうなってしまうのか
17. 肥満について
    プレゼンテーション話し合い
18. 運動と栄養について
    プレゼンテーション話し合い
19. エアロビクスとはなにか
    プレゼンテーション話し合い
20. 筋力アップの方法
    プレゼンテーション話し合い
21. 環境と健康について
    学生プレゼンテーション
22. 健康に関わるトピック
    学生プレゼンテーション
23. 学生プレゼンテーション
24. 学生プレゼンテーション
    まとめ

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**阿　部　正　浩**

講義の目標

どうすればわかりやすい「報告書」が書けるのか。この演習では、レポートや論文あるいは文章を書くための方法を学ぶ。

テキストの著者は 30 年近く「プロの」経営コンサルタントに「書く技術」と「考える技術」を指導しています。彼女の「技」を、一緒にぬすみましょう。

講義概要

テキストをベースにしながら、「書く技術」と「考える技術」を習得する。このためには、毎回の講義でＯＪＴ（On the job training)をする必要があり、受講者はＯＪＴを通して「技」を盗むことになる。

具体的には毎回テキストに書かれている内容にそってレジュメを作ってくることになるが、詳細については第一回目の授業で説明する。

テキスト

「新版・考える技術・書く技術」バーバラ・ミント著ダイヤモンド社

評価方法

前期　毎回提出するレジュメの内容と授業中の発言内容

受講者への要望

この演習はＯＪＴが中心ですから、毎回出席すること。

前期授業計画

1. はじめに　授業のすすめ方とＯＪＴの方法
2. 第一章
3. 第二章
4. 第三章
5. 第四章
6. 第五章
7. 予備日
8. 第六章
9. 第七章
10. 第八章
11. 第九章
12. 予備日

後期授業計画

前期と同じ

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**伊　藤　爲一郎**

講義の目標

わたし達の日常生活や企業の生産活動はさまざまな公共部分の活動によって支えられています。国民経済における公共部門の役割について基礎知識を深めることを目標とします。

講義概要

入門書を論読し、討論をしながら経済分析の基礎知識を学ぶようにします。

テキスト

未定

参考文献

講義の中でその都度指示します。

評価方法

前期：レポート

後期：レポート

受講者への要望

毎回必ず出席し、積極的に発言することを期待しています。

01 **科目名**	**基礎演習（前期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**犬　井　　正**

講義の目標

大学での学際的、専門的知識を修得できるようになるためにはどのような取り組みが効果的であるのかを理解し、それを発見することにある。将来、各専門領域やコースに分かれて、それぞれの専門科目の講義を受ける際に必要となる基礎的・基本的方法を捨得する。

講義概要

本講義は問題意識をもちながら文献を購読する方法、学習や研究テーマの見つけ方、次にそれをレポートにまとめる時の手順、また議論の展開の仕方、さらに効果的なプレゼンテーションの技法等について実習をまじえながらすすめていく。問題意識の発見から効果的な相手への伝え方の技術を磨くため討論を何回か行い、適当なトピックスに関する小レポートを作成したり、他の受講者の前で実際にプレゼンテーションを行なったりする方法を採用する。

テキスト

特になし。必要に応じて資料を配付する。

参考文献

適宜、提示する。

評価方法

前期　講義への出席状況と小レポートの提出、発表・討論などの貢献度を総合的に判定する。

後期　講義への出席状況と小レポートの提出、発表・討論などの貢献度を総合的に判定する。

受講者への要望

毎回講義に出席し、積極的に関わってほしい。

前期授業計画

1. オリエンテーション　－大学への適応
2. 大学でなにをどのように学ぶか（1）－講義への対応と心構え
3. 経済学部でなにをどのように学ぶか（1）－社会科学入門
4. 経済学部でなにをどのように学ぶか（2）－人文科学・自然科学・野外科学との協働
5. 調査・研究の方法（1）図書館の利用－文献収集方法
6. 調査・研究の方法（2）文献解題と学習・研究テーマの発見
7. 調査・研究の方法（3）コンピュータの利用－文献検索・資料収集
8. 調査・研究の方法（4）コンピュータの利用－資料分析
9. レポートの作成（1）
10. レポートの作成（2）
11. レポートの発表　プレゼンテーションの方法
12. まとめ

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**上　坂　卓　郎**

講義の目標

専門研究や企画書作成を行うための準備になる作業や発表の仕方を学ぶ。

講義概要

テーマの選定、資料の収集・分析、プレゼンテーションを具体的なテーマを設定し、自ら作業を進めながら学ぶ。

テキスト

特に指定しない。

参考文献

適宜指示する。

評価方法

出席を重視し、レポートとプレゼンテーションを総合して行う。

受講者への要望

自由な発想と主体的な参加を求める。テーマは狭く限定しない。グループワークを行う予定なので協調性と積極性を求める。

前期授業計画

1. ガイダンス、グループワーク分け
2. 新聞を読みレポートする（1）
3. 新聞を読みレポートする（2）
4. 経済雑誌を読みレポートする
5. インターネットを使いレポートする
6. 政府の白書を使いレポートする
7. 統計を使いレポートする
8. 統計を分析する
9. 論文の作り方を学ぶ
10. グループ発表（1）
11. グループ発表（2）
12. まとめ

後期授業計画

前期と同様

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**大久保　貞　義**

講義の目標

私のゼミは 1 人 1 人が個性を持つ事が出来るようにするためにはどのように学習すれば良いかを学ぶゼミである。

現代は個性を確立する事を求められている時代である。魅力ある個性を形成するためには，知識や知性を吸収しなければならない。若々しく新鮮な感覚で知の世界を各自が形成する事を目標とするのが大久保ゼミである。

講義概要

◎　講義は自由な発想の質問の中で創造的な発想が出来るように訓練が行なわれる。

◎　豊かな発想は知的訓練がないと連続して新しい考え方や新鮮なアイデアは生まれてこない。

◎　誰れかが考える事は考えない。他人と違がった方法で違がった事を考える。

◎　つまらない話は半分聞いたフリをして半分は自分の頭で真剣に考える。

◎　頭の中に何もない程、成長率は高い。

参考文献

約 10 冊の本を Speed Reading をする。そのための本は講義の中で指定します。

評価方法

・　レポートとテストによって評価する。

・　3 回以上、欠席すればテストを受ける事は出来ない場合がある。

受講者への要望

・　ゼミは家族的雰囲気の中で行なわれる。

・　合宿が夏休みに行なわれる。

・　これに参加しなければならない。

・　合宿は東京近郊で 1 泊 2 日行なう。

授業計画

1. 脳細胞の活性化のためのトレーニングの重要性の認識
2. 5 感を使って学び、そして 6 感を養う。
3. 6 感で人間を判断するトレーニング
4. 5 月病対策を考える。
5. 努力しないで頭が良くなる方法
6. 眠りながら、人生を考える法
7. 大量の知識と知性の流用法
8. バラバラな知識と連結された知識（知の活用法）
9. 人生の快楽を追求する方法
10. 自信喪失と思考の縮少現象
（未来の変化が判からない女ともてない男）
11. 自信過剰になる方法を求めて！！
（魅力的な人間に努力をしないでなる方法）
12. 生まれた時の社会構造と死ぬ時の社会構造の比較分析

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**岡　田　　博**

講義の目標

大学生としてスタートを始めるにあたって、大学における生活を最大限意義あらしめるようにするための導入部の役割を果したい。そのためには、まず「大学生になったのだという自覚」をもつことが大切である。そこから自ずとどういうようにやっていくべきかの考え、行動が形成されてこよう。

大学生であるという「自覚」をもった学生、自ら考え、自分の考えを人前で発表できる学生になれるよう指導していきたい。

講義概要

大学生としての意識のもち方、考え方。経済学への導入。口頭発表、論文の書き方などの指導を行う。

テキスト

最初の授業のときに指示する

参考文献

小林康夫外『知の技法』東大出版会

熊谷尚夫外『近代経済学の基礎理論』有斐閣

評価方法

前期：授業に取組む姿勢、熱意等の授業態度とレポートによって評価する。

後期：前期と同じ

受講者への要望

熱心な学生を望む、授業には欠席しないこと。

前期授業計画

1. 大学で学ぶことの意義について
2. 大学生としての自覚をもつことの大切さについて
3. 経済学入門Ⅰ　経済学はどのような学問か
4. 経済学入門Ⅱ　経済問題の根源について
5. 論文作成の指導　Ⅰ
6. 論文作成の指導　Ⅱ
7. 論文作成の指導　Ⅲ
8. 論文作成の指導　Ⅳ
9. 口頭発表について　Ⅰ
10. 口頭発表について　Ⅱ
11. 口頭発表について　Ⅲ
12. おわりにあたって

後期授業計画

前期と同じ

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**岡　村　国　和**

講義の目標

この講義の目的は、初年度の学生が、大学での専門的知識を修得できるようになるためにはどのような勉強方法が効果的であるかを理解し、それを身につけることにあります。さしあたり必要なことは、経済学部の学生として本学部で何を学び、それをどのように現実社会で生かしていくかについてのビジョンを持つことです。将来、各専門コースに分かれてそれぞれの専門科目の講義を受ける際に、将来学ぶ講義やいま学んでいる講義が、自分が専攻しようとする専門領域にどのように関連するのかを明確にイメージできるようにすることが重要だと思います。

講義概要

第 2 学年時から開講される専門演習（ゼミナール）への架け橋として、また専門的な知識を体系的に修得できるコースに分かれて勉強する準備として、最低限の経済学・経営学の理論的な分析用具を身につけるだけでなく、それを如何にして応用するかについて学びます。具体的にはまず問題意識を培いながらテーマを発見し、次にそれをレポートにまとめる時の手順、また議論の展開の仕方、さらに効果的なプレゼンテーション技術等について講義・指導します。本講義は問題意識の発見から効果的な相手への伝え方の技術を磨くため、小人数制を生かした討論を何回か行い、実際に他の受講者の前でプレゼンテーションする方法を採用しています.

テキスト

未定

参考文献

適宜指示します。当面は資料をプリントして配布します。

評価方法

講義参加者の平常点により行ないますので、特に期末試験などは予定していません。

受講者への要望

政治・経済・社会のさまざまな分野に知的興味を持って欲しいと思います。題材は新聞・雑誌やテレビなどから容易に入手できます。また、周囲の人と積極的に討論できる環境が作れる者の参加を希望します。

授業計画

1. 開講にあたって、基本的な授業の進め方やテーマの選び方などについて説明。
2. 社会科学の方法論を概説し、レポートの書き方や図表の読み方などを講義します。
3. テーマ選定作業とその際に注意すべき事項の検討。参考文献の探し方、フローチャートの作成方法、各章・節などのたてかたについて説明します。
4. 最近のトピックや具体的事象について、その原因や対応方法についての検討。希望するテーマがあればその時に受け付けます。

5.－11. 各自それぞれのテーマを持ち寄り、全員で検討する作業を行います。

12. この講義の感想や講義から得られたことなどについて、全員で話し合います。

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**梶　山　　皓**

講義の目標

大学における研究の基本的な方法、情報収集の方法、レポートの書き方、発表の仕方、プレゼンテーションの技術、ディスカッションの仕方などを学びます。ゼミは、高校や予備校のように教員に何かを与えてもらう場ではありません。自分で作り出す場です。自分の力で、自分の能力や個性を引き出す場です。教員は、そのための手順や方法をアドバイスします。

講義概要

広告やマーケティングは、単に文献や資料を読むだけではなく、新商品やサービス、流行やトレンドを分析したり、メディアの動きを追跡したり、実際に企業の動きを取材する実際的な学問です。新商品やサービス、広告、マスコミ、流行などの新しい動きに常に関心を持つことが大切です。まず大学のホームページから「経済学部・梶山ゼミのページ」を開けて、電子テキスト「レポートの書き方－情報発信の時代を迎えて」をプリントアウトしてみて下さい。できない人もいると思います。そういう場合は、先輩か友達、あるいはヘルプデスクの方に手伝ってもらって、やってみて下さい。自ら体験することできっと何かが得られるはずです。

テキスト

梶山皓著『レポートの書き方－情報発信の時代を迎えて・1999』（梶山ゼミホームページに収録）をベースに使います。他に視聴覚教材や事例研究を用意します。

参考文献

その都度、指示します。まずは毎朝、新聞を読むこと、ニュースを見ることが大切です。できれば「日本経済新聞」とテレビの「ワールド・ビジネス・サテライト（WBS)」（12ch：夜１１時～）を毎晩見ること。広告やマーケティングの好きな人は、雑誌『宣伝会議』を読んでください。

評価方法

前期：発表と質疑。

後期：発表と質疑。

受講者への要望

受身で学ぶのではなく、自分から積極的に情報収集、分析、そして発表することを望みます。それとゼミでは、クラスディスカッション（意見交換）に積極的に参加して下さい。

前期授業計画

1. 授業の進め方
2. レポートとは何か
3. 研究テーマの選び方
4. 情報とマスコミの利用の仕方
5. 本の読み方
6. アイデアの活用法、調査の仕方
7. ノートとカードの使い方
8. 話の組み立て方
9. 文章の書き方
10. 発表の仕方
11. パソコンの使い方
12. 快適な研究環境を創る

後期授業計画

1. 授業の進め方
2. レポートとは何か
3. 研究テーマの選び方
4. 情報とマスコミの利用の仕方
5. 本の読み方
6. アイデアの活用法、調査の仕方
7. ノートとカードの使い方
8. 話の組み立て方
9. 文章の書き方
10. 発表の仕方
11. パソコンの使い方
12. 快適な研究環境を創る

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**香　取　　徹**

講義の目標

基礎演習の目的は、経済学部の学生として知っておきたいスキルを身に付け、2 年生以降の専門科目のための準備をすることです。つまり、情報を集める方法、情報を整理する方法、調べること、観ることそして考えるといったスキルを身に付けることです。

講義概要

教室、パソコン室、ビデオ室、工場など毎回テーマにあった教室に移動します。そこで皆さんが積極的に参加して活動してください。その活動を私が支援する形式で進めていきます。

テキスト

なし。

参考文献

なし。

評価方法

[前期]　参加することで評価します。

年間授業計画

1. ガイダンス
2. 調べよう。探そう。(1) 図書館
3. 調べよう。探そう。(2) インターネット
4. 調べよう。探そう。(3) 日経新聞
5. プレゼンテーション（1）
6. 情報を整理しよう。(1) ノートをとろう。
7. 情報を整理しよう。(2) 本を読もう。
8. ビデオを観て考えよう。(1) 英語は共通語。
9. ビデオを観て考えよう。(2) 会社では何が起きているか。
10. 会社・工場を調べよう。
11. 会社・工場へ行ってみよう。
12. プレゼンテーション（2）

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**日　下　泰　夫**

講義の目標

大学に入学して環境変化に戸惑っていませんか。大学で学ぶということはどういうことなのだろうか。大学生活をどの様に過ごせばよいだろうか。大学ではどの様な能力を習得すればよいだろうか。レポート・論文はどの様に作成すればよいだろうか。実社会で必要とされる問題解決能力とはどのようなものであろうか。そんな疑問を皆さんと一緒に考えていく演習にしたいと考えています。

講義概要

今後の大学生活を方向づけるうえで重要と考えられることがらを取り上げ、教員からの課題提起、グループ討論、グループ発表・討議を通じて課題に対する認識を深めていきます。自ら考え、他の人とコミュニケーションをはかり、自分の考え方を明確にさせていく能力の修得を重視しています。皆さんのこれからの大学生活を方向づける上で、何らかの指針となり得るような演習をめざしています。

テキスト

特に使用しません。必要に応じて資料を配付します。

参考文献

新聞、立花隆：「知のソフトウェア」講談社現代新書、小林康夫、船曳健夫（編）：「知の技法」東京大学出版会、江川純：「レポート・小論文の書き方」日経文庫

評価方法

２回の提出レポートを中心に、平常点・出席状況を加味して評価します。

受講者への要望

自ら考え、討議に積極的に参加するように努めてください。

各期授業計画

1　演習を始めるにあたって：進め方、班編成、レポート・論文の書き方
2　大学で学ぶとは 1：課題提起、グループ討議
3　大学で学ぶとは 2：グループ討議、発表のまとめ
4　大学で学ぶとは 3：グループ発表・討議
5　変化の時代を生き抜く知恵 1：課題提起、グループ討議
6　変化の時代を生き抜く知恵 2：グループ討議、まとめ
7　変化の時代を生き抜く知恵 3：グループ発表、討議

第 1 回レポート：「変化の時代における大学での学び方」提出

8　私の夢：課題提起、グループ討議
9　私の夢：グループ発表、討議
10　実社会で必要とされる問題解決能力とは 1：課題提起、グループ討議
11　実社会で必要とされる問題解決能力とは 2：グループ討議、まとめ
12　実社会で必要とされる問題解決能力とは 3：グループ発表・討議

第 2 回レポート：「私の夢とその実現に向けた取組み」提出、アンケート

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**黒　川　文　子**

講義の目標

今後、経営学を勉強する上で、また 2 年次以降の演習に参加するための最低限必要とされるスキルを身に付けていきます。

講義概要

ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法、プレゼンテーション、資料収集、ディスカッション等のスキルを高めていきます。また、工場見学やフィールドワークを通して、実際に自分自身の目で企業経営を把握します。

テキスト

未定

参考文献

なし

評価方法

前期

出席と授業態度によって、総合的に評価する。

受講者への要望

毎回出席し、与えられた課題を予習してくること。

前期授業計画

1. 資料収集方法
2. ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法
3. 配布資料を通してのディスカッション（1）
4. 配布資料を通してのディスカッション（2）
5. 工場見学
6. フィールドワーク
7. フィールドワークの成果の発表（1）
8. フィールドワークの成果の発表（2）
9. 配布資料を通してのディスカッション（3）
10. 配布資料を通してのディスカッション（4）
11. 配布資料を通してのディスカッション（5）
12. 配布資料を通してのディスカッション（6）

01 **科目名**	**基 礎 演 習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**小　林　哲　也**

講義の目標

情報化とグローバル化の進展する現代経済を理解するための、基礎的な素養を身につけること

講義概要

基礎的なテキストを輪読するスタイルを、身につける。

情報検索・情報の利用・情報の発信の基礎的な手法を、身につける。

日常的な経済記事やデータを読み解く練習をする。

参加者の志向やレベルなどを勘案して以上の内容を組み合わせて演習を進める。今年度は、戦後の日本産業の発展を題材にする。

テキスト

大阪市立大学商学部編『産業』有斐閣

参考文献

日本経済新聞社編『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社

評価方法

出席と報告

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**斉　藤　美　彦**

講義の目標

①経済学部においては演習が学習の中心に位置するが、その演習におけるルール・マナー等を踏み外すことのないような常識を身につけること。

②演習の中心は学生であり、自ら学び議論に参加する態度が必要であるという認識が持てるようになること。

講義概要

前半は、演習におけるレジュメの作成法、議論の仕方、大学における学習法等について学び、後半はそれを踏まえて比較的簡単な金融関係のテキストをもとにレポーターによる報告および議論の形式で行う。

テキスト

参加者と相談のうえ決定する。

参考文献

演習中に指示する。

評価方法

[前期]

出席、演習における発表・発言および期末レポートを総合的に評価する。

[後期]

出席、演習における発表・発言および期末レポートを総合的に評価する。

前期授業計画

1．イントロダクション

2．～6．演習におけるレジュメの作成法、議論の仕方、大学における学習法等

7．～12．金融関係のテキストの輪読

後期授業計画

1．イントロダクション

2．～6．演習におけるレジュメの作成法、議論の仕方、大学における学習法等

7．～12．金融関係のテキストの輪読

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**塩　田　尚　樹**

講義の目標

大学生に求められる学力のうち，最も重要なものの一つが発表能力です．学年が進み専門演習などをとる際にも不可欠な能力です．この授業では，経済学の入門書を使って，発表の練習をしてもらいます．

「自分が読んだ書物などの内容，あるいは，その内容についての自分の意見を，他人にわかりやすく説明する.」というのが発表の基本です．発表能力を向上させるためには，まず，実際にやってみることと，他人の発表を研究することが有効です．

講義概要

事前に担当者を決めておいて，毎回数人ずつ順番に報告してもらいます．担当者にならなかった人には，内容に関する質問，あるいは，発表の改善点の提案などによって参加してもらいます．

また，経済学のテキストを使いますので，経済に関する議論もしたいと考えています．

テキスト

[前期]

井堀利宏(1997)『入門 経済学』新世社

[後期]

伊藤元重(2001)『入門|経済学 第 2 版』日本評論社

参考文献

授業中に適宜，指示します．

評価方法

[前期]

担当部分の報告 60%，担当以外での授業中のパフォーマンス 40%，とします．なお，授業中の迷惑行為について減点する場合があります．

[後期]

担当部分の報告 60%，担当以外での授業中のパフォーマンス 40%，とします．なお，授業中の迷惑行為について減点する場合があります．

受講者への要望

1. 担当者でない人も，事前にテキストを読んでから授業に臨んでください．
2. 担当者の人は，人数分のハンドアウトを必ず用意してください．

【前期授業計画】

1. 授業方針の確認と発表分担の決定
2. 家計
3. 企業
4. 政府
5. 金融
6. ミクロ市場
7. ミクロ政策
8. マクロ市場
9. マクロ政策
10. 日本経済
11. 国際経済
12. 経済学の諸問題

【後期授業計画】

1. 授業方針の確認と発表分担の決定
2. マクロ経済学とは
3. マクロ経済における需要と供給
4. 有効需要と乗数メカニズム
5. 貨幣の機能
6. マクロ経済政策
7. ミクロ経済学とは
8. 需要と供給
9. 需要曲線と消費者行動
10. 費用の構造と供給行動
11. 市場取引と資源配分
12. 不完全情報の経済学

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**高　松　和　幸**

講義の目標

社会的存在としての企業の活動（フィランソロピーなど）と個人としての社会的活動（ボランティアなど）について理解を深めると同時に、将来の「希望」や「夢」を実現する方法を人間が持つ可能性や社会という接点を絶えず持ちながら学習する。

講義概要

企業活動の IT 化、多様化に伴い、その活動が社会にもたらす影響はその善悪を問わず多大なものになってきている。したがって、現代企業がビジネス活動を遂行するにあたり、その前提として、自らが社会的存在であるとの認識が不可欠である。本年度は、企業活動が社会にどのような影響をもたらしているかという視点を、とりわけフィランソロピーや NPO（非営利組織）との連携を通して学習する。

テキスト

開講時に指示する。

参考文献

その都度指示する。

評価方法

前期：
後期：　} レポートと出席（自発性も評価する)

前期授業計画

以下のトピックを考えている。

・フィランソロピー
・NPO とそのマネジメント
・NGO
・市民セクター（第三セクター)
・ボランティア（精神）
・楽観主義と悲観主義
・世界の NPO（国際比較）
・IT と NPO など

後期授業計画

前期に同じ

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**高　柳　敏　子**

講義の目標

本講義では、2 年次以降で必要かつ有効と思われる情報の取り扱い方について、まず適当なテーマを決め、情報収集の方法を学びながら関連する資料を収集し、整理・加工し、またそれらを利用した効果的なプレゼンテーションの仕方を学びながらプレゼンテーションの準備をし、発表し、最後にそれをレポートにまとめる。以上のような“情報活用一巡り”を理解することを目標とする。

講義概要

はじめに 1 組 2 人程度で、できるだけ自由にテーマを選ぶ。次に、文献検索やインターネット等の情報の収集方法を学びながら関連する資料・情報を収集する。続いて選択したテーマについて、収集した資料・情報をワープロや表計算ソフトを利用して整理・加工しまとめる。さらにそれらの情報を利用して、プレゼンテーションソフトによるプレゼンテーションの準備をし、発表をする。最後に、レポートの書き方を学びつつ、各自ワープロでレポートを作成し提出する。

テキスト

なし：必要な資料を随時配布する。

参考文献

随時、参考資料を紹介する。

評価方法

後期：プレゼンテーションソフトによる発表、レポート、および出席を加味して評価する。

受講者への要望

欠席をしないこと。

後期授業計画

1. ガイダンス、クラスメンバーの紹介、テーマ例とそのプレゼンテーションの紹介、組およびテーマの決定
2. 関連情報の収集（1）：OPAC の利用（1）
3. 関連情報の収集（2）：OPAC の利用（2）とデータの整理・加工（1）
4. 関連情報の収集（3）：CD-ROM の利用
5. 関連情報の収集（4）：サーチエンジンによるインターネットの利用（1）
6. 関連情報の収集（5）：サーチエンジンによるインターネットの利用（2）とデータの整理・加工（2）
7. プレゼンテーションソフトの使い方とデータの整理・加工（3）
8. プレゼンテーションの作成（1）
9. プレゼンテーションの作成（2）
10. プレゼンテーションソフトによる発表（1）
11. プレゼンテーションソフトによる発表（2）
12. レポートの作成法とレポート作成

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**立　田　ル　ミ**

講義の目標

これから大学で学ぶに当たって必要な基本的な知識や調査方法やコンピュータ技能を身につけ、グループで調査できることを目標とする.

講義概要

基礎演習では、コンピュータに関する特定のテーマについて書物や雑誌、新聞記事、インターネットを用いて調査を行い、調査結果をまとめてワープロで清書する。また、データを収集し、表計算ソフトを用いてグラフを作成する。それらの結果を統合してプレゼンテーションソフトを用いて一人一人発表し、基礎演習の受講生からの評価についてメールなどを用いて交換することにより、調査方法、調査内容、調査結果の文書化、プレゼンテーションの方法の基礎を身につける。

テキスト

立田ルミ他「情報メディア入門」実教出版

参考文献

立田ルミ「コンピュータとネットワークによる情報活用」朝倉書店

評価方法

リポートと発表と出席で評価する。

授業計画（前期・後期とも同じ）

1. 基礎演習の概要
2. 情報の集め方
3. 情報の整理とワープロの利用方法
4. ワープロによる発表
5. 統計データの集め方
6. データの整理と表計算ソフトの利用方法
7. 表計算による発表
8. データの表示方法
9. プレゼンテーションツールの利用（1）
10. プレゼンテーションツールの利用（2）
11. プレゼンテーションツールによる調査内容発表
12. ディスカッション

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**千代浦　昌道**

講義の目標

充実した大学生活を送るためのあらゆる基礎的知識・情報・ノウハウを短期間に修得すること。

講義概要

まず、大学の授業は高等学校までの授業とどのように違うかを十分に理解する。その上で、つぎのようなことを修得する。

1）経済と経済学についての基礎知識とキーワード
2）授業の聴き方とノートの取り方、適切な質問の仕方など、授業や演習についてのノウハウ。
3）辞書の引き方、読書の技術とメモの取り方など、自習能力を鍛えるためのさまざまなノウハウ。
4）新聞、雑誌、統計、その他の文献・資料についての一般的な知識と利用方法。
5）経済と経済学についての英語基礎用語

テキスト

授業の進展に沿って、参考書などを指示する。

参考文献

金森久雄ほか編『経済辞典（第 3 巻）』（有斐閣、1998）
総理府統計局編『世界の統計（2002 年版）』（大蔵省印刷局、2002）
日本経済新聞社編『経済新語辞典（2002 年版）』（日本経済新聞社、2001）
長谷川啓之編『英和和英経済用語辞典（20版）』（富士書房、2000）

評価方法

前期・後期とも、出席状況、授業態度、提出レポートの内容などで評価し、試験は行わない。

受講者への要望

新聞を読む習慣をつけること、授業では受講生はできるだけ発言すること。

前期・後期（共通）授業計画

つぎのような内容で、受講学生と教師との対話を重視した授業を進める。

1. 大学の授業について
2. 社会科学とはどんな科学か、経済学とはどんな学問か？
3. 経済と経済学の基礎知識とキーワード
4. 新聞経済記事の読み方
5. 専門書・文献の探し方・読み方、図書館の上手な利用法など
6. 統計資料の種類・特徴・見方・利用法など
7. 経済学とパソコンの利用法、簡単な統計処理法、グラフの書き方など
8. どうしたら上手にノートやメモが取れるか？
9. レポート・論文の書き方・まとめ方
10. あるテーマについて討論してみる
11. 外国語専門書・文献の読み方・利用法
12. 経済・経営英語の基礎知識

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**全　載　　旭**

講義の目標

この授業は新聞の経済記事を読みこなし、それを自分なりに論理的に考える力を養うことを目的としている。

そのために経済学の基礎的な知識を正確に学び、現実に起こっている経済問題に応用している。

講義概要

1．日本経済、アジア経済を理解するための基礎的な経済用語を学ぶ

2．与えられた課題に対して報告レジュメを作成し、発表の練習をする。

（自分の意思を的確に表現し、相手に伝えることは、今後みなさんがいかなる仕事をするにしても絶対に必要なことです。また、基礎的な知識を習得するのは少し根気がいりますが、ごく基本的な知識でさまざまな事柄がすっきり理解できる楽しさをぜひ味わってほしいと思っています。）

テキスト

プリントを配布する。

参考文献

必要に応じて配布する。

評価方法

授業への平常の参加状況（出欠）を重視し、レジュメ作成・報告への取り組み姿勢などを総合的に勘案して評価する。

01 **科目名**	**基礎演習（前期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**中　村　泰　將**

講義の目標

この「基礎ゼミ」では、専門教育は行わない。高等学校での受験勉強から離れて、大学で自分がどのように自主的に学ぶかの「学ぶ方法」について以下の内容を訓練します。

①大学において、どのように学ぶかの「学ぶ姿勢」（attitude）を涵養します。

②現代社会のさまざまな問題についての「切り口」（access）を学びます。

③自分の言いたいことをどのように発表するか（プレゼンテーション）を学びます。

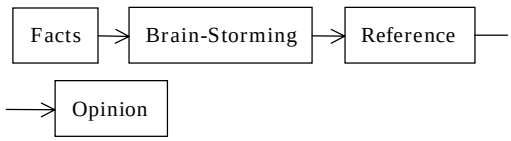
④どのような新聞、雑誌、著書を読んだらよいか「読み方」を学びます。

⑤リポートの「書き方」を学びます。

以上のような基本的な学習方法を学ぶことによって、自分で考え、自分で判断し、自分で責任をもって、自信をもって有意義に 4 年間のキャンパス生活をエンジョイするかの方法論を学びます。

講義概要

（1）毎週、新聞（日経、朝日、読売、産経、毎日等）を読んで、自分の関心を持ったトピックスをリポートにして提出する。下記に示した順序で文章の「書き方」を練習します。



（2）プレゼンテーション：『日本の経営　アメリカの経営』を読んで、各章ごとに各人が 2、3 分の発表を行います。

（3）Reference の収集方法を学びます。

参考文献

八城政基著『日本の経営　アメリカの経営』日経ビジネス文庫 2000.11. ¥648

この著書を通じて、日本とアメリカの文化、制度、経営、意志決定、戦略などの違いについて学びます。

評価方法

[前期]リポート、プレゼンテーション（70%）出席（30%）ただし、3 回以上の欠席は 0%となる

年間授業計画

毎回、前の週に提出されたリポートについて、皆で討論する。

テキストについて、毎回、自分の興味のもった箇所について 2、3 分発表してもらい、それについて皆で討論する（1 回～10 回）。工場見学・証券取引所（2 回、補講期間）

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**奈　倉　文　二**

講義の目標

日本の大企業（とくにそのグループ）の歴史と現在について調べ、考える。

テキスト及び参考文献の下調べ、講義中の報告、質疑応答、討議への参画を通じて、勉学意欲を高めることに努め、自主的積極的勉学の素地を培う。

講義概要

「四大財閥から新興財閥まで、意外に知らない大企業の歴史。企業の合併・提携の理由がわかり、面白いのにタメになる企業系列ものしり本」。これはテキスト本の宣伝文句。実際にどうかは読んでのお楽しみ。「…がわかる本」というのは底が浅過ぎて物足りないものが多いが、この本は結構良くできている。日本の大企業の今と歴史を知る入門書としてはなかなか良い。もっと調べて見ようという気にもなるので、参考文献をも利用しながら報告してもらう「基礎演習」テキストとしては好都合。ただし、刊行時点から３年程経過していて、その間の変化は当然のことながら記されていないので、各自調べる努力が要請される。

テキスト

創元社編集部『巨大企業がわかる本』（創元社、1999年）。

参考文献

宇田川勝・中村青志編『マテリアル日本経営史』（有斐閣、1999 年）。その他適宜指示する。必要に応じて業界再編、大企業の連携・合併などに関する新聞記事等も。

評価方法

［前期］出席、講義時の報告、討議への参画状況、期末レポート。

［後期］前期に同じ。

受講者への要望

自分で調べ、考えることが全ての基本。「教科書」に書いてあることや教師の述べることを全て信じ切って覚えるというのは真の勉強ではない。勉学は絶えざる新たな発見と疑問の旅。

年間授業計画

1. はじめに（演習の方針・方法等）。（以下はテキストの主要目次を列挙したもの）。
2. 三井
3. 三菱
4. 住友
5. 「富士銀行は安田銀行だった。」
6. 「金融業界のはなし。」
7. 大倉財閥、浅野財閥。
8. 古河財閥と川崎グループ、東芝とトヨタ。
9. 「エビスもサッポロもアサヒも大日本麦酒」、「私鉄ものがたり」。
10. 「日立と日産のルーツは同じ。」
11. 「化学工業の隆盛」、「発明を工業化した理研」、「飛行機に賭けた夢ー川西と中島」。
12. まとめ

【後期授業計画】

前期と同じ予定。ただし、参加人数等によって多少の変更はあり得る。

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**西　川　純　子**

講義の目標

テキストを読みながら議論を重ねていくうちに自分の考えを表現する方法を会得してほしいと思います。

テキスト

中江兆民『三酔人経倫問答』

１．明治維新
２．近代国家
３．民主主義
４．市民社会
５．殖産興業
６．法治国家
７．帝国主義
８．アジア
９．文化と文明
10.　〃
11. 中江兆民と福沢諭吉
12. 世界の中の日本人

受講者への要望

必ず予習をしてくること。欠席をしないこと。

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**浜　本　光　紹**

講義の目標

大学での学習に必要な基本的能力および方法について習得することを目標とする。

講義概要

入学したばかりの 1 年生は、講義の形式、試験、レポート課題などで大学での授業・評価方法に直面すると、高校までの学習の仕方では対応が難しいと感じられたり、とまどったりすることが多いと想像される。この基礎演習では、こうした点を考慮して、初年度から大学の講義および試験に充分対応できるよう、学習を進めるうえで必要な能力や方法を身につけるとともに、2 年次より始まる専門科目の演習も視野に入れて、報告・発表・議論の仕方を、比較的取り組みやすい題材を用いて実践を通じて習得していく。

テキスト

講義のなかで指示・あるいはコピーの配布を行なう。

参考文献

特に指定しない。

評価方法

出席などの平常点、およびレポートによって評価する。

受講者への要望

知的好奇心の旺盛な学生であってほしい。

年間授業計画

1. 報告・議論の仕方
2. レポートの書き方
3. コンピューターを用いた情報収集
4. 輪読を通じた文献の読み方
5. 関心のある題材についてのレポート作成（中間報告）

（注：上記の順序は入れ替わる可能性がある。また、上記以外の内容が付け加わる可能性もある。）

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**藤　山　英　樹**

講義の目標

（1）大学での勉強の意味を理解する。

（2）大学での勉強において便利なツールを紹介する。

（3）経済学の学び方を学ぶ。

講義概要

講義の前半４５分は教員による、様々なツールや勉強方法の紹介。後半４５分は、毎回、ある課題に関して参加者による報告および参加者全員でのディスカッションをする。

課題に関しては、実際にパソコンで文章や表を作成してもらったり、レジュメを作ってもらうことになると思います。

テキスト

適宜、講義中に紹介したり、プリント等を配布します。

参考文献

講義中に紹介します。

評価方法

前期：出席および授業への積極性。

後期：出席および授業への積極性。

前期授業計画

前半の教員による勉強方法の紹介に関しては、主として以下のようなテーマを取り扱います。

後半の課題もなるべく前半のテーマに関連したものとします。

1：大学とは：高校との違い。

2：レジュメの書き方：箇条書きではなく論理展開を

3：発表の仕方：パソコンを使う方法、黒板を使う方法、レジュメを主体にする方法

4：勉強のためのツール：Microsoft Word は便利（でも、マニアには TeX.）

5：勉強のためのツール：Microsoft Excel は便利

6：発表のためのツール：パソコンを用いたプレゼンテーション（特に論文発表の場合）

7：資料を集めよう：図書館とインターネットの利用

8：経済学の学び方：概論（理論なき現実と、現実なき理論を避けるために）

7：経済学の学び方：わかることとはどのようなことか

9：経済学の学び方：論理になれよう

10：経済学の学び方：古典を読んでみよう。（賢しらに理論を振り回さないよう、現実に振り回されぬよう。）

11：経済学の学び方：歴史の重要性。（どこからきてどこへゆくのか。）

12：予備日とします。

後期授業計画

前期と同じです。

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**細　田　　哲**

講義の目標

下記の授業計画に示したテーマを題材にして、学生諸君が以下の事項をマスターすることを目標とする。

〇テーマに合致した資料の収集・整理

〇適確なレポートの作成

〇プレゼンテーション（口頭発表）

同時に企業（組織）を考察する場合の次のような基本的事項について理解する。

〇企業は何を目的としてどのように組織化され、各階層の人々は日々どのような意思決定を行ない、活動しているのか。

〇企業目標の達成度は、資本市場（投資家）から厳しく評価されている。どのような方法により、企業評価がなされるべきか。

〇企業は、企業目標達成のため、他企業との競争下、日々革新を迫られている。革新の手法には、どのような方法が存在するのか。

講義概要

下記授業計画を参照のこと。各テーマについて概説する。なお、学生諸君には適宜レポート作成をもとめる。また、口頭発表の演習を行なう。

テキスト

井手正介、高橋文郎「ゼミナール経営財務入門」（日経）。重要な文献については、適宜、コピーを配布する。

評価方法

前期　出席状況、レポートの内容、口頭発表を総合的に評価する。

後期　出席状況、レポートの内容、口頭発表を総合的に評価する。

受講者への要望

下記授業計画に示したテーマに関心をもち、勉学に熱意をもつ学生諸君の受講を希望する。

前期授業計画

1. はじめに。
2. 企業とは。株式会社とは。
3. 企業と資本市場。
4. 企業の利害関係者とコーポレート・ガバナンス。
5. 企業の投資意思決定。
6. 企業の資金調達意思決定。
7. 企業の財務リスク管理。
8. 企業の財務報告。
9. 企業評価（1）。
10. 企業評価（2）。
11. 企業組織再編の手法、事業内容、財務のリストラクチャリング。
12. 日本企業の経営課題。

後期授業計画

前期と同一である。

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**本　田　浩　邦**

講義の目標

活字に慣れ親しんで，勉強・読書習慣を身につける。

講義概要

１．毎回のテーマに基づく報告と討論

２．参加者の課題＝毎週，自分が読んだ本１冊をみんなの前で紹介し，その一節を読む。

参考文献

大江健三郎『「自分の木」の下で』朝日新聞社，２００１年

評価方法

出席および平常点による。

受講者への要望

①　毎回，その週に読んだ本を紹介していただきます。

②　新聞を日常的によく読み討論の材料を集めて下さい。

③　読書時間を作ることを心がけて下さい。

④　継続的に出席して下さい。

年間授業計画

第１回　文献，経済新聞，専門雑誌を読む

第２回　図書館やインターネットで文献を検索する

第３回　忙しいときにどのように時間を作るか？どんな本を買うか？

第４回　レポートの書き方・プレゼンテーション

第５－７回　社会科学の文献を読む（１）政治学　丸山真男『日本の思想』岩波新書

第８－１０回　社会科学の文献を読む（２）社会経済史　角山栄『茶の世界史』中公新書

第１１－１３回　社会科学の文献を読む（３）ルース・ベネディクト『菊と刀』現代教養文庫

第１４回　まとめ

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**益　山　光　央**

講義の目標

経済学の入門書を読む．毎回，発表者を決め，ディスカッションします．大部分の 1 年生は経済学をはじめて学ぶと思うので，基本的な事柄から始めます．そして，一年次に学ぶ経済学関連科目や二年次，三年次の勉強に少しでも役立つようにしたい．また，経済学を学ぶ上での図書館の利用法，雑誌記事の検索，ネットでの情報収集などのスキルも学びたいと思います．意欲ある学生を希望します．

テキスト

竹内啓　現代経済入門　新世社

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**松　井　　敬**

講義の目標

経済学部に入学したものの、何を勉強したらいいのか、どう勉強したらいいのかといったことがはっきりしていない学生は多いことでしょう。大体、「何故われわれは学ばねばならないのか」とか、「大学とは何か」といったことをまともに考えたことはあるでしょうか。基礎演習とはこういったことを考えることから始めてゆく場だと考えています。

「学ぶ」ためには色々な技法が必要になります。個別分野の知識のほかに、インターネットを通して情報を集めることとか、論文、報告書を書くこととか、いかに要領よく説明するかといったことです。基礎演習とはこういった様々なことに関連した技法を身につけてゆく場でもあります。

講義概要

伝統的な「演習」の形式は、きめられた書物の 1 行 1 行を紙背に徹するように読み込んでゆくことですが、この演習では自分の頭で考え、考えたことを口に出して述べること－議論し、発言すること－を大事にしたいと考えています。

そのための 1 つは、参加する全員が、あらかじめ決められたテーマについて調べ、考え、そのことについての自分の意見を述べるという形式です。ここでは、出来るだけ討論しやすいテーマを探り、進めてゆきたいと考えています。

もう 1 つは、各自が自分の関心領域から得られたテーマで、資料を集め、調べ、報告しまた報告書にまとめるという形式です。

このように進めてゆく過程で、上にあげたような社会人として必要となる様々な技法について学んでいければと考えています。

テキスト

必要に応じ資料を準備する。

参考文献

必要に応じ紹介する。

評価方法

出席は重視する。また、演習への貢献度、レポートなどによって総合的に評価する。

受講者への要望

自分で調べ、考え、まとめ、議論に参加するといったことが大切で、この演習を志望する学生には積極的な関わりと参加を望んでいます。

授業計画（半期）

「演習」という性質上、授業計画を逐次的に記すことは出来ませんが、下記のようなことを考えています。興味を持続させるために、授業時間を 2 つに分け、前半と後半で異なる内容のこと（たとえば、前半は資料読み、後半は個別の報告）を進めることなども考えています。

・新聞、雑誌、などの記事、論文、その他の書物を読んで要約（まとめ）、感想、討論を行うこと。テーマは硬軟おりまぜて、広く設定したいと考えています。

・学生のそれぞれが興味を持つテーマを個別に設定し、そのことについて調べ（必要な情報を集め）、解説（報告）し、まとめること。

・学生のそれぞれが興味を持つテーマを個別に設定し、そのテーマで総合的にどうまとめてゆくかを－その過程を－考える。（章立てなどを考え、どのように立論してゆくかを考えること）

・必要な「情報」をどのように集めるかの技法を考える。

・コミュニケーションやプレゼンテーションの技法について考える。

・データのあり方とその扱い方について考える。

・コンピュータやインターネットに関連した技法を身につける。

・報告書の作成に関係した技法を見につける。

私の専門は「統計学」です。数学みたいに思われている傾向があるのですが、基礎演習の段階では、統計的な見方や考え方を説明することはありますが、あまり専門的、数理的な内容のことを扱ってゆくことは考えていません。あるとすれば、コンピュータとどう向き合うか、どう使うかといったことくらいでしょう。

参加している学生みんなで、経済、経営（あるいはスポーツといった話題など何でも）に関連した問題を整理し、討論しながら新たな知見を得る道を探っていければ（そして、それが結果的に知的な創造につながっていけば）いいなと考えています。

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**御　園　生　　眞**

講義の目標

大学での学習の基礎となる、文献や資料の調べ方、参考図書の利用方法、インターネットなどによる情報検索方法、本の読み方、レポートの作成方法などについて具体的に講義し、実際に習得することを目標とする。

講義概要

ヨーロッパの主要国（イギリス、ドイツ、イタリアなど）の社会経済・歴史・風土を素材とし、基礎知識を得ると同時に、講義目標で述べた学習・研究の基盤となる手法やノウハウについて講義する。可能なかぎり、ビデオや CD、コンピュータなどを活用したい。

テキスト

プリントなどを利用する。

参考文献

講義のなかでそのつど紹介する予定である。

評価方法

出席とレポート(数回実施)。3 回以上欠席した場合は単位が認定されない。

受講者への要望

履修者は第 1 回の講義から出席すること。授業のマナーを守ること。

講義内容や評価方法は変更される場合がある。

年間授業計画

1. 序論とガイダンス
2. 参考図書の利用法
3. 図書館の利用法
4. （続）
5. 専門書や新聞記事の読み方
6. （続）
7. インターネットによる情報の検索
8. （続）
9. レポートの作成方法
10. （続）
11. （続）
12. まとめ

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**森　　健**

講義の目標

若し諸君が、大学の講義の種類は多く、講義で伝えられる知識や主張（メッセージ）は多様だと思っているとしたら必ずしも正しくない。実は、大学で講義されるものは限られている。それは大学の講義で伝えられる知識や主張は学問的な検証に耐えられる方法の下で生まれたものに限られているからである。新聞や通常の雑誌記事とはこの点で異なる。この演習の目的はテキストや学術論文がどのようにして作られているか、図書館やインターネットでどのような資料が収集できるか、ディベートは何故有効かといったことを皆で実際に学ぶことにある。

講義概要

日本を含むアジア諸国、米国等の経済・社会問題について書かれた文献を材料にして、その論文の主張がどのような考察や資料の分析の上になされているかを皆で分担しながら検討する。更に、図書館やインターネットを利用してその文献が使用している資料を確認する。次に、より新しい資料を用いてその文献の主張が現在でも成り立つかどうか検討する。また、ディベートを行うことによりディベートの効用について考える。

テキスト

プリントを使う予定。

参考文献

プリントに応じて指示する。

評価方法

普段点

受講者への要望

沈黙は欠席と同じ。

前期授業計画

1. 学術論文と新聞雑誌記事との違い。学術論文の構成分析。
2. 学術論文の分析：論理の流れのフローチャート作成（分担発表 1)。
3. 学術論文の分析：論理の流れのフローチャート作成（分担発表 2)。
4. 学術論文作成上の約束ごと。
5. 学術論文で利用される資料と利用されない資料
6. 学術論文でよく利用される資料 : 図書館の研究 (1)
7. 学術論文でよく利用される資料 : 図書館の研究 (2)
8. 学術論文でよく利用される資料：インターネットの研究（1）
9. 学術論文でよく利用される資料：インターネットの研究（2）
10. ディベートの効用
11. ディベートの実践
12. ディベートの反省

後期授業計画

（前期と同じ）

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**山　越　　徳**

講義の目標

経済学の理論がどのような前提や考え方によって成立っているのか、またその理論が現実の経済を、またその変化をどの程度捉え、説明しているのか、何が捉えられていないのかを通して、経済学や経済を身近かに感ずるとともに、現在の経済における諸問題を共に考え、理解を進めていくことにする。

講義概要

講義の最初の頃は、種々の資料やデータを使って、経済学の考え方や理論、経済の大きさや構造について説明、講義を行うが、途中からは学生側からの関心や興味のある問題、疑問に思っていることや理解が不明確な事柄についてとり上げて共に議論し、考察していくことにする。また場合によってはグループに課題を与え、それについて調べてきたものを対象に議論し、学習する方法もとる。なおその対象は限定しない。

テキスト

要望があれば学生達と相談の上決めることもありうるが、最初のうちは資料のコピーをこちらから配布する。

参考文献

経済学、経営学、その他の基本的文献、推奨図書は、最初の頃に提示するとともに、その都度、講義中に提示する。

評価方法

[前期]　出席だけでなく講義への参加情況、議論の内容、ならびにレポート等で評価

[後期]　前期と同じ

受講者への要望

とにかく参加すること。講義中の議論だけでなく、対象となった課題や事柄に関連する資料や文献により多く触れること。そしてそれを発言等に出してくること。

授業計画

1. 経済学とは
　家計、企業、産業、地域社会、国の経営、経済・経営の対象、この時参加学生の関心事について
2. 理論と経済
　理論図式、現実の経済、統計データ、実証分析
3. 経済統計データ
　統計データとは、分類、時系列とクロスセクション
4. 統計データの見方、読み方
　統計の意味するもの
5. 以後、受講学生側から出された、テーマや課題、質問等により、議論し考察を進めていく。
　議論の発展次第では、その関連に関して調べてきてもらい、それの報告からさらに議論を進めていく。
　議論がとどこったり、方向如何では、こちらから別の課題を出して、調べてきてもらい、その報告で議論していくこともありうる。
6. 前期に準ずる
7.
8.
9.
10.
11.
12.

01 **科目名**	**基 礎 演 習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**山　本　美樹子**

講義の目標

経済学とはどのようなものなのか、また日本の経済は今どのような状況におかれているのかについて、一年生でわかるような内容で講義をする。また学生諸君も今の日本の経済についてどのような問題があるのかについて考えてもらいたい。

講義概要

「経済学とは人間の行動の学問である」これは私が大学一年生の時はじめて受けた経済原論の第一回目の講義で教授が語った言葉である。われわれの行動、生活の背後には経済的諸問題がつねにつきまとい、それに対しての処方せんが常に求められている。今なにが問題で、そのためにどのような方法が必要なのか、今回は小泉内閣が毎週発行し発信しているメールマガジン「ライオンハート」の経済担当の部分を読みながら、今われわれの生活になにが必要でなにを解決しようとしているのかを考えていきたい。

テキスト

小泉内閣　メールマガジン「ライオンハート」

評価方法

[前期]　レポート

[後期]　レポート

受講者への要望

演習形式なので各自積極的に参加してほしい。出席を重視する。

年間授業計画

1. オリエンテーション
　各自大学のパソコン又は自宅のパソコンでメールマガジン配信の手続をとるよう説明
2. メールマガジンをもちこみ、経済記事を読んでいく。次回からは各自問題と思ったことに対しての解説をするが今回は私が説明する
3. メールマガジンを読んで問題点、疑問点を検討

4－11.　〃

12. まとめ（前期）
13. メールマガジンを読んで問題点、疑問点を検討

14－22.　〃

23－24. 各自、現在の日本の経済をどう考えるのか、メールマガジンを読んでどう思うのか、2 週に分けて発表してもらう。

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**湯　田　雅　夫**

講義の目標

私たち人類は、生活の利便性、快適性を追及し続けてきたが、その一方で地球環境は悪化の一途を辿っている。私たち人類は、何の反省もなく、このままの生活を続けていけば、地球上で生き続けることができなくなる。ある著者は、人類が地球上に生存できる年数を残り 80 年であると、表明している。

私たち人類は、叡智を結集して、この人類の破滅から逃れなければならない。どうすれば、私たち人類はこの窮地から逃れることができようか。

このことを皆で考えていこうではないか。地球環境問題に関心ある諸君の参加を希望している。

講義概要

地球温暖化、酸性雨、熱帯林の減少、種の絶滅、農耕地の侵食、砂漠化、大洋汚染、開発途上国の公害問題、大気中に占める CO_2 の濃度等の地球環境問題とダイオキシン、環境ホルモン、ごみ焼却、最終処分場の問題、再利用、リサイクルといった地域限定型の環境問題を皆と一緒に考えていく。

テキスト

その都度指示する

参考文献

その都度指示する

評価方法

レポート提出による評価

受講者への要望

積極的に参加し、発言し、行動すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 共同研究班への加入
   個別研究テーマの選択
3. 共同研究班作業
4. 共同研究班作業
5. 共同研究班作業
6. 共同研究班作業
7. 共同研究班成果発表
8. 共同研究班成果発表
9. 個別研究作業
10. 個別研究作業
11. 個別研究成果発表
12. 個別研究成果発表

01 **科目名**	**基礎演習（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**米　山　昌　幸**

講義の目標

この講義では、大学でこれから専門分野の研究を始めるための準備として、大学での勉強やレポート・論文の作成などの知的生産の方法を学びます。

講義概要

まず、大学での勉強や心得や方法について説明した後で、パソコンを実際に使いながら知的生産のためのパソコン･ツールの使い方のコツ、インターネットの利用方法などを学びます。その後で、テキストの輪読を通して、発表のためのレジュメの作成や報告の方法を学びながら、研究テーマの探し方、レポートや論文の作成方法などを学びます。必要に応じてパソコンを使ったり、図書館を使ったりする予定です。

テキスト

小浜裕久・木村副成『経済論文の作法(増補版)』日本評論社，1998 年

評価方法

毎回の出席状況や提出物、発表および最終レポートによって成績評価を行う。

受講者への要望

演習は皆さんが主体的に学ぶ場ですので、休まないでください。パソコンを使うことがありますので、フロッピー・ディスクを持参してください。

年間授業計画

週	内容
1	**イントロダクション－「基礎演習」ガイダンス－** 大学での勉強の心得、授業の形式と提出物・評価基準の説明、テキストの紹介
2 3 4	**パソコンを使った知的生産の方法** 1. インターネットで新聞を読もう 2. インターネットからの情報の取り込み方 3. 社説の要約の方法 4. メールを使ったレポートの提出方法 5. パソコン･ツールの使い方のコツ 6. レジュメの作成と発表の仕方
5 6	**レポート･論文テーマの探し方** 1. レポート･論文の目的 2. テーマの設定 3. 先行研究を調べる 4. 関連文献の探し方
7	**データ・情報の集め方**
8	1. データ・情報の収集 2. インターネット情報の活用 3. 日経テレコン 21 の利用方法
9 10 11	**レポート・論文の書き方** 1. 論文の目的 2. 構成の方法 3. 図表の使い方 4. 参考文献リストの作成方法 5. 脚注の付け方 6. 最終レポートについての説明
12	**最終レポートのテーマの発表**

01 **科目名**	**基 礎 演 習**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**和　田　　智**

講義の目標

自分の興味のあるテーマについて、調べ、まとめ、表現するということを主にコンピュータを利用してできるようになることを目標とします。具体的には、自分の設定したテーマに沿って、コンピュータ上で、情報を収集し、それを自分なりの方法でまとめ、最終的なレポートとして自分のホームページ上で発表してもらいます。

講義概要

講義の目標を達成するためのコンピュータの利用方法について説明します。その後、自分のテーマを追求し、ホームページを完成させていく過程で出てきた内容、技術に関する問題点を全員で話し合い解決していく形式で授業を進めていきます。小人数のクラスなので、できるだけそのメリットを生かせる形式で授業を行いたいと思います。

テキスト

なし

参考文献

なし

評価方法

出席回数、授業への参加姿勢、レポートとしてのホームページの内容

受講者への要望

コンピュータ利用未経験者で、何に利用できるかわからないが、これから積極的に利用したいと思っている学生で、授業の進行に合わせた毎回の宿題を実施する意欲のある学生の受講を望む。

前期授業計画

1　オリエンテーションアイスブレーキング
2　教員、学生間の連絡をとるため電子メールフリーメールアドレス ID の取得、メーリングリストの参加と利用法
3　情報の探し方１ホームページ、ニュース
4　情報の探し方２ショッピング、オークション、掲示板、旅行、音楽、その他
5　自分のホームページ作りフリーホームページとアドレスの取得
6　自分のホームページ作り簡単なホームページデザインとツール
7　ホームページ作りにともなう問題点と解決法１著作権と制限される内容
8　ホームページ作りにともなう問題点と解決法２多様な表現方法の可能性
9　学生プレゼンテーション自分のホームページを使って
10　学生プレゼンテーション自分のホームページを使って
11　学生プレゼンテーション自分のホームページを使って
12　まとめ

01 **科目名**	**経済・経営外国語Ⅰ　a・b**
98 **科目名**	**経済・経営外国語**
97 **科目名**	**外国書研究Ⅰ**
担当者	**阿　部　正　浩**

講義の目標

この講義は、新聞・雑誌やインターネットで流通している英文経済記事の内容を把握する力を養うことを目的としています。

講義概要

興味深い英文経済記事を配布し、順番に受講者がその内容を報告する形で講義をすすめる。これとは別に、現在の経済社会で何が起きているかを知るために、授業の最初に英文雑誌記事の見出しを訳していきます。

テキスト

なし

参考文献

なし

評価方法

授業への出席

期末テスト

受講者への要望

授業の予習をして、毎回出席してください。

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰ　ａ・ｂ
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	伊　藤　爲一郎

講義の目標

経済ニュースや学術論文を読み、読解力・専門用語の理解等を深めることを目標とします。

講義概要

教材に沿って内容を深く理解できるように解説します。教材の一部を受講者が論読する形で進めます。

テキスト

開講時にプリントを配布します。

評価方法

前期：平常点と期末試験の成績を加味して評価します。

後期：前期と同じ。

受講者への要望

予習をしておいてください。授業には辞書を持参してください。

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰａ・ｂ
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	上　坂　卓　郎

講義の目標

時事的な経済記事を読む英文読解力を身につける。

日本の記事・論説や報道と違いを考え、自分なりの見方が構築できるようにする。

講義概要

日本の経済報道は一方向に傾きやすい。冷静な見方を知ることから外国の経済専門雑誌を読む効用は大きい。

また、米国系の情報源が多いなかで、英国で編集されている本誌見解に耳を傾けることに意義がある。

テキスト

Economist の特集レポートから、適宜配布する。比較対照として、米国経済誌も参照する。

評価方法

出席と割当られた担当報告による総合評価。報告用ハンドアウトは提出し、評価対象とする。前期末にレポートを課す可能性もあります。

受講者への要望

ベンチャービジネス論と関係ないテーマになる可能性が高い。また単なる邦訳に止まらず、関連の研究を自分なりに行い報告することを期待する。

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰａ・ｂ
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	岡　村　国　和

講義の目標

本講義の目的は、将来履修する専門科目や外国語文献を用いて研究する学生諸君のためにその方法を準備することにあります。内容の理解とその検討が主目的であって、翻訳が主目的ではありません。さしあたり経済的福祉に関する概説書を用いて、それらを輪読します。そして輪読後に討論を行い、さらに関連事項を各自調べて報告するというステップを繰り返し行うことを予定しています。資料は主としてインターネット上から取得できるものを指示します。資料の解読・分析を自力で行うには日本語による最低限の専門用語の知識が要求されることを理解して下さい。これも本講義の目標の一部となっています。

講義概要

まず福祉をめぐる一般的用語を理解し、福祉の特徴を知る上で必要な知識の習得を目指します。特に自由、平等、公平の問題を取り扱います。何故に自由や平等を強制・抑制してまで「社会的に不遇な人々に手厚い保障をしなければならないか」について、それを正当化する枠組みを検討します。福祉の真の姿を理解するには多面的な考察が必要ですが、本講義では主として基本的な分析用具を紹介し、将来の学習に備える工夫ができるようになることに配慮します。なお、希望により実践的な表現を修得するためのＣＤを聞きながらリスニングおよび表現力を養えるような時間を設けることもあります。

テキスト

さしあたり当方で経済福祉などに関する文献や最近のトピックなどをインターネット上から入手して配布します。

参考文献

必要に応じて紹介します。特に邦語の文献は必ず見るようにして下さい。

評価方法

前期：出席を重視し、輪読時の自主発表で評価します。必要に応じて期末テストを行います。

後期：出席を重視し、輪読時の自主発表で評価します。必要に応じて期末テストを行います。

受講者への要望

出席を重視します。期末テストだけでなく輪読書の予習と年数回程度自主報告を考慮して成績を評価しますので、積極的な参加者を歓迎します。また、福祉をめぐる諸問題を理解するための冷静な判断力と、福祉関連制度を理解するための熱いハートの持ち主を歓迎します。

前期授業計画

1. 講義の進め方などの確認と数回分のテキストまたはトピックの配付。特に最初の要約部分と全体の構造について講義します
2. ～9.テキストまたはトピックの輪読と検討、および解説。
10. ～11.テキストまたはトピックに関連したテーマを各自用意し、それらを全体で討義する。
11. テキストまたはトピックの輪読と検討。
12. 前期のまとめ。必要があれば期末テスト。

後期授業計画

1. 後期の学習計画と講義の進め方について。
2. ～9.テキストまたはトピックの輪読と検討、および解説。
10. ～11.テキストまたはトピックに関連したテーマを各自用意し、それらを全体で討義する。
12. 後期の総まとめ。必要があれば期末テスト。

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰ　a・b
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	梶　山　　皓

講義の目標

マーケティングと広告に関する基礎的な理論を英語で学びます。

講義概要

マーケティングの基礎的な理論、すなわちマーケティング計画の立案、製品開発と管理、流通システム、プロモーション政策、製品の価格設定、特定分野のマーケティング等を学びます。他に広告理論を概観します。授業は学生が英文を訳出し、教員が内容を解説する形式で進めます。

テキスト

James E. Finch: The Essentials of Marketing Principles, Research and Education Association, 1992.

参考文献

P. コトラー、ゲイリー・アームストロング著、恩蔵直人監修『コトラーのマーケティング入門・第 4 版』、ピアソン・エデュケーション、1999。

評価方法

前期：「発表」「定期試験」「出席状況」を総合的に判断して評価を行います。

後期：「発表」「定期試験」「出席状況」を総合的に判断して評価を行います。

受講者への要望

授業には辞書を必ず持参してください。なお、欠席が半期で 4 回以上の方は、原則として評価を不可とします。

前期授業計画

1. 授業の概容
2. マーケティングとは
3. マーケティング情報システム
4. 市場分析
5. マーケティング・セグメンテーション
6. 消費者行動
7. ビジネス・マーケティング
8. 製品開発
9. 製品ミクス
10. 流通システム
11. 物的流通
12. 卸売業

後期授業計画

1. 小売業
2. プロモーション戦略
3. 広告
4. PR（パブリック・リレーションズ）
5. 人的セールス
6. セールス・プロモーション
7. 価格決定
8. 価格政策
9. マーケティング評価
10. 国際マーケティング
11. 非営利機関のマーケティング
12. ダイレクト・マーケティング

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰ　a・b
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	黒　川　文　子

講義の目標

本講義では、経営学の入門から専門書、論文までの読解できる能力を身につけることが目標である。

この分野の読解は、単なる表面的な語句上の意味を学ぶのではなく、その語の背景となっている経営状況を理解しなければ、正しい読解は不可能である。

講義概要

経営に関する基本的文献をまず輪読し、ある程度、経営学用語を用いた英文に慣れた後に、論文を配布して、講義を進める。

テキスト

JoAnn Parochetti, Tsuyoshi Chiba, Junko Yoshino, Akio Homma , ”Bountiful Economics”, NAN'UN-DO, 2002.

参考文献

野田信夫編『経営英和辞典』ダイヤモンド社。

評価方法

平常点、出席、試験を総合的に判断して評価する。

受講者への要望

予習・復習をすることが望ましいが、予習だけは必ず行ってから、授業に出席のこと。

前期授業計画

1. Jakucho Setouchi
2. Modern Dance
3. Walking
4. DNA, History and Archaeology
5. Family Health Care
6. Natural Salt and Deep Seawater
7. The Miracle of Food
8. How to Make Cookies
9. Obesity and Calories
10. Environmental Pollution
11. Articles of Management (1)
12. Articles of Management (2)

後期授業計画

1. Okinawa Sammit 2000
2. Information Technology
3. Internet, E-Business and the New Information Age White Paper
4. Recycling-Oriented Production systems
5. Convenience Stores
6. Revolving Sushi
7. Genetically Modified Food
8. The Oil Industry and Deregulation
9. Three Ingredients for Success and Job Satisfaction
10. Hedge Funds and Financial Crisis
11. Articles of Management (3)
12. Articles of Management (4)

01 **科目名**	**経済・経営外国語Ⅰａ・ｂ**
98 **科目名**	**経済・経営外国語Ⅰ**
97 **科目名**	**外国書研究Ⅰ**
担当者	**五　嶋　陽　子**

講義の目標

英語で書かれた文章を読みながら、日本の経済について理解を深めることを目的とします。常日頃、さまざまな媒体を通して紹介される日本経済の実態（景気低迷、金融構造改革、財政構造改革、年金制度改革、雇用問題など）について英語ではどのように表現されるのか、日本語特有の専門用語は英語では何と言うのか、こうした点に留意しながら、英語力を向上させると共に知識を広げて行きたいと考えます。

講義概要

日本経済に関する基本的な文献について講読を行います。テキストとしては、世界機関がまとめた報告書や論文、ジャーナルの記事などからの抜粋を配布し、使用します。

テキスト

開講後、教室にて順次配布します。

参考文献

必要に応じて、随時配布します。

評価方法

授業中の発表、前期試験・後期試験。

受講者への要望

辞書を持参して下さい。

年間授業計画

開講時に説明します。

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰａ・ｂ
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	小　林　　進

講義の目標

理論経済学を中心に、できるだけ大量の英文の読破を目指したい。経済学の重要性は近年非常に高まってきており、その学習においては翻訳書に頼るだけでは不十分で、原書で読むことの必要性が増している。受講者は、途中で脱落することなく毎週必ず出席し、経済学の用語に早くなれて研鑽(ケンサン)を積んでほしい。昔の賢人いわく「努力しない者が成功することは、ラクダが針の穴を通るよりも難しい」

講義概要

米国の標準的な経済学テキストの購読

テキスト

未定（プリントを配布の予定）

参考文献

未定

評価方法

平常の出欠と受講態度を重視し、さらに前期と後期の二回の試験を加味して評価する。

受講者への要望

英語Ⅰが履修済みであること

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰａ・ｂ
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	小　林　哲　也

講義の目標

経済関係のニュースや記事を、自分で収集し分析するための、基礎的な英語読解力の涵養。

講義概要

日本で報道されるニュースの中には、国内での報道と海外のそれとで非常に大きな視点の差異があるものが多い。日本経済の現状を分析する上でも、できるだけ多様なニュースソースを、自力で確保することが必要となる（もちろん英米圏の報道が常に質が高いとは限らない）。本講義では、Business Week などの英字新聞や雑誌を中心に、時事的な話題の読解を通じて、現代人に必要な英語力の向上をめざす。

また、適宜イディオムや短い会話文のテストを行ったり、英語でのニュースのヒヤリングなどを通じて日常的な英語の感覚を養う。後期は、英語のニュースソースに当たって、プレゼンテーションを行うのが課題である。

テキスト

Business Week 各号。その他の教材は、適宜教室で配布する。

参考文献

マーク・ピーターセン『日本人の英語』岩波書店
西村肇『サバイバル英語の勧め』ちくま新書

評価方法

出席・小テストなどの平常点および前期/後期定期試験成績による。

受講者への要望

10 万語レベルの英和辞典、例えば小学館『プログレッシブ英和中辞典』など、を必ず毎回持参すること。ａ,b 通期での履修が求められる。

前期授業計画

１.ニュースにおける、「英語」と「日本語」
２.グローバリゼーションと英語
３.News in the world business
５.News in the world business
６.News in the world business
７.News in the world business
８.News in the world business
９.News in the world business
１０.Economic analysis on the U.S. economy
１１.Economic analysis on the U.S. economy
１２.Economic analysis on the U.S. economy
１３.Economic analysis on the U.S. economy

後期授業計画

１４.Financial issues
１５.Financial issues
１６.Financial issues
１７.Financial issues
１８.Financial issues
１９.Science and Technology
２０.Science and Technology
２１.The corporation of the world
２２.The corporation of the world
２３.The corporation of the world
２４.The corporation of the world

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰ　a・b
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	塩　田　尚　樹

講義の目標

経済理論の教科書や原著論文を読みこなすための英語力と分析ツールの習得を目指します。使用するテキストは，2002 年現在においても，非常に優れた経済数学の入門書です。「受験数学で数学嫌いになったけれど，できることならやり直したい」と考えている人にはぴったりです。なお，750 ページにわたる大著ですが，欲張らずにゆっくり進みたいと思います。

講義概要

事前に担当者を決めておいて，毎回数人ずつ順番に報告してもらい，その質疑応答を中心に進めていきます。また，英語を身につけるためには音読が不可欠であると考えますので，授業中にくり返し音読してもらいます。節末のエキササイズを持ち帰りのレポートとして何回か課す予定です。

テキスト

Chiang, A. C. (1984) “Fundamental Methods of Mathematical Economics,” McGraw-Hill

参考文献

授業中に適宜，指示します。

評価方法

前期　担当部分の報告 50%，担当以外での授業中のパフォーマンス 30%，レポートなど 20%，とします。なお，授業中の迷惑行為について減点する場合があります。

後期　担当部分の報告 50%，担当以外での授業中のパフォーマンス 30%，レポートなど 20%，とします。なお，授業中の迷惑行為について減点する場合があります。

受講者への要望

1. 不明な単語を辞書で調べる程度の予習は，(担当部分以外も)必ずして下さい。

2. 辞書(できれば英英辞典)を必ず持参して授業に臨んでください。

前期授業計画

1：授業方針の確認
2：The Nature of Mathematical Economics
3：Ingredients of a Mathematical Model
4：Relations and Functions
5：Partial Market Equilibrium
6：General Market Equilibrium
7：Matrices and Vectors
8：Matrix Operations
9：Transposes and Inverses
10：Determinants
11：Cramer's Rule
12：Input-Output Models

後期授業計画

1：授業方針の再確認
2：Comparative Statics
3：The Concept of Limit
4：Continuity and Differentiability of a Function
5：Rules of Differentiation
6：Partial Differentiation
7：Applications to Comparative-Static Analysis(1)
8：Jacobian Determinants
9：Differentials
10：Total Differentials
11：Implicit-Function Theorem
12：Application to Comparative-Static Analysis(2)

01 科目名	経済･経営外国語Ⅰａ・ｂ
98 科目名	経済･経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	清　水　絹　代

講義の目標

第一の目標は、大量の英文を読むために必要な英文の効率的な読み方そのものを扱い、基礎力の向上をはかることにあります。第二の目標は、英語による起業プランを作成するプロセスの中で、経営に関する基礎理論やその応用を英文の資料に基づいて考える能力を養うことにあります。第三の目標は、自身で考えたことを英語で表現する能力を獲得することにあります。

講義概要

英文の効率的な読み方の修得に関する方法の説明や練習を講義の最初に行います。講義中に使用する英文資料等は講義一週前に配ります。毎回講義が始まる前までに各自が必ず読み、与えられた課題の回答を考えてきて下さい。講義で使用した英文資料等はその要約を学期末に提出してもらいます。前期、後期とも講義の最終回はプレゼンテーション･コンテストとし、起業プランを英語で作成し、そのプレゼンテーションを英語で行います（全員、正装で参加)。英語でプレゼンテーションを行う際に配慮が必要なことや起業プランの作成方法は講義内で説明します。毎回講義終了前 10 分程度で、「①今日の講義で何を学んだか、②どんな発見があったか、①、②を今後、何にどう役立てたいか」を出席カードの裏に書いてもらいます。高い評価を得た学生のフィードバックは無記名で縮小コピーし、次の講義で履修者全員に配布します。

テキスト

開講時に指示します。

参考文献

Charan, R. (2001). *What the CEO Wants You to Know.* NY: Crown Business.

Horan, J. (1998). *The One Page Business Plan.* CA: The One Page Business Plan Company.

Kornhauser, A. W. (1993). *How to Study: Suggestions for High School & College Students,* 3rd ed. The University of Chicago Press.

Mikulecky, B. S., & Jeffries, L. (1998). *Reading power,* 2nd ed. NY: Longman.

Minto, B. (1995). *The Pyramid Principle: Logic in Writing and Thinking.* Pitman Publishing.

Mintzberg, H. (1989). *Mintzberg on Management.* NY: Macmillan

評価方法

前、後期とも出欠席、授業内の発言等の参加態度（講義フィードバックを含みます)、課題レポート等の提出物、プレゼンテーション、定期試験などを総合的に評価します。定期試験の際には、試験会場へテキストやノートなどを持ち込むことはできません。

受講者への要望

学ぶ意欲を持って主体的に講義に参加して下さい。配布資料を全く読まずに出席することは許されません。辞書は毎回必ず持参して下さい。講義内で一度配布した資料は二度と配布しません。講義中は携帯電話、PHS 等の電源を必ず切ること。マナーモードも許可しません。

前期授業計画

1. 本講義についての説明
2. 起業プラン作成―1
3. 起業プラン作成―2
4. 英語で行うビジネス･プレゼンテーション
5. 起業プラン作成―3
6. 起業プラン作成―4
7. 英語で行うビジネス・プレゼンテーション
8. 起業プラン作成―5
9. 起業プラン作成―6
10. 起業プラン･プレゼンテーション練習（使用言語：英語）
11. 起業プラン作成―7
12. 起業プラン･プレゼンテーション･コンテスト（使用言語：英語）

後期授業計画

1. 本講義についての説明
2. 起業プラン作成―1
3. 起業プラン作成―2
4. 英語で行うビジネス･プレゼンテーション
5. 起業プラン作成―3
6. 起業プラン作成―4
7. 英語で行うビジネス・プレゼンテーション
8. 起業プラン作成―5
9. 起業プラン作成―6
10. 起業プラン･プレゼンテーション練習（使用言語：英語）
11. 起業プラン作成―7

12. 起業プラン･プレゼンテーション･コンテスト（使用言語：英語）

01 **科目名**	**経済・経営外国語Ⅰ　ａ・ｂ**
98 **科目名**	**経済・経営外国語**
97 **科目名**	**外国書研究Ⅰ**
担当者	**ジム・ブローガン**

講義の目標

この科目では，ビジネス英語の基礎を学びます。リスニング，スピーキング，およびボキャブラリーの能力を様々なビジネスの場面に即して身につけます。

The course will introduce students to using English in real life business situations. Emphasis will be on improving listening and speaking skill as well as acquiring the vocabulary used in a modern business environment.

講義概要

リスニング能力を身につけるためにたくさんのテープ教材の聞き取りを行います。受講者は積極的な姿勢で取り組んで下さい。

The class will make extensive use of taped material to improve listening ability and students will be expected to play an active role.

テキスト

Business Venture 1(Oxford University Press2000)
さしあたり購入の必要はありません。

評価方法

毎回の小テスト（２０%）
宿題（１０～１５分程度でできるもの）（３０%）
定期試験（３０%）
出席およびその他平常点（２０%）

Classroom quizzes will count for 20%, homework for 30%, a final exam for 30% and classroom participation for 20%.

受講者への要望

①出席と授業への積極的な取り組みを重視します。
②英英辞典（授業中に推薦します）を携帯して下さい。

Students must attend regularly and participate actively in the classroom activities. Students should own an English learners' dictionary (the lecturer will suggest suitable ones).

年間授業計画

以下の各項目をそれぞれ２週間で行う。各授業の前半を基本内容の習得にあて，後半を実際のアクティビティに重点を置いた異文化理解などの諸問題に関するディスカッションにあてます。

Each unit will cover two weeks. The first half of the unit will contain controlled language activities. The second half will contain a broader range of less controlled practice activities and will include discussion on topics of cross cultural interest and potential problematic areas.

Topic	*Target language* ***Culture File***
1.First Meetings-	*Simple questions and answer forms* ***Greetings: What to be and what not to do***
2.You and you company-	*Present simple tenses* ***Socializing: Asking the right questions***
3.Visiting clients-	*polite questions and responses* ***Office layout***
4.Business activities-	*Sequencing* ***Office life: How people behave***
5.Fixing an appointment-	*"Could I…?", "How about …?" etc.* ***Appointment etiquette***
6.Requests and offers-	*"Could you…?", "Would you like to …?" etc.* ***Names and nicknames***
7.Company and personal history-	*Post simple tenses* ***Job mobility***
8.Making plans-	*"We want to…", "We're going to .." etc.* ***Tipping***

9.Opinions and preferences-

"Personally, I prefer…",

etc.

How to interrupt politely

10.Invitations and Directions-

"Would you like to …",

etc.

Dress for the occasion

11.Entertaining - *"What would you like to eat/drink?"*

How to entertain business clients

12.Saying goodbye- *Thanking people*

Gift giving

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰａ・ｂ
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	仙　田　幸　子

講義の目標

語学力の基本は「読む」能力である。そこで、英語の文献を読みこなす力の養成を目的とし、１つの文献を速読と熟読という２つの方法で読む。速読ではある程度の量を一度に読み、論文の構成と重要な点を正確につかむことを心がける。熟読では逐語訳を行い内容を深く理解することを心がける。

講義概要

あらかじめ分担を決め、担当者のレポートをもとに内容を検討する。報告の際にはレジメを用意し、それをもとに報告する。

文法規則に従って文章を理解する力をつけることを重視する。

評価方法

前期：担当部分についてのレジメと報告内容（70%）および授業態度（30%）を 100 点満点に換算し、合計で 60 点以上の受講者に単位を与える。

後期：担当部分についてのレジメと報告内容（70%）および授業態度（30%）を 100 点満点に換算し、合計で 60 点以上の受講者に単位を与える。

受講者への要望

毎回必ず出席すること。

予習を必ずしてくること。

英和辞典を持ってくること。

担当制なので履修の変更は 2 週目までにすること。

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰ　a・b
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	高　松　和　幸

講義の目標

現代経営学に影響を与えた名著を読む。

英語文献を正確に読むには、英語力と専門知識の両方が必要である。前者は、すでに持っている知識を生かして精読することによって英語力をつけることを目標とする。後者は、解説や練習問題を解くことで習得を目指す。

講義概要

組織を構成する諸種の体系を学習できるように配慮するとともに、前編を読まなくとも理解できるように解説を加えることにする。

テキスト

コピー配布予定。なお、必要に応じて他文献のコピーも配布する予定。

評価方法

レポート・授業出席状況による総合評価。

受講者への要望

予習・復習をすること。

前期授業計画

1. The literature of organization theory
2. same as above
3. same as above
4. Some types of propositions
5. same as above
6. Taylor's Scientific management
7. same as above
8. Operational and empirical problems of classical administrative science
9. same as above
10. Theory of bureaucracy
11. same as above
12. Conclusion

後期授業計画

1. Motivation to produce
2. The evoked set of alternative
3. same as above
4. Individual goals
5. same as above
6. The theory of organizational equilibrium
7. same as above
8. Employee participation : The participation criterion
9. same as above
10. Employee participation : The general model
11. same as above
12. conclusion

01 **科目名**	**経済・経営外国語Ⅰ　ａ・ｂ**
98 **科目名**	**経済・経営外国語**
97 **科目名**	**外国書研究Ⅰ**
担当者	**西　川　純　子**

講義の目標

　経営学の古典に親しむことによって経営学の思想の面白さに触れてみたいと思います。

テキスト

Peter Drucker, *Nonprofit Organization Management*

受講者への要望

　必ず予習をしてくること。欠席をしないこと。

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰa・b
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	本　田　浩　邦

講義の目標

経済英語をつうじて英語に親しみ，基礎的な力を身につける。

講義概要

週１回という限られた時間ではあるが，できるだけたくさんリーディングとリスニングを行いたい。

テキスト

リーディングのテキストは適宜配布する。

参考文献

長谷川啓之『英和和英経済用語辞典』富士書房

評価方法

授業時間の冒頭に行うクイズ（小テスト）およびその他の平常点による。

受講者への要望

継続的に出席していただきたい。辞書はポケット辞書のようなものではなく，中辞典を持参すること。ANCHOR などの学習辞書も語彙が少ないので好ましくない。可能ならば，夏と春に行われる経済学部の英語集中講座および本年度行われる TOEIC スコアアップセミナーを受講していただきたい。

年間授業計画

授業の構成は、①Grammar (15min), ②Listening (30min), ③ Reading (30min), ④ presentation (15min)である。

リスニングはアメリカのラジオ番組(National Public Radio)その他からピックアップした経済的な話題を用いる。

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰａ・ｂ
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	益　山　光　央

講義の目標

前期は経済学、国際経済学の専門書を読みます。後期は新聞、雑誌等から経済問題に関する記事を選び読みます。

講義概要

前期は英文の専門書を正しく読む訓練となります。後期は、テーマごとの要約になります。

テキスト

テキストは指定しません。講義資料は配布します。資料によってはネットを使って配布することもあります。また、レポート提出もネットをつかいます。指定の英和辞典を毎回持参のこと。辞書は下記の辞書を指定します。

「プログレッシブ英和中辞典」、小学館

参考文献

なし

評価方法

毎回出席調査します。前期 6 回以上、後期 6 回以上の欠席者は定期試験の受験停止とします。

レポート 20%、質問・コメント 10%、出席 10%、年度末試験 60%

受講者への要望

予習、復習をすること。講義は休まないこと。

前期授業計画

第 1 回　消費の理論
第 2 回　生産の理論
第 3 回　完全競争
第 4 回　不完全競争
第 5 回　厚生経済学
第 6 回　国際貿易
第 7 回　国際貿易
第 8 回　国際収支
第 9 回　国際収支
第 10 回　国際経済問題
第 11 回　国際経済問題
第 12 回　国際経済問題

後期授業計画

第 1 回～12 回　未定

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰ　a・b
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	百　瀬　房　徳

講義の目標

講義の目標ヨーロッパ経済共同体が 1993 年より形成され，現在では欧州連合になろうとしています。この形成のために種々の制度が統一されてきました。そのうちの付加価値税を通じて統一過程を眺めてみようと思う。

講義概要

付加価値税は導入以来ほぼ 100 年になろうとしている。ヨーロッパ経済共同体の財源となって以来，非常に大きな役割を果たすようになってきた。付加価値税の歴史，付加価値税の基礎概念，計算方法，付加価値税を全加盟国に導入するための障壁の除去等について文献を通じて理解する。

テキスト

Ernst＆Young；VAT　in　Europe

参考文献

無し

評価方法

前期：テスト

後期：テスト

受講者への要望

講義のあった日に必ず復習すること。

前期授業計画

下記の項目にしたがって授業をすすめる；

The European Economic Community
The Aims of the European Community
The White Paper
The Community's Institutions
　The European parliament
　The Council of Ministers
　The Court of Justice
The Financial Means of The Community
The Value Added Tax
VAT in THe Community

後期授業計画

下記の項目にしたがって授業をすすめる；

Harmonisation of VAT in The European Community
　General
　EC Council Directives
The Proposals for Futur Harmonisations
Commission's Proposals for a Single Market
The 1987 Proposals of The Commission
　Removal of Fiscal Barriers
　The Clearing System
　The Approximation of VAT Rates
　Services

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰ　a・b
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	山　越　　徳

講義の目標

英文の文献を通して経済、社会および経済学の知識や理解を深めるとともに専門用語に触れ、これを身近なものにする。とくに最近の状況をより理解するため、国際化、経済統合、国際労働力移動あるいはプロスポーツの経済や時間・空間の経済学などの文献を扱っていくことにする。

講義概要

数多くの事柄や言葉に触れること、1 つ 1 つを読み終えることの条件を充たすために、4〜5 篇のペーパーを共に読んで、議論し、理解していくことを目指す。

また関連事項について調べてくるよう指示することがある。

テキスト

ペーパーのコピーしたものを配布する。

参考文献

授業中辞書は必ず持参すること。

評価方法

前期テストに代わるレポート（夏休み中に与えられたペーパーについてのもの）と、後期テストの結果による。

受講者への要望

ペーパーのテーマに関連した文献（日本語文献や訳本でもかまわない）を数多く読み、知識や言葉をより多く蓄えること。

年間授業計画

1. ペーパーの分量にもよるが、できれば 1 つのペーパーを 4〜5 週で読み終える予定で進めたい。

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰ　a・b
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	山　本　美樹子

講義の目標

日ごろ経済に関連したさまざまな新聞記事を英語で読めるようにする。

講義概要

この経済外国書講読を初歩，3 年次に選択する外国書講読を応用編と考えてもらいたい。本稿ではとくに financial　times とかを使い，また英字新聞で経済に関係のある社説を取り上げて読んでいきたいと考えている。

評価方法

授業時間中の予習具合と学期末試験

受講者への要望

演習形式の授業なので出席を必ずとる。また，演習形式とは学生が積極的に参加（具体的には予習）をすることにより，初めて学生にも有益なものとなるので，予習を必ずしてくること。

年間授業計画

1.オリエンテーション
2〜11 週　英字記事を読む
12 週　前期テスト
13〜22 週　英字記事を読む
23 週　講義のまとめ
24 週　後期のテスト

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰ　ａ・ｂ
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	湯　田　雅　夫

講義の目標

環境マネジメントの内容の把握と理解につとめる。

講義概要

環境マネジメントに関するテキストを採用して、各自の予習を前提に、輪読形式で進める。

テキスト

未定

参考文献

その都度指示する

評価方法

前期：担当個所の訳と授業への貢献度による評価
担当個所の訳を受講生全員に配布すること
後期：担当個所の訳と授業への貢献度を勘案し、後期試験期間中に行う後期試験によって評価
担当個所の訳を受講生全員に配布すること

受講者への要望

私語厳禁。予習復習を必ずしてくること。

前期授業計画

1. オリエンテーション
2. プリントの輪読
3. プリントの輪読
4. プリントの輪読
5. プリントの輪読
6. プリントの輪読
7. プリントの輪読
8. プリントの輪読
9. プリントの輪読
10. プリントの輪読
11. プリントの輪読
12. プリントの輪読

後期授業計画

1. 後期オリエンテーション
2. プリントの輪読
3. プリントの輪読
4. プリントの輪読
5. プリントの輪読
6. プリントの輪読
7. プリントの輪読
8. プリントの輪読
9. プリントの輪読
10. プリントの輪読
11. プリントの輪読
12. プリントの輪読

01 科目名	経済・経営外国語　Ⅰａ・ｂ
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究Ⅰ
担当者	米　山　昌　幸

講義の目標

この授業では、経済学部のすべて学生にとって専門領域の基礎となる「経済学」を、英文テキストの輪読を通して学びます。

すでに 1 年次に「経済学」を履修した学生は「経済学」の授業の補完として、もう一度英語で経済学を学ぶことであいまいな理解をより確かなものにできるでしょうし、また経営学科の学生で「経済学」を選択していない学生には「経済学」の授業の代替となるようにしたいと思います。講義形式とは異なり、主体的な報告形式によって、いっそう経済学への理解と興味が深まることを期待します。

講義概要

前期にはテキストのミクロ経済学の範囲を中心に輪読し、後期にはテキストのマクロ経済学の範囲を輪読します。報告者にはワープロを用いてレジュメを作成し、そのレジュメをもとに報告してもらいます。英文和訳よりもむしろ内容理解に重点を置き、毎回かなりの分量を読み進みます。基本的には受講者の輪読で授業を進めますが、必要に応じて講義を取り入れて補足していきたいと思います。

なお、こちらから報告者を指名することはしませんので、各自の意欲や必要性に応じて自主的に報告を担当してください。

テキスト

Wessels, Waiter J., *Economics: A Streamlined Course for Students and Business People* (*2nd edn.*). New York: Barron's Educational Series, Inc., 1993.

※第 1 回目の授業からテキストの内容に入りますので、テキストを事前に購入し、Chapter 1 (pp.1－11) を予習してきてください。

参考文献

英和辞典は、次のようなものが有用でしょう。

松田徳一郎(編)『リーダーズ英和辞典(第 2 版)』研究社，1999 年。

長谷川啓之(編)『最新英和経済ビジネス用語辞典』春秋社，1997 年。

評価方法

[前期]定期試験の成績と報告回数によって成績評価を行う。

[後期]定期試験の成績と報告回数によって成績評価を行う。

受講者への要望

受講者は必ず予習・復習をしてください。毎回かなりの分量を読みますので、欠席は禁物です。またテキストの各章末には練習問題と解答が用意されていますので、自習に利用してください。

前期授業計画

週	内容(テキストの範囲)
1	**イントロダクション** 授業の形式と学習方法、評価基準、参考文献の紹介 1. WHAT IS ECNOMICS ALL ABOUT?
2	2. HOW TO USE GRAPHS IN ECONOMICS
3	3. SUPPLY AND DEMAND: PART ONE
4	4. SUPPLY AND DEMAND: PART TWO
5 6	16. ELASTICITY
7	17. THE THEORY OF DEMAND
8	18. COST AND OUTPUT
9	19. COMPETITIVE SUPPLY
10	23. EFFICIENCY AND REGULATION
11 12	29. INTERNATIONAL TRADE

後期授業計画

週	内容(テキストの範囲)
1	5. MEASURING NATIONAL OUTPUT
2 3	6. INFLATION AND UNEMPLOYMENT
4	7. AGGREGATE DEMAND AND SUPPLY: THE KEY TO MACROECONOMICS
5 6	8. AGGREGETA DEMAND IN THE PRIVATE SECTOR: THE KEYNSIAN MODEL
7	9. AGGREGATE SUPPLY AND GETTINE TO FULL EMPLOYMENT
8	10. FISCAL POLICY: GOVERNMENT SPENDING AND TAXATION
9	11. THE SUPPLY OF MONEY
10	12. MONEY AND AGGREGATE DEMAND: KEYNSIAN MODEL
11	13. MONEY AND AGGREGATE DEMAND: MONETARIST MODEL
12	14. INFLATION AND UNEMPLOYMENT

01 **科目名**	**経済・経営外国語（独）Ⅰa・b**
98 **科目名**	**経済・経営外国語（独）**
97 **科目名**	**外国書研究(独)Ⅰ**
担当者	**大　西　健　夫**

講義の目標

ドイツ語の文献・資料の講読を通じて経済学・経営学におけるドイツ的な考え方を理解できるようになりたい。

講義概要

経済学の基礎知識である経済循環図式を読みとる作業からはじめて、新聞の経済記事を読めるように授業を組み立て指導する。講読資料の選択には学生諸君の希望を取り入れたい。

テキスト

未定

参考文献

なし

評価方法

前期：講読への参加度と期末試験

後期：講読への参加度と期末試験

受講者への要望

ドイツ語初級履修済のこと

前期授業計画

前期は、経済学基礎文献を講読する。

テキストの選択には学生諸君と相談する。

後期授業計画

後期は、学生諸君が希望する経済分野に関する文献・資料を講読する。

学生諸君がテキストを提案することも可能である。

01 科目名	経済・経営外国語（ﾌﾗﾝｽ語）Ⅰa・b
98 科目名	経済・経営外国語（フランス語）
97 科目名	外国書研究Ⅰ（フランス語）
担当者	千代浦　昌　道

講義の目標

比較的やさしいフランス語の経済関連文献の講読を通じて、フランス・ヨーロッパ等を中心とする世界経済の現状を理解すること。

講義概要

前期には、フランス経済の現状に関するフランスの高校テキストを購読する。後期には、新聞、雑誌等に掲載されたやさしい経済関連記事を講読する。授業内容の難易度は、受講者のフランス語修得レベルに合わせて調整する予定。

テキスト

コピーを随時配布する。

参考文献

松本　正『実務に役立つ経済フランス語』（第三書房、1971）

松本　正『時事経済フランス語』（第三書房、1973）

小林　茂『新聞のフランス語』（白水社、1984）

評価方法

前期、後期の終わりの課題についてのレポート（仏文和訳）によって評価する。出欠は成績評価の参考資料とする。

受講者への要望

新聞、雑誌の政治・経済記事を読む習慣をつけること。

年間授業計画

第 1 回

（1）授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明

（2）最近のフランスの政治経済情勢の基礎知識

第 2 回以降は、随時に配布するフランス語テキストを使用して授業を行う。

01 科目名	経済・経営外国語（中国語）Ⅰａ・ｂ
98 科目名	経済・経営外国語（中国語）
97 科目名	外国書研究Ⅰ（中国語）
担当者	全　　載　旭

講義の目標

この授業では中国語の初級段階を終え、さらに中国語の学習を継続しようとする学生、特に中国経済に関心のある学生を対象にする。中国経済が抱えているいろいろな問題を、原典から理解できるように授業を進めて行きたい。

講義概要

最初には、中国語の基礎的な文法を勉強する。中国経済関連記事を選び、それに沿って授業を進めるが必要に応じて講義もする。

テキスト

履修者の中国語習得レベルに合わせて調整する。

参考文献

必要に応じて配布する。

評価方法

前期及び後期の筆記試験によって成績評価を行う。

受講者への要望

受講者は必ず予習をしてほしい。初回の授業に必ず出席すること。

01 科目名	経済・経営外国語Ⅰa.b（外国人学生用）
98 科目名	経済・経営外国語Ⅰ(外国人学生用)
97 科目名	外国書研究Ⅰ(外国人学生用)
担当者	ジム・ブローガン

講義の目標

外国人留学生のための経済・経営外国語。この科目では，ビジネス英語の基礎を学びます。リスニング，スピーキング，およびボキャブラリーの能力を様々なビジネスの場面に即して身につけます。

●クラス分けの試験・諸注意事項があるので受講希望者は「時間割表」で確認して下さい。

The course will introduce students to using English in real life business situations. Emphasis will be on improving listening and speaking skill as well as acquiring the vocabulary used in a modern business environment.

講義概要

リスニング能力を身につけるためにたくさんのテープ教材の聞き取りを行います。受講者は積極的な姿勢で取り組んで下さい。

The class will make extensive use of taped material to improve listening ability and students will be expected to play an active role.

テキスト

Business Venture 1(Oxford University Press2000)
さしあたり購入の必要はありません。

評価方法

毎回の小テスト（２０%）
宿題（１０～１５分程度でできるもの）（３０%）
定期試験（３０%）
出席およびその他平常点（２０%）

Classroom quizzes will count for 20%, homework for 30%, a final exam for 30% and classroom participation for 20%.

受講者への要望

①２年生は，初回（４月９日）火曜日１時限にガイダンスを行いクラス分けのテストを行います。レベルに応じて翌週以降の火曜日１時限か２時限かのいずれかを履修を指定します。３年生以上は指定された時限を登録してください。

②出席と授業への積極的な取り組みを重視します。

③英英辞典（授業中に推薦します）を携帯して下さい。

Students must take orientation and placement examination on the first day (April 9, AM 9:00) and will be placed on either1st session or 2nd session on Tuesday. Students must attend regularly and participate actively in the classroom activities. Students should own an English learners' dictionary (the lecturer will suggest suitable ones).

年間授業計画

以下の各項目をそれぞれ２週間で行う。各授業の前半を基本内容の習得にあて，後半を実際のアクティビティに重点を置いた異文化理解などの諸問題に関するディスカッションにあてます。

Each unit will cover two weeks. The first half of the unit will contain controlled language activities. The second half will contain a broader range of less controlled practice activities and will include discussion on topics of cross cultural interest and potential problematic areas.

Topic	*Target language* ***Culture File***
1.First Meetings-	*Simple questions and answer forms* ***Greetings: What to be and what not to do***
2.You and you company-	*Present simple tenses* ***Socializing: Asking the right questions***
3.Visiting clients-	*polite questions and responses* ***Office layout***
4.Business activities-	*Sequencing* ***Office life: How people behave***
5.Fixing an appointment-	*"Could I…?", "How about …?" etc.* ***Appointment etiquette***
6.Requests and offers-	*"Could you…?", "Would you like to …?" etc.*

Names and nicknames

7.Company and personal history-

Post simple tenses

Job mobility

8.Making plans- *"We want to…", "We're going to .." etc.*

Tipping

9.Opinions and preferences-

"Personally, I prefer…", etc.

How to interrupt politely

10.Invitations and Directions-

"Would you like to …", etc.

Dress for the occasion

11.Entertaining - *"What would you like to eat/drink?"*

How to entertain business clients

12.Saying goodbye- *Thanking people*

Gift giving

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究Ⅱ**
担当者	**青　木　雅　明**

講義の目標

経済学の基本的な英文が読めるようになる。

講義概要

下記のテキストについて、①音読してもらう、②専門用語および基本となる事実と理論を解説する、③日本語訳を書いて提出してもらう、④提出された訳文をときどき講評する、という翻訳教室です。

テキスト

Stiglitz, J. E.（1997）, *Trade Policy, Chapter 38 in Economics／Joseph Stiglitz, ―2nd Edition*, W. W. Norton. 毎回 1〜2 ページのコピーを配布します。

参考文献

中型英和辞典（毎回持参して下さい）

評価方法

前後期とも、毎回提出される翻訳文の成果、出席及び遅刻の状況によります。欠席 8 回超で単位権喪失（遅刻または早退 3 回＝欠席 1 回)。欠席 1 回はほぼ 5 点減に相当します。

受講者への要望

授業中における私語、やむを得ない場合以外の教室への出入りは禁止します。

年間授業計画

毎回 1 ページの進度を予定します。

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究 II**
担当者	**朝比奈　　剛**

講義の目標

現代経済や経済学に関する英文を読み解く能力を身につけるための授業です。新聞、雑誌、論文などを教材にして、現代の世界経済、日本経済、経済学と現代社会などについて学びます。

講義概要

予定としては、「現代の世界経済～グルーバル化とリージョナル化～」、「情報技術（IT）と現代経済」、「地球環境と経済社会」、「アメリカ経済」、「ヨーロッパ統合」、「日本経済と『構造改革』」のテーマの他に、皆さんの希望するテーマを取り入れ、年間で７～８つのテーマを学びます。約３回の授業で１つのテーマを扱います。担当者の翻訳と報告、私の解説、参加者全体での議論を通して、理解を深めてもらいたいと思います。

テキスト

プリントを配布します。

参考文献

必要に応じて紹介します。

評価方法

前期、後期ともに、担当部分の翻訳・報告に、出席状況、授業への参加姿勢を加味して評価します。

受講者への要望

積極的に授業に参加して下さい。なお、辞書を持参して下さい。

授業計画

上記の講義概要を参考にしてください。

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究Ⅱ
担当者	井　出　健二郎

講義の目標

最近、メリルリンチ、ＧＡＰなど外資系の企業が日本に参入しています。そうした企業から情報を得るには、自然と英語力が必要とされるでしょう。

また、テレビや新聞などでは IT をはじめとしてカタカナ（原語）で綴られている経済・経営に関するコトバがあふれています。それらのコトバはどのような意味をもつかをしっかりと理解しておくことが必要となるはずです。

英書を読むことを通じて、そうしたコトバにふれること、意味を理解すること、そして必要なときには使えるようになることを目標にしていきます。その結果として、英語力が少しでもアップできれば…皆さんのニーズとこちらの想いが一致するはずです。

本講義は、経営外国語・経済外国語のステップとして、あるいは国際的ビジネスでの不可欠な学習として、リンクしていければと思います。

講義概要

経済学（Economics）、経営学（Management）、会計学（Accounting）あるいはマーケティング（Marketing）など皆さんがこれまでの大学の授業で学んだ領域があるでしょう。この分野の外国書をもとに講義していきます。ただし、初級・中級レベルのテキストを使用して、抵抗なく学べるような態勢をとります。外国書講読は講義科目ですが、皆さんにも努力していただくことが中心となるでしょう。

よって、進め方は、①テキストを読むにあたって、専門用語（テクニカルターム）を訳し、覚えてもらう、②それをもとに本文について担当者を決めて、（事前に・予習して）訳をつけてもらう、③必要とあればこちらから補足説明をする、といったかたちをとります。

また、皆さんにとって役立つような情報（主として日本経済新聞を主とする新聞記事）などを随時とり入れていく予定です。

テキスト

開講時にこちらからプリントを配布します。

参考文献

経済・経営・会計など専門の分野の英書を読むには、英和の経済・経営・会計に関連する辞書を用意する必要があるでしょう。これらについては開講時にそのいくつかを紹介することにします。

評価方法

（前・後とも）出席を中心に評価をします。出席することは自然と訳すというチャンスがあり、最大の評価の場となるからです。また、成果としての前期試験・後期試験なども重要な評価のポイントとなります。

受講者への要望

積極的に参加してください。自分で選択したのですから、出席をし、担当となった箇所については責任をもってやりとげることをお願いしておきます。授業とそこに集まる皆さんとは理想としてゼミのような雰囲気で接したいと思っています。

前期授業計画

1. 講義をはじめるにあたって
2〜11. 講義概要の①、②、③の反復
12. 前期のまとめ

後期授業計画

1. 講義をはじめるにあたって
2〜11. 講義概要①、②、③の反復
12. 後期のまとめ

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究 II**
担当者	**井　上　靖　代**

講義の目標

新聞・雑誌、インターネット、衛星放送などを利用して現在進行中の「生きている」英語を実践的に使える力を養い、英語でディベートができるようになることを目的とします。

講義概要

読解力だけでなく、文章作成能力、スピーチ力などを総合した形で学習するために、英文新聞記事や雑誌記事、インターネットなどから最新の記事をとりあげ、ディスカッションしながら内容を把握していきます。

テキスト

毎回配布ないしは各自で入手

参考文献

適時示唆

評価方法

前期・後期とも出席（３６%）レポート（２０%）試験（４４%）の割合で評価の予定

受講者への要望

自分で考え、自分で読み、自分の言葉でまとめられる参加性を求めます。

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究 II**
担当者	**上　坂　卓　郎**

講義の目標

原文で学術論文等を読むことに、チャレンジする。専門用語を覚える。該当論文に関連のある文献も調べ、論文の主張にどのような特色があるか、どのような立場に立ったものか見極める力を身につける。

講義概要

同一テーマの論文をいくつか選定して、読み合せることにする。

毎回分担を決めて、割当られた人達によるディスカッションをしてもらいます。

テキスト

企業論、中小企業論の論文を使う。適宜配布する。

参考文献

日本の関連文献も適宜紹介する。

評価方法

出席と割当られた担当報告による総合評価。報告用ハンドアウトは提出し、評価対象とする。

受講者への要望

ベンチャービジネス論とは関係ないテーマの論文が選定される可能性がある。

単なる読解に止まらず、内容理解のための学習、関連研究などを心がけてほしい。

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究 II**
担当者	**大　友　敏　明**

講義の目標

目標は，経済英書を自分の力で読めるようにすることであり，それをつうじて株式会社論の理論的および実証的知識を習得することにある。

講義概要

受講生に毎回和訳してもらう。そのうえで，そこにのべられている内容について講義する。

テキスト

Scott John,*Corporate Business and Capitalist Classes*,Oxford University Press,1997.

参考文献

適宜指示する。

評価方法

通常の授業の平常点（出席と訳出分担）を重視するが，前期と後期の終わりにレポートを提出してもらい，その点数も加味して総合的に評価する。

受講者への要望

英語をただ和訳するだけでは十分ではない。輪読する本は，株式会社論についての定評のある本なので，理論的および実証的知識が要求される。1 年間過ぎてみれば，経済英書を読んだという実感が残る本である。

前期授業計画

1　授業の進め方と総論
2　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 1 章を読む
3　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 1 章を読む
4　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 1 章を読む
5　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 1 章を読む
6　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 1 章を読む
7　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 1 章を読む
8　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 1 章を読む
9　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 1 章を読む
10　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 1 章を読む
11　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 1 章を読む
12　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 1 章を読む

後期授業計画

1　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 2 章を読む
2　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 2 章を読む
3　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 2 章を読む
4　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 2 章を読む
5　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 2 章を読む
6　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 2 章を読む
7　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 2 章を読む
8　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 2 章を読む
9　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 2 章を読む
10　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 2 章を読む
11　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 2 章を読む
12　Corporate Business and Capitalist Classes, 第 2 章を読む

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究II**
担当者	**奥　山　正　司**

講義の目標

21 世紀を目前にして本格的な高齢社会をむかえようとしている日本社会では、高齢化や高齢者に関しては、社会福祉や健康・医療だけでなく、経済的、法律的な問題などさまざまな視点から論ぜられるようになってきている。こうした中で、特に寝たきり老人や痴呆老人など要介護老人を対象とした介護にかかわる狭義の福祉や保健・医療などについては、今後どのようにしていくかというきわめて重要な課題がある。本年度はそれらの課題を視野に入れながら、高齢化について考える力を身につけさせる。

講義概要

エイジング総合研究センターが作成した日本の高齢化に関する態様についての小冊子を輪読し、さらにはそれぞれの課題について、講義と討論を併用し、多少なりとも専門の用語や課題について深めていくことにしたい。

講義の内容は、日本における高齢者への保健・福祉サービスの変遷や現状について及び介護保険制度などを含めた社会保障に関するものである。

テキスト

Aging in Japan, 2001

Part Ⅱ Social Security, Health Care, and Social Service for the Elderly in Japan

（日本における社会保障、高齢者への保健福祉サービス）

受講者にはコピーして配布する

評価方法

予習、復習、発表、出席などの総合点で評価する。

受講者への要望

こつこつと予習をしてくること。基本的には受講生が輪読し、それぞれの課題について多少討論できるようなかたちで進めていきたい。また、専門用語の習得や課題についても深めていくことにしたい。したがって、受講者全員に予習を義務づける。

前期授業計画

1. 年間の計画について
2. ～3. 高齢社会の課題それへの挑戦
4. ～5. 高齢化社会の人口学的な側面と課題
6. ～7. 日本における高齢化の特徴
8. ～9. 人口の高齢化と家族および世帯の変化
10. ～12. 現代日本における家族組織と価値・規範の変化および性別役割

後期授業計画

1. ～3. 高齢化と巨視的な経済問題
4. ～6. 結婚と子供の出生動向と少子高齢化
7. ～9. 第２次大戦後の保険・福祉サービスの変遷と現状
10. ～12. 高齢者に対する保険・福祉サービス及び介護保険等の社会保障

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究Ⅱ**
担当者	**金　井　繁　雅**

講義の目標

国際会計に関する基本的な文献を素材にして、その内容を正確に把握できる読解力を高め、専門用語を学ぶとともに会計基準のあり方を考える。

講義概要

会計の国際化はますます進展しており、国際会計基準（ＩＡＳ）のわが国への導入も現実味をおびてきた。ここでは会計基準の国際的調和化の意義をテキストを精読しながら、各国の会計制度の比較という視点から考えてみる。

テキスト

未定（コピーを配布）

評価方法

前期：授業の発表内容、定期試験、出席状況等の総合点によって評価する。

後期：授業の発表内容、定期試験、出席状況等の総合点によって評価する。

受講者への要望

必ず予習を行ってくることは当然であり、欠席をしないこと。

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究 II**
担当者	**齋　藤　正　章**

講義の目標

外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくありません。最近は、海外で出版されるのとほぼ同時に翻訳されたりもします。また、インターネットの急速な進展によって翻訳支援ツールも充実してきています。こうした状況は、読解のための語学力はさして高める必要はないと感じさせるかもしれません。しかし、それらはあくまでも「他人の訳」であって自分のものではありません。原著にある微妙なニュアンスは、原著を読んだ人にしか分からないものです。本講義では、原著の内容を自分の言葉で理解するための読解力の養成を目標としています。

講義概要

経営関係の外国書を読むにはスピードと正確性が要求されます。しかし、この 2 つをバランスよく両立させることはなかなか容易ではありません。そこで、講義の始めに正確性を重視した読解を行い、次にスピードを重視した読解をし、また最後に正確性の読解をトレーニングする 3 部構成をとります。

講義を進めていくと、問題なのは英語力ではなく、経済や経営あるいは社会に関する問題意識の欠如や知識不足が原因で読みこなせないという場面に出くわすことがあります。こういう場合は、基礎概念を平易に解説しながら進めていきます。

テキスト

開講時に指示します。

（経営をとりあげたテキストや雑誌を広く読む予定です）

参考文献

特にありませんが、経営、経済、会計関係の英和辞典を手許に置いておくとよいと思います。

評価方法

定期試験の結果に出席率、平常点を加味して評価します。

受講者への要望

辞書を引く手間を惜しまないようにしましょう。

授業には必ず英和辞典を持参してください。

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究 II**
担当者	**清　水　絹　代**

講義の目標

本講義の第一の目標は、国際ビジネスに関わる諸問題にはどのようなものがあるのか、それらの問題に対してどのような解決策が考えられるのか、英文のケースを通して考える力を養うことにあります。第二の目標は、大量の英文を読むために必要な英文の効率的な読み方そのものを扱い、基礎力の向上をはかることにあります。第三の目標として、国際ビジネスの現場で必要なコミュニケーション能力をも養うため、英語によるプレゼンテーションの機会を作り、積極的にそれらに参加できるようになることを目指します。

講義概要

英文の効率的な読み方の修得に関する方法の説明や練習を講義の最初に行います。講義中に使用する英文ケースは講義一週前に配ります。毎回講義が始まる前までに各自がケースを必ず読み、与えられた課題の回答を考えてきて下さい。講義内では、グループ毎にケースに関するディスカッションを行います。ケースや解説等の要約は学期末に提出してもらいます。前期、後期とも講義の最終回はプレゼンテーション･コンテストとし、国際ビジネスに関わる起業プランを英語で作成し、そのプレゼンテーションを英語で行います（全員、正装で参加）。英語でプレゼンテーションを行う際に配慮が必要なことや起業プランの作成方法は講義内で説明します。毎回講義終了前10分程度で、「①今日の講義で何を学んだか、②どんな発見があったか、①、②を今後、何にどう役立てたいか」を出席カードの裏に書いてもらいます。高い評価を得た学生のフィードバックは無記名で縮小コピーし、次の講義で履修者全員に配布します。

テキスト

開講時に指示します。

参考文献

Adler, N. (1996). *International Dimensions of Organizational Behavior,* 3rd ed. South-Western College Publishing.

Cushner, K. & Brislin, R. (1996). *Intercultural Interactions: a Practical Guide,* 2nd ed. Thousand Oaks: Sage.

Harris, P. & Moran, R. (1991). *Managing Cultural Differences*, 3rd ed. Houston: Gulf Publishing Co.

Horan, J. (1998). *The One Page Business Plan.* CA: The One Page Business Plan Company.

Mikulecky, B. S., & Jeffries, L. (1998). *Reading Power*, 2nd ed. NY: Longman.

Minto, B. (1995). *The Pyramid Principle: Logic in Writing and Thinking.* Pitman Publishing.

Rhinesmith, S. (1993). *A Manager's Guide to Globalization: Six Keys to Success in a Changing World.* IRWIN Professional Publishing.

Trompenaars, A., & Hampden-Turner, C. (1998). *Riding the Waves of Culture: Understanding Cultural Diversity in Global Business,* 2nd ed. New York: McGraw Hill.

評価方法

前、後期とも出欠席、授業内の発言等の参加態度（講義フィードバックを含みます）、課題レポート等の提出物、プレゼンテーション、定期試験などを総合的に評価します。定期試験の際には、試験会場へテキストやノートなどを持ち込むことはできません。

受講者への要望

学ぶ意欲を持って主体的に講義に参加して下さい。配布資料を全く読まずに出席することは許されません。辞書は毎回必ず持参して下さい。講義内で一度配布した資料は二度と配布しません。講義中は携帯電話、PHS 等の電源は必ず切ること。マナーモードも許可しません。

前期授業計画

1. 本講義についての説明
2. ケース・スタディ
3. ケース・スタディ
4. 起業プランの作成方法
5. ケース・スタディ
6. シミュレーション・ゲーム
7. 英語で行うビジネス･プレゼンテーション
8. ケース・スタディ
9. 起業プラン･プレゼンテーション練習（使用言語：英語）
10. ケース・スタディ
11. ケース・スタディ
12. 起業プラン･プレゼンテーション･コンテスト（使用言語：英語）

後期授業計画

1. 本講義についての説明
2. ケース・スタディ
3. ケース・スタディ
4. 起業プランの作成方法
5. ケース・スタディ
6. シミュレーション・ゲーム
7. 英語で行うビジネス･プレゼンテーション
8. ケース・スタディ
9. 起業プラン･プレゼンテーション練習（使用言語：英語）
10. ケース・スタディ
11. ケース・スタディ
12. 起業プラン・プレゼンテーション・コンテスト（使用言語：英語）

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究 II**
担当者	**ジム・ブローガン**

講義の目標

この科目では，ビジネス英語の基礎を学びます。リスニング，スピーキング，およびボキャブラリーの能力を様々なビジネスの場面に即して身につけます。

The course will introduce students to using English in real life business situations. Emphasis will be on improving listening and speaking skill as well as acquiring the vocabulary used in a modern business environment.

講義概要

リスニング能力を身につけるためにたくさんのテープ教材の聞き取りを行います。受講者は積極的な姿勢で取り組んで下さい。

The class will make extensive use of taped material to improve listening ability and students will be expected to play an active role.

テキスト

Business Venture 1(Oxford University Press2000) さしあたり購入の必要はありません。

評価方法

毎回の小テスト（２０%）
宿題（１０～１５分程度でできるもの）（３０%）
定期試験（３０%）
出席およびその他平常点（２０%）

Classroom quizzes will count for 20%, homework for 30%, a final exam for 30% and classroom participation for 20%.

受講者への要望

①出席と授業への積極的な取り組みを重視します。
②英英辞典（授業中に推薦します）を携帯して下さい。

Students must attend regularly and participate actively in the classroom activities. Students should own an English learners' dictionary (the lecturer will suggest suitable ones).

年間授業計画

以下の各項目をそれぞれ２週間で行う。各授業の前半を基本内容の習得にあて，後半を実際のアクティビティに重点を置いた異文化理解などの諸問題に関するディスカッションにあてます。

Each unit will cover two weeks. The first half of the unit will contain controlled language activities. The second half will contain a broader range of less controlled practice activities and will include discussion on topics of cross cultural interest and potential problematic areas.

Topic	*Target language* ***Culture File***
1.First Meetings-	*Simple questions and answer forms* ***Greetings: What to be and what not to do***
2.You and you company-	*Present simple tenses* ***Socializing: Asking the right questions***
3.Visiting clients-	*polite questions and responses* ***Office layout***
4.Business activities-	*Sequencing* ***Office life: How people behave***
5.Fixing an appointment-	*"Could I…?", "How about …?" etc.* ***Appointment etiquette***
6.Requests and offers-	*"Could you…?", "Would you like to …?" etc.* ***Names and nicknames***
7.Company and personal history-	*Post simple tenses* ***Job mobility***
8.Making plans-	*"We want to…", "We're going to .." etc.* ***Tipping***

9.Opinions and preferences-

"Personally, I prefer…",

etc.

How to interrupt politely

10.Invitations and Directions-

"Would you like to …",

etc.

Dress for the occasion

11.Entertaining - *"What would you like to eat/drink?"*

How to entertain business clients

12.Saying goodbye- *Thanking people*

Gift giving

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究Ⅱ**
担当者	**仙　田　幸　子**

講義の目標

語学力の基本は「読む」能力である。そこで、英語の文献を読みこなす力の養成を目的とし、１つの文献を速読と熟読という２つの方法で読む。速読ではある程度の量を一度に読み、論文の構成と重要な点を正確につかむことを心がける。熟読では逐語訳を行い内容を深く理解することを心がける。

講義概要

あらかじめ分担を決め、担当者のレポートをもとに内容を検討する。報告の際にはレジメを用意し、それをもとに報告する。

文法規則に従って文章を理解する力をつけることを重視する。

評価方法

前期：担当部分についてのレジメと報告内容（70%）および授業態度（30%）を 100 点満点に換算し、合計で 60 点以上の受講者に単位を与える。

後期：担当部分についてのレジメと報告内容（70%）および授業態度（30%）を 100 点満点に換算し、合計で 60 点以上の受講者に単位を与える。

受講者への要望

毎回必ず出席すること。

予習を必ずしてくること。

英和辞典を持ってくること。

担当制なので履修の変更は 2 週目までにすること。

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究Ⅱ**
担当者	**千　葉　啓　司**

講義の目標

アメリカの会計基準設定団体である FASB が公表した『財務会計概念報告書第 6 号：財務諸表の諸要素』は、国際会計基準にも影響を及ぼした重要な文献である。この文献を検討することにより、会計学における基本的な専門用語の意味・内容および、現在進行中である会計の国際化の背景にある会計理論を習得する。

講義概要

前期には、財務諸表の諸要素間の結びつきおよび貸借対照表に表示される諸要素、すなわち資産、負債、持分について検討を加える。後期には、損益計算書に表示される諸要素、すなわち包括利益、収益、費用、利得、損失について検討したうえで、損益計算に関する基本思考、資産概念の詳細についても学習を進めていく。

テキスト

FASB , Statements of Financial Accounting Concepts.2001‐2002.

参考文献

広瀬義州　他訳『FASB 財務会計の諸概念』中央経済社

津守常弘　監訳『FASB 財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

評価方法

前期　ほぼ毎回行う予定の小テストと期末試験によって成績を評価する。

後期　前期同様、ほぼ毎回行う予定の小テストと期末試験によって成績を評価する。

受講者への要望

会計学について基本的な知識を習得していて欲しい。また、予習・復習を欠かさず行って欲しい。

前期授業計画

1. Scope and Contents of Statements
2. Objectives , Qualitative Characteristics , and Elements
3. Interrelation of Elements / Definition , Recognition , Measurement , and Display
4. Definitions of Elements
   Assets‐Characteristics of Assets
5. Assets‐Transactions and Events That Change Assets
   - Valuation Accounts
6. Liabilities‐Characteristics of Liabilities
7. Liabilities‐Transactions and Events That Change Liabilities
   - Valuation Accounts
8. Effects of Uncertainty
9. Equity‐Characteristics of Equity
10. Equity‐Equity and Liabilities
    - Transactions and Events That Change Equity
11. Investments by and Distributions to Owners
12. Summary

後期授業計画

1. Comprehensive Income‐Concepts of Capital Maintenance
2. Comprehensive Income‐Characteristics , Sources , and Components of Comprehensive Income
3. Revenues / Expenses / Gains and Losses
4. Transactions , Events , and Circumstances
5. Accrual Accounting / Accrual and Deferral
6. Realization and Recognition
7. Background Information
8. Characteristics of Assets - Overview
9. Characteristics of Assets‐Future Economic Benefits
10. Characteristics of Assets‐Control by a Particular Enterprises
11. Characteristics of Comprehensive Income
12. Summary

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究 II**
担当者	**全　　載　旭**

講義の目標

アジア経済は危機から完全に立ち直っていないものの、回復の兆しがあらわれ、世界経済の成長を牽引する大きな存在となりつつある。かつては貧しく停滞的だとみなされてきたアジアが、高度成長を実現するや一転して「東アジアの奇跡」なる賞賛を受けるに至った。ところが 1997 年に一部で通貨危機に直面すると、「奇跡」の賞賛は再度反転し、否定的評価がマスコミを賑わすこととなった。その舌の根も乾かぬうちに、マスコミはまたアジア経済の力強さを強調する。こうした毀誉褒貶は、アジア経済に対する基礎的理解の欠落によってもたらされている。

この授業ではマスコミの安易な評価に流されない確たる視点を養うことを目的として、英文テキストを通してアジア経済を学ぶ。

講義概要

テキストに沿って授業を進める。基本的には受講者の輪読で授業を進めるが、必要に応じて講義もする。事前に報告者を決め、報告してもらうことにする。

テキスト

受講者と相談した上で決める。

受講者への要望

本授業の詳細は開講時に説明するので、初回に必ず出席すること。

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究Ⅱ**
担当者	**平　井　文　子**

講義の目標

英語を楽しく学ぶためには、何より平易な文章でしかも生きた英語であることが肝要と考える。さらに本科目である外国書講読としての要件をそなえることを考慮に入れた授業をする。

講義概要

滞日期間の長いイギリス人によるユーモアとウィットに富んだ「エッセー集」を読む。折に触れてエッセーの話題に関連する学問的なテーマ例えば環境問題、外国人労働者問題、女性問題等についての短文ないし専門用語を紹介し読んでみる。学生諸君には毎回テキスト内の数行を和訳し提出してもらう。

テキスト

Brian W. Powle, “My Humorous World” Part2, NHK 出版

評価方法

前後期年 2 回の定期試験による。毎回提出の和訳も考慮に入れる。

受講者への要望

辞書を毎回必ず持参すること。

前期授業計画

1．California Dreaming － Selling Clothes to American Millionairesses
2. Katmandu, a Strange and Exotic City in the Himalayas
3. An Unexpected Visit to a Philippine Prison
4. The Galapagos Islands－Where the Iguana Is King
5. My Embarrassing Lunch with the World's Most Famous Ballet Dancers
6. An Unusual Visit to a Hacienda in the Andes Mountains of Ecuador
7. My Dream of Becoming a Hong Kong Millionaire
8. Paris Is Magnificent－But Not on a Packaged Tour!
9. My Asian Diet
10. How I Hated My Shool Report Card!
11. Riding through the Sinai Desert on a Camel
12. Myra's Cold Welcome on Bali's Paradise Island

後期授業計画

1. The Tragic Story behind Germany's Most Famous Castle
2. Hero for a Day
3. My Stay with a Dutch Family in Swinging Amsterdam
4. The Amazing and Secret World of Animals
5. Asia's Biggest, Cheapest and Craziest Seaside Resort
6. Terror on Swiss Mountain!
7. The Seashell That Put Gangsters in Prison
8. A Dangerous Safari in South Africa
9. A Rough Trip to Asia's Most Famous Waterfall
10. The Sardines and Mermaids of Norway
11. The Historical Beauty and Modern Horror of Cambodia
12. I Was Nearly Killed by Hitler's Secret Weapon

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究 II**
担当者	**益　山　光　央**

講義の目標

国際経済経済学の専門書を輪読する．内容は国際貿易と国際収支調整メカニズムをカバーしているので，読み終わると国際経済学の基本的な理論や諸概念はマスターできるし，さらに現代のホットなテーマまで知ることができる．大学院やさらにすすんだ研究を志す者には役立つと思う．

テキスト

M. Fujita, P. Kurgman and A. Venables **The Spatial Economy,** MIT press

年間授業計画

1. 空間モデル
2. 独占的競争モデル
3. 国際貿易と輸送費

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究 II**
担当者	**森　　健**

講義の目標

「経済・経営外国語」の上級クラスであり、より専門性が高く、文章も長めの経済関連論文や新聞・雑誌記事の内容を辞書なしでもある程度理解ができるようになるための訓練をする。

講義概要

日本経済の国際化に関わるような課題（貿易、投資、対外援助など）やアジア・太平洋地域を中心とする海外の経済動向を理解する上で重要と思われる学術論文、経済誌、新聞記事の最新のものを教材として配布する。各自、先ず、辞書を使わないで、自分の持っている全ての知識を動員して、内容の把握・推測に努め、それを発表し意見を述べ合う。最後に辞書を用いて徹底的に読み直す。さらに、教員が解説を加える。予習は必要ないが、プリント読了後に、概要提出が求められる。即ち、復習が義務付けられる。３ヶ月経過するとほとんどの学生が英文に対する心理的抵抗がなくなり、英文を読むスピードが速くなる。

テキスト

プリントを配布する。

参考文献

特にないが、収録語数が多い辞書を必ず持参すること。

評価方法

普段点と定期試験の結果を参考にして総合的に評価する。

受講者への要望

辞書なしで英文経済論文（記事）の概要を「推測」するためには経済事象に関する知識を増やす必要がある。普段から新聞、経済誌など「見出し」だけでも眼を通すよう努めること。

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究II**
担当者	**山　崎　靜　光**

講義の目標

英語商業通信文の形式（レイアウト）と内容（構成）の最低限を身につけ，貿易に使われる特殊な用語と技術をある程度身につけること。その過程で英語一般を使う能力も向上すること。

講義概要

テキストに従って貿易取引の時間的順序を追って商業通信文の書き方を説明した後，課題を与えて手紙を書かせ提出させ，次回の講義でその講評を行う。手紙のみならず契約書裏面約款，信用状などの読解を課し，用語に親しませる。

テキスト

物産研修センター編「ザ　ビジネスレター」（有斐閣刊）

参考文献

山崎靜光「輸出入手続きハンドブック」（中央経済社刊）

評価方法

学年試験の成績による。試験では英文の手紙を２通書いてもらう。

受講者への要望

授業中に理解することを心がけ，質問，教師に対する批判を活発にし，双方向の発信のあるクラスにするのに寄与してください。前期の終わりと学年末に，教務部のものとは別に授業評価を求め，feedbackしている。

高校程度の英語は心得ておくこと（これは見くびってはならない：この水準にある者は毎年寥寥たるものである）。

前期授業計画

1. orientation
   簡単な手紙を書いてもらう。その場で講評をし，授業のやり方を知ってもらい，受講するか否の参考にしてもらう。
2. 前回書いた手紙の詳しい講評をし，採点したものを渡す。テキスト「ビジネスレターの構成要素」の説明。
3. 「ビジネスレターの構成要素」についてのテスト（手紙を書く）。前回テストの講評の続き。
4. 前回テストの講評。「ビジネスレターの本文」の説明。
5. 「ビジネスレターの本文」についてのテスト（以下２～５の循環）
6. カバーリング　レター
7. カバーリング　レター　テスト
8. 新商売の開拓
9. 新商売の開拓　テスト
10. 引き合いとその返事
11. 引き合いとその返事　テスト。　前期授業の評価。
12. 前回テストの講評。授業評価に対する回答

後期授業計画

1. 前期試験の答案返しと講評。オファーと見積もりの説明。
2. オファーと見積もり　テスト
3. カウンター　オファー
4. カウンター　オファー　テスト
5. 受諾と拒絶
6. 受諾と拒絶　テスト
7. 受諾後の手続き。契約書裏面約款を読む。
8. 受諾後の手続き。テスト
9. 苦情とクレーム。信用状を読む。
10. 苦情とクレーム　テスト。
11. 前回テストの講評。苦情とクレームに対する返事。後期授業の評価。
12. 苦情とクレームに対する返事　テスト，その場で講評。授業評価に対する回答。

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究 II**
担当者	**山　田　浩　一**

講義の目標

本講義においては、英語の文献を通じて会計学に関する基礎的理解を形成することを目標とする。

講義概要

あらかじめプリントを配布した上で、受講生諸君から内容の報告を分担してもらう。その後、テキストの内容に沿って会計学の基礎概念を解説していくこととする。本年は、下記テキストの Chapter2 "Financial Accounting and Reporting - A Theoretical Structure"を読んでいきたい。

テキスト

"INTERMEDIATE ACCOUNTING 6 edition" Lanny G.Chasteen, Richard E.Flaherty, Melvin C.O'conner (Irwin McGraw-Hill)より抜粋して、コピーを配布する。

参考文献

会計学、財務諸表論に関するテキストはいずれも参考になると思われるので、ぜひ参考にされたい。

評価方法

講義への出席、報告、意見発表を重視する。定期試験は実施しない予定である。

受講者への要望

受講生は予習をして講義に臨むことが求められる。特に報告予定者は必ず報告準備をして出席することが必要となる。

年間授業計画

1. The Accounting Entity Assumption
2. The Periodicity Assumption
3. The Going Concern Assumption
4. The Monetary Assumption
5. Providing Information for Financial Decision Making
6. Providing Information on Cash Flows
7. Providing Information on Economic Resources
8. Providing Information on Managerial Stewardship
9. User-Specific Qualities
10. Primary Qualitative Characteristics
11. Secondary Qualitative Characteristics
12. Other Considerations and Constraints
13. International Qualitative Characteristics
14. Definitions and Interrelationships of the Elements
15. Financial Statements Bases on the Elements
16. Effects of Economic Events on the Elements
17. The Fundamental Recognition Principle
18. Principles and Concepts for Determining income Under GAAP
19. The Matching Principle
20. The Concept of Capital Maintenance
21. Modifications of the Basic Principles and Concepts
22. Disclosure and Methods of Financial Statement Presentation
23. Alternative Systems of Determing Income
24. Summary of Learning Objectives

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読**
97 **科目名**	**外国書研究 II**
担当者	**山　本　美樹子**

講義の目標

日ごろ経済に関連したさまざまな新聞記事を英語で読めるようにする。

講義概要

本稿ではとくに financial　times とかを使い，また英字新聞で経済に関係のある社説を取り上げて読んでいきたいと考えている。

評価方法

授業時間中の予習具合と学期末試験

受講者への要望

演習形式の授業なので出席を必ずとる。また，演習形式とは学生が積極的に参加（具体的には予習）をすることにより，初めて学生にも有益なものとなるので，予習を必ずしてくること。

年間授業計画

1.オリエンテーション
2〜11 週　英字記事を読む
12 週　前期テスト
13〜22 週　英字記事を読む
23 週　講義のまとめ
24 週　後期のテスト

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読（中国語）**
97 **科目名**	**外国書研究 II（中国語）**
担当者	**全　　載　旭**

講義の目標

この授業では中国語の初級段階を終え、さらに中国語の学習を継続しようとする学生、特に中国経済に関心のある学生を対象にする。中国経済が抱えているいろいろな問題を、原典から理解できるように授業を進めて行きたい。

講義概要

最初には、中国語の基礎的な文法を勉強する。中国経済関連記事を選び、それに沿って授業を進めるが必要に応じて講義もする。

テキスト

履修者の中国語習得レベルに合わせて調整する。

参考文献

必要に応じて配布する。

評価方法

前期及び後期の筆記試験によって成績評価を行う。

受講者への要望

受講者は必ず予習をしてほしい。初回の授業に必ず出席すること。

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読（フランス語）**
97 **科目名**	**外国書研究II（フランス語）**
担当者	**千代浦　昌　道**

講義の目標

比較的やさしいフランス語の経済関連文献の講読を通じて、フランス・ヨーロッパ等を中心とする世界経済の現状を理解すること。

講義概要

前期には、フランス経済の現状に関するフランスの高校テキストを購読する。後期には、新聞、雑誌等に掲載されたやさしい経済関連記事を講読する。授業内容の難易度は、受講者のフランス語修得レベルに合わせて調整する予定。

テキスト

コピーを随時配布する。

参考文献

松本　正『実務に役立つ経済フランス語』（第三書房、1971）

松本　正『時事経済フランス語』（第三書房、1973）

小林　茂『新聞のフランス語』（白水社、1984）

評価方法

前期、後期の終わりの課題についてのレポート（仏文和訳）によって評価する。出欠は成績評価の参考資料とする。

受講者への要望

新聞、雑誌の政治・経済記事を読む習慣をつけること。

年間授業計画

第 1 回

（1）授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明

（2）最近のフランスの政治経済情勢の基礎知識

第 2 回以降は、随時に配布するフランス語テキストを使用して授業を行う。

01 **科目名**	
98 **科目名**	**外国書講読(外国人学生)**
97 **科目名**	**外国書研究Ⅱ(外国人学生)**
担当者	**ジム・ブローガン**

講義の目標

外国人留学生のための経済・経営外国語。この科目では，ビジネス英語の基礎を学びます。リスニング，スピーキング，およびボキャブラリーの能力を様々なビジネスの場面に即して身につけます。

●クラス分けの試験・諸注意事項があるので受講希望者は「時間割表」で確認して下さい。

The course will introduce students to using English in real life business situations. Emphasis will be on improving listening and speaking skill as well as acquiring the vocabulary used in a modern business environment.

講義概要

リスニング能力を身につけるためにたくさんのテープ教材の聞き取りを行います。受講者は積極的な姿勢で取り組んで下さい。

The class will make extensive use of taped material to improve listening ability and students will be expected to play an active role.

テキスト

Business Venture 1(Oxford University Press2000) さしあたり購入の必要はありません。

評価方法

毎回の小テスト（２０%）

宿題（１０～１５分程度でできるもの）（３０%）

定期試験（３０%）

出席およびその他平常点（２０%）

Classroom quizzes will count for 20%, homework for 30%, a final exam for 30% and classroom participation for 20%.

受講者への要望

①２年生は，初回（４月９日）火曜日１時限にガイダンスを行いクラス分けのテストを行います。レベルに応じて翌週以降の火曜日１時限か２時限かのいずれかを履修を指定します。３年生以上は指定された時限を登録してください。

②出席と授業への積極的な取り組みを重視します。

③英英辞典（授業中に推薦します）を携帯して下さい。

Students must take orientation and placement examination on the first day (April 9, AM 9:00) and will be placed on either1st session or 2nd session on Tuesday. Students must attend regularly and participate actively in the classroom activities. Students should own an English learners' dictionary (the lecturer will suggest suitable ones).

年間授業計画

以下の各項目をそれぞれ２週間で行う。各授業の前半を基本内容の習得にあて，後半を実際のアクティビティに重点を置いた異文化理解などの諸問題に関するディスカッションにあてます。

Each unit will cover two weeks. The first half of the unit will contain controlled language activities. The second half will contain a broader range of less controlled practice activities and will include discussion on topics of cross cultural interest and potential problematic areas.

Topic	*Target language* ***Culture File***
1.First Meetings-	*Simple questions and answer forms* ***Greetings: What to be and what not to do***
2.You and you company-	*Present simple tenses* ***Socializing: Asking the right questions***
3.Visiting clients-	*polite questions and responses* ***Office layout***
4.Business activities-	*Sequencing* ***Office life: How people behave***
5.Fixing an appointment-	*"Could I…?", "How about …?" etc.* ***Appointment etiquette***
6.Requests and offers-	*"Could you…?", "Would you like to …?" etc.*

Names and nicknames

7.Company and personal history-

Post simple tenses

Job mobility

8.Making plans- *"We want to…", "We're going to .." etc.*

Tipping

9.Opinions and preferences-

"Personally, I prefer…", etc.

How to interrupt politely

10.Invitations and Directions-

"Would you like to …", etc.

Dress for the occasion

11.Entertaining - *"What would you like to eat/drink?"*

How to entertain business clients

12.Saying goodbye- *Thanking people*

Gift giving

01 **科目名**	**マクロ経済学**　a.b
98 **科目名**	**マクロ経済学**
97 **科目名**	**経済原論**
担当者	**塩　田　尚　樹**

講義の目標

マクロ経済学の理論の標準的な内容の理解を目指します。新聞・雑誌などの経済記事を読むための基礎知識としても有効です。

講義概要

「一国全体の経済活動の大きさを、どのように把握すればいいのか」という問題からスタートし、まず、ＧＤＰや国民所得といった指標を解説します。その後、これらの水準がどのような要因によって決まるのかということに目を向けて、貨幣や証券市場との関係、さらには、労働市場との関係について検討します。後期は、開放経済への拡張、あるいは、経済成長や技術進歩といった、やや進んだトピックを取り扱います。

テキスト

菊本義治　他（1999）「マクロ経済学」勁草書房

参考文献

三橋規宏　他（各年度）「ゼミナール日本経済入門」日本経済新聞社

評価方法

前期　定期試験で評価します。なお、講義中の私語などの迷惑行為の分を減点する場合があります。

後期　定期試験で評価します。なお、講義中の私語などの迷惑行為の分を減点する場合があります。

受講者への要望

見慣れない記号や用語が多く登場すると思います。初めは話が抽象的に感じられるかもしれません。けれども、一度『ノル』と後は一気に見通しがよくなると思います。そこまで辛抱してください。

前期授業計画

1：経済活動
2：国民経済計算
3：国民所得と雇用
4：消費需要
5：投資需要
6：貨幣
7：証券市場と利子率
8：均衡生産量と均衡利子率
9：金融政策と財政政策（1）
10：物価と総需要・総供給
11：金融政策と財政政策（2）
12：前期のまとめ

後期授業計画

1：比較静学分析のための数学的準備
2：IS－LM モデルの復習
3：AD－AS モデルの復習
4：国際収支と為替レート（1）
5：国際収支と為替レート（2）
6：国際マクロ経済政策（1）
7：国際マクロ経済政策（2）
8：経済変動の実際
9：経済動学のための数学的準備
10：成長経路の不安定性
11：成長と技術進歩
12：総まとめ

01 科目名	マクロ経済学ａ・ｂ
98 科目名	マクロ経済学
97 科目名	経済原論
担当者	松　本　正　信

講義の目標

現代経済の実際と理論を知識すること。経済学・社会科学の面白さの一面に、「個人にとって真なる行動も社会全体からみると必ずしも真ではない、つまり逆もまた真」とか、「経済学を学ぶ前の常識と学んだ後の常識とは異なる」といった事があります。しかしもっと大切な事は経済理論・経済思想がその時代々々の背景とともに変遷してきた事実を見極める事です。そのうえに立って出来得れば現代世界の政治経済的動向を、人類の未来像へのビジョンを、年間の経済学を通じて探ってみたいと考える。

講義概要

マクロ経済理論は個々の経済主体の行動を社会全体の 1 つの集合体と考え、その行動を 1 つの集計量としてとらえるとき、社会全体がどのような状態になるかを分析する。そのキーワードは所得、消費、貯蓄、投資、物価水準、利子率、政府の財政・金融政策等々である。これらを講義の目標に関連させるようにする。

テキスト

・小野俊夫編著『現代経済学の基礎』学文社

参考文献

・根岸隆他共著『近代経済学―経済分析の基礎理論』（有斐閣大学双書）有斐閣

・サミュエルソン，ノードハウス共書『経済学上・下』（第 13 版）（都留重人訳）岩波書店

・P. A. Samuelson & W. D. Nordhaus, Economics, 17th ed. McGraw-Hill, 2001.

評価方法

前期・後期の 2 回ある定期試験の結果に出席状況・受講態度を加味して評価する。もとより定期試験の結果を最重要視する。かといって試験さえ出来れば出席しなくともよいと思えば大間違い。自身で自学自習すれば受講時間の 5 倍、10 倍の時間を要するであろう。努々忘れ給もうな。

受講者への要望

静かに眠っている分にはさしつかえないが、雑談・私語は真面目で熱心な受講生と講義をしている私にとっては騒音という名の一大外部不経済。排除さるべきは当然。まずは熱心に聴き給え。授業料が不経済。

年間授業計画

つぎのプロローグからエピローグまでを前期と後期に渡って講義します。内容は多少の変更があることを承知していただきたい。

○序章（プロローグ）

経済学と経済系、現代経済の問題：南北問題と環境問題（地球系と人間系）、人類の経済発展：とりわけ産業革命前と後、ならびに経済思想の変遷（アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、シュンペータ、ケインズ等々）、資本主義経済の変遷（とりわけ第二次世界戦争前と後との移り変わり）、現代の経済思想。

1　国民所得の分析

マクロ経済学の生成と意義、大恐慌とケインズ思想、修正資本主義と混合経済、第二次世界戦争後の自由主義圏工業先進国の経済成長と現代経済思想。

マクロ的経済循環、国民所得の諸概念、総需要・総供給（総生産）あるいは集計需要・集計供給、消費とマクロ消費関数、貯蓄と投資の意義、その行動主体と動機の違い、投資の変動性；投資の限界効率；投資対象の価値、将来の期待収益と割引利子率、貯蓄と投資の不均等による均衡国民所得水準の変動、乗数過程、節倹のパラドックス、政府部門と外国貿易を加えた乗数理論、国民所得水準と労働雇用水準との関係。

2　貨幣・金融市場

金本位制と管理通貨制度；その歴史的意義と機能の違い、銀行のはじまりと近代銀行制度、金融市場における銀行の信用創造過程と貨幣供給、ケインズの流動性選好説と貨幣需要、金融市場の均衡利子率いわゆる市場利子率

3　中央銀行の機能と役割：金融政策

現金通貨の発行と通貨価値の維持；その社会的意義と責任、その歴史的・現代的素描、中央銀行の金融政策の主たる手段、とりわけ公定歩合操作、公開市場操作とその金融市場に与える効果。

4　政府の経済的役割：財政政策

政府の経済訳役割すなわち経済政策には大きくいって 2 つ；その 1 つは将来の国民経済の構造をどのような方向に誘導するか、例えば福祉政策、年金制度、農業問題、租税制度、社会基盤整備等々である。もう 1 つは、いわゆる景気の変動に対する調整的機能としてのマクロ経済政策である。ここでは後者の

役割を狭義の財政政策（フィスカル・ポリシイ）として考える。

その見本は 1930 年代前半のアメリカのニュー・ディール政策（当時のルーズベルト大統領による）に見ることができる。政府は財政赤字の時は減税もしくは歳出を増大して短期的には益々赤字が拡大するように、黒字の時には財源があるからといって減税などしないで増税もしくは歳出を削減して益々黒字が拡大するように行動するのが、現代のマクロ経済学の原理なのである。

政府も 1 つの主体、その主体の行動としては不合理である。しかし、社会全体、国民経済にとっては合理的なのである。これはひいては政府にとっても長期的には合理的であるはずだ。逆もまた真、パラドックスなる由縁である。

分析：政府財政支出と減税の国民所得水準に与える影響、租税体系の変更と国民所得、ラッファアー曲線、完全雇用政策と物価水準安定（貨幣価値の維持)、フィリップ曲線

5　財政・金融政策とヒックス＝ハンセン　総合（IS－LM 曲線）

ポリシー・ミックスについて、国民生産物市場と貨幣・金融市場の相互作用、これまでのマクロ経済理論の再編とまとめ；IS－LM 分析、古典派の理論；セーの販路法則と完全雇用理論およびその時代的背景、ケインズの有効需要原理と不完全雇用理論、ならびにその時代的背景、現代マネタリストの思想と理論；修正型貨幣数量説、集計供給からみたポスト・ケインズ学派との違い、付論：サプライサイド経済学派とネオ・ケインジアン、景気循環と民主政治、政策のタイム・ラグ。

○終章（エピローグ）―結びにかえて―

人間社会と経済と政治と価値観と、経済発展と自然環境、国際貿易；古典派リカードの比較生産費税と現代のオーリン・ヘクシャー理論、現代の貿易不均衡問題、技術移転と資本移動、長期的有効需要の拡大と世界規模化

01 **科目名**	**ミクロ経済学ａ・ｂ**
98 **科目名**	**ミクロ経済学**
97 **科目名**	**近代経済学**
担当者	**小　林　　進**

講義の目標

受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のレベルは必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については（原則として本学図書館にあるものを）必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。

講義概要

経済学（必修）をすでに学習した受講生を対象にしてミクロ経済学を講義し、講義の最後ではミクロ経済学とマクロ経済学の関係についても、方法論的個人主義や合成の誤謬の立場から触れることにする。なお最初の講義でアダム・スミスからケインズまでの簡単な経済学の歴史について述べ、市場経済の歴史的役割を簡潔に説明する。

テキスト

なし

参考文献

講義中に指示する。

評価方法

前期と後期の二回の試験によって評価する

年間授業計画

消費者は効用関数を最大にするように行動する。

効用関数 U＝U(X，Y)の定義とその性質

（辞書的順序の場合には効用関数が存在しないことに触れる）

無差別曲線と予選線の接点→MRS＝P_X／P_Y

予算線→所得はすべて消費する、もし貯蓄を経済的合理性から説明するならば二期間モデルが必要である。

所得効果と代替効果

（ミクロ経済学ではこの概念の理解が重要である）

労働の供給曲線の導出、代替効果が支配的なときの賃金率と供給量の関係

不労所得がある場合の労働供給曲線

失業保険と労働供給曲線

二期間モデルと貯蓄、現在割引価値の概念、利子率と貯蓄の関係

効率賃金理論

需要の価格弾力性 e と支出額 Z の関係

$\frac{dZ}{dp}$＝x(1－e)　　(x は数量を示す)

この関係の J カーブ効果への応用

競争市場の企業の最適化行動　P＝MC

完全競争の成立条件

ワルラス的安定条件

総余剰分析（消費者余剰＋生産者余剰）と完全競争の最適性

応用として自由貿易の問題、関税と補助金の効果の比較

パレート最適

ボックスダイアグラムと契約曲線

生産可能性曲線

供給独占者の利潤最大条件　MR＝MC（限界収入＝限界費用）

MR＝Ｐ（1－$\frac{1}{e}$）

ラーナーの独占度　1／e

二つの分離した市場に直面した独占者 MR_1＝MR_2 より e_1＞e_2ならば

P_1＜P_2　（需要の価格弾力性の高い市場のほうに低い価格をつける）

その応用として映画の学生割引の経済的意味

カルテル（価格協定）

独占と余剰分析

独占と規制→上限価格の設定

寡占と屈折需要曲線

独占的競争と差別化

ゲームの理論、囚人のディレンマ、ナッシュ均衡、両性の戦い、チキンゲーム

無限繰り返しゲームによる囚人のジレンマの解消、トリガー戦略

市場の失敗として、費用逓減産業、外部経済、公共財、不確実性

ミクロとマクロの境界

01 科目名	ミクロ経済学ａ・ｂ
98 科目名	ミクロ経済学
97 科目名	近代経済学
担当者	藤　山　英　樹

講義の目標

ミクロ経済学の基礎を習得する。より具体的には、第 1 に諸概念の直感的な理解を得る。第 2 に諸概念の抽象的な記号表現をマスターする。第 3 にミクロ経済の至る所で用いられる関数の最大化の計算手法を修得する。以上は専門課程に進み、応用をおこなうときに必要不可欠となる。

講義概要

できるだけ予備知識を前提とせず、授業内で自己完結した形で講義を行う。今年は前期に不完全競争市場、後期に完全競争市場を講義する。

テキスト

特に指定をしない。

参考文献

現在は、ミクロ経済学については、基礎的な内容は定まっている。更に、一般に評価の高いテキストが、必ずしも個人的な好みにあうとはかぎらない。したがって、参加者の好みに合わせて購入もしくは図書館から借りてくれば良い。また、多くのテキストの巻末に他のテキストについての簡単なコメントが載っているので、それを参考にするのも良い。

評価方法

前期：試験で評価する。授業期間中に小テストを行うこともある。その時はその成績も評価に加える。

後期：前期と同じ。

受講者への要望

これから勉強する意志が全てです。授業でお会いできることを楽しみにしています。

年間授業計画

参加者が講義内容を着実に理解し、最終的には自学自習でミクロ経済学を学べてゆけるようになることが何よりも大事だと考えます。したがって、講義のペースは受講者の状況に合わせて、調整されることになります。よって、必ずしも授業計画通りに進むとは限らないので、この点はあらかじめご了承ください。

1. イントロダクションおよび最大化の計算の仕方。
2. 最大化の計算の仕方つづき。
3. 独占市場 1：利潤を最大にする価格設定
4. ナッシュ均衡：駆け引きのとらえ方
5. 寡占市場 1：生産量での競争
6. 寡占市場 2：価格での競争
7. 寡占企業 3：その他の寡占モデル
8. ゲーム理論 1（戦略形）：ジャンケン型のゲーム
9. ゲーム理論 2（展開形）：時間をともなうゲーム
10. 不確実性について
11. 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。
12. 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。
13. イントロダクションおよび最大化の計算の仕方。（夏休みで忘れてしまった人、もしくは後期から目覚めた人のために復習します。）
14. 最大化の計算の仕方つづき。
15. 消費者行動 1：消費者の選好の理論
16. 消費者行動 2：効用最大化問題（需要関数の導出）
17. 消費者行動 3：需要関数による財の特徴づけ
18. 企業行動 1：生産の理論
19. 企業行動 2：利潤最大化問題（供給関数の導出）
20. 企業行動 3：費用関数について
21. 市場の分析 1：部分均衡分析（政策の影響）
22. 市場の分析 2：一般均衡分析（神の見えざる手）
23. 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。
24. 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。

01 **科目名**	
98 **科目名**	**経済学史**
97 **科目名**	**経済学史**
担当者	**大　友　敏　明**

講義の目標

本講義の目標は，過去の経済学者の理論の構造を原典に即しつつとらえることにある。過去の経済学者が自分の生きている時代をいかにとらえ，いかに改革すべきかを知ることがこの講義の目的である。

講義概要

本講義は，重商主義期（17 世紀前半）から通貨論争期（19 世紀中葉）までの貨幣・信用論の歴史を中心に講義する。経済学の問題のひとつは「貨幣」をどう理解するかである。「貨幣」は流通手段にもなるし，また「資本」としても機能する。それは形を変えて「資産」ともなる。この「貨幣」は昔は金貨であったが，やがて紙切れになり，いまや電子マネーの時代である。「貨幣」とは何かが，いまも問われている。銀行も「貨幣」を創造しうる。この銀行による「貨幣」の創造が実物経済に影響を与えるのかどうかが過去の経済学の大問題であった。こうした貨幣・信用論をめぐる論争を中心に講義する。

テキスト

大友敏明『信用理論史』慶應義塾大学出版会，2001 年。

参考文献

適宜指定する。

評価方法

前期と後期の定期試験を基礎に総合的に評価する。

受講者への要望

歴史を知ることは現代を知ることである。私が講義することは貨幣・信用論の理論史にすぎないが，そこにもなにほどかの真理があるはずである。諸君は，それを感じ取ってほしい。

前期授業計画

1. 経済学史の課題
2. 封建制の構造と重商主義
3. 重商主義期の貨幣経済：ロックの労働所有論
4. 重商主義の貨幣の本質論争
5. 重商主義批判：貨幣数量説（1）ヒューム
6. 重商主義批判：貨幣数量説（2）カンティロン
7. 重農主義の台頭：再生産構造：ケネー
8. 重商主義による反批判：ジェイムズ・ステュアート（1）
9. 重商主義による反批判：ジェイムズ・ステュアート（2）
10. 古典派経済学の成立：アダム・スミス
11. 価値論の構造
12. 価格論とスミス・ドグマ

後期授業計画

1. 分配論と資本蓄積論
2. 信用論の構造（1）
3. 信用論の構造（2）
4. 信用論の構造（3）
5. 地金論争（1）：リカードウの紙幣減価論
6. 地金論争（2）：リカードウの通貨調整案
7. 地金論争（3）：リカードウの通貨調整案
8. 穀物法論争：リカードウの価値と分配論
9. 通貨論争（1）：トゥックの信用論
10. 通貨論争（2）：フラートンの信用論
11. 通貨論争批判（1）：J.S.ミルの貨幣・信用論
12. 通貨論争批判（2）：J.S.ミルと景気循環論

01 **科目名**	
98 **科目名**	**経済変動論**
97 **科目名**	**経済変動論**
担当者	**松　本　正　信**

講義の目標

経済成長と景気循環のメカニズムの理論的枠組を、現代ケインズ派・古典派ならびに現代マネタリスト・合理的期待形成学派・新古典派などの諸説について年間に渡って講義するなかで、全体として理解して貰うのが目標である。今日の世界経済や日本の国内経済をみるとき、景気循環のメカニズムの本質がどのように関連しているかを示唆することも本講の大事な役割だと考えているが、これは第 2 の目標としたい。

講義概要

詳しくは年間講義予定（後述）を御覧あれ。

はじめに景気変動の歴史的素描とその時代々々の諸説を対称させてみて行き、景気変動の現代的意義を考えることから出発する。本論では「講義の目標」で示したような諸説を順次紹介しながら現代景気循環論を構成して行く積りである。

また、諸説の随所にカオス動学的視点の解釈を試みたいと考えている。

テキスト

私の「講義ノート」による。

参考文献

講義の都度、指示する。

評価方法

後期定期試験によって評価する

受講者への要望

最近の景気変動にも言及するし、また諸説の理論を聴講する上にも大事なことであるから、このところの現実の経済の動きにも日頃関心をもつことを要望します。

年間授業計画

以下の講義内容を年間を通じて行なう。

「経済成長と景気循環」に関する講義。ケインズならびにポスト・ケインズ学派以降今日までの有力諸説を中心としながら、現代経済の現状に即した理論分析を講義する。

序論　経済変動論の現代的課題

1　はじめに――現代の経済成長と景気循環

2　経済変動の歴史的素描　産業革命前夜とアダム・スミス、産業革命と資本主義経済の勃興、資本主義経済の発展と問題

3　経済変動の諸要因：その学説史的素描　資本蓄積論、恐慌論にみるマルクス、革命論、動態的経済発展論にみるシュンペーター、長期停滞論

4　ケインズ経済思想とニュー・デイール、The Great Depression，New-Deal policy; New-Economics、修正資本主義と混合経済体制、市場の不完全性、公共経済の拡大、社会保障、金本位制から管理貨幣制度へ、WTO 体制と自由貿易、民主制政治と現代経済、ハーベー・ロードの前提崩壊

5　経済変動要因の理論的類別

6　有効需要拡大の「拡大」解釈―グローバル化―

Ⅰ　均衡成長とその不安定性論

1　経済成長の不可避的要素と必要性　古典的マルサスにみる循環的成長論と長期定常経済、アダム・スミス的市民社会の定常状態、シュンペーター的動態経済発展論、現代における経済成長の不可避的要素と必要性、ゼロ経済成長とその意義

2　ハロッド・ドマーの均衡成長理論

3　独立投資と誘発投資

4　外生要因と内生要因

Ⅱ　景気循環のメカニズム

1　定常状態の経済

2　新投資の循環（更新投資循環）

3　在庫投資の循環

4　ヒックスの景気循環モデル

5　カレッキーの景気循環論

6　カルドアの景気循環論

7　景気変動への安定化要因

8　景気循環論の類型と循環の局面

9　景気循環と経済諸変量

10　景気の転換点と景気動向指数

Ⅲ　経済成長と景気循環

1　成長経済における「定型化された事実」

2　新古典派成長理論の登場

3　新古典派の経済成長理論

4　技術進歩と資本蓄積（技術移転と資本移動）

Ⅳ　現代景気循環論

1　経済ケインズ学派とマネタリスト・合理的期待形成学派

2　経済成長軌道は安定か不安定か

3　現代諸説の経済社会に対する考え方と経済制度の問題

4　これからの景気循環論への展望

01 **科目名**	**経済統計論ａ・ｂ**
98 **科目名**	**経済統計論**
97 **科目名**	**経済統計**
担当者	**松　本　正　信**

講義の目標

経済統計は現に経済現象のほとんどあらゆる方面に関連し、また実際調査もなされているから、これを全て講義の対象としたのではとても時間が足りないし、また大学の経済学講義の一環としての意義も乏しい。それらは実社会にあって実際に必要になってから参照すればよい。本講では「経済統計」をば、むしろその体系的、方法的ならびに経済理論的な対応において、つぎの三部構成でなされよう。すなわち経済統計学の理論的枠組を理解していただくことが、講義の狙いである。

講義概要

第Ⅰ部　指数の問題、その成り立ちと理論的根拠
第Ⅱ部　国民所得統計と産業連関表
第Ⅲ部　時系列分析と回帰分析

以上、詳しくは後の年間講義予定を見られよ。ただし、講義の順序はこの通りとは限らない。また、例年時間的余裕があるので、教科書の付録にしたがって、付論「オペレーションズ・リサーチとゲームの理論」を現代の経済・経営の実際応用と経済戦略という有意義な視点で講話します。

テキスト

・森田優三『経済統計読本』東洋経済新報社、1991年（21刷）

参考文献

・講義の都度指示

評価方法

前期：定期試験の結果に、出席状況・受講態度を加味して評価する。
後期：前期と同じ。

受講者への要望

まずは講義を聞き給え。きっと面白いぞ。

年間授業計画

以下の、序論を含めた 19 の項目を前期・後期を通じて 1〜3 回にわたる講義で進める予定である。

序　論
　経済と経済統計と経済学

第Ⅰ部　指数
1　指数について（指数理論）
2　平均値について
3　物価指数と数量指数
4　消費者物価指数（付論：消費者選好理論とヴォルトケウイッチの関係式）
5　その他の物価指数の例と各種デフレーター
6　生産数量と生産指数――いくつかの代表例

第Ⅱ部　国民所得統計と産業連関表
1　国民所得統計と国民所得分析
2　社会会計の考え方とマトリックス
（2 の付論：コンピュータ通信システムの発達と国民総背番号制）
3　新 SNA
4　産業連関表
5　産業連関分析とその応用

第Ⅲ部　時系列分析と回帰分析
1　時系列データとその解析
2　時系列分析――トレンド（趨勢、傾向線）、循環変動、季節変動、不規則変動――
3　時系列分析の方法――移動平協法、趨勢線のあてはめ、他――
4　景気動向指数――ディフュージョン・インデックス――
5　回帰分析と回帰方程式
6　計量経済学の方法
7　構造推計と将来予測

付　論　OR の話；オペレーション・リサーチとゲームの理論

01 **科目名**	
98 **科目名**	**計量経済学**
97 **科目名**	**計量経済学**
担当者	**藤　山　英　樹**

講義の目標

計量経済学の標準的な諸概念を習得する。理論的に得られた経済モデルと現実経済との距離を測るために計量経済学は不可欠なツールです。特に諸概念の理論的な意味を把握することが主たる目標となります。

講義概要

原則として、テキストに準拠して講義を進めてゆく。ただし、できるだけ予備知識を前提とせず、授業内で自己完結した形となるようにする。前期に「Ｉ基礎編：回帰分析」、後期に「II応用編：計量経済学」を講義する。

テキスト

山本拓『計量経済学』、新世社、1995 年。

参考文献

白砂提津耶『[例題で学ぶ] 初歩からの計量経済学』、日本評論社、1998 年。

評価方法

前期：試験で評価する。授業期間中に小テストを行うこともある。その時はその成績も評価に加える。

後期：前期と同じ。

受講者への要望

予備知識は前提としませんが、統計学も既習もしくは並行履修すると、より理解が深まるでしょう。

年間授業計画

参加者が講義内容を着実に理解をし、最終的には自学自習で計量経済学を学べてゆけるようになることが何よりも大事だと考えます。したがって、講義のペースは受講者の状況に合わせて、調整されることになります。よって、必ずしも授業計画通りに進むとは限らないので、この点はあらかじめご了承ください。

1. 計量経済学とは。
2. から 4. 最小二乗法について。

主たる内容は、直線のあてはめ。あてはまりの尺度。計算の手順など。

5. から 9. 単純回帰分析。
10. から 12. 多重回帰モデル。

主たる内容は、多重回帰モデル、多重共線性、変数の過不足についての問題など。

13. から 14. 多重回帰モデル。

主たる内容は前期のものと同様。（夏休みで回帰分析を忘れてしまった人にはその復習、後期に目覚めた人にはその概要を提示するためにもう一度、同様の内容を講義します。）

15. および 16. モデルの関数型と特殊な変数。
17. および 18. F 検定と構造変化の検定。
19. および 20. 分散ラグ・モデル。
21. および 22. 不均一分散。
23. および 24. 撹乱項の系列相関。

もし時間があれば、説明変数と錯乱項の相関、同時方程式モデルについても解説する。

01 科目名	経済政策論ａ・ｂ
98 科目名	経済政策論
97 科目名	経 済 政 策
担当者	阿　部　正　浩

講義の目標

ますます重要性を増しているミクロ経済政策を主とした講義を行います。最近は経済構造改革の議論が盛んで、なかでも規制緩和をすることで日本の競争力を高めようとする考え方が流行っているようです。この講義では、どういった条件の下で規制緩和が威力を発揮するのか、逆に規制緩和しないほうが経済にとっては効率的な場合があるのか、といった問題についても考えていきます。また、経済政策を論ずるにあたっては、法律や制度の役割も重要ですから、法律や制度が経済にどのような影響を与えているのかについて考えていきます。

講義概要

ミクロ経済学のおさらいをしながら、経済政策の諸問題について考えていきます。授業は各項目について二コマずつ割り振っています。

一コマ目ではその項目の理論的なフレームワークを講義します。二コマ目で、一コマ目の最後に提示する演習問題を全員で分析していきたいと思います。演習問題は、新聞やＴＶで一度は目にしたことのある経済問題を取り上げてみたいと思います。

テキスト

特にありません。

参考文献

授業中に指示します。

評価方法

前期：授業時間中の小論文と夏季休暇中のレポート
後期：授業時間中の小論文と筆記テスト

受講者への要望

この授業はミクロ経済学の教科書の後半部分に出てくる問題を扱っていますので、ちょっと難しいかもしれません。しかし、出席すれば理解できるよう楽しい授業を志しますので、受講者もがんばって勉強してみてください。

前期授業計画

1. 経済学的思考とは（その１）
2. 経済学的思考とは（その２）
3. 完全競争市場
4. 完全競争市場（演習）
5. 市場の失敗と政府の役割
6. 市場の失敗と政府の役割（演習）
7. 独占の理論
8. 独占の理論（演習）
9. 囚人のジレンマと寡占
10. 囚人のジレンマと寡占（演習）
11. コースの定理
12. コースの定理（演習）

後期授業計画

1. プリンシパルとエージェントの関係
2. プリンシパルとエージェントの関係（演習）
3. 完備契約と不完備契約
4. 完備契約と不完備契約（演習）
5. 裁量とルール
6. 裁量とルール（演習）
7. 情報の問題
8. 情報の問題（その１）
9. 公的企業の民営化
10. 公的企業の民営化（演習）
11. 法と経済
12. まとめ

01 科目名	経済開発論ａ・ｂ
98 科目名	経済開発論
97 科目名	経済開発論
担当者	千代浦　昌　道

講義の目標

経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば、健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。

講義概要

前期は、経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状と経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。後期には、経済発展の理論的解明、国際経済関係における発展途上国問題の位置づけなどを中心に講義する。

テキスト

特に指定しない。

参考文献

総務庁統計局編『2002 世界の統計』(大蔵省印刷局、2001)

西垣　昭、下村恭民『開発援助の経済学（新版)』(有斐閣、1997)

E．F．シューマッハー『スモールイズビューティフル』(講談社、1986)

M．トダロ『M．トダロの開発経済学』(国際協力出版会、1997)

アジア経済研究所　朽木昭文・野上裕生・山形辰史編『テキストブック開発経済学』(有斐閣、1997)

TODARO,Michael P.,"Economic Development; 7th edition", Addison Wesley Longman, Inc. 2000.

評価方法

前期、後期の定期試験によって評価する。随時に出欠をとり成績評価の参考資料とする。

受講者への要望

新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。

年間授業計画

1．経済開発論の基礎的概念（経済発展の意味、経済開発論の学問的位置づけ、経済発展は望ましいか、絶対的貧困と相対的貧困、経済発展の尺度）

2．発展途上国の基本問題（発展途上国の分類、経済発展の自然条件、歴史的背景、貧困と所得分配、人口問題と扶養負担、失業と低雇用、産業構造、貿易構造と対外依存）

3．発展の非経済的側面Ⅰ（経済発展の政治的側面、経済発展の社会的・文化的要因、発展の社会学的把握）

4．発展の非経済的側面Ⅱ（家族単位と経済発展、階級構造、民族・人種と経済発展、宗教と経済発展）

5．発展の非経済的側面Ⅲ（開発と女性の役割、発展途上国の環境問題）

6．先進工業国経済発展の教訓Ⅰ（先進工業国の工業化とその波及、イギリスの工業化、フランスの工業化）

7．先進工業国経済発展の教訓Ⅱ（ドイツの工業化、アメリカの工業化、ロシアの工業化、日本の工業化）

8．人口と経済開発（人口問題への接近、人口増加と経済発展、人口問題論争、人口政策）

9．雇用と失業（発展途上国の雇用問題、失業と低雇用、失業とインフォーマル部門、雇用と生産性、ルイス・モデルと雇用）

10．教育と発展Ⅰ（教育と人的資源、発展途上国の教育水準、教育と経済発展、教育機会と貧困）

11．教育と発展Ⅱ（教育と国内移住・出生率、教育と頭脳流出・知的従属、教育と農村開発）

12．都市と農村（発展途上国の都市と農村、農村―都市間移住問題、人口都市化に起因する問題、都市のインフォーマル部門）

13．経済発展のモデルⅠ（古典派の成長モデル、マルクスの発展段階モデル、ハロッド＝ドマーの成長モデルとロストウの発展段階説）

14．経済発展のモデルⅡ（新古典派の成長モデル、チェネリーの経験的発展モデル、プレビッシュ＝シンガー・テーゼと従属理論、経済開発と構造調整）

15．農業と開発（農業と経済発展、先進工業国の工業化と農業、発展途上国農業の停滞、農地改革と農業の発展、農業の規模と生産性、農業発展と農村開発）

16．工業化と開発戦略（均整成長論とビッグプッシュ、不均整成長論と連関効果）

17．貿易と発展Ⅰ絶対生産費の理論と比較生産費の理論、輸入代替工業化と輸出促進工業化）

18．貿易と発展Ⅱ（南北問題とプレビッシュ＝シンガー・テーゼ、従属理論と新国際経済秩序）

19．貿易と発展Ⅲ（自由貿易と NIES の発展、南々貿易と地域経済統合、関税効果と実効保護、為替レートと経済発展）

20．多国籍企業と発展途上国（直接投資の利益、多国籍企業についての利害損失、新国際経済秩序と多国

籍企業）

21. 国際収支と債務問題（国際収支構造と経済発展、累積債務問題の原因と実態）

22. 発展途上国債務問題への国際的対応（世銀・IMFの融資、債務の株式化、債務＝環境スワップ）

23. 国際援助と経済開発Ⅰ（途上国援助の歴史と現状、プロジェクト援助から基本的ニーズの充足へ、参加型援助と民主化の波、構造調整融資と持続可能な発展）

24. 国際援助と経済開発Ⅱ（草の根援助と NGO の役割、援助の功罪、これからの国際援助）

01 **科目名**	**環境政策論　a・b**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**塩　田　尚　樹**

講義の目標

環境税や排出量取引などの環境政策の手段の有効性について、ミクロ経済学の立場からの理解を目指します。トピックとしては、主に地球温暖化問題を取り上げます。

講義概要

まず、環境税が、どういう点で直接規制などの非経済的手段に比べて優れているのか、について解説します。ここでは、ミクロ経済学で学ぶ資源配分の効率性についての考え方が基礎になります。ただし、この講義では履修者の予備知識に配慮して、抽象性のレベルを三段階に分ける予定です。まず、導入段階では、極限概念をまったく使用せずに解説します。次の段階では、ミクロ経済学でおなじみの、限界費用・限界便益といった図が登場します。最終段階では、微分演算を使って説明を行います。また、後期には、排出量取引の特徴や長期的影響を考慮した場合の環境政策、についても解説する予定です。

テキスト

塩田尚樹（2002）「環境税の経済学的基礎」mimeo.（ホームページよりダウンロード可能にする予定）

植田和弘　他（1997）「環境政策の経済学－理論と現実－」日本評論社

塩田尚樹（2001）「環境汚染の最適制御」勁草書房

参考文献

授業中に適宜、指示します。

評価方法

前期　定期試験で評価します。なお、講義中の私語などの迷惑行為の分を減点する場合があります。

後期　定期試験 60%、レポート 40%とします。なお、講義中の私語などの迷惑行為の分を減点する場合があります。

受講者への要望

環境政策論は、応用科目です。ミクロ経済学や公共経済学といった科目の知識が基礎となります。これらの、講義ノートを復習するか、教科書を見直しておくと、非常に役に立ちます。

また、何か一つの現実の環境問題について（地球温暖化問題に限らず）注目してみてください。

前期授業計画

1：導入と講義方針の説明
2：地球温暖化問題概論
3：ピグー税（1）
4：ボーモル＝オーツ税（1）
5：ピグー税（2）
6：ボーモル＝オーツ税（2）
7：有効性の定量的評価
8：ポリシーミックス
9：公健法賦課金
10：環境税
11：直接規制
12：前期のまとめ

後期授業計画

1：講義方針の再確認と前期の復習
2：排出量取引
3：環境補助金
4：デポジット制度
5：ピグー税（3）
6：ごみ有料化（1）
7：ごみ有料化（2）
8：モニタリング費用の考慮（1）
9：モニタリング費用の考慮（2）
10：環境汚染のストック性の考慮（1）
11：環境汚染のストック性の考慮（2）
12：総まとめ

01 科目名	日本経済史ａ・ｂ
98 科目名	日本経済史
97 科目名	日本経済史
担当者	奈　倉　文　二

講義の目標

本講義は単に昔の日本経済について羅列的に述べるものではない。現代日本経済の抱えている諸問題の解明のためにも、歴史的経過を明らかにしておくことは極めて重要なことである。そこで、本講義では「日本資本主義の発展と大企業システム」をメイン・テーマとして講義することとし、現代日本の大企業システムがいかなる歴史過程のもとで、どのような特徴をもって形成されてきたのかを明らかにしたい。

講義概要

国際環境との関連に留意しながら、日本資本主義の成立発展過程（とくに独占資本形成確立過程）を概観した上で、1920 年代を中心に「戦前日本型大企業システム」の特徴を明らかにし、次いで、その変容（1930 － 45）を述べる。さらに、戦後日本資本主義の復興・再建と「高度成長」を概観しつつ、企業集団の形成・発展過程を述べ、その支配体制の特徴（戦後日本型大企業システム）を明らかにする。余力がある限り、戦前戦後の鉄鋼独占の特徴についても「日本資本主義と大企業システム」という観点から検討を加える。

テキスト

とくに定めない。随時講義資料を配付する。

参考文献

講義開始時に「参考文献一覧」を配布し、講義進行途上にも適宜参考文献を指示する。

評価方法

［前期］筆記試験またはレポート。質疑応答への積極的参画も考慮する。

［後期］筆記試験。質疑応答への積極的参画も考慮する。

受講者への要望

学生諸君の講義に対する参画意欲を引き出すために、可能な限り質疑応答形式を取り入れるので、主体的積極的に応じてもらいたい。

前期授業計画

1. はじめに（20 世紀世界と日本、資本主義と大企業システム、等）
2. 幕末維新期の国際環境と日本の「近代化」
3. 日本資本主義の形成（1870 年代～90 年代）（その１）
4. 同（その２）
5. 資本主義の確立と帝国主義転化（1900 年前後）
6. 独占資本の形成確立過程（1907 年頃～1920 年代）（その１）
7. 同（その２）
8. 戦前日本型大企業システム（財閥・紡績独占・国家資本）（その１）
9. 同（その２）
10. 同（その３）
11. 鉄鋼独占（その１）
12. 　同　　（その２）

後期授業計画

1. 金解禁と昭和恐慌
2. 「高橋財政」と準戦時経済（1931～36）
3. 旧財閥の転換と新興コンツェルン
4. 戦時統制経済（1937～45）の特徴
5. 戦時「重化学工業化」と独占資本
6. 戦後改革と財閥解体
7. 日本資本主義の復興・再建
8. 企業集団の形成
9. 日本経済の「高度成長」と寡占資本間競争
10. 重化学工業化と鉄鋼独占
11. 企業集団の発展
12. 企業集団体制の定着

01 **科目名**	**日本社会史ａ・ｂ**
98 **科目名**	**日本社会史**
97 **科目名**	**日本社会史**
担当者	**新　井　孝　重**

講義の目標

中世の飢餓、病気、戦乱の中を人間はいかにして生きたか。当時の社会状態を観察しながら考える。

講義概要

・治承・寿永の戦乱

・重源の東大寺再建活動とその周囲にみられる民間浄土教の高揚

・荘園住民の大仏燈油料寄進

以上３つの事柄を講義する。

テキスト

なし

参考文献

なし

評価方法

［前期］　試験

［後期］　試験

受講者への要望

私語、飲食厳禁。

年間授業計画

1. 源平戦乱期の社会状態
2. 方丈記を読む
   （飢餓、辻風、火災、地震）
3. 中世の庶民のくらし
4. 東大寺炎上
5. 東大寺大勧進職重源
6. 重源の活動のあとをたどる
7. 社会事業の諸相
8. 道路の修善。港湾の修築
   （都市的な場の登場）
9. 農業用水池の開さく
   （中世の農業と村落）
10. 寺院の建築
11. 寺院の建築
12. まとめ（庶民の生活、庶民の動員、大仏再建、鎌倉仏教の胎動）
13. 燈油聖の活動
    （土地の集積）
14. 燈油料田の発生
15. 荘園の住民はなぜ土地を寄進したか
16. 庶民がもとめるもの
17. 「往生極楽」への望み
18. 村落社会への仏教の浸透
19. 燈油料田の実体＝「作手」とは
20. 中世の土地所有のあり方（そのⅠ）
21. 中世の土地所有のあり方（そのⅡ）
22. 荘園外の経済要素「作手」
23. 東大寺経済を支えるもの
24. まとめ（荘園制度にかわって「作手」集積が寺の経済をささえた。庶民的勢力の台頭）

01 科目名	西洋経済史ａ・ｂ
98 科目名	西洋経済史
97 科目名	西洋経済史
担当者	御　園　生　　眞

講義の目標

現代経済の出発点とも言える、18 世紀以降のヨーロッパにおける産業革命・工業化の特徴と問題点を考察する。前提条件、具体的展開過程、社会経済的帰結などの諸側面について具体的に考えてみたい。

講義概要

前期は、工業化の「古典モデル」とも言うべきイギリス産業革命を主要テーマとする。可能な限り最新の研究成果を取り入れ、特質と問題点を考える。

後期は、ヨーロッパ大陸諸国の「対抗的工業化」を中心テーマとし、イギリスと同時に特質と問題点を考察する。本年度は、大陸諸国の中でもドイツの工業化を重点的に分析する予定である。

参考文献

石坂昭雄・船山榮一・宮野啓二・諸田實『新版西洋経済史』有斐閣、1986 年。

この他の参考文献・参考図書については最初の講義で紹介する。

評価方法

[前期]　出席と試験で評価する。比率はそれぞれ 50%。
　　出席が 50%以下の場合は単位が認定されない。

[後期]　前期と同じ。

受講者への要望

受講者を 150 人程度に制限する場合がある。講義中のマナーを守ること。

講義内容や評価方法は、変更される場合がある。

年間授業計画

1. 序論（ガイダンスを含む）
2. Ⅰ　産業革命とはなにか
3. （続）
4. Ⅱ　産業革命・工業化の前提条件
5. （続）
6. Ⅲ　イギリス産業革命　（1）前提条件の成熟
7. （続）
8. （2）産業革命の展開過程
9. （続）
10. （続）
11. （3）特質と社会経済的帰結
12.
13. Ⅳ　ヨーロッパ大陸諸国の産業革命・工業化
　（1）前提条件の形成
14. （続）
15. （続）
16. （2）イギリス産業革命の大陸への波及
17. （続）
18. （3）ドイツの産業革命：特徴と問題点
19. （続）
20. （続）
21. （続）
22. （続）
23. （続）
24. Ⅴ　まとめ

01 **科目名**	**国際経済論ａ・ｂ**
98 **科目名**	**国際経済論**
97 **科目名**	**国際経済論**
担当者	**益　山　光　央**

講義の目標

米国の大学で使用されている国際経済学の教科書を手がかりに国際貿易、国際収支メカニズムに関する理論と諸概念を習得することを目的とする。

講義概要

受講生による発表とコメントの形式で講義をすすめる。したがって受講者は十分な予習、復習が必要と思われる。

前期は貿易理論、貿易政策が中心である。後期は国際収支調整メカニズムをあつかう。

テキスト

Wilfred Ethier　*Modern International Economics, W. W. Nortion*

評価方法

出席を重視します。出席 25%、発表 25%、試験 50%

年間授業計画

前期

1　リカード的貿易理論

2　ヘクシャー・オリーン定理

3　貿易政策

4　国際生産要素移動

後期

1　国際収支

2　固定相場制

3　変動相場制

01 **科目名**	
98 **科目名**	**国際金融論**
97 **科目名**	**国際金融論**
担当者	**山　本　美樹子**

講義の目標

金融とはお金を融通しあうことである。これは国内であっても、国際間であっても同じことである。が、国際間では通貨単位が異なるために国内金融では発生しない問題が生じてくる。

本講義では国際金融取引の基礎となる事柄についての説明、国際金融取引になくてはならない為替レートの決定についての理論的な考察、さらにこの為替レートを操作することによる開放経済での政策問題について考えていく。

国際金融取引は昨今のＩＴ技術の進歩に伴い、日々進化している。そのような点についても取り上げていきたい。

講義概要

これから国際金融を学ぶ上で最低限覚えておいてほしい事柄について、たとえば為替レートとは何か、どのようにして決定するのか、為替投機とは何か、貿易のヘツジングとは？といった点についての説明をはじめにしていく。

そのうえで応用的な事柄として、開放マクロ経済理論の基礎、日々進化しつづける国際金融商品について、さらに３年目を迎えたヨーロッパの通貨統合の成果、問題店頭について触れていく。21 世紀にはいり本格的な金融ビックバンを迎える日本にとってあるべき通貨政策の姿について考えていきたい。

テキスト

特に定めない

参考文献

講義の際に指示する

評価方法

後期の試験

夏休みのレポート

受講者への要望

出席をきちんとすること

年間授業計画

講義をはじめるに当たって

第一部　国際収支

第一章　国際収支とは何か

第一節　国際収支表

第二節　経常収支とは

第三節　経常収支の金融的メカニズム

第四節　経常収支の変動メカニズム

第二部　外国為替取引と為替レート

第二章　外国為替取引と為替レート

第一節　外国為替市場と為替レート

第二節　為替リスクとヘッジング

（外国為替法改正による企業の外貨決済、ネッティングについてもふれる）

第三節　為替投機

第四節　政府の外国為替市場への介入

第五節　新外為法がわれわれの日々の生活に与える影響について

個人消費、企業の決済、開国為替取引銀行のあるべき姿について

第三章　為替レートの決定と変動の理論

第一節　購買力平価説

第二節　フローアプローチＶＳアセットアプローチ

第四章　固定相場制

第一節　金本位制とＩＭＦのプレトンウッズ体制について

第二節　固定相場制のメカニズム

第三節　世界の通貨制度

第四節　欧州新通貨制度とＥＵＲＯについて

第三部　開放マクロ経済政策

第五章　開放マクロ経済政策

第五節　外国貿易乗数の理論

第六節　固定相場制での開放マクロ経済政策

ティンバーゲンの理論と国際収支均衡曲線について

第七節　変動相場制での開放マクロ経済政策

第八節　政策手段と通貨制度について

第四部　国際資本移動の拡大

第六章　国際金融取引拡大の背景

第九節　国際取引とは何か

第十節　国際資本移動とは何か

第十一節　国際投資と為替レート

第十二節　外国為替のスワソプ取引の具体的形態

第十三節　オプション取引

第十四節　さまざまな国際金融商品とその危険性について

第七章　途上国の債務不履行問題、アジアの通貨危機

第一節　発展途上国の累積債務不履行問題

第二節　90 年代後期のアジアの通貨危機

第三節　通貨危機と投機アタックについての理論
的考察
第五部　まとめ

01 **科目名**	**日本経済論ａ・ｂ**
98 **科目名**	**日本経済論**
97 **科目名**	**日本経済論**
担当者	**伊　藤　正　昭**

講義の目標

21 世紀に入っても、1990 年代のいわゆる失われた 10 年間の負の遺産ともいうべき多くの未解決の課題をかかえたままである。年輩者が簡単に「失われた 10 年」というけれども、1980 年代生まれの学生にとっては物心がついてからずっと大人は何もしてこなかったのかと批判したくもなるであろう。ここはひとつ日本経済の過去を振り返りながら、現状を的確に把握する力を養うことが必要である。現実をありのままに理解できるように講義をとおして共に考えていきたい。

テキスト

未定

参考文献

橋本寿朗・長谷川　信・宮島英昭『現代日本経済』有斐閣アルマ、1998 年

伊藤正昭『改訂版地域産業論』学文社、2001 年

日本経済新聞社編『犯意なき過ち　検証バブル　』日本経済新聞社、2000 年

加藤創太・小林慶一郎『日本経済の罠　なぜ日本は長期低迷から向け出せないのか』日本経済新聞社、2001 年。

各年版「経済白書」および「中小企業白書」

評価方法

［前期］レポート提出

［後期］筆記試験

出席を重視し、前期レポートおよび後期筆記試験の結果により総合的に評価する。

受講者への要望

常日頃から「日本経済新聞」などに接して最新の経済情報、経済的知識を積極的に蓄積するように努めてください。

年間授業計画

1. ガイダンス
2. 戦後の日本経済（１）　1945 年　高度成長期
3. 戦後の日本経済（２）　高度成長のメカニズム
4. 戦後の日本経済（３）　構造不況と成熟化（オイルショックと経済の変質）
5. 戦後の日本経済（４）　貿易摩擦から経済摩擦、そして国際協調の時代へ
6. バブルの形成と崩壊
7. 失われた 10 年の意味
8. 規制緩和の潮流（１）　規制緩和の目的と実態および効果
9. 規制緩和の潮流（２）　日本経済の高コスト体質は規制緩和で改善
10. 金融システムの変容（１）　金融制度の問題点は何か
11. 金融システムの変容（２）　金融政策の有効性について考える
12. 前期のまとめ
13. 財政システム（１）　財政改革と景気回復（ケインズ型政策の限界）
14. 財政システム（２）　中央と地方の財政問題
15. 地方分権と地域経済の発展（１）
16. 地方分権と地域経済の発展（２）
17. 産業政策（１）新規創業支援、ベンチャービジネス支援
18. 産業政策（２）産業の空洞化と対策
19. 地域産業と政策の展開（１）
20. 地域産業と政策の展開（２）
21. グローバリゼーションの中の日本経済（１）　先進国との関係
22. グローバリゼーションの中の日本経済（１）　発展途上国との関係
23. 中国の経済発展と日本経済
24. 年間講義のまとめ

01 科目名	アメリカ経済論ａ・ｂ
98 科目名	北アメリカ経済論
97 科目名	地域経済論（1）
担当者	本　田　浩　邦

講義の目標

1990 年代のアメリカの持続的景気拡大は、「ニューエコノミー」とよばれるアメリカ経済に対する新しい見方を生みだしました。失業率と物価上昇率は低水準で推移し、新しい情報技術産業を中心に産業の競争力が回復し、さらに連邦財政は黒字に転化しました。世界中の資金を巻き込んだ株式市場の活況は、投機的バブルに対する懸念を生みつつも持続しています。過去と比べてアメリカ経済のなにがどのように変化したのか、その国民生活への影響はなにか、また日本や世界にとっての意義はなにか――この講義では、こうしたアメリカ経済の現代的な争点をニューディール以来の長期的な視野に位置づけ、歴史と理論の両面から検討します。専門的な知識がない方でも、基本的なことがらから説明しますので受講してください。

講義概要

現代アメリカ経済の展開を歴史的にフォローし、各々の時代の理論政策上の問題を説明するという形式を取ります。前期に 1920 年代から 70 年代まで、後期に 80 年代以降を扱います。

テキスト

年度の初めに前後期をつうじたレジメ集を配布します。

参考文献

平井規之他『概説アメリカ経済』有斐閣

その他、講義中に適宜指定します。

評価方法

前期：前期定期試験

後期：後期定期試験

受講者への要望

専門的な予備知識に自信のない人は参考文献と合わせて毎年出版されている日本経済新聞社編『経済新語辞典』を活用してください。

前期授業計画

1. はじめに――講義の構成／すすめ方と注意事項／評価方法／参考文献
2. ニューディールと第２次大戦（１）――20 年代のブームと大恐慌の発生
3. ニューディールと第２次大戦（２）――ニューディールの登場
4. ニューディールと第２次大戦（３）――29 年恐慌論争
5. ニューディールと第２次大戦（４）――軍事経済下のアメリカ
6. 冷戦時代の幕開け（１）――戦後世界体制の中のアメリカ
7. 冷戦時代の幕開け（２）――「ゆたかな社会」
8. 資本主義の黄金時代とその終焉（１）――60 年代
9. 資本主義の黄金時代とその終焉（２）――「ベトナムの衝撃」
10. 安定化政策をめぐる論争（１）――ケインジアンとマネタリズム
11. 安定化政策をめぐる論争（２）――旧ケインジアンと新ケインジアン
12. 安定化政策をめぐる論争（３）――物価安定と景気後退

後期授業計画

1. レーガノミックスの時代（１）――「大きな政府の時代は終わった」
2. レーガノミックスの時代（２）――財政政策と金融政策
3. レーガノミックスの時代（３）――「双子の赤字」・プラザ合意・途上国累積債務問題
4. 1990 年代のマクロ経済――概観
5. 経済格差の拡大（１）――富と貧困の現状を見る
6. 経済格差の拡大（２）――それをめぐる論争
7. 労働市場の変化と人種・移民問題
8. 産業の「空洞化」と「再工業化」（１）――産業再編と国際競争力
9. 産業の「空洞化」と「再工業化」（２）――主要産業の再編
10. マクロ経済政策（１）――財政赤字はどのようにしてなくなったか
11. マクロ経済政策（２）――金融市場と株式市場
12. まとめにかえて――「ニューエコノミー」と日本にとっての含意

01 科目名	ラテンアメリカ経済論ａ・ｂ
98 科目名	ラテンアメリカ経済論
97 科目名	地域経済論（６）
担当者	松　本　栄　次

講義の目標

日本経済と深いつながりをもつラテンアメリカ諸国および諸地域の経済事情と特性を、自然環境的基盤、歴史的発展課程、政治的社会的特性などの分析の上にたって多面的に考察する。また、この地域の経済の将来展望、日本との関連、経済開発と環境保全などについても考える。

講義概要

前期には、ラテンアメリカ全域に関し、経済の基盤をなす、自然環境、歴史的経緯、社会と住民などについて概観したうえで、変革期にある現在の経済の現状と特性について考察する。また、日本との関連などについて述べる。

後期には、ラテンアメリカ経済の一つの中核をなすブラジルをとりあげ、その特異な産業経済の発展史および諸地域における経済活動の特質、経済発展の現状と問題点を指摘するとともに、アマゾン流域を事例として、経済開発と環境保全の調和の問題について講述する。

テキスト

（後期）M．グールディング他著（山本正三・松本栄次訳）「恵みの洪水―アマゾン沿岸の生態と経済」同時代社、2001 年

参考文献

小池洋一・西島章次編「ラテンアメリカの経済」新評論社、1993 年

加茂雄三ほか編「ラテン・アメリカ事典」1996 年版

A．ギルバート／山本正三訳「ラテンアメリカ入門」二宮書店、1996 年

湯川攝子「ラテンアメリカ経済論」中央経済社、1999 年

評価方法

前期：定期試験の成績に出席状況を加味して行う。

後期：同上

受講者への要望

地図帳を持参することが望ましい。

前期授業計画

1．ラテンアメリカの地域と経済の特徴
2．ラテンアメリカ経済の自然的基盤（１）土地条件と資源・災害
3．ラテンアメリカ経済の自然的基盤（２）農牧林業環境
4．ラテンアメリカ経済の歴史的背景（１）先住民文化とその影響
5．ラテンアメリカ経済の歴史的背景（２）ヨーロッパ人による植民地の開発
6．ラテンアメリカ経済の歴史的背景（３）住民と社会の形成
7．ラテンアメリカ経済の発展過程（１）植民地期の経済
8．ラテンアメリカ経済の発展過程（２）輸出経済期の経済
9．ラテンアメリカ経済の発展過程（３）輸入代替工業化期の経済
10．現代のラテンアメリカ経済の構造
11．世界経済の変化とラテンアメリカ経済
12．ラテンアメリカ経済と日本

後期授業計画

1．ブラジル経済の地理的基盤
2．ブラジルの産業史の特質―ブームとバーストのサイクル―
3．ブラジルの諸地域と経済（１）先進経済地域―南東部・南部地方
4．ブラジルの諸地域と経済（２）開発停滞期域―北東部地方
5．ブラジルの諸地域と経済（３）開発途上地域―北部・中西部地方
6．構造調整下の現代ブラジル経済
7．アマゾニア地方の自然生態的基盤
8．アマゾニア地方の住民と居住の歴史
9．アマゾニア地方における地域開発政策
10．アマゾニア地方における地域開発と環境問題（１）
11．アマゾニア地方における地域開発と環境問題（２）
12．アマゾニア地方における経済開発と生態系保全の調和の道

01 科目名	西ヨーロッパ経済論ａ・ｂ
98 科目名	西ヨーロッパ経済論
97 科目名	地域経済論（２）
担当者	大　西　健　夫

講義の目標

西ヨーロッパは、アメリカ、アジアとともに世界経済における三極を形成している。西ヨーロッパ経済の中核をなすのはＥＵであり、戦後の石炭鉄鋼共同体から地域経済共同体へと発展し、現在は通貨共同体のみならず外交・安全保障を共通政策とする政治共同体への途を進んでいる。ＥＵの生成・発展、その構造と機能を明らかにする。

講義概要

前期においては、戦後世界の経済・政治秩序形成のなかでヨーロッパ統合が進んだ背景とその統合過程を分析する。

後期においては、地域共同体としてのＥＵの構造、制度、機能を解説し、ＥＵの統合が経済と市民生活にどのような役割を演じているかを説明する。

テキスト

大西・岸上編「ＥＵ統合の系譜」、早稲田大学出版部

参考文献

中沢靖史「図解ＥＵ大欧州のしくみ」、中経出版

評価方法

前期と後期に論文問題形式での期末試験を実施し、その成績で評価する。

受講者への要望

経済原論と国際経済の授業を履修していることが望ましい。

前期授業計画

1. 戦後国際政治秩序の形成
2. 戦後国際経済秩序の形成
3. ＧＡＴＴからＷＴＯへ
4. ＧＡＴＴにおける地域経済共同体
5. 地域統合の諸段階
6. ヨーロッパ統合の理念
7. 冷戦構造下のヨーロッパ経済
8. 石炭鉄鋼共同体
9. 経済共同体
10. 関税同盟
11. ＥＣからＥＵへ
12. ＥＵの拡大

後期授業計画

1. ＥＵ，ＮＡＦＴＡ，ＡＦＴＡ
2. ＥＵの連邦主義
3. ＥＵの制度（１）
4. ＥＵの制度（２）
5. 域内貿易
6. 統合市場の完成
7. マーストリヒト条約
8. 通貨統合
9. 共通政策（１）
10. 共通政策（２）
11. 共通政策〈３〉
12. 市民のヨーロッパ

01 科目名	**東アジア・中国経済論ａ・ｂ**
98 科目名	**東アジア・中国経済論**
97 科目名	
担当者	**全　　載　旭**

講義の目標

今日の世界経済において、東アジアの重みがますます増している。なかでも、中国の動向は、21 世紀の世界経済の新たな秩序の形成を左右する最大のファクターの 1 つである。中国の WTO 加盟は、短期的には、国有企業の倒産、失業の増加など、否定的な影響を国内に及ぼすであろうが、長期的には産業構造の高度化、競争力の強化、市場開放の拡大などによって改革・開放が加速化され、ひいては経済成長を促進するものと思われる。この授業では、東アジア全体に目を配りつつ、中国経済を中心に考察する。日本もまた東アジアにあって、この地域の諸国と相互に密接な連関をもっている。本科目の履修を通じて、この地域のあり方に関心を向けてもらいたいと思う。

講義概要

下記のテキストを用い、東アジアの中での中国経済の歴史、発展可能性などを学ぶ。中国において 1970 年代末から始まった改革・開放を中心に講義を進めて行きたい。

必要に応じて新たなテーマについて議論する。

テキスト

渡辺利夫、加藤弘之、白砂堤津耶、文大宇『図説［第 2 版］中国経済』日本評論社、1999 年

参考文献

渡辺利夫、小島朋之、杜進、高原明生『毛沢東、鄧小平そして江沢民』東洋経済新報社、2000 年

評価方法

前期：筆記試験を行う。

後期：筆記試験を行う。

受講者への要望

中国の経済システムは通常の資本主義国とは異なるところがあるので、中国経済の状況を実態にそくして理解するためには、テキスト及び参考文献を事前に読んで授業に出席してほしい。

前期授業計画

1. 中国及び中国人
2. 改革・開放以前における中国の計画経済
3. 改革・開放以降における中国経済の発展
4. 人口動態（1）―人口移動のコントロール
5. 人口動態（2）―人口流動化に伴う都市問題
6. 農業発展（1）―農業部門における生産性の向上
7. 農業発展（2）―人民公社の解体
8. 郷鎮企業（1）―社隊企業との違い
9. 郷鎮企業（2）―農村工業化
10. 工業発展（1）―重工業育成政策
11. 工業発展（2）―非国有企業の発展
12. 中国の WTO 加盟と東アジアの経済協力

後期授業計画

1. エネルギーと交通・運輸―インフラストラクチュア部門のボトルネック
2. 財政と金融（1）―国家財政の構造
3. 財政と金融（2）―金融改革
4. 地域発展（1）―不均衡成長理論
5. 地域発展（2）―西部大開発戦略
6. 貧困と環境―絶対的貧困層の減少と環境破壊
7. 貿易と直接投資（1）―輸出・輸入構造の変化
8. 貿易と直接投資（2）―直接投資の構造
9. 華南経済圏（1）―台湾
10. 華南経済圏（2）―香港
11. 華南経済圏（3）―中国の広東省とマカオ
12. 21 世紀における中国経済の行方

01 科目名	オセアニア経済論ａ・ｂ
98 科目名	東南アジア・オセアニア経済論
97 科目名	地域経済論（４）
担当者	森　　健

講義の目標

世界の国は、それぞれ固有の自然条件、歴史、種族構成、文化を持つ。したがって、各国の経済活動もそれぞれの固有性を反映し、多様な形態を示す。しかし、このような多様な形態を持つ経済活動も、深く観察すれば、その根本には各国に共通する普遍的な論理が働いていることが確認できる場合が多い。この講義では、日本経済との結びつきが強く、また、この 2－30 年の間に自由貿易主義と多文化主義社会化の政策を急速に進めてきたオーストラリアを取り上げ、この国がかかる政策変更を採用するに至った要因を分析する。

講義概要

近年、オーストラリアは極めて大胆な政策転換を行った。現在、同国は、アジア太平洋経済協力会議（APEC）の結成を主唱し、自国およびこの地域の貿易･投資の自由化に熱心な国として、また、アジアの難民、移民、留学生を多数受け入れ多様な文化の維持、発展に努める国として知られる。しかし、同国は、かつては、名だたる保護貿易主義国家であり、有色人種の移民を排除する国であった。オーストラリアがこのような政策変換を進めた理由は何か。新政策はどのような変化をこの国に及ぼしているのか。この講義では、上記のような問題を様々な切り口（自然条件、歴史的条件、文化、政治･社会体制、経済条件など）から解明する。

テキスト

竹田いさみ、森健（共編）「オーストラリア入門」、東京大学出版会、1998 年。および、これを補完するプリント（特に前期）。

参考文献

・ジェフリー・ブレイニー著、加藤めぐみ・鎌田真弓訳、「オーストラリア歴史物語」、明石書店、2000 年。

・関根政美著、「多文化主義社会の到来」、朝日新聞社、2000 年。

・竹田いさみ著、「物語オーストラリア」、中公新書、中央公論新社、2000 年。

評価方法

前期：定期試験

後期：定期試験

受講者への要望

他の国の経験を知ることで、社会現象を多面的に、相対的に見る眼が養われること（複眼的思考）を期待しています。

前期授業計画

1. ビデオ等を使ったイントロダクション
2. 講義内容の総括的な説明
3. 歴史（1）：囚人労働とステープル産業としての羊毛産業
4. 歴史（2）：流刑制度をめぐる問題
5. 歴史（3）：ゴールド・ラッシュとその影響
6. 歴史（4）：仲間主義、平等主義、綱領なき社会主義
7. 歴史（5）：1860 年代から 1880 年代にかけての長期高度成長
8. 歴史（6）：1890 年代の恐慌と連邦結成
9. 歴史（7）：保護貿易主義と中央集権的賃金決定制度
10. 歴史（8）：経済ナショナリズムの形成
11. 文化（1）：エトス、アイデンティティ、アボリジニ
12. 文化（2）：ヒーロー、文学テーマ

後期授業計画

1. 社会（1）：多文化社会化
2. 社会（2）：多文化社会化の悩み（1）
3. 社会（3）：多文化社会化の悩み（2）
4. 社会（4）：労働と社会(1)
5. 社会(5)：労働と社会(2)
6. 政治：政治構造と制度
7. 外交・安全保障（1）
8. 外交・安全保障（2）
9. 経済構造と経済政策(1)
10. 経済構造と経済政策(2)
11. 経済構造と経済政策(3)
12. 日豪経済関係

01 科目名	中東経済論ａ・ｂ
98 科目名	中東・アフリカ経済論
97 科目名	地域経済論（５）
担当者	平　井　文　子

講義の目標

イスラエル・パレスチナ紛争、石油問題、イスラム原理主義運動などで国際政治・経済の焦点になっている中東地域の政治・経済・社会・文化を包括的にとらえ、グローバリゼーション下の中東経済開発の実態と方向性を探る。

講義概要

まず、中東の概念、歴史、社会、文化の特徴を講義する。中東各国の政治経済事情、パレスチナ問題、中東石油、イスラーム復興、中東の開発といった個別テーマをより深く追求する。出来る限りビデオを利用する。

テキスト

授業開始後指定する。

参考文献

永井道雄監修、板垣雄三編『新・中東ハンドブック』、講談社

栗田禎子『＜南＞から見た世界０４　中東』、大月書店

板垣雄三編『中東アナリシス』、第三書館

平井文子「中東の開発」、土生長穂編『開発とグローバリゼーション』、柏書房

評価方法

前期：定期試験

後期：定期試験

受講者への要望

メディアに取り上げられる中東での出来事を注意して見聞きする事

前期授業計画

1. 講義概要についての説明
   中東地域の地理と風土
2. 中東の歴史　1
   古代～中世
3. 中東の歴史　2
   植民地化～独立
4. 中東各国の政治経済事情（各国事情）　1
   エジプト、トルコ、スーダン
5. 各国事情　2
   湾岸産油諸国
6. 各国事情　3
   シリア、ヨルダン、レバノン
7. 各国事情　4
   イラク、イラン、アフガニスタン
8. 各国事情　5
   マグレブ諸国、中央アジア共和国
9. パレスチナ問題　1
   その起源～イスラエル建国
10. パレスチナ問題　2
    第３次中東戦争～レバノン戦争
11. パレスチナ問題　3
    インティファーダ～湾岸戦争
12. パレスチナ問題　4
    オスロ協定～今日までの和平プロセス

後期授業計画

1. 中東石油　1
   OPEC（OAPEC）の成立、第 4 次中東戦争と石油戦略
2. 中東石油　2
   オイルグラット、湾岸戦争
3. 中東石油　3
4. イスラームについて　1
5. イスラームについて　2
6. イスラームについて　3
7. イスラームについて　4
8. 中東の開発　1
9. 中東の開発　2
10. 中東の開発　3
11. 中東の開発　4
12. 予備日

01 **科目名**	**金融経済論　a・b**
98 **科目名**	**金融経済論**
97 **科目名**	**金　融　論**
担当者	**斉　藤　美　彦**

講義の目標

金融経済論の基礎を理解し、種々の金融事象や金融政策に関連した新聞記事が読め、議論が理解できるようになることを目標とする。

講義概要

講義は、金融の基本的原理から始まり、貨幣供給の仕組み、銀行業の基本、金融政策、国際金融、金融問題をひろく取り上げる。そのなかで銀行の不良債権問題や破綻、大型合併、ゼロ金利政策、インフレーション・ターゲティング等、近年話題となった事柄についてもその経済学的意味について解説していきたい。

テキスト

辻信二「新版　金融と銀行」学文社、1995 年

参考文献

建部正義「はじめて学ぶ金融論」大月書店、1999 年

評価方法

期末試験による。

受講者への要望

新聞の金融関連の記事に目を通すこと。とくに金融政策に関係する記事には注意し、自分なりの情勢判断をするよう心がけること。

前期授業計画

1. 金融のフローとストック（1）
   ＊なぜ金融が必要か
2. 金融のフローとストック（2）
   ＊金融業の役割
3. 金融のフローとストック（3）
   ＊金融ストックの形成
4. 金融のフローとストック（4）
   ＊金融取引・金融資産の全体図
5. 金利・資産価格・利回り（1）
   ＊シグナルとしての金利
6. 金利・資産価格・利回り（2）
   ＊資産市場における金利
7. 金利・資産価格・利回り（3）
   ＊株式と株価
8. 金利・資産価格・利回り（4）
   ＊金利を動かしているもの
9. マネー（貨幣）と銀行業（1）
   ＊現代のマネーと決済システム
10. マネー（貨幣）と銀行業（2）
    ＊銀行の信用創造機能
11. マネー（貨幣）と銀行業（3）
    ＊マネーの価値とインフレーション
12. マネー（貨幣）と銀行業（4）
    ＊マネーの変遷

後期授業計画

1. 中央銀行の役割（1）
   ＊内生的貨幣供給説と外生的貨幣供給説
2. 中央銀行の役割（2）
   ＊金融政策の目的と波及経路
3. 中央銀行の役割（3）
   ＊金融政策の手段と準備預金制度
4. 中央銀行の役割（4）
   ＊マネーサプライ論争、ゼロ金利政策と量的緩和論
5. 金融の国際的側面（1）
   ＊為替相場の形成
6. 金融の国際的側面（2）
   ＊国際通貨制度の変遷
7. 金融の国際的側面（3）
   ＊国際金融
8. 金融の国際的側面（4）
   ＊銀行の国際業務
9. 金融問題（1）
   ＊金融自由化の進展
10. 金融問題（2）
    ＊金融の「証券化」
11. 金融問題（3）
    ＊リーテイルとホールセール
12. 金融問題（4）
    ＊銀行の収益とリスク

01 **科目名**	**金融システム論　a・b**
98 **科目名**	**金融システム論**
97 **科目名**	
担当者	**斉　藤　美　彦**

講義の目標

世界各国において金融システムは大きく変化してきている。その基調となる金融自由化が金融サービス業の変貌とどのような関連をもっているのかを理解できるようになることを目標とする。

講義概要

本年度はイギリスと日本の金融システムを比較し、両者の共通点および相違点を学び、今後の変化の方向性を探る。イギリスは 1986 年にビッグバンを実施したが、国内証券業者（マーチャントバンク）のほとんどが外国業者に買収されウィンブルドン現象という言葉まで生まれた。他方、日本はバブル崩壊後、1997－8 年の危機後、大型の再編が相次いでいる。講義では、これらの事例を紹介しつつ、法整備や行政のあり方等についても検討する。

テキスト

ａ）．斉藤美彦「イギリスの貯蓄金融機関と機関投資家」日本経済評論社、1999 年。ｂ）．鹿野嘉昭「日本の金融制度」東洋経済新報社、2001 年。

参考文献

斉藤美彦「英国金融サービス・市場法について」『金融』（全国銀行協会）2000 年 11 月号

斉藤美彦「1990 年代のイギリス四大銀行」『証券経済研究』（日本証券経済研究所）第 28 号（2000 年 11 月）。

渋谷・丸山・伊藤編「パクス・アメリカーナと日本経済・社会」東京大学出版会、2001 年。

評価方法

期末試験による。

受講者への要望

新聞の金融関連の記事に目を通すこと。

前期授業計画

1. イギリスの金融システム　①
   ＊金融システムの長期的動向
2. イギリスの金融システム　②
   ＊金融サービス法から金融サービス・市場法へ
3. イギリスの金融システム　③
   ＊商業銀行
4. イギリスの金融システム　④
   ＊マーチャントバンク
5. イギリスの金融システム　⑤
   ＊商業銀行と貯蓄金融機関
6. イギリスの金融システム　⑥
   ＊住宅金融組合
7. イギリスの金融システム　⑦
   ＊信託貯蓄銀行
8. イギリスの金融システム　⑧
   ＊国民貯蓄銀行
9. イギリスの金融システム　⑨
   ＊機関投資家の発展
10. イギリスの金融システム　⑩
    ＊年金基金
11. イギリスの金融システム　⑪
    ＊保険会社
12. イギリスの金融システム　⑫
    ＊投資信託

後期授業計画

1. 日本の金融システム　①
   ＊専門金融機関制度
2. 日本の金融システム　②
   ＊普通銀行（都市銀行・地方銀行）
3. 日本の金融システム　③
   ＊長期信用銀行・信託銀行
4. 日本の金融システム　④
   ＊中小企業金融機関
5. 日本の金融システム　⑤
   ＊金融制度改革
6. 日本の金融システム　⑥
   ＊日本版ビッグバン
7. 日本の金融システム　⑦
   ＊金融危機と金融再生法
8. 日本の金融システム　⑧
   ＊金融大再編の動き
9. 日本の金融システム　⑨
   ＊銀行業への新規参入
10. 日本の金融システム　⑩
    ＊預金保険制度
11. 日本の金融システム　⑪
    ＊日本版金融サービス法
12. 日本の金融システム　⑫
    ＊金融監督機関（金融庁・日本銀行）

01 **科目名**	**財　政　学ａ・ｂ**
98 **科目名**	**財　政　学**
97 **科目名**	**財　政　学**
担当者	**五　嶋　陽　子**

講義の目標

「財政学」とは、公共部門の経済活動を対象とする学問である。政府は租税や公債発行で財源を調達して国防、外交、司法、警察、義務教育、公衆衛生、ごみ処理などさまざまな公共サービスを供給する。本講義では公共部門の経済活動を理解する上で必要と思われる基礎的な知識を習得することを目的とする。

講義概要

前期は政府の支出活動について取り上げる。現代財政と市場経済とはどのような関わりがあるのか、どのような政治過程を通じて財政支出が決定されるのか、なぜ民間部門ではなく政府が公共サービスを供給しなければならないのか、政府は何に、どれくらい支出をするべきかについて見る。後期は政府の収入調達について学ぶ。租税の満たすべき要件とは何か、租税は経済主体にいかなる影響を及ぼすのか、公債発行は一体誰の負担になるのか、それは経済に悪影響をもたらすのか、これらについて理解を深める。

テキスト

大島他編『日本が直面する財政問題』八千代出版。

参考文献

佐藤進・関口浩『財政学入門』同文館。

吉田克己『現代財政の構造と理論』八千代出版。

講義内容との関連において適宜指示する。

評価方法

前期試験と後期試験

受講者への要望

経済学の素養を身につけていることが望まれる。

年間授業計画

1. 講義の概要と方法、現代財政と市場経済
2. 財政とは何か、民間部門と公共部門の違い
3. 公共部門の経済活動
4. 公共部門の構成と収支の構造、その規模
5. 財政赤字と財政再建
6. と 7. 財政学説の展開
8. 予算・財政システム（財政民主主義の原則、予算制度）
9. 予算の機能、予算原則、予算改革
10. 市場の失敗
11. 公共財論
12. 政府支出政策

後期授業計画

1. 租税根拠論
2. 租税原則論
3. 租税の体系と分類
4. と 5. 家計課税（分類所得税・包括所得税・支出税）
6. 税率構造
7. と 8. 企業課税
9. 消費税
10. 資産課税
11. と 12. 公債理論

01 **科目名**	**公共経済学ａ・ｂ**
98 **科目名**	**公共経済学**
97 **科目名**	**公共経済学**
担当者	**伊　藤　爲一郎**

講義の目標

わたしたちの日々の生活は公共部門の活動と切っても切れない関係にある。水・清掃・教育・道路・警察・消防など様々な公共サービスによって便益を受けている。政府の活動と民間部門の活動とはどういう関係にあるか。政府の活動は大きすぎるのか。介入するとすればどういう方法であるべきか。政府の活動を効率化するにはどんな改革が必要か。政府は国民の福祉にどのように関係すべきであるか。このような公共部門の活動についての基礎的な理解を深めることが本講の課題である。

講義概要

公共部門が経済活動や社会生活にどのように連動しているか、図や表を多用しながら講義を進める予定である。

国民経済の発展とともに公共部門の機能も大きく変動してきたが、その経過をたどることによって、現代の政府活動の特徴を明らかにする。

テキスト

講義のはじめに指示する。

参考文献

講義のなかでその都度指示する。

評価方法

前期：期末テストおよび中間での小テストの成績によって評価する。

後期：前期と同じ。

前期授業計画

1. はじめに
   文献紹介
2. 公共部門の成長と国民経済
   政府（中央・地方）の範囲
3. 公共部門存在の理論的根拠
   公共財・外部性・公的供給と公的生産
   市場の失敗・政府の失敗
4. 政府の機能
   資源配分・所得分配・経済安定・経済成長
5. フィスカルポリシー
   ケインズ理論とフィスカルポリシー・ビルトイン・スタビライザー
6. 公共経費論
   公共経費の発展・経費構造
7. 公共経費論（続）
   わが国の経費構造の変遷と特徴
8. 社会資本と経済発展
   高度成長と社会資本充実政策・新しい社会資本
9. 経費便益分析
   公共投資の費用便益分析・PF1
10. 地方政府
    地方財政の拡大・地方公共財の供給・財政危機
11. 都市問題－一極集中
    土地と住宅・交通・ゴミ・財政危機
12. まとめ

後期授業計画

1. はじめに
   文献紹介
2. 公共サービスの供給と財源調達
   なぜ租税が必要か・租税原則・公平な租税とは
3. 租税原則と租税配分
   租税利益説・租税能力説・租税犠牲説
4. 租税構造
   わが国租税構造の変遷とその特徴
5. 現代の租税と分類
   所得税・法人税・消費税・資産税・目的税
6. （続）
7. （続）
8. 公債
   租税国家の危機・公債の増大・公債の機能
   累積公債と財政再建
9. 地方政府と財政危機
   地方税・地方交付税・国庫支出金・地方分権から地方主権へ
10. 高齢化社会と財政
    高齢化の進展・年金財政の破綻・負担とサービスのバランス・賦課方式と積立方式
11. 環境問題と財政
    市場の失敗と環境政策・課徴金か補助金か・環境税
12. まとめ

01 **科目名**	
98 **科目名**	**地方財政論**
97 **科目名**	**地方財政論**
担当者	**伊　藤　爲一郎**

講義の目標

地方財政は「行政のデパート」といわれるように、福祉、教育、警察、消防などの行政サービスから上・下水道、経済振興策などまで多様なサービスを供給している。地方公共団体のこのような活動をとらえたものが地方財政である。住民の日常生活と深く関連している地方財政の役割を明らかにすることが課題である。

講義概要

都道府県から市町村まで 3200 余もある地方団体は社会経済的条件が様々であり、一律に論ずることは不可能であるが、マクロ的に地方財政の分析を行い、その特徴や問題点を指摘し、将来を展望する。

テキスト

講義のはじめに指示する。

参考文献

講義の中でその都度指示する。

評価方法

前期：期末テストおよび中間での小テストの成績によって評価する。

後期：前期と同じ。

前期授業計画

1. はじめに
   文献紹介
2. 地方財政の重要性
   地方財政の役割・国民経済と地方財政・国と地方の財政
   ・歴史的変遷　・諸外国では
3. （続）
4. 地方公共団体・地方財政の多様性
   都道府県・市町村・社会経済条件の多様性
5. 地方自治・財政の歴史
   明治期・大正期・庄和 10 年代
6. シャウプ勧告から高度成長期の財政
   第一次・第二次シャウプ勧告・町村合併と財政・高度成長期の地方財政・オイルショック
7. 低成長経済と財政
   オイルショック後・バブル期・90 年代の財政
8. 公共支出の拡大と役割の変化
   公共支出の機能・地方公共財の供給・範囲の拡大と規模の膨張・支出構造の変化・財政赤字
9. （続）
10. （続）
11. 国と地方の役割分担再考
    事務と税の再配分・政府間関係・地方主権
12. まとめ

後期授業計画

1. はじめに
   文献紹介
2. 地方政府サービスと財源
   財政機能の配分・地方と国の財源配分・財源配分をめぐる対立の歴史
3. 地方税
   地方税体系・地方税の構造
4. 地方財政調整制度（1）
   地方財源の偏在・地方交付税・地方譲与税
5. 地方財政調整制度（2）
   国庫支出金（補助金・負担金・委託金）
6. 地方財政調整制度（3）
   地方消費税
7. 地方税・公債以外の地方収入
   受益者負担・料金・使用料・手数料・その他
8. 地方債
   地方債の制度・地方債の累増・地方債の償還と負担
9. 過密と過疎
   都市の財政需要増大と財政危機・農山村部の過疎化と地域開発
10. 地方公営企業の現状
    地方公営企業の経営状況・独立採算性・公企業の財政再建
11. 行政改革と地方主権の動き
    地方分権の動き・行政改革への取組み
12. まとめ

01 科目名	環境経済学　a・b
98 科目名	環境経済学
97 科目名	
担当者	浜　本　光　紹

講義の目標

近年の環境問題の深刻化とともに、環境保全と経済活動の調和を求めて、新たな社会経済システムの構築への模索が試みられている。本講義では、経済学の立場から、環境破壊が進行する要因を検討し、環境保全型社会経済システムの構築のために環境政策はどのように設計される必要があるのかについて考えていく。

講義概要

前期は、環境経済学の理論的基礎について、とくに環境政策の設計という課題を中心に講義を行う。後期は、現実の環境政策の諸事例を検討しながら、環境政策設計のあり方に関する政策的含意を導き出していく。

テキスト

植田和弘「環境経済学」岩波書店

参考文献

植田和弘「環境経済学への招待」丸善ライブラリー

宮本憲一「環境経済学」岩波書店

評価方法

前期：定期試験による。

後期：定期試験による。

受講者への要望

講義内容についてわからない事項があれば積極的に質問するなど、理解に努めること。

前期授業計画

1. イントロダクション：環境経済学の課題
2. 環境と開発
3. 環境評価手法
4. 環境政策の目標と諸手段
5. 環境資源管理
6. 環境政策の決定過程
7. 環境保全型社会経済システムの構築に向けて

後期授業計画

1. イントロダクション：環境政策の理論と実際
2. 日本の環境政策
3. 米国の環境政策
4. 地球温暖化
5. 環境税の理論と実際

01 科目名	経済地理学ａ・ｂ
98 科目名	経済地理学
97 科目名	経 済 地 理
担当者	犬　井　　正

講義の目標

経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。

講義概要

単に講義による農業地理学の理論だけでなく、フィールドワークをおこなうとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実のすがたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は前期・後期各 1 回（それぞれ 4000 字程度）の小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。

テキスト

D. グリッグ著『農業地理学』1997 年、農林統計協会

参考文献

・D. グリッグ著『西洋農業の変貌』1996 年、農林統計協会

・定本正芳著『農業地理学の理論』1983 年、大明堂

・山本正三他編著『日本の農村空間』1990 年、古今書院

・山本健児著『経済地理学入門』1993 年、大明堂

評価方法

年間指定小論、およびフィールドワークのレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。

受講者への要望

毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る。

前期授業計画

1. 本講義の 1 年間の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションを行い受講者数を決定する。
2. 経済地理学の研究方法と研究対象について、経済学と地理学の方法の相違をふまえながら講述する。
3. 経済地理学研究のためのデータの収集とその活用の方法。特にセンサスデータ、地図の活用などを中心として。
4. 農業活動と自然環境との関係を、具体的な農業地域を事例にして考察する。
5. 農業生産と農業労働力を中心として、専業・兼業別農家の経営形態の地域的差異を考察する。〈前期小論提出〉
6. 農業経営規模と土地の保有形態を中心として、農業経営形態や他産業との競合を視点として考察する。
7. 農産物と市場・流通・輸送形態の関係について具体的な農業地域を事例として考察する。
8. 国家と農業政策、土地利用と土地利用計画・政策について考察する。
9. 日本と世界の諸地域の農業経営形態の差異と農業地域区分の方法を考察する。
10. 東京近郊洪積台地上の農業地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する）。
11. 同上
12. 前期のまとめと評価。フィールドワークのレポート提出

後期授業計画

1. 日本の農業の特色と農業地域の概観。
2. 首都圏の農業地域の構造と特色。
3. 輸送園芸農業地域の構造と特色。
4. 米作地域の農業経営の特色と問題点。〈後期小論提出〉
5. 農産物の自由化と日本の農業の関係を文化、経済の視点からみる。
6. イギリスの農業の特色と農業地域の概観。
7. イギリスの LFA 地域と集約農業地域の特色を考察する。
8. イギリスの工業化する農業と農業地域の特色。
9. 農産物の過剰生産と農業補助金政策をイギリスの小麦、日本の米を対象にして考察し、それぞれの国の農業地域の対応の仕方を考察する。
10. 同上
11. パネルディスカッションの実施。
12. 後期の講義のまとめと評価。パネルディスカッションのレポート提出。

01 科目名	交通経済論ａ・ｂ
98 科目名	交通経済論
97 科目名	交通経済論
担当者	岡　田　　博

講義の目標

現代の経済は高度に発達した交換経済であり、多くの経済システムの相互依存関係を通じて運営されている。交通サービスを供給する交通システムも現代の社会経済活動を支えている重要な経済システムである。

本講義においては交通を国民経済活動との関連において捉え、国民経済において交通が果たしている機能と役割について分析を行う。交通の経済学的分析とともに現代の交通問題に対する交通政策的アプローチについても意を注ぎたい。

講義概要

本講義は交通を研究対象として、これに経済理論の分析用具を用いて分析を行うものである。

講義の主な内容：交通経済論のアプローチの方法について、交通需要の特性、交通サービス供給について、交通市場の構造と特性、運賃の理論と実際、交通調整問題、交通と環境問題、交通政策等々について。

テキスト

未定、講義の最初に指示する

参考文献

岡野行秀編『交通の経済学』有斐閣

評価方法

前期：期末テストと授業のときに提出させるレポートによって評価する。

後期：前期と同じ

受講者への要望

授業には必ず出席して、ノートをとること。また授業で勉強したことについて、図書館で関連の書物を読み、さらに知識を深め確実なものとすることを習慣化してもらいたい。

授業中、私語は行わないこと。欠席の多い学生には単位を与えない。

前期授業計画

1. 交通経済論について、研究の方法、交通の概念、交通の生産物について
2. 交通需要Ⅰ　交通需要の特性、交通需要の弾力性について
3. 交通需要Ⅱ　交通需要の予測とその方法
4. 交通サービスの供給Ⅰ　交通サービス供給の史的概観
5. 交通サービスの供給Ⅱ　交通サービス供給の 3 要素、交通基礎施設サービスの供給形態の変化
6. 交通市場Ⅰ　交通市場の特性
7. 交通市場Ⅱ　交通市場の構造
8. 運賃理論Ⅰ　運送価値説
9. 運賃理論Ⅱ　独占運賃と差別運賃 1
10. 運賃理論Ⅲ　独占運賃と差別運賃 2
11. 運賃理論Ⅳ　運賃費用説
12. 運賃理論Ⅴ　限界費用運賃

後期授業計画

1. 交通の社会的費用Ⅰ　交通の社会的費用の概念
2. 交通の社会的費用Ⅱ　交通の社会的費用の実態と対策
3. 交通の社会的費用Ⅲ　交通の社会的費用の内部化
4. 交通投資と資金調達Ⅰ　交通投資の経済効果
5. 交通投資と資金調達Ⅱ　資金調達の方法について
6. 国民経済と交通Ⅰ　交通の発達と経済成長、近年における GDP と輸送量の乖離とその要因
7. 国民経済と交通Ⅱ　交通の発達と地域開発
8. 国民経済と交通Ⅲ　交通の発達と生産物市場圏の変化
9. 国民経済と交通Ⅳ　交通システムの発達と企業形態、多頻度少量輸送の増大と問題点
10. 交通政策Ⅰ　交通政策の理論
11. 交通政策Ⅱ　交通安全政策
12. おわりに

01 **科目名**	
98 **科目名**	**産業組織論**
97 **科目名**	**産業組織論**
担当者	**青　木　雅　明**

講義の目標

経済学の 1 分野である産業組織論（Industrial Organization）は、財貨・サービスの生産者あるいは供給者の行動とそれに影響を与える市場の構造、政府の規制について研究し、その成果を、経済政策の重要部分となった「競争政策」に応用します。

この授業では、産業組織論の基本的考え方、手法、応用分野を学ぶことによって、現代経済の「心臓」に相当する企業活動とこれを補正する政府の正しい役割を認識してもらいます。

講義概要

第 1〜5 回はミクロ経済学のうち産業組織論の基礎にあたる完全競争市場の企業行動や独占・寡占市場の経済的非効率性などについて復習します。第 6〜24 回は下記のテキストにそって最近の産業組織分析の考え方、成果を講義します。

テキスト

長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社 1998 年（2800 円）

参考文献

ジョセフ･E･スティグリッツ『スティグリッツ ミクロ 経済学 第 2 版』東洋経済新報社　2000 年

後藤晃・鈴村興太郎編『日本の競争政策』東京大学出版会　1999 年

上杉秋則他「21 世紀の競争政策」東京布井出版 2000 年

評価方法

毎回、「学んだことの要旨」、「理解できなかった点、質問事項」、「その他（感想、意見、気がついた点など何でもよい）」についてミニレポートの提出を求めます。このミニレポートの成果、2001 年 1 月提出の中レポートの成果、および出席、授業中の私語、遅刻、早退の状況によって評価します。

受講者への要望

授業中の私語、遅刻、早退、教室への出入は禁止。欠席は最小限。テキストを購入してよく読むこと。

年間授業計画

1．完全競争市場における企業行動について費用の分析の仕方を学びます。

2．完全競争市場における企業行動について生産量の決定の仕方を学びます。

3．完全競争市場における競争的均衡と経済的効率性について学びます。

4．1 企業からなる独占市場やあまり多くない企業からなる不完全競争市場における価格と産出量の決定の仕方、市場参入障壁の存在、市場均衡を学びます。

5．2、3 の企業だけで成り立っている寡占市場における企業行動について学びます。

6．産業組織分析の基本概念について学びます。

7〜8．企業の機能と構造について学びます。

9〜10．独占市場における企業行動とそれがもたらす経済的結果について学びます。

11．垂直統合と垂直的制限について学びます。

12．価格競争、数量競争などの競争の形態について学びます。

13〜14．市場への参入の経済効果について学びます。

15〜16．カルテルと合併の経済的影響について学びます。

17〜18．情報の不完全性と企業行動との関係について学びます。

19〜20．生産物市場における企業の戦略的行動について学びます。

21．技術進歩と研究開発競争、知的財産権、共同研究開発などについて学びます。

22．貿易と直接投資の生産物市場に与える影響について学びます。

23〜24．規制と規制改革について学びます。

01 **科目名**	
98 **科目名**	**産業構造論**
97 **科目名**	**産業構造論**
担当者	**山　越　　徳**

講義の目標

経済の発展、成長に伴い、様々な側面の経済構造が変化することはよく知られており、またその変化がより一層の発展・成長を促がす。本講義ではそれら構造変化の主たる産業構造の変動に注目し、近代的経済発展、産業社会の形成、生産技術構造、それらを支える種々の経済構造、相互依存関係を考察し、高度経済成長や重化学工業化の意味を考える。そして石油危機後の激しい構造変化、サービス経済化、ソフト化、情報化、国際化などの変動の分析を通して、新しく出てきた経済の諸問題、これまでの構造変化の指標にとってかわる指標、産業構造の捉え方をいっしょに考察していくことにする。

講義概要

これらの講義や議論を一層身近かのものとするために、種々のデータや資料、分析結果を用いて、短期間に後進国からトップクラスの先進国へと成長した、戦後の日本経済の事例を扱いながら、進めていくことにする。また構造分析の有力な分析道具である投入－産出分析の手法や産業構造を示す労働力構造とその変化に伴う労働市場問題についても考察する。

テキスト

『産業の経済学』(経済学入門叢書･16) 第 2 版　宮沢健一　東洋経済新報社

参考文献

『経済成長－六つの講義』サイモン・クズネッツ著、長谷川亮一訳　巌松堂出版など

講義を進めていく中でその都度、紹介していく

評価方法

前期のレポート（産業および構造変化に関するもので、課題については授業の中で提示)、後期の試験により、双方の結果で評価。

受講者への要望

現実の経済で生じている種々の変化や問題を扱っている文献、論文、事例に関心を持つとともに、読みかつ考察してほしい。

年間授業計画

第 1～2 週

・経済成長、経済発展

経済成長とは、経済構造の変化、工業化、高度化、多様化

1 人当り国民所得、GNP、成長の指標、労働生産性、産出規模

近代的経済発展、産業社会、産業の概念、生産構造

第 3～5 週

・経済成長と産業構造①

経済進歩の歴史過程、産業革命、三部門分類、ﾍﾟﾃｨの法則、AMS 分類、労働力構成と所得構成

所得弾性、成長の弾性、時系列データとクロスセクションデータ

第 6～7 週

・経済成長と産業構造②

製造業内部の構造と発展、発展段階説、消費財と投資財、最終財と中間財

輸入と国産化、輸入代替、生産規模、輸出指向型工業化、先進工業国と発展途上国雁行形態、重化学工業化

第 8～11 週

・産業連関表（投入－産出表）とは

製品の販路と投入、投入係数、産出係数、逆行列、中間投入、中間需要､最終需要､付加価値部門、直接および間接の生産波及、相互依存関係、産業特性、感応度係数と影響度係数

前方連関と後方連関､投入係数の固定性と変化、商品ベースと企業ベース、輸入、輸出、スカイライン分析、貿易構造

第 12～15 週

・産業連関表による分析

構造変化の要因分析、投入係数の変化と技術変化、資本ﾏﾄﾘｯｸｽ、雇用および産職ﾏﾄﾘｯｸｽ

生産プロセスと産業部門、部門の再配列、ブロック化、三角形化、素原材料系統の転換

工業原材料と規模、ユニットストラクチャー、規模別 I-O 表、国際 I-O 表、公害 I-O 表

国際分業

第 16～17 週

・産業構造の新しい方向

サービス化、ソフト化、情報化、国際化、多様化、高度化、複合化、構造変化の指標

財とサービス、有形財と無形財、構造変化の流れ、投入労働と評価

第 18～19 週

・産業内部の構造変化――ケース・スタディ
3 つのオートメーション、ロボットとコンピュータ、高度経済成長期の生産技術と'80 年代・'90 年代の生産技術、ＩＴ化、鉄鋼、電機、時計、印刷、銀行など

第 20〜22 週
・構造変化と就業構造
労働力の需要と供給、人口構造、新規学卒労働力、基幹労働力と縁辺労働力、大企業と中小企業
日本の労働市場、雇用制度、雇用慣行、労働の属性、産業と職業、雇用調整

第 23〜24 週
・日本の産業政策および産業と地域
大企業と中小企業、大都市産業、地場産業、新旧産業集積、地域の取組み
経済政策、産業政策、労働政策の流れと結びつき

01 科目名	**労働経済学ａ・ｂ**
98 科目名	**労働経済学**
97 科目名	**労働経済論**
担当者	**山　越　　徳**

講義の目標

労働経済学（Labour Economics, The Economics of Labour）は、多くの人々が人生においてさまざまな仕事（労働）に従事する時間・空間的次元、いいかえると「労働市場」の構造、機能、政策を分析対象とする応用経済学である。講義では現実の複雑な事象を分析するための方法を蓄積するために理論的側面に重点を置くが、できるかぎり最近の労働市場における新しい展開も併せて紹介するようにしたい。

講義概要

労働経済学は今日の応用経済学の中では、次々と新たな問題が生まれ、新しい仮説も提示されているため、最も「面白い」領域といわれている。いわば臨床医学に相当するこの分野の全体像を把握するには 1 年間の講義では十分ではないが、初歩的段階から専門文献が読めるまでの理論および実証分析のトレーニングを行いたい。そのため理論についての前提、考え方、それに基づくモデルのみならず現実の事象についても、事例や資料、データを用いて、取り上げていく。

テキスト

本講義の全体をカバーするテキストは使用しない。

参考文献

参考文献は講義でその都度、提示する。労働経済学が扱う主要課題をあらかじめ知りたい受講者は、下記の入門文献に目を通すことを勧める。

小野　旭『労働経済学（第二版)』(東洋経済新報社、1995 年）

桑原靖雄『放送大学テキスト：労使の関係』(日本放送出版協会、1995 年）

西川俊作『労働市場』(日経文庫、1980 年）

島田晴雄『労働経済学』(岩波書店、1988 年）

『労働白書』

評価方法

前期試験にかわるレポート（課題は講義にて提示）と後期試験による。

受講者への要望

講義ではできうるかぎり、グラフィックな提示などを通して、平易な解説に努めるが、受講生にも参考文献を読み、問題に取り組む積極的な姿勢を期待したい。社会政策、産業構造論など関連講義の受講を勧めたい。

年間授業計画

講義予定（講義の進行は受講生の理解度を見て調整）

1. 労働経済とは
   研究対象、商品と労働、分析方法、最近の雇用情勢
   1 年間のプログラム
2. 労働とは
   経済学と労働、労働力の概念、定義、用語
   経済主体、労働力の属性、産業と職業、分類
3. 労働統計とその見方
   人口統計と労働統計、理論と調査、調査方式、賃金、労働時間、
   労働条件など、諸統計における労働
4. 労働市場の理論
   学問的系譜、新古典派の労働市場理論
   労働の供給と需要、ケインズの雇用理論
5. 労働供給の理論
   供給主体、個人と家計、所得と余暇選好の理論、供給曲線、有沢＝ダグラスの法則、
   就業形態、労働時間と余暇、労働時間短縮
6. 労働需要の理論
   生産の派生需要、需要主体、需要曲線、限界生産力命題、生産関数、技術変化
7. 労働市場の構造と機能
   労働市場における需給調整、景気動向と雇用、失業、雇用調整、調整速度、制度的対応、
   企業内対応、労働市場の分断化、充足率と失業率
8. 日本の労働市場
   戦後日本の雇用の推移、安定雇用と雇用調整、基幹労働力と縁辺労働力、都市と農村、
   経済成長と労働供給、労働力供給源の変遷、日本の労働市場の模型、二重構造、
   外部市場と内部市場、職業別労働力
9. 新規学卒労働力
   新規学卒就業者の推移、(学歴別、性別、産業別、職業別)、地域間労働市場、集団就職、職安法
10. 性別年齢別労働力
    高齢化、少子化、経済成長と産業構造、産業と職業、成長分野と衰退分野、性別年齢構成の推移、性・年齢と雇用調整、労働力のコーホート、年齢による参入制限
11. 労働市場のコーホート分析
    コーホート別労働力増減状況、性別増減パターン、分

野別労働力確保状況、退出状況、中途採用、定年制、就業可能年齢と引退曲線、コーホート別部門シェア

12. 年齢と勤続のコーホート分析

年齢と勤続、日本的雇用慣行、年功制、長期雇用、大企業と中小企業、学歴と性別、ホワイトカラーとブルーカラー、大卒の市場

13. 採用状況からみた労働市場

大企業と中小企業、ホワイトカラーとブルーカラー、性別、石油ショック以前と以降、
若年労働力の比重、競合関係、バブル期の労働力不足

14. 情報化、国際化と労働市場

海外直接投資、空洞化、国際労働力移動、外国人労働力、ソフト化、サービス化、人材育成、モノ、カネの移動とヒトの移動、仕事の変化

15. 雇用見通しと労働市場の将来

産業別、職業別、性・年齢別雇用見通し、人口構造、諸政策との関係

01 科目名	経営学原理ａ・ｂ
98 科目名	経営学原理
97 科目名	経営学総論
担当者	冨　田　忠　義

講義の目標

現代社会では、企業はわれわれの日常生活のさまざまな局面で大きな影響を及ぼしているので、企業とその経営に対して無関心ではいられない。われわれにとって「企業」とはいったい何か。その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。経営学科に入学してきた学生の多くが一度はこのような疑問を抱いたことがあるであろう。本講義は、この種の疑問に現代経営学の最新の研究成果を平易に概説することによって、正面から答えようとするものである。

講義概要

まず経営学がいかなる学問であるかを全体的に把握するために、この学の研究対象と研究方法について考察する。以下、組織の行動を基本的に方向づけ特色を与える企業目的と経営理念、経営の担い手としての専門経営者（CEO）の機能と役割、取締役会などの最高経営機関の仕組み、経営管理機能について研究を進めてきた現代経営学の生成と発展、経営管理の過程と要素機能、計画技法とコントロール技法、組織構造と組織過程、組織の活性化などの個別テーマについて順次考察する。

テキスト

河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版

参考文献

山城章著『経営学原理』白桃書房

森本三男著『経営学入門』同文舘

森本三男著『経営学の原理』中央経済社

小椋康宏著『経営学原理』学文社

金森久雄・荒憲治郎編『有斐閣　経済辞典（3 版)』有斐閣

評価方法

前期：前期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込みは認めない。

後期：後期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込みは認めない。

受講者への要望

テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するということではないので、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。

前期授業計画

1. 年間講義計画の概要
2. （経営学方法論）経営学の対象、マネジメント経営学の方法、実践経営学の方法
3. 同上
4. 同上
5. （経営理念論）現代企業の目的、経営理念、経営倫理、経営社会責任
6. 同上
7. 同上
8. （経営リーダーシップ論）最高経営機関と専門経営者の役割、株主総会、取締役会、執行役員制、CEO（最高経営責任者）と COO（最高業務執行者)、コーポレート・ガバナンス
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 前期講義まとめ

後期授業計画

1. 後期講義概要
2. （経営管理学説史）現代経営学の生成と発展、テイラーとフォード、ファヨールとフォレット、バーナードとサイモン、人間関係論、行動科学、意思決定論、コンテンジェンシー理論
3. 同上
4. 同上
5. （マネジメント技法論）マネジメント・プロセス、問題解決と意思決定、戦略策定技法、計画技法、コントロール技法
6. 同上
7. 同上
8. （経営組織論）組織構造と組織過程、組織の類型化、経営組織の設計、権限と責任、リーダーシップ、経営組織の活性化
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 年間講義のまとめ

01 科目名	経営学原理　a・b
98 科目名	経営学原理
97 科目名	経営学総論
担当者	黒　川　文　子

講義の目標

経営学が他の学問領域と異なる最も基本的かつ重要な問題を中心に講義する。その上に立って、今日的問題、すなわち規制緩和、企業の国際化と空洞化、E ビジネス等をアプローチする。経営学ほど変化の激しい領域はないので、原理を把握していれば、どのような状況にもうまく対処できよう。

講義概要

経営学とは何かを、まず正確に把握する。このためには、企業そのものの検討と方法論的アプローチが必要であろう。しかも、アメリカのみの経営学だけではなく、他国の経営学も考察する。

テキスト

伊丹敬之、加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社

参考文献

河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版

河野重榮他編著『現代マネジメント』同文舘

評価方法

前期、後期の期末テストと出席によって、総合的に評価する。

受講者への要望

毎回出席すること。

前期授業計画

1. 経営学と企業理論
2. 経営経済学
3. アメリカ経営管理論
4. 企業形態
5. 企業理論と株式会社
6. 株式会社制度の基本
7. コーポレート・ガバナンス
8. M&A と買収防衛
9. 機関投資家の行動主義
10. 株式の相互持合い
11. ６大企業集団
12. 共同投資会社と役員派遣

後期授業計画

1. 経営戦略論と現代企業
2. 利害関係者アプローチ
3. 企業の社会貢献活動
4. 企業と利害者集団
5. 日本企業と株式
6. 日本企業と従業員
7. 日本企業と消費者
8. 競争企業
9. 企業と政府
10. 企業と環境
11. 企業行動と意思決定
12. 企業行動と動機づけ

01 **科目名**	**企業論ａ・ｂ**
98 **科目名**	**企　業　論**
97 **科目名**	**企　業　論**
担当者	**西　川　純　子**

講義の目標

企業とは何かを問いながら、企業が人間社会において果たしてきた役割とその問題点を検討してみたい。

講義概要

講義は歴史的な考察と理論的な検討を 2 本の軸としてすすめていく予定である。

テキスト

特に定めない。

参考文献

・Th．ヴェブレン『営利企業の理論』（1904)、『職人技本能と産業技術の発展』（1914）
・J．シュンペーター『経済発展の理論』（1908）、『経済分析の歴史』（1954）
・A．チャンドラー『経営者の時代』（1977）、『スケールとスコープ』（1990）
・J．M．ケインズ『自由放任主義の終焉』（1926）
・M．ロー『アメリカの企業統治』（1994）

評価方法

筆記試験

受講者への要望

質問歓迎、私語はつつしんで下さい。

前期授業計画

1.「見えざる手」と「見える手」　その 1
2.「見えざる手」と「見える手」　その 2
3. 営利主義と職人的本能　その 1
4. 営利主義と職人的本能　その 2
5. 所有と支配　その 1
6. 所有と支配　その 2
7. 不在所有の制度　その 1
8. 不在所有の制度　その 2
9. 競争と独占　その 1
10. 競争と独占　その 2
11. 技術革新　その 1
12. 技術革新　その 2

後期授業計画

1. 企業と国家　その 1
2. 企業と国家　その 2
3. 多国籍企業　その 1
4. 多国籍企業　その 2
5. グローバリゼーション　その 1
6. グローバリゼーション　その 2
7. 企業統治　その 1
8. 企業統治　その 2
9. 非営利企業　その 1
10. 非営利企業　その 2
11. 企業と環境問題　その 1
12. 企業と環境問題　その 2

01 **科目名**	**会　計　学ａ・ｂ**
98 **科目名**	**会　計　学**
97 **科目名**	**会　計　学**
担当者	**内　倉　　滋**

講義の目標

企業会計もまた 1 つの言語であるとしばしば評されるが、言語を対象とした科学の分野には、その文法を純粋形式的に明らかにしていく「構文論」と、言葉の持つ意味の解明を試みる「意味論」と、社会的制度の中での言葉の用いられ方を研究する「語用論」とがある。本講義は、簿記原理という構文論の知識を前提に、それに内容的な意味付けを試みていくところの、会計学における「意味論」に相当するものであり、その後に展開される会計学における「語用論」（＝経営分析論等の応用・専門学科目）への 1 つの橋渡しとなるものである。

講義概要

年間授業計画は下に掲げるとおりであるが、おおむね前期は、個別財務諸表の作成にかかわる諸規定の概要説明およびその背後に存在する理論の内容紹介をしていきたい。他方後期は、「連結会計基準」・「退職給付（年金）会計基準」・「税効果会計基準」といった比較的新しい問題（ないし、最近においてその制度的中身が大幅に改変された領域）を講義の対象としたい。

テキスト

未定。

参考文献

図書館に複数冊あるものを中心に、後日紹介します。

評価方法

[前期]　学期中および学期末の 2 回ほど、レポート（「A4」で 1～2 枚程度）を提出してもらい、主としてそれにより評価していきたい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。

[後期]　前期と同様

受講者への要望

毎回、「私は以上のように考えますが、皆さん方はどうですか」と問いかけて終わることにしています。それに応えてくれることが、本当に価値のあることだと思っております。

年間授業計画

1. 本講義の目的
2. 会計学の歴史・戦後の制度会計の変遷と「企業会計原則」
3. 「企業会計原則」の全体像と「一般原則」の体系
4. 「一般原則」の第 1 原則・第 2 原則
5. 「一般原則」の第 3 原則・第 4 原則
6. 「一般原則」の第 5 原則・第 6 原則
7. 「一般原則」の第 7 原則・「重要性の原則」
8. 収益・費用の"認識(計上のタイミング)"および"計上額"についての基本ルール；収益・費用対応の原則
9. 実現主義の原則の位置付け・実現主義の原則の適用
10. 固定資産・棚卸資産の費用の認識
11. 発生費用の繰延べ・引当金の計上
12. 財務諸表の形式面のルール
13. 連結会計基準 その 1：総論
14. 連結会計基準 その 2：資本連結手続きについて
15. 連結会計基準 その 3：連結 B/S の作成
16. 連結会計基準 その 4：連結精算表の作成
17. 企業組織再編に関する会計基準について
18. 外貨換算に関する会計基準について
19. 金融商品会計基準について
20. リース会計基準について
21. 退職給付および年金に関する会計基準について
22. キャッシュ・フロー会計基準について
23. 税効果会計 その 1：「申告調整」について
24. 税効果会計 その 2：税効果会計とその申告調整

01 **科目名**	**応用統計学ａ・ｂ**
98 **科目名**	**応用統計学**
97 **科目名**	**応用統計学**
担当者	**本　田　　勝**

講義の目標

この講義では「統計学」で学んだ 1 変量統計学の知識をもとにして、多変量統計解析の考え方を習得する。

講義概要

多変量統計解析とは、お互いに何らかの関係を持つ多変量データを用いて、その背後にある総合特性を探り、判断あるいは評価の道具に利用することである。この解析にはコンピュータの利用が不可欠であり、本講義でも Excel や SAS などのプログラムパッケージを使用する。

テキスト

未定

参考文献

講義時にそのつど指示する。

評価方法

前・後期とも各テーマ毎に課すレポートと毎回の出席調査及び定期試験による総合評価を行う。

受講者への要望

「統計学」および「コンピュータ入門」を既習のこと。講義の中ではこれらの科目の内容は既存の知識として進めていくので、自身の力を認識して履修すること。特に、コンピュータ操作に関してはアシスタントはいない。

また毎回の出席は重視するので、いい加減な気持ちで登録しないこと。

前期授業計画

1. 多変量解析とは何かについての概観を行う。
2. 統計学の基本事項についての復習をする。（平均、分散、共分散、相関係数、散布図）
3. 統計学の基本事項についての復習をする。（確率の分布、正規分布、標準化）
4. 行列および行列式についての復習をする。（行列、行列式、連立方程式の解法）
5. 行列および行列式についての復習をする。（固有値、固有ベクトル）
6. 単回帰分析について述べる。（説明変数、従属変数、最小 2 乗法）
7. 単回帰係数の評価方法について述べる。（残差、標準回帰係数、重相関係数）
8. 実例データを各自用意し、分析プログラムを用いて演習を行う。（分散分析表の見方、決定係数）
9. 重回帰分析への拡張を行う。（係数の推定と検定）
10. 実例データを用いて重回帰分析の演習をおこなう。（データの収集）
11. 重回帰分析演習（結果の解釈）
12. 回帰分析における変数選択の方法について述べる。

後期授業計画

1. 2 変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行う。（幾何学的解釈、係数の重み、主成分）
2. P 変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行う。（ラグランジェ未定係数法、固有値、固有ベクトル）
3. 実例データをもちいて主成分分析にかける。主成分の解釈のし方について述べる。（寄与率、累積寄与率）
4. 各自データを収集し、主成分分析の演習を行う。（データの収集と入力）
5. 分析結果の解釈および検討。
6. 2 変量判別分析の考え方とその数式化を行う。（線形判別関数、マハラノビスの汎距離、誤判別率）
7. 実例データを用いて 2 変量判別分析の演習を行う。
8. P 変量判別分析の数式化を行う。
9. 実例データを用いて P 変量判別分析の演習を行い、分析結果の解釈をする。
10. 各自データを収集し、判別分析の演習を行う。（データの収集と入力）
11. 分析結果の解釈および検討。
12. クラスター分析とはどのような方法かについて、分析の考え方を述べる。（クラスター、デンドログラム、類似度の尺度）

01 科目名	標本調査論ａ・ｂ
98 科目名	標本調査論
97 科目名	標本調査論
担当者	松　井　　敬

講義の目標

新聞、TV などのメディア、官庁、企業など様々な機関から私たちの生活や社会にかかわる数多くの調査結果とその分析が公表されている。そして多くの場合、それらはあたかも私たちの総意であるかのように扱われている。実際にある個人が調査の対象となることは極めて少ないにもかかわらず－である。この点に疑問や違和感を持つ人は多いのではないだろうか。本講義では抽出の方法という観点から標本調査における問題点を整理してゆきたい。

講義概要

本講義は目標のところで述べたことを念頭において出発する。調査の歴史の中には数多くの失敗があり、そんな中から調査の理論が確立されてきている。そこで、まず標本調査とはどんなことかを考えたい。次に、現在行われている様々な抽出法について、その由来、推定の方法、誤差の評価、抽出法相互間の比較などを取り扱ってゆく。

本講義の特色は応用例やコンピュータによるシミュレーションの結果をできるだけ取り入れ、理解の助けとしていることである。そのため、数値計算の作業等が多いがそれらを厭わないことが大事である。現在行われている調査法についてのトピックも適宜取り上げ解説する。

テキスト

松井敬「標本調査論」内田老鶴圃

他にプリントを適宜配布する。なお、インターネット上に教材・データその他を展開している。

参考文献

抽出法について詳しく知りたいのであれば、Cochran "Sampling Techniques", J.Wiley & Sons または Scheaffer, Mendenhall, Ott "Elementary Survey Sampling", PWS-Kent Pub. Co.；Tryfos “Sampling Methods for Applied Research”, J.Wiley & Sons などが分かりやすい。調査の際の様々な技法を含めては　浅井晃「調査の技術」、日科技連；林、多賀「調査とサンプリング」、同文書院；辻、有馬「アンケート調査の方法」、朝倉書店など。

評価方法

前期、後期ともに提出されたレポートを主にして評価する。このほかに、抽出法毎に行なう演習への貢献度、講義への出席を加味して評価する。出席の少ない学生については一仮にレポートを提出しても一評価しない。

受講者への要望

統計的な基本概念もあわせ補充するが、統計学を既習ないし並行履修が望ましい。上で述べたように演習などのこともあり、出席は厳しく評価したい。

前期授業計画

1. 標本調査とは－1：幾つかの具体例を通し、標本調査とは何か、その意味や方法、問題点などを考える。講義の進め方－方針と受講生への要請。
2. 標本調査とは－2：良いサンプルとは何か、よいサンプルを得るための歴史的な試み。有意抽出法一典型法、割当法など調査法とその歴史。
3. 標本（サンプル）、母集団：母集団と標本（サンプル）の枠組み。母集団特性値一平均、総計、比率。母集団の分散、標本との関係。無作為抽出法の発想。
4. 単純無作為抽出法－1：復元抽出法と非復元抽出法一意味と方法。乱数について、その性質と使い方。単純無作為標本のつくり方。
5. 単純無作為抽出法－2：単純無作為抽出法の例、推定量。標本分布の概念一標本平均、標本中央値などの分布。推定量の特性。
6. 誤差の評価：推定量の分散、標準誤差。母平均と母集団総計の推定量。標本平均と標本総計の分散とその意味、その推定量。有限母集団補正。
7. 標準誤差：標準誤差の意味。推定量の精度（誤差)、推定量の相互比較（効率)。母集団比率の推定。
8. 標本の大きさ：単純無作為抽出法で標本の大きさを決めるにはどうするか。
9. 層化無作為抽出法－1：どんな抽出法か、層化抽出法における要点（どんな点が問題となるか)。構造模型。
10. 層化無作為抽出法－2：サンプルの配分、推定量とその分散。比例配分と最適配分。単純無作為抽出法との比較。
11. 層化無作為抽出法－3：層の作り方、層の数。
12. 層化無作為抽出法－4：調査項目が複数個の場合の取り扱い。サンプルの大きさの決定。

後期授業計画

1. 系統抽出法－1：意味と方法。推定量、その分散。
2. 系統抽出法－2：系統抽出法が有効な場合。抽出法の例。

3. 比推定と回帰推定－1：比推定の考え方と実際。抽出法の例。
4. 比推定と回帰推定－2：回帰推定の考え方と実際。抽出法の例。
5. 抽出確率を変えた抽出法：抽出単位を選出する確率が等しくない場合の考察―究極の抽出法は？
6. 1 段集落（クラスター）抽出法－1：なぜ集落抽出法を考えるか―その方法。1 段目を等確率抽出した場合。幾つかの推定量―それぞれの特徴と比較。抽出法の例。
7. 1 段集落（クラスター）抽出法－2：例を通して問題点の整理。1 段目を確率比例抽出などで抽出した場合。比率の場合。
8. 2 段集落（クラスター）抽出法－1：2 段集落抽出法の考え方、推定量その他この抽出法にかかわる問題点の整理。構造模 型。クラスターの大きさが等しい場合と異なる場合。推定量と抽出法との関係。
9. 2 段集落（クラスター）抽出法－2：一般の場合の説明、1 段目の抽出が等確率の場合。抽出法の例。
10. 2 段集落（クラスター）抽出法－3：一般の場合、第 2 段目の抽出が確率比例抽出などによる場合。抽出法の例。
11. 抽出法再考：講義で扱った様々な抽出法相互の関係、意味、比較など。標本調査における問題―標本調査の実際に関わる諸問題。
12. 標本調査：Q&A、まとめ。課題。なお、Q&A によるトピックは上の講義時間の中に適宜挿入して解説する。そのため上記の順序が若干前後することがある。

01 科目名	データベース論ａ・ｂ
98 科目名	データベース論
97 科目名	情報処理論（１）
担当者	高　柳　敏　子

講義の目標

初めに、ファイルシステムの欠点を改善するために経験的に開発・改良されてきたデータベースの歴史を概観する。続いて、E. F. Codd によって提案され、現在汎用機からパソコンまで多くの専用ソフトが作られ使われている、関係データベースの基礎から構築および検索すなわち設計と管理の実際を、パソコンを使って示しつつ学習する。

関係データベースの特徴である関係代数による数学的な理論付け、二次元の表で示される単純なデータ構造、定義および操作のための専用言語 SQL 等については実際にデータベースを取り扱いながら理解していく。

講義概要

前期は、初めにデータベースの歴史を概観する。続いて、表計算ソフト（MS－Excel）のデータベース機能を使って、最も単純な関係データベースの概要を理解する。さらにデータベースを利用するという観点から、図書館の検索等インターネット上で利用できる情報検索を紹介し、実際にそれらを利用した情報収集を試みる。

後期は、初めに関係データベースの特徴である関係代数による数学的な理論付け、二次元の表で示される単純なデータ構造、定義および操作のための専用言語 SQL 等について概説する。続いて関係データベース専用ソフト（MS－Access）を使って実際にデータベースを構築し操作しながら、上記関係データベースの特徴を学習する。

テキスト

未定

参考文献

鈴木健司著「データベースがわかる本」オーム社出版局、1998.

芝野耕司著「SQL がわかる本」オーム社出版局、1998.

C.J.Date 著 藤原譲監訳「データベースシステム概論」原書 6 版、丸善、1997.

評価方法

前期：定期試験と、3 回程度のレポート及び出席

後期：定期試験と、3 回程度のレポート及び出席

受講者への要望

MS－Windows の基礎、MS－Word および、特に MS－Excel の扱いについて十分に理解していること。また欠席をしないこと。

受講者を制限するので、時間割表を参照すること。

前期授業計画

1. データベースとは（1）
   データベース外観
2. データベースとは（2）
   ファイルシステムからデータベースへ
   データベースの 3 つの観点（内容的、技術的、理論的）
3. データベースとは（3）
   データベースの歴史、階層データベース、ネットワークデータベース、関係データベースと次世代データベース
4. データベースとは（4）
   データベースの三層スキーマ構造とデータベース管理システム
5. MS－Excel によるデータベースの実際（1）
   レコード、項目、キー、フィールド
6. MS－Excel によるデータベースの実際（2）
   レコードの分類と集計
7. MS－Excel によるデータベースの実際（3）
   実習（1）：分類と集計
8. MS－Excel によるデータベースの実際（4）
   レコードの抽出、条件検索および検索の条件設定
9. MS－Excel によるデータベースの実際（5）
   実習（2）：条件検索
10. MS－Excel によるデータベースの実際（6）
    クロス集計
11. データベースの利用（1）
    インターネットと情報検索
12. データベースの利用（2）
    文献検索およびサーチエンジン

後期授業計画

1. 関係データベース（1）
   関係データモデル、タプル、アトリビュート、ドメイン、主キー
2. 関係データベース（2）
   関数従属、関係の正規化
3. 関係データベース（3）
   関係代数と演算：和、差、積、直積、選択、射影、結合、分割

4. MS－Access による関係データベースの実際（1）：設計（1）
　MS－Excel の表の正規化と MS－Access へのインポート
5. MS－Access による関係データベースの実際（2）：設計（2）
　テーブルデザインの確認と主キーの設定、関係間の関連付け
6. MS－Access による関係データベースの実際（3）
　実習（3）：Excel からのインポートによるデータベースの構築
7. 関係データベース（4）：管理（1）
　クエリーの表現：QBE と SQL
8. MS－Access による関係データベースの実際（4）：管理（2）
　実習（4）：QBE による検索処理
9. MS－Access による関係データベースの実際（5）：管理（3）
　SQL による検索処理
10. MS－Access による関係データベースの実際（6）
　実習（4）：SQL による検索処理
11. 関係データベース（5）：管理（4）まとめ
　SQL による更新処理
12. 関係データベース（6）：設計（3）まとめ
　SQL によるデータベース定義

01 科目名	コンピュータシミュレーション論ａ・ｂ
98 科目名	コンピュータシミュレーション論
97 科目名	情報処理論（2）
担当者	冨　田　幸　弘

講義の目標

情報処理の応用コースとして開設されている科目である。

「情報処理概論」・「コンピュータ入門」・「情報処理」で学習した Excel をより高度に利用し、「プログラミング論」で学習した Visual　Basic のより進んだ技法をも学習する。

さらに、経営科学の考え方とその分析方法を学習するとともに、シミュレーションの技法についても学習する。パソコンのより高度な利用法について体験学習し、各自の興味に従ったコンピュータシミュレーションを作成する。

講義概要

出来るだけ具体的な事例などを示しながら、経営問題の考え方とその分析方法を学習するとともに、問題解決におけるパソコンの高度な利用法を学習する。

1）経営科学の必要性　2）シミュレーションとは　3）時系列データ・経済変動　4）時系列分析・需要予測　5）在庫管理・ＡＢＣ分析　6）日程計画・ＰＥＲＴ　7）待ち行列　8）決定理論　9）乱数列の発生・検定　10）モンテカルロ法　11）シミュレーションモデルの作成手順　12）価格戦略　13）生産戦略　14）販売戦略　15）シミュレーションゲームの例

テキスト

講義に必要なプリントを配布する。

参考文献

必要に応じて紹介する。

評価方法

前期

数回のレポート、各自の作成したデータ処理の内容、および、出席状況などを考慮して総合評価する。

後期

数回のレポート、各自の作成したシミュレーションゲームの内容などを考慮して総合評価する。

受講者への要望

情報処理概論、コンピュータ入門、情報処理などを既修していること（特に、Excel の利用が不可欠）。

プログラミング論を既修、または、併行履修していること（自分で技術を修得しても良い）。

前期授業計画

1. 講義の概要・年間計画・評価などについて
2. シミュレーションを必要とする経営科学の必要性・利用例
3. 時系列データと経済変動
4. 時系列分析と需要予測
5. 在庫の種類と費用
6. 在庫管理の発注とＡＢＣ分析
7. 在庫管理とシミュレーション
8. 日程管理とＰＥＲＴ
9. 日程管理とシミュレーション
10. 待ち行列問題
11. 待ち行列とシミュレーション
12. 不確定性状況での意思決定、前期のまとめ

後期授業計画

1. 前期の復習・まとめ、最後の講義概要・評価について
2. 一様乱数列とその発生法・検定
3. その他の乱数列とモンテカルロシミュレーション
4. 経営シミュレーション概説
5. シミュレーションモデルの作成手順
6. 各部門などの要因関連構造
7. 価格戦略とシミュレーション
8. 生産戦略とシミュレーション
9. 販売戦略とシミュレーション
10. シミュレーションゲームと競争力決定構造
11. 部門管理ゲームの例
12. ビジネスゲームの例、コンピュータシミュレーションのまとめ

01 科目名	マルチメディア論ａ・ｂ
98 科目名	マルチメディア論
97 科目名	情報処理論（３）
担当者	立　田　ル　ミ

講義の目標

現在インターネット上でどのようなマルチメディアが利用され、インターネットでマルティメディア対応のプログラムを作成するためにはどのような手順が必要かを理解することを目標とする。そのために、いくつかのソフトウェアを利用して図形・画像処理・静止画・動画・音声処理に関する実習を行う。また、インターネットを用いてアメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディアがどのような授業に使われているか、またマルチメディアがネットワークでどのように利用されているかも紹介する。また、最新のマルチメディアの動向としての図形・画像処理・静止画・動画・音声を紹介する。

講義概要

前期はマルチメディアシステムがどのようなものかを、CD-ROM などで実例を挙げながら実習する。また図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、フォトレタッチなどの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて実習する。これらで作成したファイルを、Word や Power Point で利用する。また、静止画画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについての事例を通して、色彩変換や合成方法についても学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、マルチメディア作品を制作する。

後期はインターネット上でのマルチメディアシステムがどのようなものかを、インターネット上で実例を挙げながら講義し、それらを作成するためにいつくかのソフトウェアを用いて実習を行う。ここでは、図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、三次元空間や画像変換などの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成ためのソフトウェアや、ワイヤフレームモデルやサーフェスモデルなどのモデルレンダリングなどを実習する。また、3D やビデオ画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて事例を通して学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、受講生が独自の作品を制作しインターネット上に発表する。

テキスト

立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版

参考文献

立田ルミ他『コンピュータとネットワークによる情報活用』朝倉書店

各種ソフトの参考文献については、授業時に紹介する。

評価方法

前期：定期試験を行い、それを 40%の評価とする。各実習でネットワーク上にリポートを提出してもらい、それを 60%の評価とする。

後期：定期試験を行い、それを 40%の評価とする。各実習でネットワーク上にリポートを提出してもらい、それを 60%の評価とする。

受講者への要望

教職科目履修者を優先とする。

人数が多い場合は、実習室との関係で抽選を行う。

情報処理概論またはコンピュータ入門履修済みの学生に限る。

コンピュータ基本操作に関する説明は行わない。

前期授業計画

1. マルチメディアの基礎：講義
   年間予定、授業方法についての説明。
   マルチメディアとは何か、マルチメディアで使う用語、マルチメディアの利用とは何か、どのコンピュータの部分でマルチメディアが重要かについての解説およびデモンストレーション。情報メディアについて。
2. 情報のデジタル表現：講義
   アナログとデジタル、デジタル化のメリット、２進法、文字の表現
3. 静止画：講義と実習
   ラスターグラフィック、ベクターグラフィック、ファイル形式
4. 画像ソフトとファイル形式：講義
   マルチメディアを扱うソフトとファイル形式の解説。ドロー系ソフト、ペイント系ソフト、プレゼンテーション画像ソフト、スライドショー画像ソフト解説。解像度、画像圧縮について解説。
5. 静止画の作成：実習
   大学にある画像作成ソフトウェアを用い、静止画像を作成。ファイル形式と記憶容量の確認。
6. スキャナー取り込みと画像処理：実習

スキャナーのタイプ、解像度、カラーとグレイスケールの解説。スキャナーからの画像を取り込み、加工。

7. デジカメ取り込みと画像処理：講義と実習
デジカメによる画像取り込みと処理、画像の合成、効果の処理

8. ワープロによる画像処理：実習
ワープロで静止画を扱う。ファイル形式と記憶容量の確認。

9. アニメーション作成（1）：講義と実習
静止画像とアニメーション、GIF アニメーションソフトウェアの解説と実習

10. アニメーションの作成（2）：実習
バナー作成、写真の効果、トランジション

11. プレゼンテーションツールでマルチメディアを扱う：実習
プレゼンテーションツールで図形、静止画、アニメーションを扱う。

12. マルチメディア作品作成：実習
マルチメディア作品を作成する。

後期授業計画

1. インターネットとマルチメディア：講義
インターネットの概説とマルチメディア作品の紹介と解説。

2. 音声取り込みと処理：実習
オーディオファイル作成、ワープロで音声出力

3. 音楽作成と編集：講義と実習
音楽作成ソフトウェアの解説、音階、音の長さ、音色、音声ファイルの種類。

4. オーサリングソフトウェア(1)：講義
プレゼンテーション向きソフトウェア、カードベースオーサリング、アイコンベースオーサリング、タイムベースオーサリング、オーサリングプログラムの紹介と解説。

5. オーサリングソフトウェア(2)：実習
大学にあるオーサリングソフトウェアを使って、簡単なマルチメディア作品を作成する。

6. ネットワーク：講義と実習
ネットワーク対応のマルチメディア素材がどのように出来ているかを解説。ネットワークにあるマルチメディアのコースを探す。

7. 3D の概要：講義
3D ソフトウェアの解説。インターネット上で 3D を用いた作品の紹介。Java、JavaScript を用いた Web ページの紹介。

8. 3D ソフトウェアの利用：実習
3D ソフトウェアを用いて、3D 作品の作成を行う。

9. 動画取り込みと編集：講義と実習
ビデオ標準、ビデオボード、デジタルビデオカメラの紹介と解説。

10. 動画処理：講義と実習
動画編集、音声貼り付け、エフェクト、テロップ作成

11. 作品作成：実習
静止画、音声、3D、アニメーション、動画を統合させ、ネットワークに載せる。

12. 作品発表：実習
受講生の作成したマルチメディア作品を発表し、ディスカッションを行う。

01 科目名	マルチメディア論ａ・ｂ
98 科目名	マルチメディア論
97 科目名	情報処理論（３）
担当者	森　　園　子

講義の目標

現在インターネット上でどのようなマルチメディアが利用され、インターネットでマルティメディア対応のプログラムを作成するためにはどのような手順が必要かを理解することを目標とする。そのために、いくつかのソフトウェアを利用して図形・画像処理・静止画・動画・音声処理に関する実習を行う。また、インターネットを用いてアメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディアがどのような授業に使われているか、またマルチメディアがネットワークでどのように利用されているかも紹介する。また、最新のマルチメディアの動向としての図形・画像処理・静止画・動画・音声を紹介する。

講義概要

前期はマルチメディアシステムがどのようなものかを、CD-ROM などで実例を挙げながら実習する。また図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、フォトレタッチなどの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて実習する。これらで作成したファイルを、Word や Power Point で利用する。また、静止画画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについての事例を通して、色彩変換や合成方法についても学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、マルチメディア作品を制作する。

後期はインターネット上でのマルチメディアシステムがどのようなものかを、インターネット上で実例を挙げながら講義し、それらを作成するためにいつくかのソフトウェアを用いて実習を行う。ここでは、図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、三次元空間や画像変換などの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成ためのソフトウェアや、ワイヤフレームモデルやサーフェスモデルなどのモデルレンダリングなどを実習する。また、3D やビデオ画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて事例を通して学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、受講生が独自の作品を制作しインターネット上に発表する。

テキスト

立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版

参考文献

立田ルミ他『コンピュータとネットワークによる情報活用』朝倉書店

各種ソフトの参考文献については、授業時に紹介する。

評価方法

前期：定期試験を行い、それを 40%の評価とする。各実習でネットワーク上にリポートを提出してもらい、それを 60%の評価とする。

後期：定期試験を行い、それを 40%の評価とする。各実習でネットワーク上にリポートを提出してもらい、それを 60%の評価とする。

受講者への要望

教職科目履修者を優先とする。

人数が多い場合は、実習室との関係で抽選を行う。

情報処理概論またはコンピュータ入門履修済みの学生に限る。

コンピュータ基本操作に関する説明は行わない。

前期授業計画

1. マルチメディアの基礎：講義
   年間予定、授業方法についての説明。
   マルチメディアとは何か、マルチメディアで使う用語、マルチメディアの利用とは何か、どのコンピュータの部分でマルチメディアが重要かについての解説およびデモンストレーション。情報メディアについて。
2. 情報のデジタル表現：講義
   アナログとデジタル、デジタル化のメリット、２進法、文字の表現
3. 静止画：講義と実習
   ラスターグラフィック、ベクターグラフィック、ファイル形式
4. 画像ソフトとファイル形式：講義
   マルチメディアを扱うソフトとファイル形式の解説。ドロー系ソフト、ペイント系ソフト、プレゼンテーション画像ソフト、スライドショー画像ソフト解説。解像度、画像圧縮について解説。
5. 静止画の作成：実習
   大学にある画像作成ソフトウェアを用い、静止画像を作成。ファイル形式と記憶容量の確認。
6. スキャナー取り込みと画像処理：実習

スキャナーのタイプ、解像度、カラーとグレイスケールの解説。スキャナーからの画像を取り込み、加工。

7. デジカメ取り込みと画像処理：講義と実習
デジカメによる画像取り込みと処理、画像の合成、効果の処理
8. ワープロによる画像処理：実習
ワープロで静止画を扱う。ファイル形式と記憶容量の確認。
9. アニメーション作成（1）：講義と実習
静止画像とアニメーション、GIF アニメーションソフトウェアの解説と実習
10. アニメーションの作成（2）：実習
バナー作成、写真の効果、トランジション
11. プレゼンテーションツールでマルチメディアを扱う：実習
プレゼンテーションツールで図形、静止画、アニメーションを扱う。
12. マルチメディア作品作成：実習
マルチメディア作品を作成する。

後期授業計画

1. インターネットとマルチメディア：講義
インターネットの概説とマルチメディア作品の紹介と解説。
2. 音声取り込みと処理：実習
オーディオファイル作成、ワープロで音声出力
3. 音楽作成と編集：講義と実習
音楽作成ソフトウェアの解説、音階、音の長さ、音色、音声ファイルの種類。
4. オーサリングソフトウェア(1)：講義
プレゼンテーション向きソフトウェア、カードベースオーサリング、アイコンベースオーサリング、タイムベースオーサリング、オーサリングプログラムの紹介と解説。
5. オーサリングソフトウェア(2)：実習
大学にあるオーサリングソフトウェアを使って、簡単なマルチメディア作品を作成する。
6. ネットワーク：講義と実習
ネットワーク対応のマルチメディア素材がどのように出来ているかを解説。ネットワークにあるマルチメディアのコースを探す。
7. 3D の概要：講義
3D ソフトウェアの解説。インターネット上で 3D を用いた作品の紹介。Java、JavaScript を用いた Web ページの紹介。
8. 3D ソフトウェアの利用：実習
3D ソフトウェアを用いて、3D 作品の作成を行う。
9. 動画取り込みと編集：講義と実習
ビデオ標準、ビデオボード、デジタルビデオカメラの紹介と解説。
10. 動画処理：講義と実習
動画編集、音声貼り付け、エフェクト、テロップ作成
11. 作品作成：実習
静止画、音声、3D、アニメーション、動画を統合させ、ネットワークに載せる。
12. 作品発表：実習
受講生の作成したマルチメディア作品を発表し、ディスカッションを行う。

01 科目名	プログラミング論ａ・ｂ
98 科目名	プログラミング論
97 科目名	プログラミング論
担当者	高　柳　敏　子

講義の目標

本講義では、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観し、続いてコンピュータに情報処理をさせるとはどのようなことかを理解するために、原始的なコンピュータをシミュレートするソフトを使って、コンピュータの構造、動作の仕組みおよびコンピュータ内部における情報の表現等、コンピュータの原理およびプログラミングとは何かを学習する。

コンピュータの原理が理解できたところで、高級言語によるプログラミングを通じて、コンピュータによる問題解決の方法やそのアルゴリズムを学習する。

講義概要

前期は、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から簡単に概観する。続いて、CASL シミュレータを利用して、仮想のコンピュータ COMET とそのアセンブラ言語 CASL のプログラミングを通して、ノイマン型コンピュータの構造と動作や制御の仕組み、およびコンピュータ内部における情報の表現、さらに基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。

後期は、一般的なプログラミング言語の 1 つであるコンパイラ言語の C++によるプログラミングを通して基本的な情報処理のアルゴリズムをおよび問題解決の技法を学習する。

テキスト

随時必要な資料をファイルで配布する。

参考文献

「CASLⅡ Programming」ITEC（情報処理技術者教育センター)、2001

B.Stroustrup 著 長尾高弘訳「プログラミング言語 C++」第 3 版、アジソンウェスレイ、1998

評価方法

前期の定期試験と 3 回程度のレポートおよび出席による。

後期の定期試験と 3 回程度のレポートおよび出席による。

受講者への要望

MS-Windows、MS-Word、および MS-Excel の取り扱いを十分に理解していること。

また、欠席をしないこと。

受講者を制限するので時間割表を参照すること。

前期授業計画

1. コンピュータの歴史（1）：ハードウェア
   ノイマン型電子計算機、電子計算機の世代論と記憶素子
2. コンピュータの歴史（2）：ソフトウェア
   プログラミング言語, オペレーティングシステム.
3. ノイマン型コンピュータの構成
   中央処理装置，制御装置，演算装置，記憶装置，入力装置，出力装置，補助記憶装置.
4. COMET の処理装置（1）
   語構成とビット構成, アドレスとアドレッシング，命令語，制御方式，プログラムレジスタ（PR)，レジスタ（GR，FR，XR）
5. 情報の表現（1）：数値の内部表現
   整数と 2 の補数表記，16 進表現
6. CASL プログラミング（1）
   CASL の命令：アセンブラ命令，マクロ命令，機械語命令，プログラムの形式：ラベル，命令コード，オペランド，注釈
7. CASL プログラミング（2）
   CASL の命令：ロード命令とストア命令，加算命令と減算命令，定数定義と領域の確保
8. CASL シミュレータとその実行
   実習（1）：プログラムの入力，編集，アセンブル，1 命令毎の実行，プログラムのディスクへの記憶，ディスクからの呼出し
9. CASL プログラミング（3）：乗除算処理
   シフト演算，比較演算命令および分岐命令と FR
10. CASL プログラミング（4）：繰り返し処理
    XR の効用
11. 情報の表現（2）：文字の内部表現
    入出力命令と ASCII コード，JIS コード
12. CASL プログラミング（5）：メインプログラムとサブプログラム
    実習（2）：練習問題

後期授業計画

1. アセンブラとコンパイラ：プログラムの翻訳，連係編集，実行
   実習（3）：C＋＋例題とコンパイラの操作
2. C＋＋言語とは
   C＋＋言語の基本事項：文，ブロック，コメント

3. C＋十プログラミング（1）：演算と演算子
   情報の表現（3）：実数
4. C＋＋プログラミング（2）：判断・分岐
   関係式，関係演算子，論理演算子
5. C＋＋プログラミング（3）：繰り返し
   配列と文字列データ
6. C＋＋プログラミング（4）：関数（メインプログラムとサブプログラム）
   関数にデータの値を渡す（call by value）
   関数にデータの番地を渡す（call by reference）
7. C＋＋プログラミング（5）
   実習（4）：練習問題
8. アルゴリズムとプログラミングの応用（1）
   数値計算と例題
9. アルゴリズムとプログラミングの応用（2）
   データ構造と整列
10. アルゴリズムとプログラミングの応用（3）
    データ構造と探索
11. アルゴリズムとプログラミングの応用（4）
    ファイル処理の例題
12. アルゴリズムとプログラミングの応用（5）
    実習（5）：応用問題

01 **科目名**	**プログラミング論ａ・ｂ**
98 **科目名**	**プログラミング論**
97 **科目名**	**プログラミング論**
担当者	**立　田　ル　ミ**

講義の目標

現在ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。それらがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic で実際にプログラミングを行う。この中で、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらに、ネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのようなことが必要かを理解することを目的とする。

講義概要

コンピュータが現在どのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアに関してコンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、イベントドリブン型の言語の１つである Visual Basic を用いて例を挙げて解説し、それらの 1 つ 1 つの命令に対して講義と演習を行う。さらに最近話題になっているインターネットやマルチメディアについても解説およびデモンストレーションを行うとともに、それらをどのようにプログラミングすればよいかの講義と演習を行い、最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行う。

テキスト

立田ルミ"教育システム情報と Visual Basic"朝倉書店

参考文献

立田ルミ "情報メディア入門"実教出版

その他、Visual Basic に関する参考文献は授業中に提示する。

評価方法

前期：リポート　：　60%

ネットワーク上に提出

定期試験　：　40%

後期：リポート　：　60%

ネットワーク上に提出

定期試験　：　40%

受講者への要望

この講義は演習を伴うので、人数に制限があることに留意されたい。教室割当ては抽選するので、教務課の掲示に従うこと。コンピュータ入門（情報処理概論）を既習または Windows に関する基礎知識のあることを前提として講義を行うので注意されたい。

前期授業計画

1. 授業のガイダンスとコンピュータの概説：講義
   パーソナルコンピュータ誕生までの背景、ハードウェアの概略と獨協大学におけるコンピュータの構成
2. ソフトウェアの歴史と概略：講義
   ソフトウェアの分類、オペレーティングシステム、Windows2000 の概略、ネットワークの概略
3. 教育におけるコンピュータの役割：講義
   プログラム開発手順：自動化とコンピュータ、コンピュータと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ、教育用ソフトウェア、プログラム開発の手順と期間
4. Visual Basic の概略：講義と実習
   イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ、ツールボックス、プロジェクトウインド
5. 簡単なプログラム作成（1）：講義と実習
   アプリケーション開発手順、Visual Basic の開発環境、文字の入出力
6. 簡単なプログラム作成（2）：講義と実習
   四則演算、変数のまとめ
7. 選択のあるプログラム作成（1）：講義と実習
   アプリケーションの設計、コントロールの扱い方
8. 選択のあるプログラム作成（2）：実習
   多くの選択のあるプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ
9. 選択のあるプログラム作成（3）：実習
   オプションボタンの利用、チェックボタンの利用
10. 選択のあるプログラム作成（4）：実習
    リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用
11. 繰り返しのあるプログラム作成：講義と実習
    If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し
12. 総合問題作成：実習
    いろいろなコントロールを用いて問題を作成する。

後期授業計画

1. 図形の処理（1）：講義と実習

直線を描く、曲線を描く

2. 図形の処理（2）：講義と実習
円を描く、色を塗る

3. 図形の処理（3）：講義と実習
Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーを使って絵を動かす

4. 図形の処理（4）：講義と実習
ドラッグアンドドロップを使う

5. 音声・動画の処理：講義と実習
音声を録音する、音声を再生する、動画再生のデモンストレーション

6. 配列とコントロール配列：講義と実習
一次元配列、コントロール配列、二次元配列

7. プルダウンメニュー：実習
コンボボックスを使う､プルダウンメニューの作成、プルダウンメニューの利用

8. ファイルの利用（1）：講義と実習
コントロールの利用、シーケンスファイルの利用、シーケンスファイルの作成、シーケンスファイルの読み込み

9. ファイルの利用（2）：講義と実習
ランダムファイルの利用:ランダムファイルの作成、ランダムファイルの読み込み

10. ファイルの利用（2）：講義と実習
アクセスファイルの利用:アクセスファイルの作成、アクセスファイルの読み込み

11. インターネットの利用：講義と自習
Visual Basic とホームページとのリンク、ホームページ作成

12. まとめ：講義と実習
課題の説明と作成

01 科目名	プログラミング論ａ・ｂ
98 科目名	プログラミング論
97 科目名	プログラミング論
担当者	森　　園　子

講義の目標

現在ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。それらがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic で実際にプログラミングを行う。この中で、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらに、ネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのようなことが必要かを理解することを目的とする。

講義概要

コンピュータが現在どのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアに関してコンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、イベントドリブン型の言語の１つである Visual Basic を用いて例を挙げて解説し、それらの 1 つ 1 つの命令に対して講義と演習を行う。さらに最近話題になっているインターネットやマルチメディアについても解説およびデモンストレーションを行うとともに、それらをどのようにプログラミングすればよいかの講義と演習を行い、最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行う。

テキスト

立田ルミ"教育システム情報と Visual Basic"朝倉書店

参考文献

立田ルミ "情報メディア入門"実教出版

その他、Visual Basic に関する参考文献は授業中に提示する。

評価方法

前期：リポート　：　60%

ネットワーク上に提出

定期試験　：　40%

後期：リポート　：　60%

ネットワーク上に提出

定期試験　：　40%

受講者への要望

この講義は演習を伴うので、人数に制限があることに留意されたい。教室割当ては抽選するので、教務課の掲示に従うこと。コンピュータ入門（情報処理概論）を既習または Windows に関する基礎知識のあることを前提として講義を行うので注意されたい。

前期授業計画

1. 授業のガイダンスとコンピュータの概説：講義
   パーソナルコンピュータ誕生までの背景、ハードウェアの概略と獨協大学におけるコンピュータの構成
2. ソフトウェアの歴史と概略：講義
   ソフトウェアの分類、オペレーティングシステム、Windows2000 の概略、ネットワークの概略
3. 教育におけるコンピュータの役割：講義
   プログラム開発手順：自動化とコンピュータ、コンピュータと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ、教育用ソフトウェア、プログラム開発の手順と期間
4. Visual Basic の概略：講義と実習
   イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ、ツールボックス、プロジェクトウインド
5. 簡単なプログラム作成（1）：講義と実習
   アプリケーション開発手順、Visual Basic の開発環境、文字の入出力
6. 簡単なプログラム作成（2）：講義と実習
   四則演算、変数のまとめ
7. 選択のあるプログラム作成（1）：講義と実習
   アプリケーションの設計、コントロールの扱い方
8. 選択のあるプログラム作成（2）：実習
   多くの選択のあるプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ
9. 選択のあるプログラム作成（3）：実習
   オプションボタンの利用、チェックボタンの利用
10. 選択のあるプログラム作成（4）：実習
    リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用
11. 繰り返しのあるプログラム作成：講義と実習
    If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し
12. 総合問題作成：実習
    いろいろなコントロールを用いて問題を作成する。

後期授業計画

1. 図形の処理（1）：講義と実習

直線を描く、曲線を描く

2. 図形の処理（2）：講義と実習
円を描く、色を塗る

3. 図形の処理（3）：講義と実習
Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーを使って絵を動かす

4. 図形の処理（4）：講義と実習
ドラッグアンドドロップを使う

5. 音声・動画の処理：講義と実習
音声を録音する、音声を再生する、動画再生のデモンストレーション

6. 配列とコントロール配列：講義と実習
一次元配列、コントロール配列、二次元配列

7. プルダウンメニュー：実習
コンボボックスを使う､プルダウンメニューの作成、プルダウンメニューの利用

8. ファイルの利用（1）：講義と実習
コントロールの利用、シーケンスファイルの利用、シーケンスファイルの作成、シーケンスファイルの読み込み

9. ファイルの利用（2）：講義と実習
ランダムファイルの利用:ランダムファイルの作成、ランダムファイルの読み込み

10. ファイルの利用（2）：講義と実習
アクセスファイルの利用:アクセスファイルの作成、アクセスファイルの読み込み

11. インターネットの利用：講義と自習
Visual Basic とホームページとのリンク、ホームページ作成

12. まとめ：講義と実習
課題の説明と作成

01 科目名	政治学総論
98 科目名	政治学総論
97 科目名	政治学総論
担当者	杉　田　孝　夫

講義の目標

現代社会の政治構造と政治を理解するうえで必要な基本的な概念といくつかの観点を学び、現代の政治的諸問題を批判的に理解する教養を養うことを年間の目標とする。

前期は政治学の定番メニュー「国民国家の政治システム」を構成する諸概念を理解する。後期は現代政治を動かしている新しい政治的要因を考える。

講義概要

講義は毎回の主題に関するレジュメを配付し、それに即して講義する。

講義内容は政治学の基礎を一通り理解できるような構成である。

テキスト

とくに指定しない

参考文献

マックス・ウェーバー『職業としての政治』岩波文庫

斉藤・有賀・阿部『政治』UP 選書、東京大学出版会

ハンチントン『文明の衝突』集英社

評価方法

評価資格は出席率７０%以上とする。

前期・後期それぞれの学期末試験の結果に基づき評価をおこなう。

受講者への要望

受講者が政治を自分たちの生活の問題として考え、その問題を考えるうえで必要な認識の方法と概念装置を身に付けるのに役立つ講義をする。

まずは出席し、講義の内容を理解する努力を払うことを望む。

前期授業計画

1. はじめに：政治とはなにか
2. 近代国家の構成原理（１）国家
3. （２）主権
4. （３）国民：国民国家
5. 議会制度
6. 議会主義と国民主権
7. 意志決定のメカニズム：多数決原理と代表制
8. 政治指導と政治責任
9. 政党と政党制度
10. 大衆社会と民主主義
11. 官僚制と行政システム
12. 近代日本における近代化と官僚制

後期授業計画

1. 近代の政治価値（１）個人・権利・平等
2. （２）民主主義のパラドクス
3. （３）自由と自由主義
4. （４）公と私：あるいは共同性
5. 政治とジェンダー（１）政治におけるジェンダー
6. （２）戦後ドイツの政治的経験
7. （３）戦後日本における政治的経験
8. （４）政治における男女平等の範囲と課題
9. 国際政治の歴史と現在（１）主権国家システムの歴史
10. （２）国際機構と主権国家の構図
11. （３）EU とヨーロッパ
12. （４）文明の衝突を回避するために: 民族・言語・宗教

01 **科目名**	**民　　法**
98 **科目名**	**民　　法**
97 **科目名**	**民　　法**
担当者	**花　本　広　志**

講義の目標

この講義は法律学を専門としない学生を対象とするから、民法という法律および民法学、ひいては法律学に興味を抱かせることが第一の目標である。さらに、積極的に民法を勉強してみようと考える受講者に対しては、独学の際に最低限必要となる基本的な知識と民法の考え方の基本を示せればと考えている。

講義概要

民法とはどのような法律であるか、民法学とはどういう学問であるかを、具体的な設例をできるだけ用いて解説する。重要な制度すべてについて網羅的に説明したり、細かい解釈論上の問題に立ち入ったりせず、民法および民法学を理解するうえで最も基本的な制度、すなわち、契約を中心に解説する。また、民法はすでに２千年以上の歴史を有するから、民法の歴史にも時間を割く。なお、関連する他の法領域、とくに商法や民事訴訟法についても、民法との関連を中心に必要最低限で触れる予定である。

テキスト

特に用いない。

参考文献

第１回の講義で紹介するほか、その都度、指示する。

評価方法

各期末試験による。

受講者への要望

六法全書を必ず持参すること。なお、上記の目標設定からして、ハウ・ツー的な知識を求める者には不向きであるので注意されたい。

年間授業計画

1. ガイダンス　民法の位置づけ　民法の特徴　民法の構成
2. 民法の歴史①　ローマ法、中世イタリア法学、普通法
3. 民法の歴史②　西洋における近代法典編纂、日本民法典の誕生～現在
4. （民事）司法制度　裁判所の構成、民事裁判の特徴、判例とは何か
5. 契約法①　契約とは何か？　契約の種類　契約の成立　契約の効力
6. 契約法②　売買(1)…債務不履行（強制履行・危険負担・損害賠償・解除）
7. 契約法③　売買(2)…売主の担保責任
8. 契約法④　その他の契約違反（付随義務・保護義務・安全配慮義務、契約締結上の過失）
9. 契約法⑤　消費者保護法
10. 契約法⑥　賃貸借(1)…対抗力
11. 契約法⑦　賃貸借(2)…無断転貸・用法違反・賃料不払など
12. 契約法⑧　契約が有効に成立するための前提条件(1)…権利能力、行為能力
13. 契約法⑨　契約が有効に成立するための前提条件(2)…意思の欠缺、瑕疵ある意思表示
14. 契約法⑩　他人による契約の締結…代理制度　「他人」を作り出す制度…法人制度
15. 物権法①　物　　物権と債権
16. 物権法②　不動産所有権の取得、不動産登記
17. 物権法③　動産所有権の取得、善意取得
18. 金融取引法①　金銭債権（特徴、利息制限、消滅時効など）
19. 金融取引法②　金銭債権の履行確保…物的担保とその実行手続
20. 金融取引法③　金銭債権の履行確保…人的担保、その他の担保手続
21. 不法行為法①　不法行為とは何か？　過失責任主義
22. 不法行為法②　不法行為に基づく損害賠償(1)…要件
23. 不法行為法③　不法行為に基づく損害賠償(2)…効果
24. 不法行為法④　使用者責任、危険責任（自賠法三条・製造物責任）

01 **科目名**	**商　　法**
98 **科目名**	**商　　法**
97 **科目名**	**商　　法**
担当者	**坂　本　延　夫**

講義の目標

最近の重要な判例・立法・理論を通しての株式会社法の平易な解説。

講義概要

商法の講義内容は会社法である。

講義は株式会社法を中心に行うが、受講生が会社法の理論と実務の双方について理解しうるよう努める。

平成 5 年・6 年・9 年・11 年・12 年・13 年の改正商法にも及ぶ。

テキスト

坂本延夫・他編著『明解株式会社法』嵯峨野書院

参考文献

追って指示する。

評価方法

原則として、二度の筆記試験をもって評価する。

受講者への要望

意欲的な受講を期待する。

前期授業計画

1. 株式会社の経済的意義――法と経済の関連について――(Ⅰ)
2. 株式会社の経済的意義――法と経済の関連について――(Ⅱ)
3. 会社の法概念。　1.会社の社団性　2.会社の法人性　3.会社の営利性
4. 会社の権利能力について。
5. 会社の種類について。
6. 株式会社の意義(Ⅰ)　1.株式　2.有限責任　3.資本
7. 株式会社の意義(Ⅱ)　1.株式会社の弊害　2.社会的責任
8. 株式会社の設立(Ⅰ)　1.設立規制　2.発起人・発起人組合・設立中の会社　3.発起人の権限と責任
9. 株式会社の設立(Ⅱ)　1.定款　2.登記　3.設立の無効
10. 株式(Ⅰ)　1.株式の意義　2.株主の権利・義務　3.自己株式
11. 株式(Ⅱ)　1.株券　2.株式の譲渡・担保化
12. 補講

後期授業計画

1. 株式会社の機関(Ⅰ) 1.機関の分化と権限の分配　2.所有と経営・支配の分離
2. 株式会社の機関(Ⅱ)　1.株主総会の意義と権限　2.総会の運営と瑕疵
3. 株式会社の機関(Ⅲ)　1.取締役　2.取締役会
4. 株式会社の機関(Ⅳ)　1.代表取締役　2.表見代表取締役など
5. 株式会社の機関(Ⅴ)　1.取締役の責任　2.取締役の義務
6. 株主の代表訴訟と違法行為差止権
7. 監査役制度(Ⅰ)　会計監査人による監査制度・検査役による検査制度
8. 監査役制度(Ⅱ)
9. 株式会社の資金調達(Ⅰ)　1.新株発行　2.有利発行　3.不公正発行　4.新株発行の無効
10. 株式会社の資金調達(Ⅱ)　1.社債
11. 株式会社の計算
12. 企業結合　1.株式交換・移転　2.会社分割

01 **科目名**	**総合講座（1）ａ・ｂ**
98 **科目名**	**総合講座（1）**
97 **科目名**	**総合講座（1）**
担当者	**経　済　学　部**

講義の目標

「地球の未来に挑戦する世界と日本」の総合タイトルの下で、主に学外からのさまざまな分野の研究者、専門家、実務家等を招いて、それぞれの分野の最新の知識と情報にもとづく講義をしてもらう。学生は学内に居ながらにして、激しく流動するビジネス世界の現状、日頃あまり詳しく知られていない研究分野の概観、あるいは学際的な先端の動向などをかなり詳しく知ることができる。これらの知識は、単なる学問的な知識に止まらず、学生諸君がやがて迎える卒業後の社会活動における貴重なノウハウをも会得させてくれるであろう。

講義概要

毎週、講義内容が異なるため概要を詳しく述べることはできない。ただ、上記総合タイトルの性質上、従来より経済のみならず社会・政治・文化などあらゆるテーマが採り上げられてきた。それぞれの分野の研究者、専門家、実務家が長年にわたり蓄えてきた専門知識と最新情報のエッセンスを毎週聴くことができることは、得難いチャンスと言えよう。

テキスト

特になし。

参考文献

それぞれの講師が講義内容のレジュメを準備して配布したり、参考文献を指示することがある。

評価方法

前・後期にそれぞれ筆記試験を行う。なお、講義の性質上、追試験・卒業再試験は行わないので注意すること。

受講者への要望

学外講師をお招きするので、必ず時間厳守で出席すること。また講義中の私語は絶対に慎むよう切に要望する。

01 科目名	特殊講義Ａ（経済学入門）
98 科目名	特殊講義Ａ（経済学入門）
97 科目名	特殊講義Ａ（経済学入門）
担当者	経　済　学　部

講義の目標

この科目は１，２年生を対象としていますので，３年生以上は履修しないようご注意下さい。

この特殊講義は，経済学部教員がそれぞれ１，２週間を担当し，今日の経済問題や経済学研究の現状，学習体験，学習方法のアドバイスなどをお話するという実験的な授業です．受講者は，多くの先生方の個性的な講義の中から，自らの学習にとって有益なものを見出し今後の糧にして下さい．

必修科目ではありませんが，とくに経済学科の１年生はできるかぎり履修してください．

講義概要

第１回目の授業で年間計画と注意事項を配布します．

テキスト

各教員が指定する場合があります．

評価方法

前期：定期試験

後期：定期試験

なお，追試験，再試験はしませんのでご了解ください．

受講者への要望

携帯電話の電源を切り，静かに受講してください．

01 科目名	**特殊講義Ａ（情報通信ネットワーク〈有線系〉）**
98 科目名	**特殊講義Ａ（情報通信ネットワーク〈有線系〉）**
97 科目名	**特殊講義Ａ（情報通信ネットワーク〈有線系〉）**
担当者	**安　井　直　彦（前期担当）**

講義の目標

有線通信技術という切口からのアプローチによって、情報通信ネットワークが現在果たしている役割、その重要性を認識してもらうことを最大の目標にする。膨大な技術の集積として構築されている、或いはされつつあり、また非常な勢いで変化しつつある情報通信ネットワークの１面を捕らえた講義は技術のデパート的になる可能性があるので、できるだけ本質的な部分を懇切丁寧に教えて行くこととする。講義終了後、できるだけ多くの学生が情報通信ネットワークという技術に何か面白そうなものがありそうだ、と思うような講義をする。

講義概要

情報通信ネットワークは、端末、ノード、リンクの３要素で構成される。本講義では実習を交え、体験をとおしてこれらの３要素の技術の概要、及びそれらを相互に接続したネットワークの概要について学習する。具体的には、端末としてはパソコンを、ノードとしてはハブ、ルータを、リンクとしてはイーサーネット、公衆回線を取り上げ、それぞれの技術的内容を講義すると共に、それら相互を実際に接続し、ＬＡＮ、あるいはダイアルアップネットワークを構築することによって、インターネットワーク構築方法を体験する。それにより、情報通信ネットワークについて概要を理解することを目的とする。

テキスト

指定せず（講義はパワーポイント主体）

参考文献

相沢、水野訳（Andrew S. Tanenbaum）「コンピュータネットワーク第 3 版」　プレンティスホール出版，平成９年

評価方法

出席点をベースに，期末レポートの内容により評価する。

受講者への要望

有線通信技術の概要を学ぶ意欲のある受講者を歓迎する。

半期授業計画

1. オリエンテーション：受講者の確認・決定。講義予定，授業方法等の注意事項について説明。合わせて，半年間の講義の概要を述べる。
2. パソコン　（４回）
   - 1‐1 本体、メモリー
   - 1‐2 実習（パソコンの分解）
   - 1‐3 周辺、インタフェース
   - 1‐4 実習（パソコンの組立）
3. パソコン間通信　（２回）
   - 3‐1 LAN（Ｅｔｈｅｒｎｅｔ）
   - 3‐2 実習（パソコン間通信の実現）
4. ルーター　（２回）
   - 4‐1 ルータ構成、機能、プロトコル、
   - 4‐2 実習（LAN間通信の実現）
5. インターネットへの接続　（３回）
   - 5‐1 電話網、CATV（公衆網）
   - 5‐2 実習（ダイアルアップ接続の実現）
6. ネットワークセキュリティ　（１回）
   - 6‐1 ファイアーウォール、フィルタリング
   - 6‐2 実習（パケットフィルタリング実習）

01 科目名	特殊講義Ａ （情報通信ネットワーク〈無線系〉）
98 科目名	特殊講義Ａ （情報通信ネットワーク〈無線系〉）
97 科目名	特殊講義Ａ （情報通信ネットワーク〈無線系〉）
担当者	三　宅　　真（後期担当）

講義の目標

インターネットや携帯電話に代表されるように，ディジタル無線通信ネットワークは私たちにとって極めて身近な存在となり，今日の社会における重要な情報通信インフラストラクチャとして定着しているだけでなく，今後のマルチメディア社会において更なる進歩・発展が展望されている。この講義は，インターネットや携帯電話などの実際のディジタル無線通信ネットワークについてシステム構成と発展動向の概要が理解できるようになることと，合わせて無線通信を使って情報が伝達される仕組みについての基本的なことがらが，セキュリティの観点を含めて理解できるようになることを目標とする。

講義概要

最初に，インターネットや携帯電話の最前線の動向に触れるとともに，実際のディジタル移動通信およびディジタル衛星通信における無線通信ネットワークの構成を紹介し，解説する。次に，ディジタル無線通信ネットワークにおいて，情報が伝送されるということがどのような技術に支えられて実現しているのかについて，基礎的なことがらを実例に則して分かり易く，演習を行いながら解説する。最後に，ディジタル無線通信ネットワークの今後の発展動向と技術動向を示唆するとともに、分かり易く解説する。

テキスト

指定せず（ノート講義を中心に行う。）

参考文献

山本，加藤「ＴＤＭＡ通信」電子情報通信学会，平成元年

奥村，進上「移動通信の基礎」電子情報通信学会，昭和 62 年

評価方法

出席とレポートによって評価する。

受講者への要望

なるだけ多くの実例を挙げながら，分かり易い講義を目指す。ディジタル無線通信ネットワークに興味のある多くの学生諸君の聴講を期待している。

半期授業計画

1. オリエンテーション：受講者の確認・決定。講義予定，授業方法等の注意事項について説明。合わせて，半年間の講義の概要を述べる。
2. ディジタル無線通信概論（１）：無線通信システムの特徴，発展の歴史と動向について概説。
3. ディジタル無線通信概論（２）：同上
4. 移動通信ネットワーク：移動通信ネットワーク／システムの種類と構成について解説。
5. 衛星通信ネットワーク：衛星通信ネットワーク／システムの種類と構成について解説。
6. 情報伝送の実際と演習（１）：無線通信における情報伝送の基本的事項について演習を交えて解説。（情報源符号化など。）
7. 情報伝送の実際と演習（２）：同上。
8. 信号伝送の実際と演習（１）：無線信号の伝送を実現する技術に関する基本的事項について演習を交えて解説。（変復調，誤り訂正など。）
9. 信号伝送の実際と演習（２）：同上。
10. ディジタル無線通信ネットワークの発展（１）：ディジタル無線ネットワーク／システムの発展動向と技術動向を解説。（スペクトル拡散通信，周波数有効利用など）。
11. ディジタル無線通信ネットワークの発展（２）：同上。
12. まとめ

01 **科目名**	**特殊講義Ｂ** 「資本市場とグローバル証券ビジネス」
98 **科目名**	**特殊講義Ｂ** 「資本市場とグローバル証券ビジネス」
97 **科目名**	**特殊講義Ｂ** 「資本市場とグローバル証券ビジネス」
担当者	**経　済　学　部**

講義の目標

証券市場に関するタイムリーな話題を中心に資本市場論からスタートし、資産運用に関する基本的な考え方、運用手法などを簡潔に紹介した後、グローバル証券業のコアビジネスであるリテール、インベストメントバンキング、フィクスト・インカム、エクイティ、アセット・マネジメント・ベンチャーキャピタルについて、実務面を中心に実例を交えながら解説する。

講義概要

証券市場に関するタイムリーな話題を中心に資本市場論からスタートし、資産運用に関する基本的な考え方、運用手法などを簡潔に紹介した後、グローバル証券業のコアビジネスであるリテール、インベストメントバンキング、フィクスト・インカム、エクイティ、アセット・マネジメント・ベンチャーキャピタルについて、実務面を中心に実例を交えながら解説する。

テキスト

授業の都度、講義資料を配布します。

参考文献

講義中に適宜指示致します。

評価方法

期末に行うテストによることを予定しています。

後期授業計画

1. 証券市場の役割
2. 経済成長と金融・資本市場
3. 証券市場規制と投資者保護
4. 証券投資とその役割
5. 投資のリスクとリターン
6. 資産運用とライフプランニング
7. 株式とは
8. 債券とは
9. 投資信託とは
10. 投資銀行ビジネス
11. リテール証券ビジネスの現状
12. リテール証券ビジネスの展望

01 科目名	英語（Conversation）
98 科目名	英語（Conversation）
97 科目名	英語（Conversation）
担当者	ルース・イェイツ

講義の目標

経済学部学生として必要な英会話の基礎を楽しく学びます．高校までの授業で英語への興味を持った人もそうでない人も，もう一度会話の基本的なトレーニングをつんでみましょう．

「中学，高校と英語を学んできたけれど，思うように英語が上達しない」と感じることはないでしょうか．英会話学習の基本は，できるだけたくさんの言葉を聞き取り，簡単なセンテンスを暗記して実際に使うことにあります．ですから大事なことは会話学習に適した環境にできるだけ長く身を置くことです．

また経済学部学生として，専門の学習や将来の職業上の必要性に照らした自分なりの目的をクリアにすることも大切です．

そのためにこの講義は，お互いの考えを交流させ活発なプラクティスを行うために，３０人程度の少人数で構成します．

テキスト

未定．プリントを配布します．

評価方法

出席，平常点および定期試験で成績をつけます．

受講者への要望

① 英語能力以上に積極的な受講姿勢を希望します．
② 英英辞典を携帯してください．

01 **科目名**	**経営戦略論ａ・ｂ**
98 **科目名**	**経営戦略論**
97 **科目名**	
担当者	**冨　田　忠　義**

講義の目標

受講者が現代企業の行動を戦略的な観点から理解できるようにしたいというのが、本講義の狙いである。そこで、現代的な経営戦略理論を理解するための基礎概念、経営戦略の種類と類型、経営戦略を策定するための技法などについて概説する。経営戦略論の入門編である。

講義概要

ここでは企業の戦略策定について、理論と技法の両面から学ぼうとしている。まず経営戦略とは如何なるものか明確にして、戦略策定上の重要変数として、経営目標、経営環境、経営資源を取り上げて考察する。次に、多様な経営戦略を類型化して全体を把握する。個別の戦略の策定について検討する前に、経営戦略の一般的な策定法について理解する。こうした準備の後で、拡大化戦略、多角化戦略、ポートフォリオ戦略、リストラ戦略、競争力強化戦略、マーケティング戦略等について個々に考察する。

テキスト

車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版

河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版

参考文献

グロービス・マネジメント・インスティテュート編『MBA 経営戦略』ダイヤモンド社

西村克巳著『よくわかる経営戦略』日本実業出版社

波頭亮著『戦略策定概論』産能大学出版部

M．ポーター著『競争優位の戦略』ダイヤモンド社

評価方法

前期：前期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込みは認めない。

後期：後期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込みは認めない。

受講者への要望

テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するということではないので、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。

前期授業計画

1．年間講義計画の概要
2．（経営戦略の基礎）激動する経営環境と経営戦略の重要性の増大化、環境の定義、環境に含まれる機会と脅威の発見
3．同上
4．（経営戦略の構造）経営戦略策定上の関連変数、経営目標、経営環境、経営資源、効果的な経営戦略の要件
5．同上
6．（経営戦略の類型）全社戦略、事業戦略、競争戦略、機能戦略
7．同上
8．（経営戦略の策定過程）業界分析、自社競合分析、市場細分化
9．同上
10．戦略代替案の作成と評価、アクションプラン
11．同上
12．前期講義まとめ

後期授業計画

1．後期講義計画の概要
2．（成長戦略の策定――拡大化か多角化か）事業拡大化戦略
3．事業多角化戦略
4．（製品ライフサイクル戦略）製品ライフサイクル、成熟期に移行する業界の経営戦略
5．同上
6．（リストラ戦略）事業構造の再構築の必要性、リストラ戦略の策定、攻めのリストラ、守りのリストラ
7．同上
8．（事業ポートフォリオ・マネジメント）多産業型企業の戦略策定、事業選択戦略、戦略事業単位の識別、エクスペリアンス・カーブ効果
9．同上
10．（ポーターの競争戦略の基本型）競争戦略の策定、業界構造と 5 つの競争要因、競争優位の構築、価値連鎖
11．同上
12．年間講義のまとめ

01 **科目名**	**経営管理論ａ・ｂ**
98 **科目名**	**経営管理論**
97 **科目名**	**経営管理論**
担当者	**黒　川　文　子**

講義の目標

経営管理論ほど、時代の変化とともに進展した領域はない。古くは、単なる工場内の管理から、今日では、経営管理論は地球環境問題を含めて議論されている。アメリカでは経営学といえば経営管理論と同一視されているほど、経営学の中心領域であるので、基本的な事項を十分時間をかけて講義する。

講義概要

経営管理論の歴史的展開から始めて、多国籍企業の管理や環境問題などの今日的問題までも含めて講義する。

テキスト

未定

参考文献

河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版

河野重榮他編著『現代マネジメント』同文舘

評価方法

期末試験と出席によって、総合的に評価する。

受講者への要望

毎回出席すること。

前期授業計画

1. 経営管理論の対象と方法
2. 経営資源の認識と発達
3. 経営管理学説Ⅰ
4. 経営管理学説Ⅱ
5. 経営管理学説Ⅲ
6. 経営資源の種類
7. 経営者の役割
8. 経営の意思決定
9. 企業組織（ハード中心組織）
10. 企業組織（ソフト中心組織）
11. 経営理論
12. 日本的経営管理

後期授業計画

1. 情報と経営管理
2. 生産と経営管理
3. マーケティングと経営管理
4. リエンジニアリングとリストラクチャリング
5. 経営理論と文化
6. 非営利企業管理
7. 環境経営
8. 意思決定論
9. システム論
10. 経営管理の現況
11. 経営管理の現況
12. 経営管理の将来

01 科目名	経営組織論ａ・ｂ
98 科目名	経営組織論
97 科目名	
担当者	高　松　和　幸

講義の目標

この講義では，伝統的組織論から近代組織論への発展を前提として，とくに近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。組織論においては，組織を取り巻く環境の土台のうえに，個人と組織との関わりがもっとも重要な課題であり，こうした諸問題をとりあげて論述する。

講義概要

講義では，伝統的組織論を出発点として，人間関係論におけるモチベーション理論やコンティンジェンシー理論をとりあげ，そのうえで近代組織論として，協働システムとしての組織，意思決定システムとしての組織，生存可能システムとしての組織に重点をおいて，その周辺の諸問題をとりあげて講義する。

テキスト

高松和幸著、「経営組織論講義」創成社，1999.

参考文献

その都度指示する。

評価方法

期末定期試験・平常授業の課題など。

前期授業計画

1. 伝統的組織論①…伝統的組織論は，古典的組織論ともいわれ，アメリカのテーラーや，フランスのファヨールを始祖とする。さらに，より近代化された形で経営過程学派とよばれるクーンツなどにより継承されている。こうした伝統的組織論の特徴を明らかにし，近代組織論への発展の基礎を解明する。
2. 伝統的組織論②…フランスのファヨールやクーンツの理論をとりあげる。
3. 近代組織論①…バーナードは近代組織論の創始者であり，その後，多くの研究者によって発展され，組織論を一新している。こうした近代組織論は，現代ではバーナード＝サイモンと，その流れをくむマーチ＝サイモンなどによって展開されている。ここでは近代組織論の内容を検討し，もって現代における組織論の特徴を明らかにする。
4. 近代組織論②…マーチ＝サイモン理論をとりあげる。
5. 経営組織モデルの発展段階…経営組織モデルの形態的発展は，ファンクショナル組織を基本とすることで，ライン・スタッフ組織や職能部門制組織があり，また事業部制組織やマトリックス組織がある。こうした経営組織モデルの形態について検討する。
6. 組織とモチベーション理論①…モチベーション理論は，「人間関係論」から始まる。また組織的意思決定論と並んでモチベーション理論が取り上げられることもある。しかし両者の過去の研究成果や，その分析方法と概念体系は，かなり相互に異質のものである。こうしたモチベーション理論を取り上げて検討する。
7. 組織とモチベーション理論②…モチベーション理論の問題をとりあげる。
8. 組織とコンティンジェンシー理論①…コンティンジェンシー理論は，また条件理論，条件適合理論，構造条件適合理論などともいわれ，組織と環境との関係に目を向け，組織の環境が異なれば有効な組織は異なる，という命題の上に立っている。こうしたコンティンジェンシー理論を取り上げて検討する。
9. 協働システムとしての組織①…組織は「意識的に調整された 2 人ないしそれ以上の人々の活動および勢力のシステム」として定義できる。この前提には，個人能力の限界のために生じる「協働システム」がある。つまり他人との協同によって自己の動機や目的を達成しようとする。こうした組織について検討する。
10. 協働システムとしての組織②…協働システムの問題をとりあげる。
11. 意思決定システムとしての組織①…組織の理解に関して，サイモンは各人が組織において活動する場合の前提となる意思決定―選択問題に注目し，さらにその意思決定の前提を問題としている。サイモンの組織観は，多様な意思決定のネットワークとして形成される。こうした意思決定のシステムとしての組織について検討する。
12. 意思決定システムとして組織②…意思決定の問題をとりあげる。

後期授業計画

1. 組織均衡の理論①…組織均衡の理論は，近代組織論に共通した一つの中核的な理論である。組織に参加する人々に，誘因と貢献のバランスによって満足を提供する能力をもたなければ，組織は存続できないことが明らかにされている。こうした組織の均衡問題について検討し，もって組織の存続と成長の理

論を明らかにする。

2. 組織均衡の理論②…組織均衡問題をとりあげる。

3. ゴーイング・コンサーンとしての組織①…バーナードの組織論と重要な関係をもっているコモンズのゴーイング・コンサーンの概念は，継続的企業体を意味しており，それはバーナードにおける協働システムの概念に相当する。この概念によって表される多様性の広がりをもつ組織について検討する。

4. ゴーイング・コンサーンとしての組織②…ゴーイング・コンサーンの問題をとりあげる。

5. 組織とコンフリクト…組織行動や人間行動が正常に機能しているとき，組織では様々な代替案を提供できる。ところがこの意思決定のメカニズムが停止するとどうなるか。このような状態がコンフリクトである。ここではコンフリクトの発生のメカニズムから分類・解消まで取り上げる。

6. 組織とサイバネティクス①…サイバネティクスは，ウィーナーによって創始されたもので，すべてのシステムには，制御過程を支配する一般的法則が存在することを明らかにし，その法則は究めて複雑な，いわゆる有機的機能をもつシステムに適用されることを主張している。こうしたサイバネティクスと組織との関係について検討する。

7. 組織とサイバネティクス②…組織とサイバネティクスの問題をとりあげる。

8. 生存可能システムとしての組織①…企業組織についてビーアによれば，それは平板で静的な実体ではなく，「動的で生存し続けるシステム」であるとしている。すなわち，企業の究極の目的を生存におき，生存可能な組織構造を，生存可能システムとして展開している。こうした組織に関する諸問題を取り扱う。

9. 生存可能システムとしての組織②…生存可能システムをとりあげる。

10. 組織のカタストロフィー・モデル…カタストロフィー理論は，ルネ・トムが創始した理論で，自然界を含めて各種過程のモデルの一般論を，カタストロフィー理論として展開し，新しい世界像，自然観の建設を目指している。具体的には図形を用いて，組織サイバネティクスの立場から生存システムとの関連において取り上げる。

11. 組織と必要多様性の法則…経営組織には，多くの「多様性」が存在する。内部組織の経済学においては，不確実な要素を含むさまざまな多様性が存在することが明らかにされている。したがって経営管理は「多様性」の管理であるといわれる。こうした「多様性」の概念を出発点として，「必要多様性」の原理と法則を解明する。

12. 組織における自律性の概念…経営組織の「自律性」の概念については，その起源をメーヨーに求めることができる。こうした「自律性」の概念をとりあげて検討する。自律性の問題は，さらに今日的な課題として，非営利集団からなる自律性の問題として展開されている。

01 **科目名**	**経営財務論ａ・ｂ**
98 **科目名**	**経営財務論**
97 **科目名**	**経営財務論**
担当者	**細　田　　哲**

講義の目標

我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意志決定を行なわねばならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意志決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。

講義概要

各週別の講義予定を見られたい。

テキスト

・井手正介、高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール　経営財務入門」（日本経済新聞社）

参考文献

・岡部正昭著「企業財務論」（新世社）

・高橋　誠、新井富雄「ビジネス・ゼミナール　ディリバティブ入門」（日本経済新聞社）

・古川浩一、蜂谷豊彦、中里宗敬、今井潤一「基礎からのコーポレート・ファイナンス」（中央経済社）

評価方法

前後期ともに期末試験の結果による。

年間授業計画

1．1　企業の目的と財務政策
　a）市場型経済における消費・貯蓄・投資の決定　b）企業による市場を通じる価値創造

2．1　企業の目的と財務政策
　c）資本市場の役割　d）企業の財務的意思決定のフレームワーク

3．2　資産の価値をどう評価するか
　a）現在価値の評価

4．2　資産の価値をどう評価するか
　b）債権の評価

5．3　株式の価値はどう決まる
　a）配当割引モデルの考え方　b）一定成長配当割引モデルと株価収益率

6．3　株式の価値はどう決まる
　c）配当割引モデルの応用　d）日本の株価水準と期待収益率

7．4　リスクをどう測るか
　a）投資リスクの尺度

8．4　リスクをどう測るか
　b）ポートフォリオのリスク

9．4　リスクをどう測るか
　c）ベータ値と資本資産評価モデル

10．5　資本コストとは何か
　a）資本コストとは　b）投資のキャッシュ・フロー

11．5　資本コストとは何か
　c）資本コストの推計方法

12．5　資本コストとは何か
　d）日本企業の資本コストの計算例　e）資本コストと資金コスト

13．6　望ましい資本構成とは
　a）完全資本市場における資本構成と企業価値

14．6　望ましい資本構成とは
　b）法人税や倒産可能性が企業価値に与える影響

15．6　望ましい資本構成とは
　c）企業価値の最大化と株価の最大化　d）資本構成決定の現実的な考慮点　e）日本企業の資本構成の動向

16．7　配当政策の考え方
　a）配当政策の理論　b）配当政策をめぐる問題点

17．7　配当政策の考え方
　c）株式配当と株式分割　d）日米企業の配当政策

18．8　自社株取得
　a）自社株取得の本質　b）自社株取得の利用動機

19．8　自社株取得
　c）自社株取得と株価評価　d）自社株取得をめぐるわが国の現状

20．９　リスク管理とディリバティブの利用
　a）ディリバティブとは何か

21．９　リスク管理とディリバティブの利
　b）ディリバティブを利用した金利リスク管理
　c）企業財務とリスク管理

22．10　企業の合併・買収

23．11　日本の伝統的な金融システムの特色と問題点

24．12　日本企業の財務政策の課題

01 科目名	人的資源管理論　a・b
98 科目名	経営労務論
97 科目名	経営労務論
担当者	仙　田　幸　子

講義の目標

企業は従業員を資源の一つとして活用する。その方法をあつかうのが人的資源管理論である。採用、配置、育成、評価、雇用調整という経営労務の各場面をとりあげ、企業における人事労務管理の基本的な考え方・施策・問題点について学ぶ。

一律管理から個別管理へと雇用管理の原則が変化する中で、その変化の内容を雇用される側の立場から見ることで、どのような働き方をしたいのかを自分なりに考える手掛りを提供することを目的とする。

講義概要

経営の効率と個人の福祉を両立させるにはどのような人的資源管理が望ましいかについて考える。

豊富に資料を提示して、日本企業の人的資源管理の現状を具体的につかめるようにする。

テキスト

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『マテリアル人事労務管理』有斐閣、2000。

参考文献

金井壽宏 1999『経営組織』日経文庫

評価方法

前･後期とも定期試験が、60 点以上の受講者に単位を与える。ただし、授業中に随時課すレポートを提出していない場合、定期試験を受験しても単位は与えない。

受講者への要望

2、3 年生の履修を推奨する。

遅刻、私語、携帯電話・ＰＨＳの使用、その他授業の妨げになることは慎むこと。

前期授業計画

1. ガイダンス
2. 経営組織と人事労務管理
3. 雇用管理 1
4. 雇用管理 2
5. 人事制度１
6. 人事制度２
7. 調整
8. 賃金管理
9. 昇進管理
10. 労働時間管理１
11. 労働時間管理２
12. 前期まとめ

後期授業計画

1. ガイダンス
2. 能力開発１
3. 能力開発２
4. 非正規従業員と派遣労働者１
5. 非正規従業員と派遣労働者２
6. 非正規従業員と派遣労働者３
7. 調整
8. 従業員の生活支援
9. キャリア発達
10. 労使関係管理１
11. 労使関係管理２
12. 後期まとめ

01 科目名	国際経営論ａ・ｂ
98 科目名	国際経営論
97 科目名	国際経営論
担当者	小　林　哲　也

講義の目標

現代経済のグローバル化の主体は、多国籍企業である。情報技術革命の時代にあって、多国籍企業は、財の生産や販売のみならず、情報や金融の世界でもグローバル化を進めてきている。各分野における技術革新と、情報通信技術の発達により、国際分業が新たな形で再編成されつつある。本講義では、多国籍企業の国際経営活動と、世界経済の構造変化を分析してゆく。

講義概要

前半では、国際化・情報化の中で新しい競争の時代を迎えた、現代企業をとらえる企業理論の流れを解説する。後半で、日本とアメリカの企業を中心に、多国籍企業の経営組織および経営戦略の、ケース・スタディを進める。

テキスト

特に定めない

参考文献

青木昌彦・R.ドーア編著『システムとしての日本企業』NTT 出版
三輪芳郎『日本の企業と産業組織』東京大学出版会
三井逸友編著『日本的生産システムの評価と展望 --- 国際化と技術・労働・分業構造---』、ミネルヴァ書房
大阪市立大学商学部編『国際ビジネス』有斐閣

評価方法

出席などの平常点および前期/後期定期試験成績による。

受講者への要望

新聞に毎日目を通すこと。

前期授業計画

1. はじめに
   資本主義世界経済と企業活動
2. 現代経済における多国籍企業
   グローバル化と情報化
3. 現代企業の理論 --- 巨大企業の時代
   寡占化と「豊かな」大衆消費社会
4. 現代企業の理論 --- コーポレートガバナンスの変貌
   新しい経営者支配論
5. 現代企業の理論 --- 生産システムの革新
   フォーディズムからトヨティズムへ
6. 現代企業の理論
   多国籍企業の理論　---　輸出から直接投資へ
7. 現代企業の理論
   情報技術革命とコーポレートガバナンス
8. 多国籍企業と新しい国際分業
   技術革新と国際分業の新しい再編成
9. 情報技術革命と日米企業
   IT 革命のインパクト　---ディジタル・エコノミーの勃興
10. 情報技術革命と日米企業
    新しいビジネスモデル
11. 情報技術革命と日米企業
    GE と東芝　---　スピード経営革命
12. 情報技術革命と日米企業
    FMS とネットワークの新段階　---　自動車産業のグローバル化

後期授業計画

13. 日本企業の国際化
    システムとしての日本企業
14. 日本企業の海外進出
    70 年代から 90 年代まで
15. 日本企業の海外進出
    アジアへの進出と撤退
16. 日本企業の海外進出
    アメリカの日系企業
17. 日本企業の海外進出
    ヨーロッパの日系企業
18. 日本企業の海外進出
    「ジャパナイゼーション」をめぐって
19. 情報技術革命と世界的な産業の再編成
    アジアにおける新工業化
20. 情報技術革命と世界的な産業の再編成
    EU における産業のリストラクチュアリング
21. 情報技術革命と世界的な産業の再編成
    ハイテク産業における競争の新段階
22. 情報技術革命と世界的な産業の再編成
    日本企業の課題

01 科目名	経営史ａ・ｂ
98 科目名	経　営　史
97 科目名	一般経営史
担当者	柳　　敦

講義の目標

欧米を中心とし、企業経営行動の歴史的変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性（あるいは非合理性）を歴史的制約・文化的側面をも含めて考える。

講義概要

前期においては、近代工業化以前の企業活動を概観し、次いで英国における産業革命と企業経営行動の変革を考察する。

後期には、後発工業国であるフランス、ドイツ、米国の事例を検討しながら 19 世紀における企業経営を考察し、次いで 20 世紀型企業経営の問題を考える。

テキスト

特に定めない

参考文献

必要に応じて紹介する。

評価方法

前期：期末試験によって評価を決める。

後期：期末試験によって評価を決める。

受講者への要望

とくにない

前期授業計画

1. 経営史の課題と視点
2. ヨーロッパ前近代における企業と経営（1）
3. ヨーロッパ前近代における企業と経営（2）
4. ヨーロッパ前近代における企業と経営（3）
5. 重商主義とアダム・スミス
6. 資本主義とその精神
7. 英国産業革命とその特徴（1）
8. 英国産業革命とその特徴（2）
9. 英国産業革命期の企業経営（1）
10. 英国産業革命期の企業経営（2）
11. 工場制の導入と規律の変化
12. 英国産業衰退の問題

後期授業計画

1. 19 世紀フランスにおける工業化とその特徴
2. 19 世紀フランス企業経営の特徴
3. 19 世紀ドイツにおける工業化とその特徴
4. 19 世紀ドイツ企業経営の特徴
5. 19 世紀からの小売業界における革新
6. 19 世紀米国における工業化とその特徴
7. 19 世紀米国企業経営の特徴
8. ビッグビジネスの展開と独占禁止法
9. 科学的管理法の展開
10. 企業組織のあり方
11. フォードと GM（自動車業界でのスケールとスコープ）
12. 産業エリートと教育

01 科目名	日本経営史ａ・ｂ
98 科目名	日本経営史
97 科目名	日本経営史
担当者	奈　倉　文　二

講義の目標

本講義は日本の大企業経営の形成発展過程の特徴を明らかにすることを課題とする。その際、可能な限り企業経営の具体例をあげながら検討するが、単に企業経営の内部にとどまらず、政府の政策や官民関係、国際関係や外資との関係にも注意を払う。また、「コーポレート・ガヴァナンス」（広い意味では会社経営のあり方を株主等の「利害関係者」との関わりで捉えようとするもの）の視点から大企業システムに関する考察をまとめてゆく。

講義概要

まず、資本主義成立発展過程に即して、大企業システム形成上の様々な事例と問題点を明治国家と企業及びその国際的諸関係に留意しながら明らかにする。その上で、財閥及び外資系企業を題材にしながらコーポレート・ガヴァナンスについて検討を加える。そして、1930 年代以降の官民関係の変容、新興コンツェルンと旧財閥の蓄積及び統治構造の変化、外資系企業の展開と規制などについて明らかにした後、可能な限り、戦後の大企業システムの特徴についても具体的事例をあげながら説明する。

なお、「授業計画」中の項目及び順序は場合により変更することがあり得る。

テキスト

とくに定めない。随時講義資料を配付する。時折、ＶＴＲを使用する。

参考文献

宇田川勝・中村青志編『マテリアル日本経営史』（有斐閣）、宮本・阿部・宇田川・沢井・橘川『日本経営史』（有斐閣）、その他。「参考文献一覧」を講義開始時に配布し、講義進行途上にも適宜参考文献を指示する。

評価方法

［前期］筆記試験またはレポート。質疑応答への積極的参画状況をも評価する。

［後期］筆記試験。質疑応答への積極的参画状況をも評価する。

受講者への要望

学生諸君の講義に対する参画意欲を引き出すため質疑応答方式を取り入れるので積極的に応じてもらいたい。本講義受講者は、講義内容を理解する上で「日本経済史」をも受講することが望ましい。

前期授業計画

1. はじめに
2. 幕末維新と政商（小野組・島田組と三井）
3. 外商の活動と外資排除（グラバーと高島炭坑）
4. 「近代化」・「工業化」とその担い手（渋沢と岩崎）
5. 会社制度の導入・発展
6. 殖産興業と官業払下げ
7. 政商から財閥へ
8. 「番頭経営」と専門経営者
9. 有力紡績会社とその経営者
10. 国有国営企業と軍事関連企業
11. 外資系企業の進出（英米系企業中心）
12. 日本企業の中国進出（満鉄と在華紡）

後期授業計画

1. 財閥コンツェルンと持株会社（財閥のコーポレート・ガヴァナンス）
2. 外資系会社とコーポレート・ガヴァナンス（日本製鋼所を中心に）
3. 日本製鉄の設立と官民関係
4. 新興コンツェルンの蓄積様式（日産を中心に）
5. 財閥の統治構造の変化
6. 外資系企業の展開と規制（石油・自動車）
7. 軍需産業の展開（三菱重工と中島飛行機）
8. 財閥解体・企業集団形成と日本型「経営者支配」
9. 日本型株式会社制度と「日本的経営」の展開
10. 耐久消費財（家電・自動車）大企業の発展（松下とトヨタ）
11. 鉄鋼寡占資本間の競争と協調（新日鉄）
12. 企業集団・企業系列とコーポレート・ガヴァナンス

01 科目名	マーケティング論ａ・ｂ
98 科目名	マーケティング論
97 科目名	マーケティング論
担当者	大久保　貞　義

講義の目標

マーケティング活動は自由主義経済の下における企業活動の基本を示すものである。マーケティングの基本原理は"人間のニーズと欲求を充足させる事をめざす人間活動"である。人間の各種の欲求は交換過程を通じて充足される。しかし、この人間の欲求は複雑多岐にわたるものであり、また、社会の環境によっても欲求そのものが変化する。したがって欲求充足をめざす人間活動は、基本的には心理学・社会心理学・社会学・文化人類学・数学のアプローチで分析されるばかりでなく、これらを総合化した隣接科学（インターディスプリナー・サイエンス Interdisciplinary Science）的な分析の理解が必要になる。

マーケティングは極めて現実的・実際的な学問である。

講義概要

社会は刻々と変化している。交換機能を果たす市場は変化し、人間の欲求も刻々と変動する。これに対応して企業活動もダイナミックに変革をとげている。

これらの変化を読み取り、企業活動の基本的戦略の方向を決定する上でマーケティング・サイエンスは役立つであろう。

またマーケティングという学問領域も時代と共に発展しており、その学問水準も、またその思想体系も多様性を示すようになって来た。

1940 年以降は社会科学との関連性が重視され、1960 年までこの傾向が強かったが、しだいに行動科学的概念が導入され始めた 1970 年代以降は"社会変化のためのきわめて効果的管理方法"としてビジネス分野以外にも新しい研究方法としてマーケティング概念が取り入れられた。

こうした考え方は、人間を動かす政策科学への応用、さらに現実社会の企業活動のみならず、国家政権への分野にも取り入れられ始めた。

マーケティングサイエンスの応用分野は、当初のマーケティング学者の予測を越えて、多様な分野で極めて現実的な科学として実際社会で使われ、応用されている。

テキスト

授業で指示します

評価方法

- レポート(３～４回予定)と定期試験で評価します。
- 欠席 3 回以上の者は、学期末テストが受けられない場合があります。
- 再試験は行わないので、注意して下さい。

受講者への要望

受講者は抽選によって、決定します。

抽選方法は時間割表を参照して下さい。

年間授業計画

1. マーケティングとは何か　・人間のニーズとは。　・欲求充足の市場の形成と交換の機能　・人間は何故買うか（欲求＝充足＝お金）　・市場の形成過程
2. 社会の発展と人間欲求の変化　・農業社会・工業社会・脱工業化社会　・人間欲求の変化と価値観の変動　・過去―現在―未来（未来予測の方法論）　・消費者動向の変化と企業の戦略形成

   高齢化社会の出現と人間価値観の変化。これからの家族の形態
3. 消費者行動の分析　・文化的・社会的・及心理的な特性　・社会階層と消費者行動　・欲求の階層化と心理的ヒエラルキー　・新製品の採用プロセス（認知から採用までの五段階）・ライフサイクルの長期化と消費行動の変化
4. マーケティング・セグメント　・デモグラフィク要因とジオグラフィク要因　・人口動態の変化　・有望市場の発展とニューマーケット（シルバーマーケット、働く主婦層）
5. マーケティング管理の変遷　・企業は生産中心主義からマーケティング志向へ　・企業の利益中心から消費者の満足へ　・利益中心主義から社会貢献へ　マーケティングの活用分野の拡大（ビジネス活動の分野から公共活動の分野へ）　・非営利組織（大学病院・軍隊・警察・政府の各部門）も大きな関心を持ち始めた。
6. 繁栄する企業と衰退する企業
7. マーケティングと国家体制(官僚主義と国家の衰退）
8. 資本主義社会と人間欲望のコントロール
9. ダイナミックに発展する企業のマーケティング　黒猫ヤマトとゼネラルのエレクトリック
10. 過去一世紀の企業の栄枯・盛衰

11. テクノロジカル・イノベーション
    市場は開発し創造するもの。
12. マーケティングによる市場創造
13. 企業と人材養成
    企業の Top の理念
14. Salesmanship の養成
15. ダメなセールスマンと成功するセールスマンの比較分析
16. セールス成功の一瞬＝クロージングへのプロセス分析
17. 製品企画とライフサイクル　・アイディアとコンセプト開発　・開発から衰退までのライフサイクル
18. マーケティングコミュニケーション　・企業の広告戦略　・広告の技術と戦略　・広告とセールスプロモーション
19. マーケテイング戦略と計画の作成　・セールス・フォース　・セールス・プロモーション　・セールスマンの訓練と育成　・製品の販売管理
20. サービス・マーケティング　・組織のマーケテイング　・人材のマーケティング　・計画作成＝組織＝コントロール機能
21. 非営利企業のマーケティング　・大学のマーケティング　・軍隊・地方公共団体・市町村のマーケティング　・ハブリシィティの役割
22. マーケティングと企業家　・企業のリーターシップとマーケティング　・リーダーのタイプと時代の変化　・企業のマネジメントとマーケティングの応用
23. マーケティングと国家体制　・資本主義社会と人間の欲望　・社会構造と国家政策　・人間の欲求と国家の政策
24. マーケテイングの新しい応用　・人を動かすマーケティング　・民主主義の理念とマーケティング　・人間とは何か（マーケティングの視点から）　・人生の将来展望（あなたの幸福とは何か？）　・まとめ

01 科目名	広告論ａ・ｂ
98 科目名	広　告　論
97 科目名	広　告　論
担当者	梶　山　　皓

講義の目標

現代社会における広告の機能や役割を明らかにします。また企業の広告活動を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。

講義概要

1. 企業や団体が広告をなぜ行うかについて考えます。
2. どのように広告を計画し実施するかを学びます。
3. 社会風俗や価値観、倫理・法的な面から、現代の広告現象を考えます。
4. マスコミ、メディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。
5. マーケティング活動やコミュニケーション過程の原理を明らかにします。
6. ビデオや広告物を通じて、日米のコミュニケーションの違いを探ります。

テキスト

梶山皓『広告入門』、日経文庫　1998。

参考文献

＊八巻俊雄・梶山皓『広告読本』東洋経済新報社、1998。
＊『広告に携わる人の総合講座』日経広告研究所、1999。
＊W. Wells: Advertising, Principles and Practice, Prentice-Hall, 1997
＊S. W. Dunn: Advertising, Its Role in Modern Marketing, Dryden Press, 1994.

評価方法

前期：出席と試験。問題は 4−5 題。教科書・ノート等の持込不可。
後期：出席と試験。問題は 4−5 題。教科書・ノート等の持込不可。

受講者への要望

2 年生か 3 年生で履修してください。

前期授業計画

1. 広告をなぜ学ぶか (Introduction)：広告を学ぶと、社会の近未来が見えてくる。また社会現象のポジティブな面を的確にとらえる習慣が身に付く。
2. 広告の定義 (Ad. Definition)：広告という言葉の語源は、古フランス語やラテン語で「振り向かせる」「注意を引く」という意味である。
3. 広告の定義 (Ad. Definition)：広告という言葉は、しばしば PR、広報、宣伝、プロモーションなどと混同して間違った使われ方をしている。
4. 広告の機能 (Role of Ad.)：広告には情報を伝える機能がある。このほかに人を説得する機能、広告主と受け手の関係を強化する機能がある。
5. 広告の種類 (Ad. Classification)：広告を代表するのは、消費財広告、ビジネス広告のように商業目的に使われる広告である。
6. 広告の種類 (Ad. Classification)：広告には、公共広告、意見広告、政治広告のように、市民の啓蒙や世論の喚起に使われるものがある。
7. 広告主 (Advertisers)：アメリカの広告費は邦貨で年間約 15 兆円で、世界の約半分を一国で占める。日本は世界 2 位で約 6 兆円である。
8. 広告主 (Advertisers)：広告主は、広告活動を効果的に行うために広告活動を策定する。また企業内に広告組織を編成して実施に当たる。
9. 広告会社 (Ad. Agency)：広告会社は、広告コミュニケーションを企画し実施する専門家集団である。日米では広告ビジネスの進め方が異なる。
10. 広告会社 (Ad. Agency)：広告会社には色々な形態や組織がある。日本では、広告会社の収入源は媒体手数料という旧い習慣に基づいている。
11. 広告メディア (Ad. Media)：広告メディアには、マスメディアから看板やチラシまで色々な種類があり、広く活用されている。
12. 広告メディア (Ad. Media)：マルチメディア時代を迎えて、衛星放送、双方向 CATV、インターネットなどの新しいメディアが広告界を揺さぶっている。

後期授業計画

1. マーケティングの基本理念 (Marketing Principles)：マーケティングは消費者志向の概念である。最近は環境問題などの新しい価値観の影響を受けている。
2. 戦略企業計画 (Strategic Planning)：戦略計画はアメリカで発達した経営理論で、マーケティングをサブシステムとする企業経営の全体計画である。
3. マーケティング・ミクス (Marketing Mix)：企業は、製品開発、価格の設定、流通チャネルの選択、プロモーションの相乗効果によって企業間競争を進める。
4. プロモーション・ミクス (Promotion Mix)：製品の販売は、広告、セールスマン、SP（セールスプロモーション）、PR などの力を合体化させて行う。
5. コミュニケーションの原理 (Communication)：

広告はマスコミを手段とした社会的なコミュニケーションであり、受け手に様々な心理的影響を与える。

6. コミュニケーションの原理 (Communication)：消費者には、マスコミによる新しい情報を受け入れる人と、従来の習慣に固執する人がいる。
7. DAGMAR の理論 (DAGMAR)：広告効果は、売上高にではなくコミュニケーション効果に置くべきだという考え方があり、広告理論に大きな影響を与えている。
8. 広告階層モデル (Ad. Hierarchy Model)：人々は製品の属性を調べてから買うのか、それとも買った後に調べるのか、衝動買いはなぜ起きるのかなどを考える。
9. 広告計画 (Ad. Planning)：広告活動は、広告目標の設定、予算策定、広告表現の決定、媒体選択、効果測定という一連の過程を経て進める。
10. 広告計画 (Ad. Planning)：広告計画の中では、広告表現の方針を決めることと、広告を運ぶメディアを選ぶことがとくに重要である。
11. 広告規制 (Ad. Regulation)：広告は、倫理や公序良俗の面と法律の両面から規制を受けている。規制の内容は時代によって、国によって異なっている。
12. 広告の将来 (Ad. Future)：広告はどのような方向に進むのか、これからの広告ビジネスや広告人に何が求められるかを考える。

01 科目名	行動科学論ａ・ｂ
98 科目名	行動科学論
97 科目名	行動科学論
担当者	大久保　貞　義

講義の目標

行動科学論という学問は、比較的新しい学問である。その学問的方法論は、心理学、社会学、文化人類学などの学問的成果を応用し、社会の問題を分析し、研究する学問である。

一般には、既成の科学（Established Science）である自然科学や社会科学の成果を応用する学問であるから、これらの学問の基礎を知った上で、行動科学を学ぶ事が望ましいのであるが、行動科学の一端を学部の時代に学ぶのも意義があるかもしれない。

講義概要

まず始めに、心理学、社会学、文化人類学の基礎用語を学び、各学問のコンセプトを理解する。その上で、各学問間の特性を理解して、どのように総合化するかを学ぶ。したがって各学問を暗記するのでなく、あくまでも各学問の成果を素材として、実際の社会問題をどう分析し、解決するかという事を考える事が大切である。そこには、人間だけが持つ創造性（C-reativety）をいかに発揮するかという事が重要になる。

従来の既成概念にとらわれる事なく、新しい考え方、新しい行動様式の概念を形成する事が大切である。このレベルまで達すると、大学院の水準にまで達する事になるが、若い時から、新しい概念、新しい考え方に接触する事は、長期的にみて役に立つであろう。

テキスト

授業の時に指示する。

参考文献

「労働の未来予測」大久保貞義著　ぎようせい刊

評価方法

・　レポート(３～４回を予定)と定期試験の成績で評価します。

・　欠席 3 回以上の者は、学期末テストが受けられない場合があります。

・　再試験は行わないので、注意して下さい。

受講者への要望

受講者は抽選によって、決定します。

抽選方法は時間割表を参照して下さい。

年間授業計画

1. 学問の発展段階＝先頭を切る数学の重要性。発展の順序はどうなっているか。学問の法則性とは何か＝理論の美しさ、力強さはどうして生まれるか。それは数式で表現される。ニュートンの力学のポイント＝見方を変えれば……何を表現しようとしているのか
2. ＝科学の目標は何か＝すべての物質の素粒子から生きている人間まで――そして宇宙まですべての万物の動を統一する理論・規則性はあるか。社会学の基礎用語、文化人類学の用語、心理学、社会心理学の用語
3. 集団規範の実験＝実験可能な法則と不可能な法則。人間＝この不思議なもの
4. 人間社会の発展＝農耕社会、工業化社会、脱工業化社会、社会を進歩させるものは……神さま？仏さま？
5. 伝統的社会と近代的社会の対比
6. それぞれの社会の時間の概念＝人間と時間の関係の仕方　時間の価値は、社会によって相違して来る。社会の変化に伴う価値観の変動→人間行動の規則性
7. 経済の発展と人間行動のパターン分析　①経済中心の産業主義：
8. ②巨大組織への参加：組織の中の人間、技術中心のイデオロギー
9. ③脱工業化社会の生きる選択権の拡大：組織の中の金銭、財力、尊敬心、忠誠心、とそれに対立する人間の中の誠実さ、人間味、自己実現への願望。
10. 人間行動と宗教の力＝仏教・キリスト教・イスラム教・神道の比較分析
11. 西洋のビジネス V.S.東洋のビジネス　ユダヤ教の知恵、儒教の教え
12. 日本人企業経営者の発想と思准方法
13. コミュニケーションの理論　マス・コミュニケーションとパーソナルコミュニケーションの特性
14. コミュニケーションの二段の流れ　その構造と機能。メッセージの特性と内容と伝播の速度
15. オピニオンリーダーの役割とその特性
16. 創造性とは何か＝　二つの既知の要素の組み合せ。その本質は"反送"である
17. 創造性開発の技法＝ブレーンストーミングのやり方とチェックポイント　その他の開発法
18. 思考とパーソナリティ＝創造的人間と非創造的人間
19. 時間と人間行動、生産性・効率・労働システムと

人間の時間

20. 予測の未来予測の技術　物理的現象の予測と社会的現象の予測の相違。知を創造する大学の機能。知のマーケットの出現。知識社会における大学の役割と知識がもたらす国家の繁栄。
21. 予測の面白さは、未確定要素にあり。　高齢化社会、脱工業化社会、情報化社会に起る社会現象。
22. 予測の正確さは、未来を洞察する力にあり。　予測したら、予測が当るようにその方向に人間の意志の力で状況を変化させる事が出来る。政等科学への応用方法。
23. ナレジマネジメントの発想法：企業全体の知恵の生かし方とイノベーションの活用
24. 行動科学とビジネスのマネージメント：戦略形成の要点。未来のビジネスの特色を検討する。

01 科目名	保　険　論ａ・ｂ
98 科目名	保　険　論
97 科目名	保　険　論
担当者	岡　村　国　和

講義の目標

本講義の目的は、幅広い現実の保険現象を理解し、現在進行中の保険事業を分析する能力を収得することにある。前期の目標は保険理論の理解であり、主として保険原理を講義するが、さしあたり保険をめぐる諸現象を総括的に概観することから出発する。後期は保険経営論の講義を主とする。具体的には保険業の収益構造および保険市場の構造的変化の講義である。本年度の主目的は、保険の本質的機能を十分理解した上で、近接他業との相互関係や市場再編の方向が理解でき、また保険における契約者保護の重要性を知る力をつけることである。

講義概要

多くの大手生保会社が保険業法に基づいて設立された相互会社という非営利の中間法人であることは、以外と知られていないと思う。本年度は保険会社の競争と倒産、および契約者保護問題に力点を置いた講義を行う。前期は保険原理の学習を中心とする。純化された保険の公式は、P＝ωZ で表されるが、この公式の他に各種の重要な原則や補助公式が存在する。後期は、複雑多様な保険現象や保険企業の行動原理、保険市場の限界や代替リスク移転（ＡＲＴ）などを理解するため、保険の限界、保険業の収益構造や本質的機能について講義した上で、金融規制緩和の実体や、保険業に対する規制の特殊性および市場構造の変化などを講義する。

テキスト

未定

参考文献

庭田範秋編『保険学』成文堂、1989 年。講義中にその都度指示・紹介する。その他、補助資料などをプリントして配布する。

評価方法

前期：前期末定期試験による。

後期：後期末定期試験による。

受講者への要望

特に用意する必要はないが、経済学・経営学・統計学・マーケティング・法学などの基礎的な科目を既修または平行履修するのが好ましい。

なお、適宜配付する資料で理解度の自己確認をして欲しい。

前期授業計画

1. 講義の範囲、講義の進め方、保険学の学問的位置づけについて。また、昨今の保険現象のトピックを概観する。
2. 保険現象の分析方法・分析用具および保険をめぐる自由、平等、公正、公平などの規範の検討。
3. リスクの基礎理論（リスクの認知、分類、定量化、測定、処理）およびリスクと保険（保険可能リスクとダウンサイド・リスク、付保決定基準）について。
4. 応用経済学（情報経済学分野）を援用した期待効用理論に基づく保険モデルについて。
5. 保険の構造（1）：保険の理論的構造の概観、保険成立の諸要件についての検討および諸原理の検討について。
6. 保険の構造（2）：主として損害保険の主要概念の整理（「被保険利益」、「保険価額」、「保険金額」、全部保険と一部保険)、「超過保険」、「共同保険」などについて。
7. 保険の構造（3）：「危険負担の一般原則」及び「損害填補の一般原則」とその例外について。
8. 保険の構造（4）：因果関係論、保険契約者の各種義務（告知義務、通知義務、損害防止義務）について。
9. 保険各論（1）：生命保険の仕組みや機能、経済効果およびその構造、生命保険価格決定理論について。
10. 保険各論（2）：損害保険の中心的地位にある自動車保険と火災保険についての仕組みや経済機能について。
11. 保険各論（3）：社会保険・社会保障を中心とする「高齢化社会における諸問題」について。特に年金と医療に関して講義する。
12. 前期のまとめ

後期授業計画

1. 後期講義の目的、内容などについて
2. 保険市場論（1）：「産業組織論」の枠組みによる保険市場の分析について。
3. 保険市場論（2）：「コンテスタビリティ理論」及び競争戦略論、市場集中度、商品の差別化、商品に対する情報の問題、規模の経済性、範囲の経済性について。
4. 保険経営（1）：保険経営の特殊性、価値循環の転倒性、保険商品の特殊性、保険業の収益構造、保険経営をめぐる 3 利源（危険差益・利差益・費差益）

などについて。

5. 保険経営（2）：保険料率の算定・決定とアンダーライティング、保険企業の資産運用とキャッシュ・フロー・アンダーライティングについて。
6. 保険経営（3）：保険業の金融活動および損害保険企業の行動原理に多大な影響を及ぼし、かつ伝統的な損害保険の本質論の変容をももたらした「積立型保険」の特徴について。
7. 保険の限界とその拡張（1）：保険技術的限界および保険経営上の限界。
8. 保険の限界とその拡張（2）：保険経済的限界、法的限界、モラル・ハザード、アドバース・セレクション、レモン市場および代替リスク移転（ＡＲＴ）について。
9. 保険政策論：一般の経済政策と保険固有の保険政策の共通点・相違点（保険の成長・安定・公正政策）について。
10. 保険業の規制（1）：保険業の規制と規制緩和、保険業における競争と規制の二律的均衡の理論的枠組み（CAPM 理論、オプション・プライシング理論）などについて。
11. 保険業の規制（2）：金融・保険業の消費者保護、①銀行業の預金保険制度（FDIC）、②年金の支払保証制度（PBGC）、③保険契約者保護機構の比較。
12. 後期のまとめ

01 科目名	貿易論ａ・ｂ
98 科目名	貿　易　論
97 科目名	貿　易　論
担当者	米　山　昌　幸

講義の目標

国際貿易や貿易政策の基礎理論を修得して、現実の国際経済のテーマを考察し、分析するための理論的根拠を得ることが、この講義の目標である。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえでの理論の有用性を理解してもらいたい。

ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけていねいに説明していくので、理論を学んで厳密な議論ができるようになってほしい。この講義では、単に経済事情を解説するのではなく、大学生にとって理論的な思考方法を身につけることの大切さを説いていきたい。

講義概要

貿易論は、財・サービスの国際取引や資本・労働・経営資源の国際移動を分析対象とする学問分野である。

前期は、一般均衡モデルを用いて伝統的な国際貿易の基礎理論を中心に講義する。貿易論でもっとも重要な概念である比較優位を説明し、貿易パターン、貿易利益、比較優位を決める要因などを説明する。

後期は、部分均衡モデルを用いて貿易政策の基礎理論を説明したのち、個別テーマを問題接近的に講義する。幼稚産業保護論や地域経済統合、コメの輸入自由化、環境と貿易、緊急輸入制限措置（セーフガード）など個別テーマに理論を適用して考察する。

なお、貿易実務については、「ワンポイント貿易実務」として簡単に扱うにとどめる。

テキスト

毎回、授業で配布するプリントを用いる。

参考文献

第１回目の授業で参考文献リストを配布するので、ここでは主なものだけを紹介しておく。

ラッセル D. ロバーツ(佐々木潤訳)『寓話で学ぶ経済学』日本経済新聞社，1999 年。

浦田秀次郎『国際経済学入門』日経文庫，1997 年。

小田正雄・鈴木克彦・井川一宏・阿部顕三『ベーシック国際経済学』有斐閣ブックス，1989 年。

P. R. クルグマン・M. オブズフェルト(石井菜穂子他訳)『国際経済：理論と政策Ⅰ国際貿易(第 3 版)』新世社，1996 年

池本　清(編)『テキストブック国際経済(新版)』有斐閣ブックス，1997 年

評価方法

[前期]定期試験で成績評価を行うが、練習問題提出も考慮する。

[後期]定期試験で成績評価を行うが、練習問題提出も考慮する。

受講者への要望

成績や単位ではなく、講義の本当の意義は別のところにあるはずです。大切なことは、一年間受講してみて、それによって得た知識や、喚起された知的興味をもとに、自ら勉強することによって、どれだけのものがあなたに付加価値として加わったか、ということではないでしょうか。一回、一回の講義を大切にし、休まないでください。

前期授業計画

週	内容
1	**イントロダクション－「貿易論」ガイダンス－** 貿易論とは、授業の形式と学習方法、評価基準、参考文献の紹介
2 3 4 7	**第１章　リカードの比較生産費説** 1. モデルの設定(2 国 2 財 1 要素モデル) 2. 生産フロンティア(生産可能性曲線)の導出 3. 閉鎖経済の均衡相対価格の決定 4. 絶対優位と比較優位 5. 生産点の決定と貿易パターン 6. 社会的無差別曲線と貿易利益
5 6	**補論　最適消費点の決定－無差別曲線分析－**
8 9 10	**第２章　ヘクシャー＝オリーン理論－固定投入係数のケース－** 1. モデルの設定(2 国 2 財 2 要素モデル) 2. 生産フロンティアの導出 3. 要素賦存量と生産構造 4. 要素賦存量と貿易構造 5. 財の相対価格と要素価格(所得分配)
11 12	**第３章　国際貿易の基礎理論** 1. 一般的な生産フロンティアと生産点・消費点の決定 2. 閉鎖経済下と開放経済下の一般均衡 3. 比較優位と貿易パターン 4. オッファー曲線と交易条件の決定

後期授業計画

週	内容
1 2 5 6 7	**第４章　貿易政策** 1. 貿易政策の目的 2. 貿易政策の手段 3. 部分均衡分析による貿易利益 4. 貿易政策の効果－部分均衡分析･小国のケース－
3	**補論　市場メカニズムと経済厚生－需要･供給曲線分析－**

4	1. 部分均衡分析と完全競争市場の仮定 2. 需要曲線と供給曲線 3. 市場メカニズムの原理と市場均衡 4. 需要･供給曲線の読み方 5. 限界分析 6. 限界分析と余剰概念 7. 市場メカニズムと経済厚生 8. 上限価格規制と下限価格規制の厚生分析 **補論　コメ市場における政府介入の経済厚生分析**
8	**第５章　幼稚産業保護論** 1. モデル設定(2 期間モデル) 2. 保護政策が正当化されるための条件 3. 幼稚産業保護論の問題点
9	**第６章　経済統合** 1. 経済統合の諸形態 2. 関税同盟の静態的効果－貿易創出効果と貿易転換効果－ 3. 関税同盟の動態的効果
10	**第７章　コメの輸入自由化** 1. 輸入数量制限と関税化 2. 関税の段階的引き下げ 3. 完全輸入自由化(関税撤廃)
11	**第８章　環境資源問題と貿易政策** 1. 国内生産に伴う外部経済と外部不経済のケース 2. 国内需要に伴う外部不経済のケース 3. 貿易に伴う外部不経済のケース 4. 食糧貿易･木材貿易と環境資源問題
12	**第９章　自由貿易と保護貿易－セーフガードをめぐって－** 1. 緊急輸入制限措置(セーフガード)とは 2. セーフガードの経済厚生分析 3. セーフガードの政治経済学

01 科目名	証券市場論ａ・ｂ
98 科目名	証券市場論
97 科目名	証券市場論
担当者	佐　賀　卓　雄

講義の目標

ここ数年、金融システムの変化が著しい。それらの動向を把握、理解するには、金融システムの基本的な機構、メカニズム、役割などを明らかにすることが必要である。その分析視角や方法、また課題を提起し、学生諸君の関心を喚起する。

講義概要

前期は証券市場の基本的な役割・仕組みについて解説する。証券市場において生起する諸現象は一定の枠組みの下での市場参加者の行動の結果である。したがって、それらを理解するには経済学、金融理論、投資理論、有価証券法などの成果に基づいた学際的な分析が必要である。

後期は、近年の証券取引のシステム化、グローバル化、市場間競争、金融サービス業における業態融合の背景、動向について分析する。

テキスト

日本証券経済研究所編『詳説　現代日本の証券市場』2002 年版、3 月刊行予定

参考文献

佐賀卓雄著『メリルリンチの真実』ラジオ短波, 1998 年

バートン・マルキール著，井手正介訳『ウォール街のランダムウォーカー』日本経済新聞社，2001 年

評価方法

学年末試験の成績、及びレポートの内容により評価する。試験の成績は、答案がどれだけ設問に理路整然と答えているかを基準とし、必ずしも講義内容にこだわる必要はない。

受講者への要望

毎日、新聞の経済記事に目をとうし、問題意識をもつこと。主要な新聞、雑誌の記事はインターネットからダウンロード可能であるから、それを活用すること。

前期授業計画

1. 講義概要、評価方法などについて説明
2. 証券市場の役割（１）－金融市場と証券市場
3. 証券市場の役割（２）－資金調達のための市場
4. 証券市場の役割（３）－資産運用のための市場
5. 有価証券とは何か－取引対象としての有価証券
6. 有価証券の種類（１）－株式および関連証券
7. 有価証券の種類（２）－公社債の種類
8. 証券の発行市場－発行機構と発行価格の決定
9. 証券の流通市場－流通市場の意義
10. 証券の価格（１）－証券価格決定のメカニズム
11. 証券の価格（２）－現代投資理論（MPT）
12. 証券の価格（３）－日本の株式持合と株価形成

後期授業計画

1. 市場仲介者の役割（１）－証券会社の機能と業務
2. 市場仲介者の役割（２）－規制の変遷
3. 市場仲介者の役割（３）－業務の多角化
4. 市場仲介者の役割（４）－アメリカの証券会社と日本の証券会社
5. 証券取引システム（１）－証券取引所の機構と役割
6. 証券取引システム（２）－証券取引の電子化と多様な取引システムの登場
7. 証券取引システム（３）－市場間競争の展開
8. 投資信託（１）－証券市場改革と投資信託
9. 投資信託（２）－資産管理業務の重要性
10. 金融サービス業の再編成－インターネットによる業態融合
11. 投資家保護（１）－預貯金者保護と投資家保護の違い
12. 投資家保護（２）－日本版ビック版の忘れ物＝包括的金融サービス法の必要性

01 **科目名**	**企業形態論ａ・ｂ**
98 **科目名**	**企業形態論**
97 **科目名**	**企業形態論**
担当者	**栗　村　英　二**

講義の目標

経済の構成単位である「企業」について、その歴史や法律上の分類としての個人企業や合名会社、合資会社、有限会社、株式会社について機能や事業規模や責任について講義する。

講義概要

現代資本主義下の企業形態について講義する。今日の日本では商法の規制のもと有限会社（資本基準300 万円以上）株式会社（資本金 1,000 万円以上）が一般的であり、さらにグロバリゼーションの時代合弁企業あるいは多国籍企業について講義する。

テキスト

車戸編『企業形態論』八千代出版、その他

評価方法

学年末の試験成績による。

受講者への要望

企業の問題は日々ますます複雑になり、国際化する経済動向のなかで多様化もすすんでいるので、新聞その他のもので知識を多くすることが必要である。

年間授業計画

1. 中小企業の比重が多いので、有限会社の利用が便益多い。経営者の意識についてもふれる。
2. 有限会社の特質や特性について。
3. 有限会社と株式会社の違いについて。
4. 有限会社の出資金は第三者に流れない。社長－代表取締役の心得について。
5. 有限会社の資本金について。
6. 現代の企業形態の展開の意義について。
7. 株式会社について　　成立、機構、発展変貌、残されている問題。
8. 現代企業における所有と支配。危険負担と支配権。所有の分散と経営者支配。
9. 企業集中の要因。企業集中の形態－連合合併、企業集団形態。
10. 競争と規制。独占対策について。
11. 企業集団問題の所在。代表的企業集団。コンツェルンの生成発展。六大企業集団の特質。
12. 企業の集中・分割形態と企業集団。
13. 公企業とは何か、その実態。
14. 公企業の機能と役割。
15. 自由経済体制と公企業の役割。
16. わが国の公企業の生成と発展。
17. 公企業の諸問題。
18. 公企業の民営化の背景。
19. 日本企業の成熟社会の対応―国際化、多角化、業際化等。
20. 海外現地進出の形態。
21. 資本市場の拡大と多様化。

01 科目名	ベンチャービジネス論ａ・ｂ
98 科目名	ベンチャービジネス論
97 科目名	中小企業論
担当者	上　坂　卓　郎

講義の目標

企業とはなにかを把握し、その上でベンチャービジネスの特徴についての理解を深める。

企業人となる上で必要な基礎知識をバランス良く身につける。

講義概要

ベンチャービジネスもまず一つの企業であるという認識に立って、企業の役割や機能を全体として把握できるようにする。

その理解の上に、ベンチャービジネス特有の問題や支援の仕組みなどを理解していく。

この講義を受講してすぐ起業できるわけではない。しかし将来起業したり、独立する際に最小限の知識を習得することをめざす。

テキスト

プリントを使用するが、参考文献の松田修一（2001年）は適宜使用する。

参考文献

松田修一『ベンチャー企業』日経文庫、2001 年

この他講義の進捗に合わせて指示する。

評価方法

前期は小レポート、後期は全体の理解について筆記試験を行う。

受講者への要望

新聞等を良く読み、経済の流れのなかで、ベンチャー企業活動の理解を深めていくこと。

開講初年度のため、進捗にあわせ授業内容は変わりうる。

年間授業計画

1. 会社とはなにか
2. 会社の誕生、設立
3. 会社の資産、組織、人
4. 会社の資本と負債の違い
5. 資金調達（ファイナンス）
6. エンジェル、ベンチャーキャピタル
7. 投資判断、経営戦略
8. 会社の成長、資本政策と証券会社
9. 企業分析、企業評価手法
10. ベンチャー企業と技術特許
11. 米国のベンチャー企業と経営環境
12. ベンチャー実務（講演予定）
13. 企業の経済学
14. 産業構造の変化と産業政策
15. 経済の見方と経営環境の判断
16. ベンチャー企業の情報開示
17. ベンチャー企業の資金繰り
18. 企業と反社会的勢力
19. 企業統治と利害関係者
20. M&A、MBO とリビングテッド
21. 会社の死と再生
22. 起業家の成功と税制
23. 日本経済とベンチャー企業の役割
24. ベンチャービジネスとはなにか（まとめ）

01 **科目名**	**非営利組織マネジメント論ａ・ｂ**
98 **科目名**	**協同組合論**
97 **科目名**	**協同組合論**
担当者	**栗　村　英　二**

講義の目標

資本主義経済活動の批判として生まれた協同組合は、全世界的な市民権を得た事業体として生き続けていることを認識してほしい。

講義概要

協同組合には 150 年の歴史で創り出した協同組合の原則の理解と協同組合の原則を拡めつゝある現実を知ることにつとめる。

テキスト

『新協同組合とは』（財）協同組合経営研究所

評価方法

学年末のテストによる。

年間授業計画

1. 協同組合のあゆみ　①協同組合の誕生
2. ②世界に広がった協同組合　③日本の協同組合のあゆみ
3. 協同組合の特徴としくみ　①協同組合とは何か
4. ②協同組合の原則を学ぶ　ⅰ加入、脱退は一人ひとりの自由
5. ⅱ平等な議決権と主体的な参加（＝民主的運営）　ⅲ公平に出資し余剰金はみんなのために活用する（組合員による財産の形成と管理）
6. ⅳ他に依存したり従属してはならない（組合の自治・自立）
7. ⅴ学びあう場としての協同組合（教育、研修と広報活動の促進）　ⅵ協同組合どうしで手を結びあおう（協同組合間協同）
8. ⅶ環境を守り、暮しやすい地域をつくる（地域社会への配慮）
9. ③七つの原則はバラバラなものではない
10. ④協同の二十一世紀へ　・現代社会はどこへ
11. ・いま、なぜ協同組合に着目するか
12. ・新しい時代を協同の力で社会づくりを考えなければならない。

01 科目名	会計学原理ａ・ｂ
98 科目名	会計学原理
97 科目名	会計学原理
担当者	内　倉　　滋

講義の目標

本講義は、"制度としての会計"の解明を目的とする。その目的のため、我が国における企業会計に関する慣習的な諸ルールを直接の分析対象に選び、その規定している内容と、それを支えている理論的な背景の紹介をしていきたい。なお本講義では、その"理論的な背景"として、今世紀初頭のドイツの理論、とりわけシュマーレンバッハ（ドイツの会計学者）の議論を随時取り上げることとしたい。

講義概要

年間授業計画は以下に掲げるとおりであるが、おおむね前期（「会計学原理 a」）は、複式簿記の復習の後、会計学の領域のうちで従来から議論されてきた伝統的な部分の概要を紹介していきたい。他方後期（「会計学原理 b」）は、「連結会計」「税効果会計」といった、比較的新しい問題（ないし、最近においてその制度的中身が大幅に改変された領域）を講義の対象としたい。

テキスト

平井克彦・石津寿惠、『損益計算と情報開示』（白桃書房）

参考文献

図書館に複数冊あるものを中心に、後日紹介します。

評価方法

[前期]テキスト中の練習問題を素材に、直接あてて答えてもらったり、小テストの形式で提出してもらったり、という形でほぼ毎回平常点をカウントしていこうと考えている。そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに期末試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。

[後期]前期と同様

受講者への要望

複式簿記の基本的知識を前提に議論を出発させますので、「簿記原理」を修得していること、または同等の知識のあることを履修の条件とさせていただきます。

年間授業計画

1. テキスト第 1 章：会計と会計理論
2. テキスト第 2 章：企業会計と関係法規
3. テキスト第 3 章：企業会計原則
4. テキスト第 4 章：貸借対照表
5. テキスト第 5 章：損益計算書
6. テキスト第 6 章：流動資産
7. テキスト第 7 章：有価証券
8. テキスト第 8 章：固定資産
9. テキスト第 9 章：繰延資産
10. テキスト第 10 章：負債
11. テキスト第 11 章：引当金
12. テキスト第 12 章：資本
13. テキスト第 13 章：収益の認識方法
14. テキスト第 14 章：費用の認識方法
15. テキスト第 15 章：連結会計
16. テキスト第 16 章：税務会計
17. テキスト第 17 章：税効果会計
18. テキスト第 18 章：時価会計
19. テキスト第 19 章：外貨換算会計
20. テキスト第 20 章：デリバティブ会計
21. テキスト第 21 章：リース会計
22. テキスト第 22 章：キャッシュ・フロー会計
23. テキスト第 23 章：環境会計
24. テキスト第 24 章：NPO 会計

01 科目名	財務会計論　a・b
98 科目名	財務会計論
97 科目名	財務会計論
担当者	中　村　泰　將

講義の目標

本講義は、1，2 年生で簿記を勉強し、いよいよ会計理論を勉強しようとする受講生を対象にして設けられた講座です。京セラの稲盛会長が『実学－経営と会計』という著書の中で「会計がわからんで経営ができるか」と述べているように、会計の専門知識は投資家にとっても、企業のスタッフ、経営者にとっても重要な意思決定の手段となります。財務会計の課題は、①どのような人々に会計情報を提供するのか？②どのような種類の会計情報を提供するのか？③その会計情報はどのように作りだすのか。の 3 つに集約されます。

講義概要

上の 3 つの課題は、①は、外部の利害関係者である、株主、債権者、国、従業員、さらに一般社会の人々等を対象としております。②は、基本的にはストック（企業の経済的資源）とフロー（利益）並びにキャッシュ・フロー（現金および現金同等物の源泉と使途）の 3 つの情報を提供します。③は、会計情報を作りだすルール（「会計基準」と呼びます）を学ぶことです。このルールには、国内では、商法、証券取引法、税法等の法律が要請する会計規定がありますが、国際的に経済活動する企業では「国際会計基準」や米国の SEC（証券取引委員会）が要請する米国会計基準などがあります。2000 年度から「連結決算」「時価会計」「キャッシュフロー計算書」「年金会計」等が実施されます。これらは、講義の中でその都度触れる予定です。

テキスト

新井清光著『現代会計学』（第６版）中央経済社

参考文献

『会計法規集』（第 16 版）中央経済社

評価方法

前期：会計の専門的用語、会計基準の内容等についての、○×式、穴埋め、短答式問題。

後期：会計の理論的問題。それ以外にリポートの提出も加味する。

受講者への要望

①簿記原理を習得していた方が望ましい。

②会計学に興味ある他学部の学生も歓迎する。

前期授業計画

1. 会計（学）とは、どのような学問領域かを理解する。
2. （1）企業会計の理論的構造を理解する。
   （2）企業会計の計算構造を理解する。
3. （1）日本の企業会計制度の仕組みを理解する。
   （2）財務会計の基準あるいはルールである「企業会計原則」の構造を理解する。
4. 「企業会計原則」:「一般原則」を理解する。
5. 真実性の原則とその他 6 つの一般原則との関係。
6. 資産の会計（1）イ．資産の意義・概念　ロ．資産の分類　ハ．資産の評価基準
7. 資産の会計（2）流動資産の意義・分類・評価
8. 資産の会計（3）イ．当座資産の概念・分類・評価　ロ．有価証券の概念・分類・評価
9. 資産の会計（4）固定資産の概念・分類・評価
10. 資産の会計（5）繰延資産の概念・種類・償却
11. 負債の会計（1）負債の概念・分類・評価
12. 負債の会計（2）イ．引当金の意義　ロ．引当金の設定の目的　ハ．引当金の設定の要件

後期授業計画

1. 資本の会計（1）イ．資本会計の意義と範囲　ロ．資本の源泉別分類と処分可能別分類
2. 資本の会計（2）イ．払込資本の概念と範囲　ロ．増資・減資の形態と会計処理
3. 資本の会計（3）イ．評価替資本の会計　ロ．受贈資本の会計
4. 資本の会計（4）イ．稼得資本の概念と範囲　ロ．商法第 288 条の利益準備金
5. 損益会計（1）イ．損益会計の意義と範囲　ロ．損益計算の区分計算
6. 損益会計（2）イ．損益計算の諸原則
   （1）費用収益対応の原則
   （2）費用配分の原則
   （3）発生主義の原則
7. 損益会計（3）収益の認識基準
8. 財務諸表（1）イ．財務諸表の意義と役割　ロ．中間財務諸表の意義と作成
9. 連結財務諸表（1）イ．連結財務諸表の意義　ロ．連結貸借対照表の作成基準
10. 連結財務諸表（2）イ．連結損益計算書の作成基準　ロ．連結剰余金計算書の作成基準
11. 税効果会計
12. 財務諸表の分析

01 **科目名**	
98 **科目名**	**管 理 会 計 論**
97 **科目名**	**管 理 会 計 論**
担当者	**香　取　　徹**

講義の目標

企業の経営者や管理者およびこれを助ける人々が、合理的な計画管理活動を展開するためには、企業会計についての基礎知識をもって、目的にあった会計情報をうまく使いこなせる素養を身につけることが近年ますます重要になっています。この講義では、マネジメントの諸分野で生じる意思決定問題を採算性の観点から分析するための基礎的な考え方と、その分析に役立てるための会計情報の使い方を講義します。

講義概要

コスト低減や利益拡大のための改善活動や管理活動をすすめるためにキャッシュフローにもとづく会計情報の計算による分析を行ないます。

前期は、キャッシュフローによる経済的な意思決定の考え方、意思決定のタイプと判断基準についてケース・スタディをします。

後期は、フリー・キャッシュフローと企業価値、投資計画の評価基準について検討します。Excel を使ってキャッシュフロー計算書やシミュレーション・モデルを作成して、分析します。

テキスト

「キャッシュフロー管理会計」伊藤・香取・中央

参考文献

桜井通晴著「管理会計」同文館

評価方法

後期　定期試験のみ。（宿題提出して出席とします。）

受講者への要望

履修前に簿記原理を受講しているか、日商 3 級程度の簿記知識が必要です。また、授業にパソコンを使用しますにで、ノート型パソコンをもっている人は、ぜひ持参してください。

前期授業計画

第 1 週　管理会計とは？最近のトピックスから
第 2 週　意思決定とは？キャッシュフローとは？
　木村さんの場合［2-1］
第 3 週　テニスクラブの選び方
　ケース・スタディ［2-1-1］[2-1-3］
第 4 週　関連原価・無関連原価
　ギャラリー綺羅の場合［2-2］
第 5 週　貢献利益とは？
　小金井工業の場合[2-5］[2-6］
第 6 週　赤字製品、黒字製品　神奈川工業の場合
　ケース・スタディ［2-1-14］
第 7 週　減価償却費はキャッシュフロー　ＹＧ工業
第 8 週　Constraints の話。市場制約・生産能力制約
　北村製作所　蕎麦屋の例
第 9 週　KAIZEN（改善）の効果。［2-9］［2-2-8］
第 10 週　意思決定の問題タイプ。【3-1】
第 11 週　意思決定の問題タイプ。
（1）独立案ケース・スタディー【3-2】[3-3】[3-1-3】
第 12 週　意思決定の問題タイプ。
（2）排反案ケース・スタディー[3-4】[3-2-1】

後期授業計画

第 1 週　管理会計の最近のトピックス
第 2 週　フリー・キャッシュフロー
　1. 資金の時間価値　1. 1 現在価値 NPV
第 3 週　1.2 現在価値と年価（NAV）
第 4 週　2. 企業価値　FCF と企業価値
第 5 週　3.1 連結キャッシュフロー計算書
第 6 週　3.2 キャッシュフロー計算書の作成
第 7 週　3.3 営業キャッシュフローの計算
　①運転資本　②減価償却費
第 8 週　③支払利息　④法人税
　⑤財務諸表から FCF を求めよう。
第 9 週　4. 投資の経済性：FCF の最大化
　事業計画から投資案の評価まで
第 10 週　5. 投資案の評価基準
　（NPV，IRR，PIC，回収期間）
第 11 週　6. 投資の業績評価 EVA（EVA，MVA，FCF）
第 12 週　キャッシュフロー経営と経済性のまとめ

01 **科目名**	
98 **科目名**	**社会会計論**
97 **科目名**	**社会会計論**
担当者	**湯　田　雅　夫**

講義の目標

人類の歴史上、科学技術の発達にともないエネルギー消費量が急増するのは、産業革命以降今日までの約 200 年間である。その間、人々の暮らしは大幅に向上し、人口も爆発的に増加した。現在世界人口は 60 億人となり、21 世紀後半には 100 億人に達する。環境問題は、人口問題を抜きには考えられないことがらである。

科学技術の発達、高度な経済活動、人々の生活の質と量の向上は、地球環境に多くの悪影響を及ぼすようになった。(地球温暖化、酸性雨、熱帯林の減少、種の絶滅、農耕地の侵食、砂漠化、大洋汚染、開発途上国の公害問題)

これら地球環境問題を解明するために、環境マネジメント、環境会計の視点から、講義する。

講義概要

環境会計は、つぎの 4 つの領域を総称した名称である。

(1)　経済的な効率性とエコロジカルな効率性を追求するために開発された測定手段としての**環境原価計算と環境負荷計算**

(2)　それらの測定手段を統合して企業活動に伴い発生する経済的な事象とエコロジカルな事象を分析し、計画し、統制し、管理する**環境マネジメント**

(3)　環境に影響を及ぼす企業実践をマネジメントコントローリングし、企業の環境方針にしたがって評価する**環境監査（内部環境監査、外部環境監査）**

(4)　環境方針、環境計画、環境マネジエントシステム、環境パフォーマンスを公表する**環境報告書（環境声明書）**これらの領域を中心に、講義を進める。

テキスト

湯田雅夫「ドイツ環境会計」中央経済社、2001 年

参考文献

・湯田雅夫「ドイツ環境会計論」中央経済社、1999 年

・ﾏｸｼﾐﾘｱﾝ･ｹﾞｰｹﾞ編、今泉みね子訳「環境マネジメントによるコスト削減」白水社、1999 年

・ドイツ環境省・ドイツ環境庁編、宮崎修行訳「環境原価計算」日本能率協会、2000 年

・湯田雅夫「EU における環境情報開示の現状」「セキュリティハンドブック第１巻」日科技連出版社、1998 年

・湯田雅夫「環境マネジメント・ツールとしてのエコビランツ」小川洌先生古希記念論文集「会計情報の変革」中央経済社

・佐々木健訳「ファクター4」省エネルギーセンター

・佐々木健訳「ファクター10」シュプリンガー・フェアラーク東京

評価方法

前期：「レポート」提出による評価。題名およびレポートの形式と枚数、提出期限については、授業中に明らかにする。

後期：後期試験期間中に実施する論述式の試験による評価。

受講者への要望

将来、**主任環境審査員、環境審査員、環境審査員補、企業内の環境監査人、**公認会計士、税理士、中小企業診断士などの専門職を志望するもの、さらには企業経営に従事するものは履修することが望ましい。

年間授業計画

1. オリエンテーション
2. 第 1 章　ドイツ環境会計における理論と企業実態の変遷
3. 第 2 章　ドイツにおける環境政策および環境マネジメントの変遷
4. 第 3 章　環境マネジメント、環境監査における国際標準化の動向
5. 第 4 章　環境原価計算
6. 著書、新聞、雑誌から環境問題を考える（1）
7. 著書、新聞、雑誌から環境問題を考える（2）
8. 著書、新聞、雑誌から環境問題を考える（3）
9. 第 5 章　環境負荷計算－エコビランツ－（1）
10. 第 5 章　環境負荷計算－エコビランツ－（2）
11. 前期のまとめ（1）
12. 前期のまとめ（2）
13. 後期オリエンテーション
14. 第 6 章　環境マネジメントシステム－エココントローリング－（1）
15. 第 6 章　環境マネジメントシステム－エココントローリング－（2）
16. 第 7 章　ＥＭＡＳに基づく環境監査
17. 第 8 章　環境マネジメントの意義および州政府による環境マネジメント導入のための方策

18. 第 9 章　ドイツ企業における環境マネジメント、環境監査の実際（1）
19. 第 9 章　ドイツ企業における環境マネジメント、環境監査の実際（2）
20. 第 10 章　エコ効率性評価法
21. 第 11 章　制度会計に限定したドイツ環境会計の可能性追及
22. 第 12 章　環境報告書の構成と評価法
23. 第 14 章　環境会計における日本の現状と問題点
24. 第 15 章　地球環境保全の時代に問われる環境会計

01 **科目名**	**原価計算論ａ・ｂ**
98 **科目名**	**原価計算論**
97 **科目名**	**原価計算論**
担当者	**齋　藤　正　章**

講義の目標

原価計算には、大きく分けて、財務会計目的と管理会計目的という 2 つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「制度原価計算」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、経営管理のための原価計算で、企業の生産システム、製造技術、情報技術などの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義は、この 2 つの視点から企業における原価計算の役割や手続きについて理解を深めることを目標としています。

講義概要

「原価計算基準」にもとづく原価計算制度の枠内の実際原価計算と標準原価計算、枠外の直接原価計算を中心に講義を行います。とりわけ、実際原価計算における①費目別計算から②部門別計算、③製品別計算までの流れと各段階における計算の考え方や手続きの習得には練習問題を解くなどして十分な時間を割いて解説します。基本をしっかりとマスターすることによって、従来の原価計算システムの長所と短所が身をもって理解できるようになり、ひいては新しい議論の展開に対しても素早い理解が可能となることでしょう。

テキスト

『入門　原価計算』（清水孝・長谷川惠一著）中央経済社、2,800 円（税別）

参考文献

辞書的に使用するには『原価計算』（岡本清著，国元書房）がよいと思います。分厚い本です。

また、最新のトピックを調べるためには『管理会計学大辞典』（日本管理会計学会編，中央経済社）がよいでしょう。

評価方法

定期試験の結果で評価します。

受講者への要望

①電卓を持参してください。

②簿記や会計学関係の知識があると、本講義をより早く理解できると思いますので、これらの科目を未履修の人は同時に履修されることをお勧めします。

年間授業計画

1. 原価計算総説－イントロダクション。原価計算論とはどういう学問か会計学の周辺領域との関係について解説。
2. 原価とは何か－原価計算における原価の本質、諸概念について解説。
3. 原価計算の基礎手続き－原価計算の基本的な流れに関する解説。財務会計との有機的結合について説明。
4. 原価の費目別計算（1）－材料費の計算について解説。
5. 原価の費目別計算（2）－労務費の計算について解説。
6. 原価の費目別計算（3）－経費の計算についての解説と費目別計算のまとめ。
7. 原価の部門別計算（1）－原価部門、部門費の分類、部門共通費の配賦について解説。
8. 原価の部門別計算（2）－補助部門費の配賦について解説。
9. 原価の部門別計算（3）－前回の続きおよび製造部門費の配賦についての解説。部門別計算のまとめ。
10. 個別原価計算（1）－今回から原価の製品別計算の解説に入る。個別原価計算の意義、手続について解説。
11. 個別原価計算（2）－原価計算表の作成、原価計算表と製造勘定の関係について解説。
12. 個別原価計算（3）－仕損費の計算と処理、作業屑の処理について解説。個別原価計算のまとめ。
13. 総合原価計算（1）－総合原価計算の意義、手続について個別原価計算と対比しながら解説。単純総合原価計算における期末仕掛品原価の評価に関する解説。
14. 総合原価計算（2）－前回の続きおよび仕損、減損の処理について解説。
15. 総合原価計算（3）－工程別総合原価計算、加工費工程別総合原価計算に関する解説。
16. 総合原価計算（4）－組別総合原価計算、等級別総合原価計算に関する解説。
17. 総合原価計算（5）－連産品の処理と副産物の処理について解説。総合原価計算のまとめ。
18. 標準原価計算（1）－標準原価計算の意義と手続に関する解説。および原価差異の算定と差異分析の方法について解説。
19. 標準原価計算（2）－前回の続きと標準原価計算

の記帳方法について解説。

20. 直接原価計算（1）－直接原価計算の意義を全部原価計算のそれと対比しながら解説。あわせて直接原価計算の手続について解説。

21. 直接原価計算（2）－損益分岐点と損益分岐点分析に関する解説。

22. 特殊原価調査（1）－特殊原価調査の意義と特殊原価概念とその利用方法（意思決定）について解説。

23. 特殊原価調査（2）－前回の続きと特殊原価調査のまとめ。

24. 原価計算の新展開－これまで学んだ原価計算技法を振り返り、近年どのような原価計算技法が開発されてきたかについて解説する。

01 **科目名**	
98 **科目名**	**会計監査論**
97 **科目名**	**会計監査論**
担当者	**五十嵐　則　夫**

講義の目標

企業財務情報のディスクロジャー制度は、投資家保護を主目的として、適正な会計基準の設定、会計監査の実施および証券監督規制当局の監督のそれぞれ適切に運営されることにより成り立っている。このように、会計監査は、企業財務情報のディスクロージャー制度を支えるために重要な役割を担っている。本講義では、理論の説明とともに、企業の実際の財務諸表を利用し現実の会計監査の事例を用いて、日本および米国の監査基準および監査手続きを理解することを目標とする。

講義概要

会計監査の講義はテキストを中心に実施するが，会計監査の理論は監査実務と密接に関連しているので，できるだけ実際に監査実務で実施されている例を用いて説明し監査手続及び監査基準の理解を深めることにする。

また，会計監査のアプローチは米国で開発されたアプローチが最新と考えられるので，米国での監査リスクとそのアプローチも説明し，日本及び米国での監査の主要な相違も説明することとする。

テキスト

開講時に指定

参考文献

開講時に指定

評価方法

前期及び後期において試験またはレポート提出により総合的に評価する。

受講者への要望

財務会計論や会計学原理などを履修し，企業の財務諸表の内容を理解していることが望ましい。

年間授業計画

1. 財務諸表のディスクロージャー制度と会計監査
2. 法定監査（1）―証券取引法監査制度
3. 法定監査（2）―商法監査
4. 監査のプロセス―監査計画から監査報告書の作成まで
5. 一般に認められた監査基準とは何か
6. 監査の実施に関わる基礎概念―監査証拠とは何か
7. 監査証拠と監査手続―実証的監査手続を中心として
8. 監査の実施における監査リスクと重要性―リスクアプローチ
9. 内部統制の検討（１）―内部統制の構成要素など
10. 内部統制の検討（２）―内部監査との関係、発見事項のコミュニケーションなど
11. 監査サンプリング
12. コンピューター監査の手法
13. 売上サイクルの監査のケーススタディ（1）
14. 仕入サイクル監査のケーススタディ（2）
15. 誤謬、不正および違法行為に対する監査人の責任
16. 監査報告基準
17. 監査意見と監査報告書（1）―適正、限定、不適正、意見差控
18. 監査意見と監査報告書（2）―ゴーイングコンサーンなど
19. 監査報告書（3）―コンピレーションとレビューなど
20. 監査報告書発行後の監査手続き
21. 監査役会および監査委員会とのコミュニケーション
22. セグメント情報の監査
23. 中間財務諸表監査と四半期報告
24. 総括

01 科目名	
98 科目名	税務会計論
97 科目名	税務会計論
担当者	山　田　浩　一

講義の目標

近年会計理論と税務の取扱いの乖離が拡大し、それぞれの正確な把握なしには企業会計の実践が成立しない状況下にある。そこで本講義では、次の諸点の理解を深めることに努めたい。その上で、制度のあるべき姿につき受講者とともに考察したい。

1、法人税法の趣旨と計算構造の理解
2、会計的思考と税務的思考の相違の把握
3、法人税法等の会計に与えるインパクトの検討
4、諸外国の税務・会計制度との比較検討

講義概要

本講義では、会計及び税務が対象とする個々の経済事象がいかなるものかについての理解の形成につとめた上で、現行制度上、企業利益や課税所得の計算において、それら経済事象がどのように取扱われていくのかを把握していくこととする。さらに、必要に応じて現行制度についての批判的検討を加えることとなる。

すなわち、確定決算主義、損金経理要件といった税務理念が、企業会計実践に少なからぬ影響を与え、真実公正な会計の実現を阻害している面があるということ、また、国家単位の税務規制と国際的共通性の強い会計基準との調整が重要な課題となりつつあるといった点を取り扱いたい。

テキスト

「税務会計要論」　中田信正　著（同文館）

参考文献

・「会計法規集」（中央経済社他）
・「法人税法規集」（中央経済社他）
・「法人税取扱通達集」（中央経済社他）
・「総説税務会計」　鈴木明男・鈴木豊　共著（税務経理協会）
・「税務会計論」　井上久彌　著（中央経済社）
・「法人税法精説」　武田隆二　著（森山書店）
・「法人税法と課税所得の計算」　若杉明　著（税務経理協会）

評価方法

前期及び後期 2 回の定期試験における成績を基礎として評価する予定である。また、授業時間内に簡易な小テスト等を行い、理解を確認していきたい。

受講者への要望

本講義の履修にあたっては会計学原理、財務会計論、財政学等の関連科目の履修が有用であるが、特に簿記については基礎知識として把握しておいてもらいたい。

前期授業計画

1. 税務会計論の対象と方法
年間講義概要の説明を行い、税務会計論の対象及び税務会計論研究のアプローチ方法を取り扱う。
2. 租税制度
租税の意義、租税制度の沿革、租税の根拠、租税の目的、租税の分類、法規制の体系、租税原則といった項目について概括的にふれる。
3. 制度会計の構造
制度会計の意義、制度会計におけるいわゆるトライアングル体制、そして税務会計の位置づけをみる。
4. 法人税法上の課税所得の計算
企業利益と課税所得の関係、その構成要素である収益と益金、費用と損金との関係を把握する。
5. 公正会計処理基準
法人税法第 22 条 4 項にいう公正会計処理基準の意義を考え、会計理論の GAAP 等との関連を考えていく。
6. 税務会計判断の特性
税務判断の特徴的な考え方を、実質主義原理、確定決算主義、債務確定主義、同族会社規定等の概念を通じて確認する。
7. 売上収益と金銭債権
販売収益計上の一般原則、特殊販売の収益計上、債権の計上とその評価といった項目を扱う。
8. 有価証券と受取配当
有価証券の意義、分類、認識と測定、評価に触れた後、受取配当の益金不算入についてふれたい。
9. 売上原価と棚卸資産
売上原価と棚卸資産評価の関係、棚卸資産の取得から期末評価までの一連の考え方をみていく。
10. 有形固定資産・減価償却・リース
有形固定資産の意義、取得原価の決定、資本的支出と修繕費の関係、減価償却の意義と方法、固定資産の除売却、リース取引等を扱う。
11. 圧縮記帳
圧縮記帳の考え方、処理の態様、圧縮記帳処理の会計上の問題点等を扱う。
12. 無形固定資産・借地権

無形固定資産の意義、種類、借地権の考え方と税務上の取扱いといった項目を扱う。

後期授業計画

13. 繰延資産

繰延資産の意義、商法上の繰延資産とその他の繰延資産の内容・償却方法等に対する税務上のの扱いを概観する。

14. 引当金・準備金

会計上の引当金、商法上の引当金、税法上の引当金を概観する。準備金と引当金の相違点等を解明する。

15. 自己資本

資本等取引における税務上の取扱いを中心とし、欠損金の繰越控除制度を概観する。

16. 給与・報酬・源泉徴収

役員と従業員とにおける人件費用の取扱いの相違、及び源泉所得税等の控除項目の取扱いをみる。

17. 交際費・寄付金

交際費課税の趣旨、交際費損金不算入の計算、寄付金の制限の趣旨、寄付金の損金不算入の計算等にふれる。

18. 租税公課

企業をめぐる租税公課の種類を概観するとともに、会計上の取扱いと、税法上の取扱いの相違点をみていく。

19. 消費税と経理方法

消費税の性格、非課税取引と課税取引、税額計算、経理方式とその評価といった項目を扱う。

20. 税効果会計

税効果会計の意義、個別財務諸表及び連結財務諸表における税効果、国際会計基準、アメリカの会計実務における税効果会計等を概観する。

21. 申告・納税制度の概要・連結納税制度

税務会計上の実務的な流れとしての各種申告制度の概要、及び連結納税制度の動向についてみる。

22. 合併・分割・解散

企業活動のうち、特殊な取引内容であるといえる、合併・分割・解散等の意義、会計上税務上の考え方を扱う。

23. 国際課税

企業の国際活動に伴って派生する、外国税額控除、タックスヘイブン、移転価格税制といった問題を取り扱う。

24. 非営利法人の税務

公益法人、学校法人等の非営利法人における、法人税その他租税の取扱を概観する。

01 科目名	
98 科目名	経営分析論
97 科目名	経営分析論
担当者	百　瀬　房　徳

講義の目標

経営分析は財務諸表分析として発展してきた。このためには統一した財務諸表の作成方法の発展を促進させてきた。これによって作成された財務諸表の分析の始まりは金融機関が貸付金の返済能力を判定したところにある。その後証券市場では収益性の分析を発展させてきた。現在では特定の実体（たとえば企業）の評価または診断、当該実体の属する産業の動向、国民経済の動向を分析するまでに発展してきている。本講ではこの全体像の理解を深めることにする。

講義概要

前期においては歴史的発展過程をふまえたかたちで、経済環境と技法の二面より考察し、後期においては代表的な企業の財務諸表を資料とし、体系的に分析しながら、分析値が何を意味するかを考察する。この分析はテーマごとにレポートを完成させて、提出してもらうことにする。

テキスト

・前林著「経営分析」森山書店

参考文献

無し

評価方法

前期：テスト

後期：レポートを中心に評価するが、レポートが理解されているかテストする。

受講者への要望

講義のあった日に必ず復習すること。

前期授業計画

1. 一年間の講義内容の説明
2. 米国の経済環境における手形市場の形成過程
3. 手形市場、特に卸売商人の銀行での手形の割引における銀行からみた信用分析の形成過程
4. 信用分析の側面からみた財務諸表、特に貸借対照表を中心に
5. 信用分析における 2 対 1 の原則から体系的な分析への過程
6. 信用分析のケース・スタディ　ケース①－ウォール、ケース②－ブリス、ケース③－シュルター
7. 信用分析のケース・スタディ　ケース④－ギルマン、ケース⑤－ウォール、ケース⑥－シュマルツ
8. 収益性の分析およびその他の分析への発展
9. 経営分析の意義とその限界
10. 経営分析の主体と目的
11. 経営分析の種類
12. 経営分析の体系

後期授業計画

1. 安全性の分析(1)…比率分析　①新日鉄の有価証券総覧を用いて分析をし、レポート提出
2. 安全性の分析(2)…資金運用表の作成　②レポート提出
3. 安全性の分析(3)…資金移動表の作成　③レポート提出
4. 収益性の分析(1)…各種資本利益率
5. 収益性の分析(2)…売上高利益率と資本回転率、収益性分析(1)と　まとめて④レポート提出
6. 収益性の分析(3)…利益増減の原因分析　⑤レポート提出
7. 生産性の分析(1)…付加価値の意義
8. 生産性の分析(2)…付加価値の計算と数値の意味
9. 生産性の分析(3)…付加価値の計算　⑥レポート提出
10. 損益分岐点分析(1)…損益分岐点の意義
11. 損益分岐点分析(2)…損益分岐点の計算と数値の意味
12. 損益分岐点分析(3)…損益分岐点の計算　⑦レポート提出

01 **科目名**	**上級簿記（工業）ａ・ｂ**
98 **科目名**	**上 級 簿 記**
97 **科目名**	**上 級 簿 記**
担当者	**香　取　　徹**

講義の目標

この上級簿記論は、日商簿記検定 2 級の試験範囲のうち工業簿記を 1 年間かけて完全に制覇することを目的としています。日商簿記検定の 2 級の試験は、商業簿記と工業簿記の 2 種類の簿記の検定試験です。工業簿記は製造業で行われる簿記のことで、原価計算や管理会計論の基礎として重要な技術であるので、ぜひ習得してほしいと思います。

講義概要

簿記は難しいものではありませんが、技術ですから、身につけるためには、練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題の解説をしてから講義に合わせてプリントを配布して練習します。講義中に練習しなが質問を受けていきますし、プリントでも意見や質問を書いて下さい。また、ワークブックも自宅での練習に利用してください。

時間がある限り、日経新聞で会計に関するトピックを毎回コピーして簡単な解説をします。

テキスト

New Concept 日商簿記検定試験　工業簿記 2 級　税務経理協会

同　工業簿記 2 級ワークブック　税務経理協会

評価方法

前期・後期とも定期試験とプリントで評価します。

受講者への要望

検定試験にどんどんトライして下さい。合格したら試験の点数に加算します。

前期授業計画

1. ガイダンス
2. 原価の分類
3. 材料費の計算（1）
4. 材料費の計算（2）
5. 材料費の計算（3）
6. 労務費の計算（1）
7. 労務費の計算（2）
8. 経費
9. 製造間接費
10. 製造間接費
11. 工業簿記一巡
12. 演習問題

後期授業計画

1. 部門別原価計算
2. 部門別原価計算、個別原価計算
3. 個別原価計算・仕損
4. 総合原価計算（平均法、先入先出法）
5. 総合原価計算（後入先出法）・仕損
6. 総合原価計算（組、工程）
7. 総合原価計算（工程、等級標準原価計算）
8. 標準原価計算
9. 標準原価計算　直接原価計算
10. 直接原価計算
11. 工場会計
12. 製造原価報告書

01 科目名	上級簿記ａ・ｂ
98 科目名	上 級 簿 記
97 科目名	上 級 簿 記
担当者	細　田　　哲

講義の目標

「簿記原理」履修者あるいは「日商簿記検定」3 級以上の合格者が、複式簿記に関するさらに高度の知識・技術を習得すること。また、近年続々と公表されている新会計基準の内容について理解を深めることを目標とする。

講義概要

前期講義の内容

主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。

〇銀行勘定調整表の作成　〇手形取引の記帳

〇特殊商品売買取引に関する記帳

〇株式会社会計

後期講義の内容

主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。

〇本支店会計　〇帳簿組織　〇連結会計

〇リース会計　〇金融商品の会計

〇退職給付会計

テキスト

・新井清光、渡辺裕亘（共著）「検定簿記講義　2 級商業簿記」（中央経済社）

・桜井久勝（編著）「New Concept 日商簿記検定試験 1 級商業簿記」（税務経理協会）

参考文献

・新井清光、加古宜士（編著）「リース取引会計基準詳解」（中央経済社）

・田中建二「時価会計入門」（中央経済社）

・小宮山賢「金融商品・年金会計入門」（税務経理協会）

評価方法

前後期ともに期末試験の結果による。

年間授業計画

1. 1、銀行勘定調整表の作成
2. 2、手形取引の記帳（1）
   a）手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳
3. 手形取引の記帳（2）
   a）手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳
   b）荷為替手形
4. 3、特殊商品売買取引（1）
   a）未着品売買、b）委託販売、c）受託販売
5. 特殊商品売買取引（2）
   a）未着品売買、b）委託販売、c）受託販売
6. 特殊商品売買取引（3）
   d）割賦販売
7. 特殊商品売買取引（4）
   d）割賦販売
8. 4、株式会社会計（1）
   a）株式会社の資本金、b）法定基準金
9. 株式会社会計（2）
   c）利益処分と損失処理
10. 株式会社会計（3）
    d）社債の発行、利払、償還
11. 株式会社会計（4）
    e）繰越資産、f）引当金、g）法人税等
12. 株式会社会計（5）
    e）繰越資産、f）引当金、g）法人税等
13. 5、本支店会計（1）
    a）本店集中会計制度と支店独立会計制度
    b）支点分散会計制度と本店集中計算制度
14. 本支店会計（2）
    c）未達事項の整理
    d）内部利益の控除と合併財務諸表
15. 本支店会計（3）
    c）未達事項の整理
    d）内部利益の控除と合併財務諸表
16. 6、帳簿組織（1）
    a）普通仕訳帳と特殊仕訳帳
17. 帳簿組織（2）
    b）伝票式会計
18. 7、連結会計（1）
    a）連結財務諸表の目的、連結の範囲、連結決算日等
19. 連結会計（2）
    b）連結貸借対照表の作成
20. 連結会計（3）
    c）連結損益計算書の作成
21. 8、リース会計（1）
    a）ファイナンス・リース取引とオペレーティング・リース取引
    b）ファイナンス・リース取引の会計処理
22. リース会計（2）
    a）ファイナンス・リース取引とオペレーティング・リース取引

b）ファイナンス・リース取引の会計処理
c）セール・アンド・リースバック取引の会計処理
23. 9、金融商品の会計
24. 10、退職給付会計

01 **科目名**	**経営数学ａ・ｂ**
98 **科目名**	**経 営 数 学**
97 **科目名**	**経 営 数 学**
担当者	**磯　野　秀　明**

講義の目標

本講義では数学の基本的な事項を述べると共に、その応用としての経済・経営の基礎的な問題への適用を演習を通して学び、数学が理論的なものだけでなく、経済・経営など社会的にも応用可能であると理解されることを目標とする。

講義概要

本講義では、前期では主として数学の基本事項である関数と微分法及びその応用を、後期では線形代数とその応用としての産業連関分析法や経営科学などで広く応用される線形計画法を説明すると共に演習も行い、コンピュータへの適用性へ発展可能となるようにする。テキストに述べられていない経済・経営への適用に関しては適宜補う。

テキスト

竹之内脩著「経済・経営系　数学概説」新世社

参考文献

必要に応じて授業中に述べる。

評価方法

[前期]　出席状況、レポート提出。必要に応じて定期試験。

[後期]　前期に同じ。

受講者への要望

出席し、レポート提出と必要に応じて定期試験を受けること。

年間授業計画

1. 数学と経済・社会問題
2. 関数とグラフ及びその応用
3. 関数の演習
4. 導関数と微分
5. 微分法の演習
6. 関数の増減問題
7. 費用と利潤の問題
8. 微分の応用問題
9. 指数と対数関係及びその応用
10. 多変数問題の極大と極小
11. 生産関数と効用関数
12. 前期の総合演習
13. 数学と数学モデル
14. 表と行列
15. 行列の演算法
16. 行列演算の演習
17. 連立 1 次方程式と逆行列
18. ガウスの消去法と演習
19. 産業連関問題と投入係数
20. レオンティエフの基本方程式
21. 線形計画モデル
22. シンプレックス法と演習
23. シンプレックス表と演習
24. 後期の総合演習

01 **科目名**	
98 **科目名**	**情報検索論**
97 **科目名**	**情報検索論**
担当者	**福　田　　求**

講義の目標

必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に，コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を，解説および実習を通して体得する。

講義概要

本講義ではまず，情報検索に関する基礎的な概念について解説し，情報検索を取り巻くシステムの仕組み（設計／管理／運用方法等）を概観する。そしてその知識を踏まえた上で，実際の情報検索技術に慣れ，習熟するために，CD-ROM データベースや WWW の検索エンジン，商用オンラインデータベースを用いた情報検索の実習を行う。実習では可能なかぎり，受講者が今後の調査／研究活動で利用できるような情報源を紹介する。

テキスト

使用しない。

参考文献

適宜指示する。

評価方法

前期：定期試験。これに平常点(実習への参加態度等）を加味する。

後期：定期試験。これに平常点(実習への参加態度等）を加味する。

受講者への要望

本講義では教室の構造上定員を設けており受講者の抽選を行う。抽選作業については時間割表を参照し，不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。今年度からは「授業中の抽選」は行わないので注意すること。

前期授業計画

1. オリエンテーション
2. 情報検索の定義
3. 情報検索の種類，歴史
4. データベースの定義，意義，構成要素
5. データベースの種類，歴史
6. 索引語，シソーラス
7. 情報検索関連作業のプロセス
8. 検索式(1)：論理演算子
9. 検索式(2)：トランケーション
10. 検索式(3)：位置演算子，フィールド演算子
11. 検察結果の評価
12. 前期授業のまとめ

後期授業計画

1. オリエンテーション
2. CD-ROM 検索(1)
3. CD-ROM 検索(2)
4. WWW の検索エンジン(1)：インターネット／WWW の基礎
5. WWW の検索エンジン(2)：種類
6. WWW の検索エンジン(3)：ロボット
7. WWW の検索エンジン(4)：インデックス
8. WWW の検索エンジン(5)：検索結果の表示
9. WWW の検索エンジン(6)：まとめ
10. 商用オンラインデータベースの検索(1)
11. 商用オンラインデータベースの検索(2)
12. 後期授業のまとめ

01 **科目名**	**情報システム論ａ・ｂ**
98 **科目名**	**情報システム論**
97 **科目名**	**情報システム論**
担当者	**磯　野　秀　明**

講義の目標

現代の情報社会において、企業など組織にとっても個人にとっても、情報システムは不可欠なものとなっている。本講義では、その基本となる情報やシステムの概念を理解し、前期では主に組織における情報システムの考え方と利用を、後期では情報システムの利用者の立場としてのシステム・アドミニストレータ（シスアド）にとって必要となる情報システムの設計方法を演習と共に学び、情報システムの必要性を認識できることを目標とする。

講義概要

前期の講義では、情報システムの基本概念を身近なことがらでもって説明し、その後企業など組織の直面する問題と組織の中で利用される情報システムについて説明する。後期の授業では、シスアドの立場での情報システムの設計方法を説明すると共に演習も行う。

テキスト

前期：特になし

後期：木暮仁著「利用部門のための情報システム論」日科技連出版

参考文献

必要に応じて授業中に述べる。

評価方法

前期：出席状況、レポート提出。必要に応じて定期試験。

後期：前期に同じ。

受講者への要望

出席し、レポート提出と必要に応じて定期試験を受けること。60 人以内の授業とするので、熱意のある学生の受講を望む。

年間授業計画

1. ガイダンスとシスアドについて
2. 情報とシステム及び情報システム
3. 企業と情報、組織
4. 企業経営と環境
5. 組織情報システム
6. グループ情報システムと個人情報システム
7. ネットワークと情報システム（1）
8. ネットワークと情報システム（2）
9. 問題解決と情報システム
10. 意思決定と情報システム
11. 経営情報システムと戦略的情報システム
12. 前期のまとめ
13. システム設計の概要
14. 情報システム設計の各種技法
15. データ中心アプローチ
16. エンティティリレーションシップ・ダイアグラム（演習）
17. プロセス中心アプローチ
18. データフロー・ダイアグラム（演習）
19. データベースとデータの正規化（演習）
20. ファイルとファイルのジョイン（演習）
21. コード設計
22. 入出力設計
23. 機能設計とプログラム設計
24. 後期のまとめ

01 **科目名**	**情報社会論　a・b**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**柴　崎　信　三**

講義の目標

私たちの暮らしている現代社会は情報という「通貨」のやりとりの奔流の中に置かれている。情報をどこから取り込んでどう受容し、それを自らどのように発信して外部に働きかけていくかで、国家、企業、社会、個人の生き方も大きく左右される。この授業では新たな産業革命といわれるＩＴ（情報技術）革命で大きく変わる私たちの暮らしと世界に視点を定めて、メディアを介した情報が過去の歴史の中で社会をどう動かしてきたのか、その結果として情報と人間、社会の間には功罪両面でどのような関係が生れているのかを考える。コンピューターという道具を通した技術としての情報を超えて、情報と社会システムや国際関係など大きな流れをとらえてゆきたい。

講義概要

前期課程ではＩＴ（情報技術）の大きな変革の波が現代社会のさまざまな局面をどのように変えているかを、国際関係を含めた政治や経済、企業活動、社会生活や文化などさまざまな領域に検証する。ニューエコノミーと呼ばれる新たな生産性の高まりが社会を変えたという仮説を検証し、知的財産権の意味と個人情報保護などを巡るリスクの拡大、政府や行政機関の情報公開の問題など、「公」と「私」の関係の変化を情報の流れから見て行く。後期課程では活字印刷の広がりからインターネット時代に至るメディアの発展のプロセスを具体的にたどるなかで、国家間、国家と個人、国家と企業など、社会のガバナンス（統治）に情報がどんな機能を果たしたかを具体的に問いかけたい。情報の働きを歴史の文脈で読み直すことで、市場競争と民主主義という現代社会の原理を改めて考える。

テキスト

特に指定せず、その時点での各種メディアの報道、論説、映像などを随時提供しながらテーマに相応しい文献を紹介する。

参考文献

前期　『文化としてのＩＴ革命』（山崎正和・西垣通編、晶文社）

『情報様式論』（マーク・ポスター著、岩波現代文庫）

後期　『新メディア社会の誕生』（日本経済新聞社編）

『情報社会という神話』（ジョアンナ・ヌーマン著、柏書房）

評価方法

前期・後期とも定時試験として行う小論文の評価に、通常の授業時に時々課すレポートの実績を加味して判定する。

受講者への要望

グローバルな視野に立ったメディアがもたらす情報に接することに意欲を持ち、歴史的な流れを含めてこの時代と社会に積極的にかかわろうという態度を期待する。

前期授業計画

1：緒論　情報社会とは何か
2：ニューエコノミーを巡って
3：通貨危機とボーダーレス化の罠
4：米国覇権とテロを結ぶもの
5：知的財産権の再定義
6：インターネットとメディア再編
7：産業の空洞化と中国の世紀
8：デジタルデバイド問題
9：バーチャル国家と政治権力の衰弱
10：マクドナルド－文化の統合と反発
11：匿名ネット社会と個人の危機
12：公共圏の考え方
13：情報化は社会システムを変える

後期授業計画

1：緒論　情報とメディアと人間
2：グーテンベルク革命とその衝撃
3：ステレオタイプと新聞ジャーナリズム
4：映像の発見と視覚の世紀
5：ロイターと大英帝国の世界統治
6：複製技術時代と「アウラ」の喪失
7：プロパガンダとしてのメディア
8：テレポリティックス（テレビ政治）の歴史
9：戦争報道と米国のメディア
10：インターネットと旧メディア
11：米電気通信法改正とメガメディア時代
12：ディズニーと「インフォテインメント」
13：情報とメディアを巡る「公」と「私」

01 **科目名**	**コンピュータネットワーク（半期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**富　澤　儀　一**

講義の目標

パソコンが使えるようになった。次はネットワークについて、基本的な原理を学ぶ。原理さえ分かれば応用が利き、自宅で LAN を構築する場合でも、スムーズに導入ができる。また、インターネットや LAN の調子が悪いときでも原因の見当がつく。本講義では、LAN の原理に加え、小規模な LAN を構築できるように原理と構築の実際を学習する。

講義概要

ネットワークを理解するために必要な、基礎数学、ハードウエアの基本的な事項から始める。ネットワークにはいろいろな種類があるが、身近なのは TCP/IP と呼ばれる通信方式でデータのやり取りをする。この仕組みについて、LAN を例にして述べる。次にインターネットと LAN の関係について、「IP アドレス」と「ポート番号」について整理する。つづいて Windows のネットワークの設定である。この基本を知っていればトラブルにも的確に対処できる。これまではクライアントについて述べたので、話題をサーバーに移す。サーバーの種類と基本的な原理が分かると、ネットワークでトラブルが生じたときでも、ある程度の原因がつかめる。最後に LAN に必要な機器、と構築について述べる。

テキスト

次の URL に講義用のテキストを用意するので各自で、ダウンロードする。

http://www.rs.noda.sut.ac.jp/~tomiken

参考文献

（1）「コンピュータとネットワークによる情報活用」、立田ルミ等、朝倉書店.

（2）「図解で解るデータ通信のすべて」、小泉修著、日本実業出版.

（3）マスタリング TCP/IP 入門編、竹下隆史等著、オーム社

評価方法

期末試験の点数が評価点となる。

受講者への要望

Windows によるパソコンが使えるようなレベルが必要です。

授業計画

1. ガイダンス
2. 基数変換

   2 進数、10 進数、および 16 進数への変換方法を学習する。
3. 誤り検出法

   パリティコード、およびサイクリックコードの生成と誤り検出法について述べる。
4. フーリエ変換とベースバンド伝送

   ベースバンド伝送における波形の性質をフーリエ変換を用いて説明する。
5. TCP/IP の基本

   LAN を例にして、TCP/IP の原理を述べる。LAN は LAN ボード、ハブ、ケーブルの 3 つから構成される。これらの機器の機能を見ながらネットワークの概要をつかむ。
6. インターネットと LAN

   「IP アドレス」と「ポート番号」を中心に述べる。LAN からインターネットを利用する場合、プライベイトアドレスをグローバルアドレスに変換する。この原理を理解することで、ネットワークでやり取りするデータの基本構造が理解できる。
7. Windows のネットワーク設定

   自分でネットワーク設定をする場合、基本を知っていれば、トラブルにも的確に対処できる。設定項目を分けて説明する。
8. TCP/IP の詳細設定

   TCP/IP の詳細設定の意味を理解するために、TCP/IP の通信に欠かせない「ゲートウエイ」や「DNS」などを述べる。
9. サーバーとイントラネット

   サーバーの種類と基本機能について述べる。特に Web サーバーについては、その働きと役割を説明する。
10. LAN のアクセス方法

    LAN のアクセス方式として、CSMA/CD とトークンパッシング方式について述べる。
11. LAN の機器と構築

    LAN の構成機器の仕様を理解し、LAN やブロードバンドのインターネット接続環境などの構築について述べる。
12. 総合演習

01 **科目名**	**コンピュータアーキテクチャ（前期）**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**長　崎　　等**

講義の目標

PC の分解・組立の実習やアセンブリ言語を用いたプログラミング実習などを通して，ノイマン型コンピュータのアーキテクチャについて学習するのが本講義の目標である．

講義概要

簡単なコンピュータの構造の説明の後に PC の分解・組立の作業を通して，実際のコンピュータがどのような部品から構成されるかを学習してもらう．その後にそういった部品がどういう役割を担っているか及び実際にノイマン型コンピュータがどういった仕組みで動いているかを仮想環境下でのプログラミング作業を通して学習してもらう．

テキスト

未定

参考文献

必要に応じて紹介する．

評価方法

出席及びレポート課題，さらに実習試験によって評価します．

前期授業計画

1. ガイダンス及びコンピュータの構造について
2. PC の分解
3. PC の組立
4. OS のインストール
5. コンピュータアーキテクチャ概論
6. 仮想コンピュータシステム COMETⅡについて
7. アセンブリ言語の実習（1）
   コンピュータの動作の仕組みとアセンブリ言語 CASLⅡの概要
8. アセンブリ言語の実習（2）
   レジスタとメモリ
9. アセンブリ言語の実習（3）
   様々な命令
10. アセンブリ言語の実習（4）
    比較と分岐及びフラグレジスタ等の役割
11. アセンブリ言語の実習（5）
    スタックについて
12. 実習試験

01 **科目名**	**情報と職業 a**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**冨　田　幸　弘**

講義の目標

情報化社会の急激な進展と、その社会の中で働くことについて考えることを目標にする。情報を獲得したり、利用したりする職業についての関わり方を学習し、情報に関わる職業人としての勤労観・倫理観などについても考える。

講義概要

出来るだけ具体的な事例を示しながら、情報化社会とその職業についての関わり、そこでの職業観・勤労観について学習する。また、社会で利用されている代表的な情報システムを理解し、高度情報化が社会におよぼす影響を認識し、それに対応できる考え方や関わり方を学習する。

前半は、情報化社会での各種情報の開示と、個人情報の保護や危機管理について学習する。後半は、情報産業で関心の高い業界・業種・職種と変動する生活・ビジネスについて学習する。最後に、数人のグループを編成し、「情報と職業」についてのテーマを設定し、研究成果を発表する。

テキスト

講義に必要なプリントを配布する。

参考文献

テーマごとに図書館にある参考文献などを紹介する。

参考になるホームページなども紹介する。

評価方法

前期

以下の情報を考慮し評価する。

1）グループ研究の発表・内容

2）期末試験の結果

3）数回提出するレポートの内容

4）毎回の出席状況

受講者への要望

高等学校の「情報科」教員の免許取得に必要な法定科目であるので、その心構えを持っている学生の受講を要望する。

前期授業計画

1. 講義の目標・講義の概要・評価・講義の計画などについて
2. 情報とは何か
   情報化社会の情報システム
   情報化社会の信頼性
3. 高度情報化を可能にする基盤技術
   高度情報化を実現させる開発技術・生産技術
   高度情報化が社会にもたらす新利便
4. インターネット・パソコン通信・衛生放送
   災害と情報（情報収集・予測・長期評価）
   政治と戦争（国家・国際制）
5. 情報開示の実態（必要性・内容・意思決定）
   情報開示の責任（開示速度・問題提起）
   危機管理・リスク管理
6. 情報の収集・発信に伴う問題点
   教育情報の開示
   個人情報の保護・個人の責任
7. 情報新時代
   産業社会と就職・職業
   情報産業の職種
8. 情報化社会の企業・団体とそこで働く人々
   インターネット・携帯電話で変わる生活。ビジネス
   メディアの伝達・技術革新
9. 各種のホームページ閲覧
   インターネットで情報社会の現象を収集
   インターネットで収集した情報の分析
10. グループ代表者による発表と討議（1）
    情報化社会の中で働く人々・情報獲得を職業とする人々
    情報の収集・発信にかかわる職業人の勤労観・倫理観
11. グループ代表者による発表と討議（2）
    情報化社会で利用されているシステムが社会に及ぼす影響
    教育現場での情報教育・教育方法の新規試み
12. グループ代表者による発表と討議（3）
    望ましい情報化社会とそこにかかわる職業人としてのあり方
    「情報と職業」のまとめ

01 **科目名**	**「情報と職業」 b ---情報とビジネスモデル---**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**小　林　哲　也**

講義の目標

現代社会における情報および情報技術の意味と役割を理解し、「情報と職業」に関する基礎的な知識を身につけること。

講義概要

現在、コンピュータとネットワークを融合させた新しい情報技術の波が、世界をおおっている。この情報技術革命ともいわれる事態は、経済の仕組みや企業経営に大きな影響を与えるだけでなく、私たちの生活・職業・教育などのあり方にも大きな変化を迫ってきている。本講義では、1990 年代以降の情報技術革命の推移とそのインパクトを、世界経済の構造変化（グローバリゼーション）と企業のビジネスモデルの変化（IT 革命）を中心に解説していく。

テキスト

特に定めず、適宜講義中に指示する。

参考文献

池田信夫『インターネット資本主義革命』NTT 出版、
立花隆『インターネットはグローバルブレイン』講談社など
米国商務省『ディジタル・エコノミー２００１』フジタ未来経営研究所

評価方法

出席および定期試験による。

受講者への要望

特になし。

年間授業計画

週　　主要テーマ

１．　序論：情報と職業---情報技術革命のインパクト
２．　IT 革命とグローバリゼーション：世界経済の構造変化
３．　IT 革命と企業構造：コーポレートガバナンスの革新
４．　IT 革命後のビジネス環境：新しいビジネスモデルと知的所有権ビジネス
５．　ディジタル・デバイド：新しい情報格差
６．　情報社会における情報倫理とセキュリティ問題
７．　21 世紀の工業化：市場化と智場化
８．　ＩＴ空間実践編：情報の収集と利用　その１
９．　ＩＴ空間実践編：情報の収集と利用　その２
１０．　ＩＴ空間実践編：情報の発信　その１
１１．　ＩＴ空間実践編：情報の発信　その２
１２．　情報産業における職業倫理

01 科目名	
98 科目名	オペレーションズ・リサーチ
97 科目名	オペレーションズ・リサーチ
担当者	本　田　　勝

講義の目標

オペレーションズ・リサーチ（OR）の技法とは、組織（システム）を運営していく際に遭遇する様々な意思決定の問題を、科学的方法によってアプローチし、その解を求め、運用していく技術である。システムと名の付くものは我々の周りには多岐にわたって存在するから、OR の応用される分野も幅広い。この講義では、これらの手法を習得し、経済や経営の問題へどのように適用していくかを実例を通して理解することを目的とする。

講義概要

オペレーションズ・リサーチの基本的な手法について述べていく。線形計画法や輸送問題などの数理計画法の部類に属するものについて述べたあと、ゲーム理論や在庫管理の問題など確率モデルに関するものを続けて述べていく。

テキスト

未定

参考文献

講義時にそのつど指示する。

評価方法

前・後期とも各テーマ毎に課すレポートと毎回の出席調査及び定期試験による総合評価を行う。

受講者への要望

コンピュータを用いた演習を行なうので、「コンピュータ入門」以上の知識が必要である。また確率的扱いの部分もあるので、「統計学」の知識も必要である。

特に、コンピュータ操作に関してはアシスタントはいない。また毎回の出席は重視するので、いい加減な気持ちで登録しないこと。

前期授業計画

1. OR とは何かについての概観を行う。
2. 線形計画法（LP）の定式化と幾何学的解法について述べる。（決定変数、目的変数、制約条件式、目的関数）
3. シンプレックス法（単体法）の考え方について述べる。（スラック変数、基底解、実行可能解）
4. 単体表による変換のアルゴリズムについて述べる。（ピボット、人工変数、2 段階シンプレックス法）
5. パソコンによる演習を行う。
6. LP の双対性、双対問題について述べる。（双対定理）
7. パソコンによる演習を行う。双対問題の経済学的解釈について述べる。
8. LP の感度分析について述べ、パソコンによる演習を行なう。
9. 輸送問題と LP との関連について述べる。
10. 輸送問題の解法について述べる。（ポテンシャル法、解の退化、ε－摂動法）
11. 輸送問題のパソコンによる演習を行う。
12. LP および輸送問題について総合的演習を行う。

後期授業計画

1. AHP（ゲーム感覚意思決定法）とは。一対比較と重みの計算法について述べる。
2. パソコンによる演習を行う。総合評価値と整合性について述べる。
3. 整合性を含めたパソコンによる演習を行う。
4. 動的計画法（DP）の考え方について述べる。（多段階決定法、最適性の原理）
5. DP のいろいろの応用例を述べる。（資源配分問題、最短経路問題、Knapsack 問題）
6. DP のパソコンによる演習を行う。
7. PERT について述べる。（ネットワーク、クリティカル・パス）
8. PERT と CPM の違いについて述べ、パソコンによる演習を行う。PERT の確率的評価について述べる。（3 点推定）
9. 在庫管理の考え方について述べる。（発注点、発注量、調達期間、安全在庫）
10. 在庫管理の考え方について述べる。（定期発注法定量発注法）
11. 在庫管理のパソコン・モデルによる演習を行う。
12. 一年間の総まとめをおこなう。

01 **科目名**	
98 **科目名**	**管 理 工 学**
97 **科目名**	**管 理 工 学**
担当者	**日下　泰夫（前期），鈴木　淳（後期）**

講義の目標

経営を取り巻く外部環境が激しく変化するなかで、管理工学（経営システム工学）は今大きく変貌しつつある。時代の潮流を的確につかみ、何が大切かを明確に認識し、問題解決・意思決定能力を高めることが、今ほど要求されている時代はない。本講義は、管理工学を初めて学ぶ人を対象にその体系の理解と、実社会で役立つ考え方と技法の修得をはかることを目的としている。文科系の皆さんが理解できるように、出来るだけ具体的、平易な説明を心がけたい。

講義概要

前期は、外部環境変化と経営システムの課題、管理工学の役割と概念などの基本的な内容を説明し、併せて、企業活動における最近の動向を紹介する。ついで、問題解決・意思決定における諸技法のうち、現場における品質管理（QC）技法、オペレーションズ・リサーチ（OR）の最適化技法を概説する。後期は、経済的な意思決定技法〈経済性工学（EE)〉と、定性的・多目標的かつ実践的な意思決定技法〈階層分析法（AHP)〉を取りあげる。これらの諸技法の理解を前提に、問題解決法を構造的に把握し管理工学の役割を考察する。最後に、情報化時代と管理工学、21 世紀の管理工学像についての見解を述べる。プレゼンテーション、表計算、最適化、シュミレーションなどでパソコンを用いたデモンストレーションや演習・実習を行う。また、最新の経営トピックスも紹介する。

テキスト

日下泰夫：「経営工学概論」、中央経済社、1997。

参考文献

開講時に紹介する。

評価方法

前・後期末に実施する計 2 回の試験を中心に、出席状況、レポートなどを加味して評価する。

前期授業計画

≪外部環境変化と管理工学≫

1. オープンシステムと経営、外部環境変化と経営の課題、管理工学の役割、管理工学の概念
2. 企業活動の諸側面：生産過程的・管理過程的・管理特性的・経営資源的諸側面、経営活動の立体構造による把握
3. 企業活動の新動向　その 1：情報ネットワーク〈サプライチェーン・マネジメント（SCM)〉
4. 企業活動の新動向　その 2：環境保全〈自動車産業における環境経営〉
5. 意思決定、管理工学とは

≪管理工学における典型的な問題解決技法≫

6. 問題解決技法の外観、品質管理の問題解決技法〈パレート図と層別〉
7. モデルの例、モデルとは、数式モデル、定式化
8. 在庫管理モデルの定式化、最適化とシミュレーション
9. OR 技法〈線形計画法（LP）その 1〉：線形計画問題とは、単体法（アルゴリズム）の基本的考え方
10. OR 技法〈線形計画法（LP）その 2〉：単体法の幾何学的解釈（グラフによる解法)、表計算ソフトによる解法
11. OR 技法〈動的計画法（DP）その 1〉：多段決定問題、最適性の原理、定式化
12. OR 技法〈動的計画法（DP）その 2〉：手計算による解法、プログラミングによる解法と感度分析

後期授業計画

≪管理工学における典型的な問題解決技法≫

1. 経済性工学（EE）その 1：経済性工学の説明、投資分析の基礎手法－利子率を用いた時間換算の諸公式－
2. 経済性工学（EE）その 2：投資分析の基礎手法－利子率を用いた時間換算の諸公式－
3. 経済性工学（EE）その 3：住宅ローンと設備投資問題における経済的意思決定
4. 階層分析法（AHP）その 1：階層分析法の概念と技法の説明
5. 階層分析法（AHP）その 2：自動車の購入、海外旅行先の選択問題における意思決定
6. 階層分析法（AHP）その 3：表計算ソフトを用いたグラフ化と結果の考察

≪問題解決法と管理工学≫

7. 問題解決法の重要性、外部環境変化とパラダイムの役割、従来の問題解決法の概要と特徴
8. 問題解決の構造的分析、問題解決法の考え方と管理工学の役割

≪情報化・創造化時代と管理工学≫

9. 情報・情報化・創造化時代とは、意思決定と情報創造

10. 情報ネットワーク時代におけるビジネスモデル
11. 情報化・創造化時代における管理工学の役割、文科系出身者の役割
12. 21 世紀の管理工学：問題解決能力の向上をめざした教育への取り組み

管理工学を学ぶ人へのメッセージ

01 **科目名**	
98 **科目名**	
97 **科目名**	**国　際　法**
担当者	**廣　部　和　也**

講義の目標

国際社会の法である国際法の基礎的知識及び国際社会において法がどのように機能しているかを学ぶ。

講義概要

国際法の全般を学ぶ予定であるが、1 年間ですべてをカバーすることは無理があり、基礎理論、及び現在国際関係法で実際に問題となっているようなことが中心となる。

テキスト

（1）導入対話による国際法講義（広部和也・荒木教夫著）（不磨書房）

（2）解説条約集・第９版（石本泰雄・小田滋編）（三省堂）

評価方法

試験による。（中間試験を行う予定である）

受講者への要望

関心を持って学ぶこと。事前に教科書を読み、講義をよく聞くことを希望する。

年間授業計画

1.・講義全般に関する注意。
・国際法の意義・国際法主体（国家、国際組織、個人）

2. 国際法の歴史（国際法はどのように成立し、どのように発展してきたか。）

3. 国際法の法源（国際法はどのような形で存在するか、それは、また、どのように形成されるか。）

4. 国際法と国内法（両者の法はどのように異なり、どのような関係にあるのか。）

5. 国家の成立（国際法上、国家とはどのように定義され、どのようにして国際法上の存在となるのか。）

6. 国家の基本権（国際法上、国家はどのような権利を持つのか。特にその基本となる主権を中心にその権利がどう行使されるか。）

7. 外交使節（国家は対外関係をどのように維持するか。外交官及び領事の地位、特権免除）

8. 国家責任（国際法上の違法行為と国家の責任、損害賠償などの責任の解除）

9. 国際社会の組織化１（国際組織とは何か。その形成過程、どのような国際組織があるか。）

10. 国際社会の組織化２（国際連合を基本に表決制度や決議の効力がどのようになっているのか。）

11. 個人の地位（国籍、外交保護権、など）

12. 人権の国際的保護（世界人権規約や国際人権規約などによる基本的人権の保護とその保障措置）

13. 国際犯罪（個人の国際犯罪とその処罰、犯罪人引渡し制度）

14. 国家領域１（国家領域とはどのように構成され、国家はどのように取得するか。日本の領土問題はどのようなものがあるか。）

15. 国家領域２（領海制度と無害通航権）

16. 公海制度と船舶の通航（公海、船舶の地位、海域その他の船舶の取締り）

17. 大陸棚、排他的経済水域（大陸棚や排他的経済水域とはどのようなものか。）

18. 深海底（深海底とその資源の法的地位及び開発）

19. 航空機の地位（航空機の地位及び国際的飛行はどのように行なわれるか。）

20. 宇宙法（宇宙の法的地位、宇宙開発、人工衛星の地位）

21. 国際環境の保護（人間環境宣言を初めとする国際的環境問題の法的側面）

22. 国際紛争の平和的解決（国際紛争の解決方法にはどのような方法あるのか）

23. 国際裁判（国際仲裁裁判と国際司法裁判）

24. 安全保障制度（国連による集団安全保障体制）

01 **科目名**	**著 作 権 法**
98 **科目名**	
97 **科目名**	
担当者	**古　沢　　博**

講義の目標

人間の知的活動により創作された著作物の保護（著作権、著作者人格権）ならびに実演家、レコード製作者及び放送事業者、有線放送事業者の保護（著作隣接権）について、全般的な理解を目的とする。

講義概要

1. 著作権法は、人間の知的創作活動により創作された著作物（思想又は感情を創作的に表現したものであって、文芸・学術・美術又は音楽の範囲に属するもの）の保護及びこれと関連を有する実演家、レコード製作者、放送事業者、有線放送事業者の権利（著作隣接権）について規定している。
2. 著作権の対象である著作物の範囲は非常に広く、小説、脚本、講演等の言語の著作物のほか、音楽の著作物、舞踊又は無言劇の著作物、絵画等の美術の著作物、建築の著作物、地図等の図形の著作物、映画の著作物、写真の著作物、プログラムの著作物などがこれに含まれている。

テキスト

半田正夫『著作権法概説[第 10 版]』一粒社

参考文献

テキストに記載のもののほか、別途指示する。

評価方法

試験（前期・後期ともに行う。）

受講者への要望

原則として毎回、出席をとる。

年間授業計画

1. 全体のイントロダクション。デジタル技術の発展と著作権制度。
2. 著作権制度の沿革について。
3. 著作権の国際的保護について。
4. 著作権法の目的について。著作権の主体、とくに著作権・共同著作者について。
5. 職務著作、映画著作物の著作者について。
6. 著作権の客体、とくに著作物の定義・本質・著作物の各類型及び著作権法による保護を受けない著作物について。
7. 著作物の各類型についての説明。
8. 同上
9. 二次的著作物・編集著作物・データベースの著作物・プログラムの著作物について。
10. 著作者の権利、とくに著作者人格権について。
11. 著作権(著作財産権)及びこれに含まれる権利（支分権）について。
12. 著作権に含まれる権利(支分権）の説明の続き。
13. 同上
14. 著作権の制限について。
15. 同上
16. 同上
17. 著作権の保護期間について。
18. 同上
19. 著作権の変動及び著作権の利用許諾及び出版権について。
20. 著作権の登録―無方式主義
21. 著作隣接権の概念、種類及び内容について。
22. 同上
23. 著作権法上の権利の侵害について。
24. マルチメディア及びネットワークの時代と著作権制度の将来。